ＳＫ521の西に位置し，215cm×140cm，深さ32cmを測る。ＳＫ521・ＳＤ514より古く，ＳＫ1269より新しいもので，埋土は礫が混じる黄灰色砂質シルトである。出土遺物には加工木があるが，ＳＢ48とは関連しないものと考える。

456号土坑（ＳＫ456，第91図，図版56）

ＳＢ48の中央に位置し，直径180cm，深さ６cm～８cmを測る。ＳＫ456のほぼ中央には直径約70cmの石敷があり，周囲よりやや深く掘り込んだ後，上面に直径５cm～10cm大の礫を円形に敷き詰めている。礫上面中央には直径20cmの焼土が確認されたことから，石敷炉と考えられ，焼土がほぼ円形を呈することから，その上部に炉体があったと推測する。埋土は石敷の下層が褐灰色砂質シルト，石敷周囲は炭化物が混じるにぶい黄褐色シルトである。これは石敷の有無を考慮に入れなければ，ＳＫ521･ＳＫ566と類似している。

519号土坑（ＳＫ519，第91図）

ＳＫ456の南に近接し，82cm×70cm，深さ６cmを測り，平面形が隅丸方形を呈する。中央から北端にかけて炭化物と焼土が確認されており，ほぼ中央に炭化物が堆積し，その周囲に焼土，さらに炭化物がドーナツ状に堆積している。埋土は中央から外に向けて炭化物層，焼土層，炭化物が多く混じるにぶい黄橙色シルト，にぶい黄橙色シルトである。焼土は一辺約30cmの隅丸方形を呈しており，焼土上の炭化物は直径20cm程の円形を呈する。堆積状況がＳＫ566と類似していること，ＳＫ456のような石敷はもたないが，焼土が確認されていることから炉と考える。

522号土坑（ＳＫ522，第92図）

ＳＢ48の南東隅に位置し，長軸203cm×短軸85cm，深さ10cmを測る，平面形が楕円形を呈するものである。埋土はにぶい黄褐色シルトで，５cm～10cm大の礫が混じる。方形ではないが，建物に付属する竪穴状土坑と考えられる。

523号土坑（ＳＫ523，第92図，図版54）

ＳＫ522の東に近接し，110cm×62cm，深さ10cmを測り，平面形は楕円形を呈する。上面には10cm～20cm大の礫が敷き詰められており，ほぼ中央に直径30cmの焼土が確認されたことから，石敷炉と考える。礫上面の焼土が円形を呈することから，上部には炉体があったと推定される。埋土は上層が浅黄色砂質シルト，西端にのみ炭化物層を挟み，下層は炭化物が混じる灰黄褐色砂質シルトであり，炭化物層は炉から排出されたものが堆積したのであろう。

543号土坑（ＳＫ543，第92図）

ＳＢ48の東約3mに位置し，長軸71cm×短軸50cm，深さ14cmを測り，掘形は楕円形を呈する。埋土は上層が灰黄色砂質シルト，約３cmの皿状に堆積した炭化物層を挟み，下層が黒色砂質シルトで，噴砂に切られている。堆積している炭化物はＳＢ48内部の炉，またはＳＫ523から排出されたと考えられるが，炉の確定は困難である。

1288号土坑（ＳＫ1288，第92図）

ＳＢ48の１m東に位置し，80cm×55cmの範囲に10cm大の礫が敷き詰められており，上面に炭化物が堆積している。焼土は確認されていないが，石敷炉の可能性がある。

525号土坑（ＳＫ525，第92図）

ＳＤ509が東に分岐する付近に位置し，ＳＤ509より古い。確認できた規模は幅82cm，深さ10cmで，埋土はにぶい黄褐色土である。底部には炭化物が堆積しており，付近の炉から排出された可能性があるが，ＳＤ509がＳＢ48に付属すると考えると，ＳＫ525はＳＢ48関連の炉とは時期が異なるものであ

ろう。

524号井戸（ＳＥ524，第92図，図版56）

ＳＢ48の70cm東に位置し，145cm×140cm，深さ52cmを測る石組井戸である。埋土は上層が暗褐色シルト，下層がにぶい黄褐色シルトで，噴砂に切られている。平面では中央を幅約15cmの帯状の噴砂が，東西方向に横断している。南北方向に断割した後の断面観察では，噴砂により石組が破壊され，礫が井戸内部に押し出されていることや，下部の石組が断層によりずれていることが確認された。また，井戸と反対側の壁面では，石組を破壊した噴砂と礫層からの噴砂を確認した。ＳＢ48に付属するものと考えられ，出土遺物には加工材がある。

569号土坑（ＳＫ569，第92図，図版78）

ＳＢ48の北約1.5m，ＳＤ509・ＳＤ568間に位置し，直径76cm、深さ10cmを測り，掘形はやや不整形な円形を呈する。埋土は灰白色砂質シルトで，遺物は漆器椀（*250*）が出土している。*250*は口縁部と高台を欠損しているが，高台脇から腰部が緩やかにカーブしながら胴部に立ち上がる。器壁は薄く，高台も細いことから，小振りで器高の低い形態と考えられる。内外面とも黒色漆塗りに赤色漆で文様を描いているが，漆の塗りが薄く，剥離が激しいため，文様は不明瞭である。

559号土坑（ＳＫ559，第93図）

ＳＢ48から北東約７ｍに位置し，平面形は楕円形を呈し，長軸150cm×短軸110cm，深さ14cmを測る。埋土はオリーブ褐色砂質シルトである。約1.5m西にあるＳＤ642は幅26cm，深さ４cmを測り，規模がＳＤ515と類似していることや，柱穴と推定する土坑が数基あることから，ＳＫ559の周囲にはＳＢ48と同様な構造をもつ建物があった可能性が高く，ＳＫ559はその建物に付属する竪穴状土坑であると推測する。

511号土坑（ＳＫ511，第93図）

ＳＢ48の約７ｍ東，ＳＤ510・ＳＤ512間に位置し，394cm×209cm，深さ８cmを測り，平面形が不整形を呈する。埋土は褐灰色砂質シルト，黄灰色砂質シルトであり，礫が混じる。ＳＤ510との新旧関係は不明であるが，ＳＤ548・ＳＤ545・ＳＤ647より新しい。

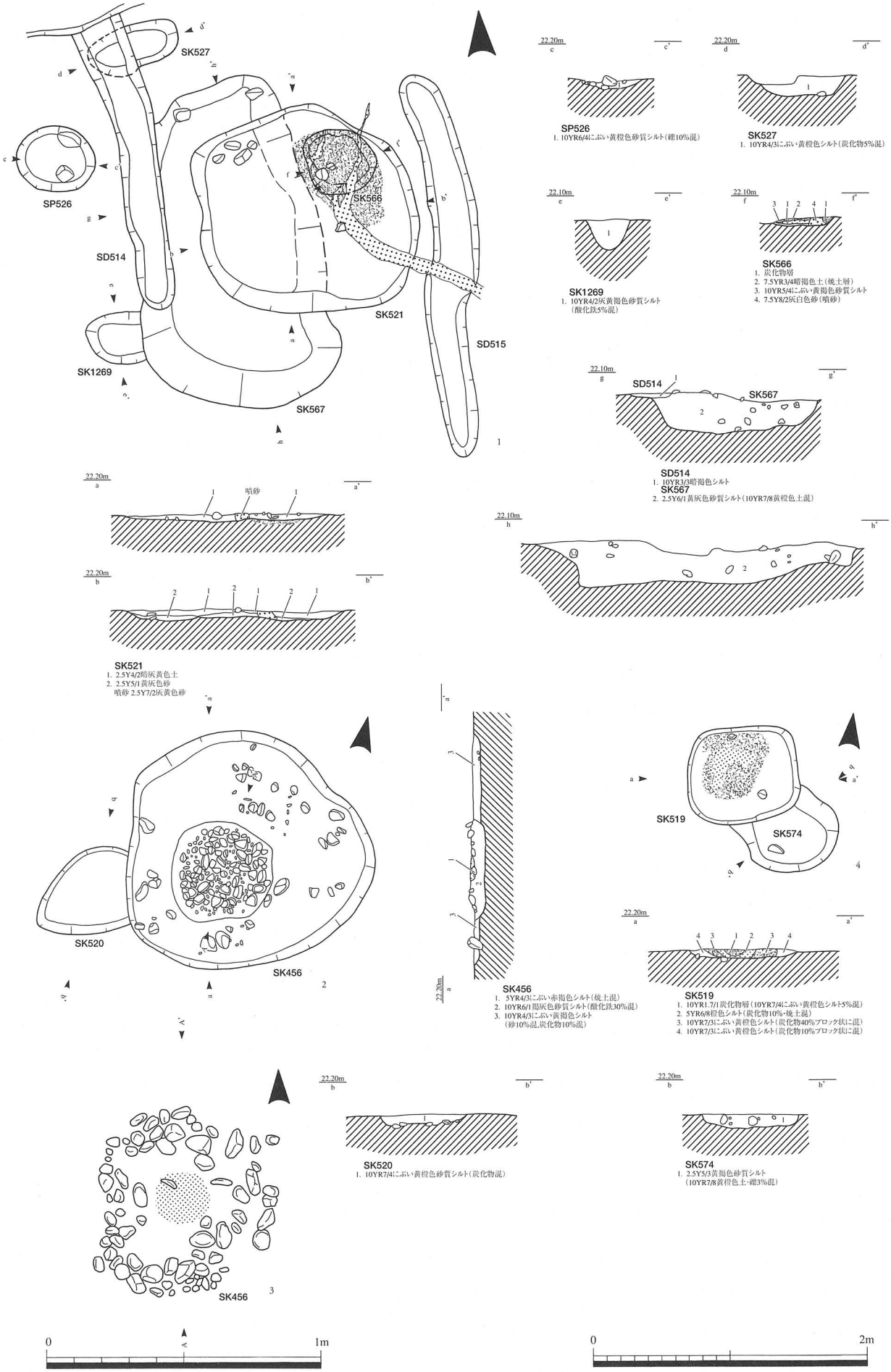
49号建物（ＳＢ49，第94図，図版57）

区画14の南側区画溝ＳＤ400の北２ｍに位置し，ＳＢ50と重複している。規模は桁行9.3m×梁行2.5m，平面積23.25m^{2}を測り，主軸はＮ－10°－Ｗの南北棟である。柱穴規模は直径30cm～60cm，深さ10cm～40cmを測り，平面形は円形を呈するものが主体である。桁行方向の柱穴は西側と東側で柱間も柱数も不均等である。ＳＢ48とは約70cmしか離れておらず，同時期に存在したとは考えにくい。重複するＳＢ50との新旧関係では，柱穴の切り合いからＳＢ49が古いことが明らかであるから，ＳＢ48とＳＢ49の新旧関係ではＳＢ49が古いと推測する。建物内部には炭化物が堆積した土坑１基がある以外は，ＳＢ49に付属すると考えられる遺構はない。

517号土坑（ＳＫ517，第95図）

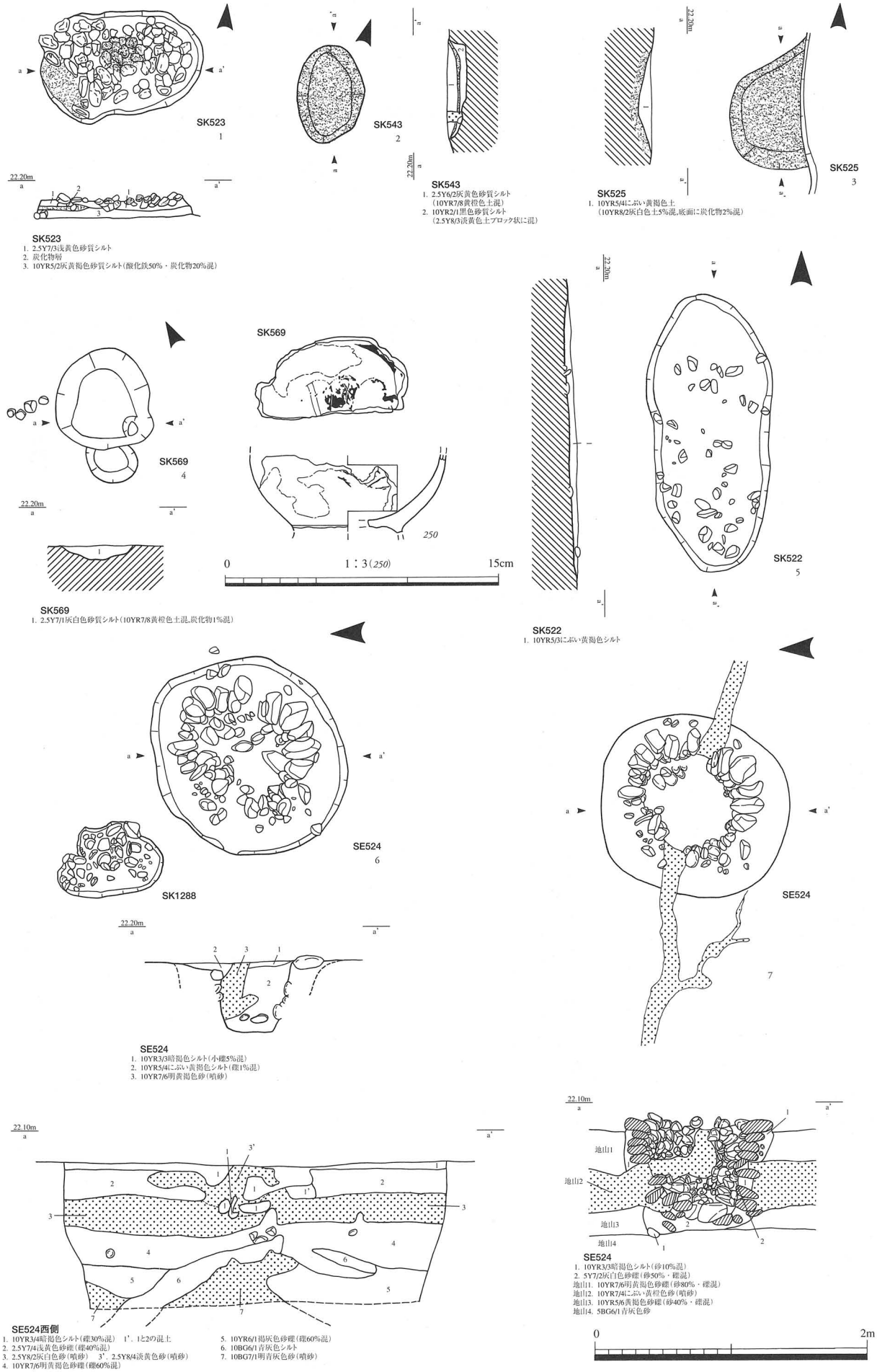
ＳＢ49の北端に位置し，長軸125cm×短軸117cm，深さ12cmを測り，平面が楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色砂質シルト，黄褐色シルトで，上面には５cm～15cm大の礫が敷き詰められている。礫の範囲は中央から東寄りに，長軸100cm×短軸70cmの楕円形を呈し，意図的に敷かれたと考えられる。炭化物や焼土が確認されていないことから石敷炉ではないが，建物に付属した竪穴状土坑で，作業場のような性格をもつのではないかと考える。

50号建物（ＳＢ50，第94図，図版57）



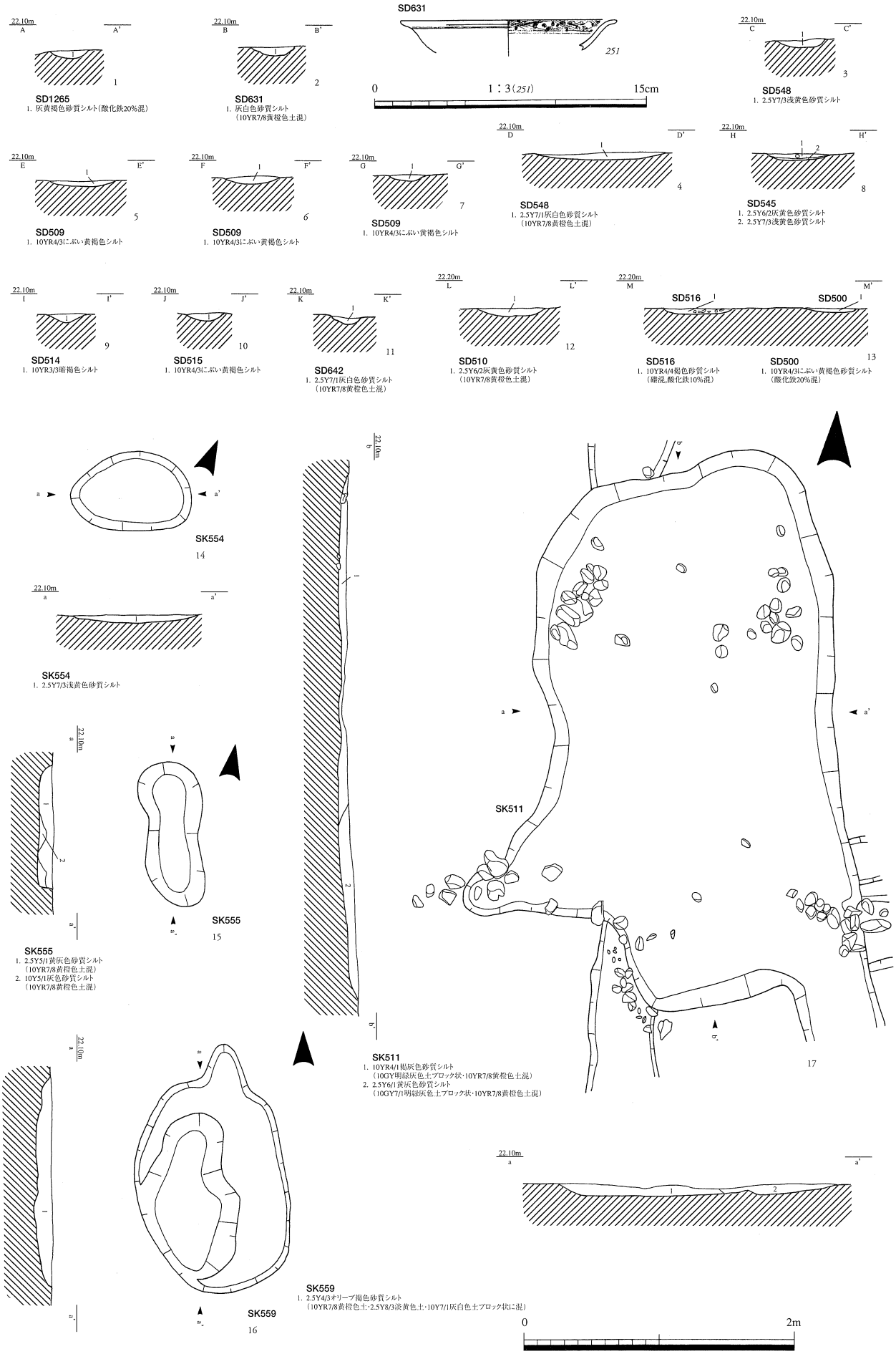
第91図　遺構実測図（中世）

1. SD514・SK521・SP526・SK527・SK566・SK567・SK1269　2. SK456・SK520　3. SK456　4. SK519・SK574



第92図　遺構・遺物実測図（中世）

1. SK523　2. SK543　3. SK525　4. SK569　5. SK522　6・7. SE524
SK569（*250*）



第93図　遺構・遺物実測図（中世）

1. SD1265　2. SD631　3・4. SD548　5・6・7. SD509　8. SD545　9. SD514　10. SD515　11. SD642　12. SD510　13. SD500・SD516　14. SK554　15. SK555　16. SK559　17. SK511
SD631(*251*)

区画14の南側区画溝ＳＤ400の北2.5mに位置し，ＳＢ49と重複している。規模は桁行4.7m×梁行4.7m，平面積22.09m²を測り，主軸はＮ－10°－Ｗの南北棟である。柱穴規模は長軸50cm～130cm，短軸40cm～80cm，深さ10cm～30cmを測る。平面形は楕円形を呈し，他の楕円柱穴をもつ建物に比較しても，大きな柱穴である。重複するＳＢ49との新旧関係は，ＳＰ432・ＳＰ421がＳＢ49の柱穴より新しいことから，ＳＢ50が新しいことが明らかである。ＳＢ50に付属すると考えられる遺構には，炭化物や焼土が堆積した土坑１基，石組をもつ土坑が１基，竪穴状土坑が１基ある。柱穴からの出土遺物はない。

428号土坑（ＳＫ428，第95図，図版56・58）

ＳＢ50の中央に位置し，115cm×90cm，深さ30cmを測り，平面形は不整形を呈する。埋土は９層に細分されており，炭化物層，焼土層が含まれる。ＳＫ428の構造を層序に基づき上層から順に分解すると，次のようになると考える。１．西半部に直径50cmの円形の炭化物の範囲が検出される。２．炭化物層・暗褐色シルトを掘り下げると，５cm～20cm大の礫を直径約40cmの円形に組んだ石組が検出され，東半部は明黄褐色砂質シルトを掘り下げると炭化物が出現する。石組の深さは約20cmである。３．東半部の炭化物層を取り去ると，直径20cmの焼土が検出される。焼土が円形を呈することから炉である可能性が高く，上部に炉体があったと推定する。４．さらに掘り下げると掘形の上部周囲に礫が壁に沿って積まれており，下層には礫が多く混じるにぶい黄褐色砂質シルトが堆積している。以上から，３の段階で炉が使用された際に，東半部には排出された炭化物が堆積しており，西半部の石組は作業用と考えられる。石組炉ではないが，炉としては最も複雑な構造をもつものである。

429号土坑（ＳＫ429，第95図，図版56・61・67）

ＳＢ50の中央に位置し，ＳＫ428より古い。規模は長軸93cm×短軸60cm，深さ22cmを測り，掘形は不整形を呈する。埋土はにぶい黄橙色砂質土で，礫が多く混じる。出土遺物には中世土師器（*252*），瀬戸美濃（*253*）がある。*252*は中世土師器皿で，口径13cm，器高2.6cmを測る。体部が直線的に伸び，口縁端部に僅かな面を取る。口縁部外面に弱いナデが１段あるが，内面には厚く煤が付着しているため調整は不明である。16世紀中頃～後半と考える。*253*は瀬戸美濃の水滴で，口径4.1cm，器高6.9cm，底径4.0cmを測る。球形に近い胴部に，短く立ち上がる頸部をもち，底部は回転糸切りである。内面と外面体部上部には鉄釉がかかり，下部から底部にかけては無釉である。見込みは反時計回りに渦巻き状にナデ調整される。窖窯期の終わりから大窯期にかけての時期[注3]である。

451号土坑（ＳＫ451，第95図）

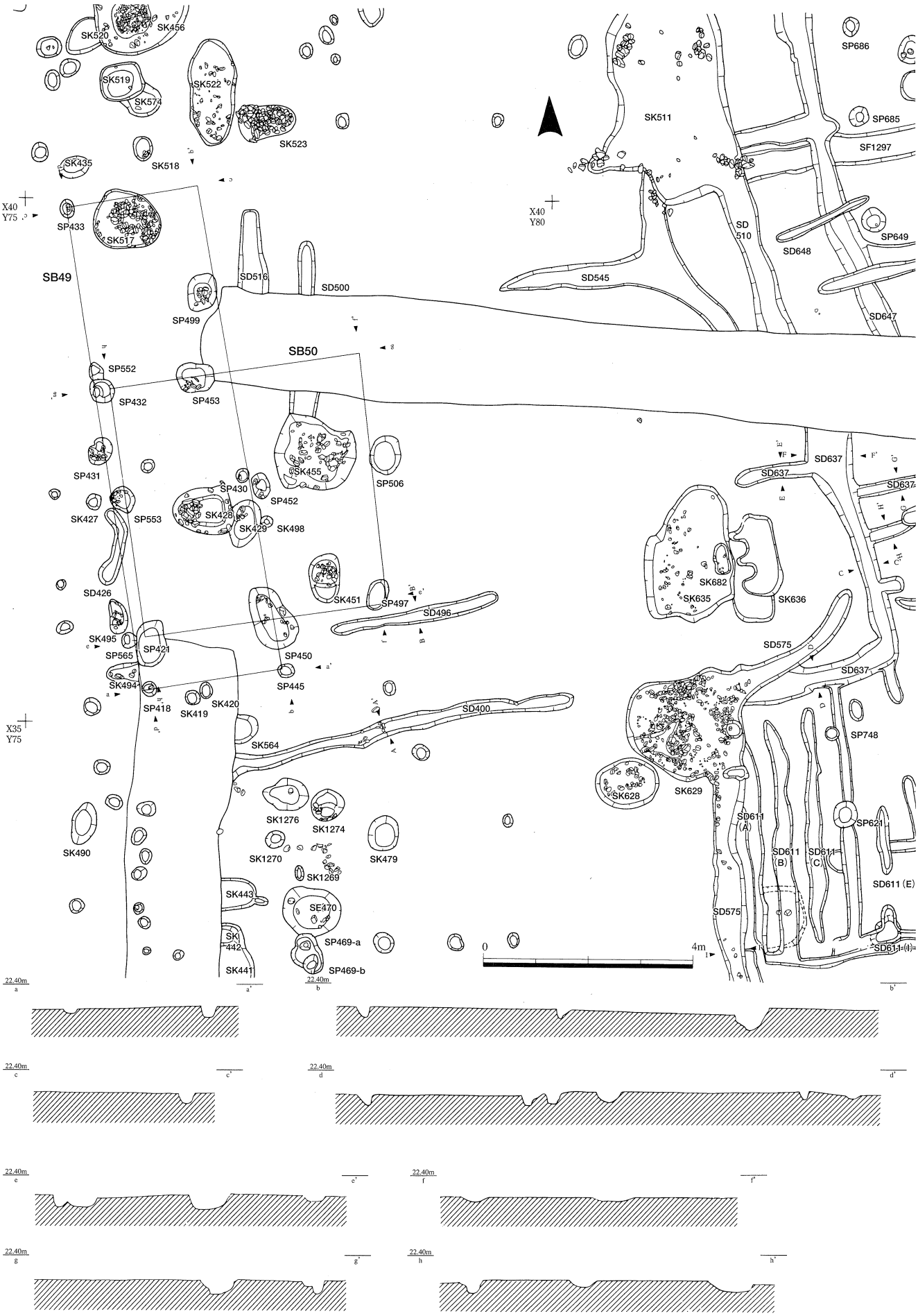
ＳＢ50内，ＳＰ450とＳＰ497間に位置し，長軸93cm×短軸56cm，深さ38cmを測り，平面形は楕円形を呈する。埋土は上層から炭化物が混じる灰色砂質シルト，明黄褐色砂，炭化物が混じる褐灰色シルトで，下層には礫が多く含まれている。

455号土坑（ＳＫ455，第95図）

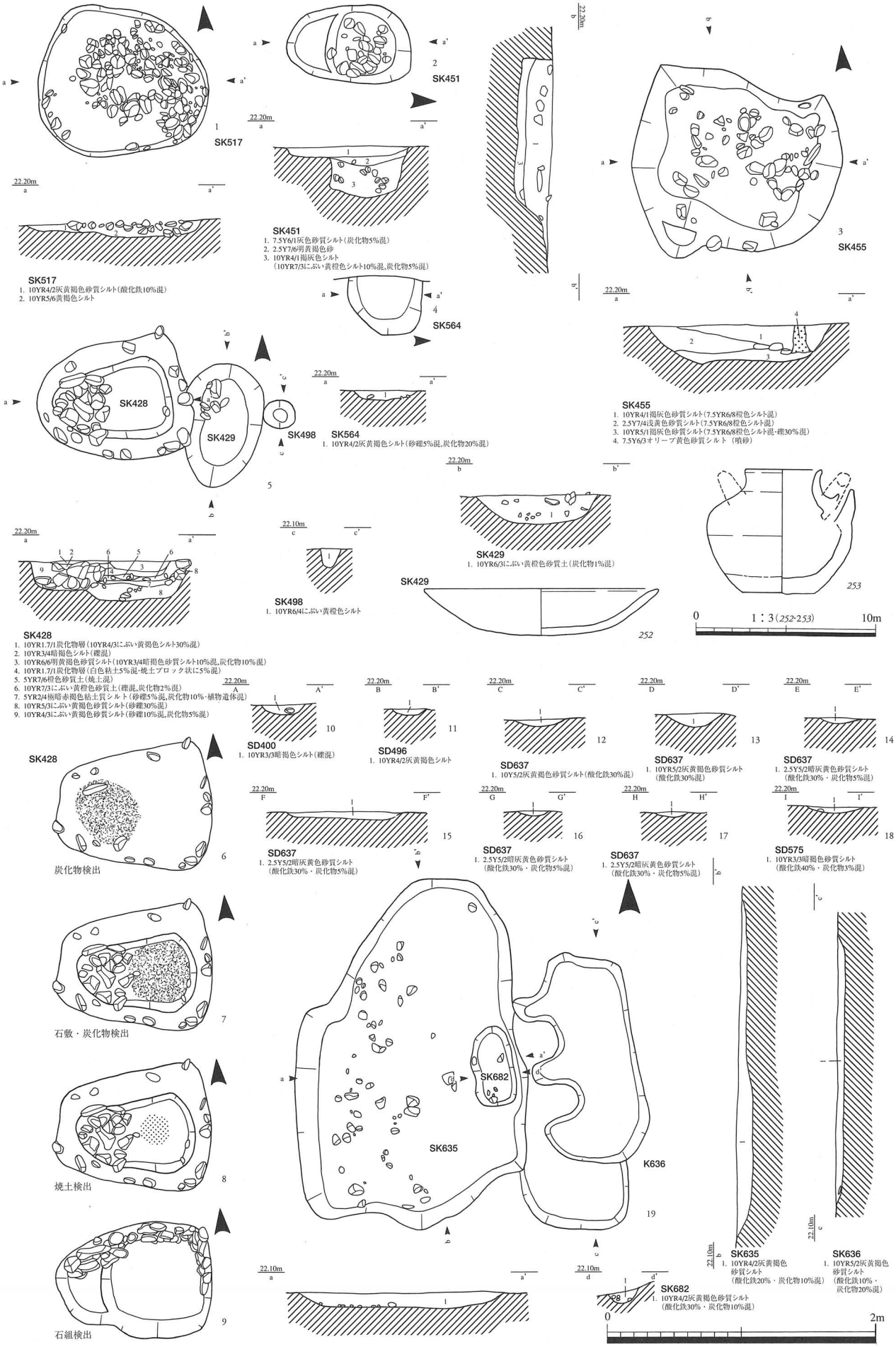
ＳＢ50内，中央やや北東に位置し，157cm×125cm，深さ26cmを測る，不整形な土坑である。埋土は上層から褐灰色砂質シルト，浅黄色砂質シルト，礫が多く混じる褐灰色砂質シルトで，噴砂に切られている。底面にも礫が多いが，意識的に組まれたり，敷き詰められているものではない。遺物は中国製白磁と加工材が出土しており，ＳＢ50に付属した竪穴状土坑と考える。

564号土坑（ＳＫ564，第95図）

ＳＢ49の南１m，ＳＢ50の南２mに位置し，試掘トレンチにより西側を削られている。幅55cm，深さ24cmを測り，埋土は炭化物が混じる灰黄褐色シルトである。炭化物がどこから排出されたものかは



第94図　遺構実測図（中世）
SB49・SB50



第95図　遺構・遺物実測図（中世）

1. SK517　2. SK451　3. SK455　4. SK564　5. SK428・SK429・SK498　6～9. SK428　10. SD400　11. SD496　12～17. SD637　18. SD575　19. SK635・SK636・SK682
SK429（*252*・*253*）

不明で，関連する建物も特定できない。

635号土坑（ＳＫ635，第95図，図版58）

ＳＢ50の東約５ｍに位置し，255cm×175cm，深さ12cmを測る不整形な土坑である。埋土は炭化物が混じる灰黄褐色砂質シルトで，底面には礫が多い。これらの礫は石組や石敷ではないと考える。遺構の新旧関係については，東のＳＫ636・内部のＳＫ682よりも新しい。出土遺物はなく，周囲に建物を復元できなかったが，建物に付属する竪穴状土坑と類似した構造をもつ。

400号溝（ＳＤ400，第95図）

区画14と区画15間の境界溝で，ＳＢ49から1.5m，ＳＢ50から2.5m南に位置する。西端を試掘トレンチにより削られているが，東に７ｍ伸びており，北から西へ90度屈曲するＳＤ637とつながり，区画14の南側を囲むと考える。幅32cm，深さ８cmを測り，埋土は礫混じり暗褐色シルトである。

637号溝（ＳＤ637，第95図）

区画14の東側区画溝で，区画２との境界溝でもある。途中何カ所か畠のさく状に分岐している。北はＳＤ510かＳＤ647からつながっていると考えられるが，試掘トレンチに北端を削られているため不明である。試掘トレンチから５ｍ南で西へ折れ，ＳＤ400とつながると推測するが，ＳＤ575に切られている。ＳＤ575は区画15の東側区画溝であるから，ＳＤ637はＳＤ647からつながっている可能性が高い。規模は幅40cm，深さ４cmを測り，埋土は暗灰黄色砂質シルトである。

区画15（第96図）

北をＳＤ400・ＳＤ637，東をＳＤ575に囲まれている。南は調査区端であるため，区画の規模は南北方向約18m，東西方向は北端で約17m，南端で約15mを測る。遺構の分布状況は，調査区西端から約５ｍ～６ｍ東に位置するＳＡ12以東に集中しており，建物３棟，建物に付属する井戸３基，土坑の他，関連が不明である土坑，溝等が確認されている。建物は中央に３棟重複しており，遺構は建物周囲に密集する。東側区画溝ＳＤ575との間には約４ｍ～６ｍの遺構の疎な空間があり，これは区画14と同様な遺構分布状況である。

575号溝（ＳＤ575，第95・101図）

区画15の東側区画溝であり，区画１との境界溝でもある。北はＳＤ637の西端を切るようにはじまり，やや屈曲して南北に流れる。屈曲地点から約11m南で東に分岐しているが，本来は東西を区画することを意識したものと推測する。規模は幅38cm，深さ５cmを測り，埋土は暗褐色砂質シルトである。出土遺物はないが，ＳＤ637より新しい区画溝であることから，ＳＤ510とつながる可能性が高いと考える。

12号柵（ＳＡ12，第96図）

調査区西端から約５ｍ～６ｍ東に位置し，区画14･区画15にまたがり，ＳＤ400を挟み区画14側に４ｍ，区画15側に７ｍ，全長約11mを測る。柵穴の規模は直径約20cm～40cm，深さ約10cm～40cmである。ただし，ＳＰ414以南の柵穴は試掘トレンチ内で確認したものであるため，深さは推定値である。柵穴からの出土遺物はないが，ＳＡ12以西は遺構が疎で，区画内外の遺構の分布状況を分ける重要な機能をもっていたと推測する。

416号土坑（ＳＫ416，第97図，図版78）

ＳＡ12の柵列から僅かに東にずれ，試掘トレンチ内で確認したものである。長軸35cm×短軸26cm，深さ９cmを測り，平面形は楕円形を呈する。出土遺物には柱（*254*）があるが，柵列からはずれていること，周囲に他の柱穴や土台痕等が確認できなかったことから，柵穴，柱穴とは断定していない。

*254*は芯持ち材で，面取りなどの加工が施されていないため，断面形はいびつである。底面のつくりは，側面から削り込んで先端を尖らせている。残存長24cm，径９cm×８cmを測り，先端部はかなり欠損している。

51号建物（ＳＢ51，第96・97図，図版57）

区画15の中央に重複している３棟の建物のうち，最も西に位置する。桁行3.8m×梁行2.8m，平面積10.64m²の規模をもち，主軸はＮ－５°－Ｅの南北棟である。柱穴の規模は長軸40cm～100cm，短軸30cm～50cm，深さ15cm～40cmを測り，平面形が楕円形を呈するものと円形のものとがある。桁行方向では西側の柱列に円形柱穴，東側の柱列には楕円形柱穴がみられる。柱穴からの出土遺物には，ＳＰ467ａからの瀬戸美濃がある。ＳＢ51はＳＡ12と重複しているが，その新旧関係は明らかでない。ただ，ＳＡ12がＳＤ400とともに区画を構成しているという仮定に基づけば，ＳＢ51が新しい可能性が高い。また，ＳＢ51に付属していると考えられる遺構には，建物内部に炭化物が堆積した土坑が１基，建物外に１基，井戸が２基ある。

467号柱穴（ＳＰ467ａ，第97図）

ＳＢ51の北東隅の柱穴で，ＳＰ467ａとＳＫ467ｂに分かれているが，ＳＰ467ａはＳＫ467ｂ中央に後から掘り込まれた柱穴で，長軸50cm×短軸38cm，深さ40cmを測る。埋土は灰黄褐色砂質土で，瀬戸美濃が出土している。

467号土坑（ＳＫ467ｂ，第97図）

ＳＰ467ａより古いもので，長軸100cm×短軸48cm，深さ16cmを測り，掘形がやや不整形ではあるが楕円形を呈する。埋土は上層が褐灰色砂質シルトで，下層は炭化物層で，厚いところでは12cmを測る。ＳＢ51より古いと推定する，ＳＢ53に付属していると考えられる。

437号土坑（ＳＫ437，第97図）

ＳＢ51の内部，試掘トレンチに西部を削られているが，ＳＫ437・ＳＫ438をふくめた残存部分の長さ190cm，幅100cm，深さ12cmを測る，不整形の竪穴状土坑と考えられる。埋土は黒褐色砂質シルトで，礫が多い。ＳＫ438との新旧関係は平面では不明瞭で，断面観察の結果からＳＫ438が新しいことが明らかになったが，時期差はほとんどないと推測する。礫は意図的に組まれたり，敷かれたりしたものではないと考えられ，上面には炭化物や焼土は確認できない。

438号土坑（ＳＫ438，第97図）

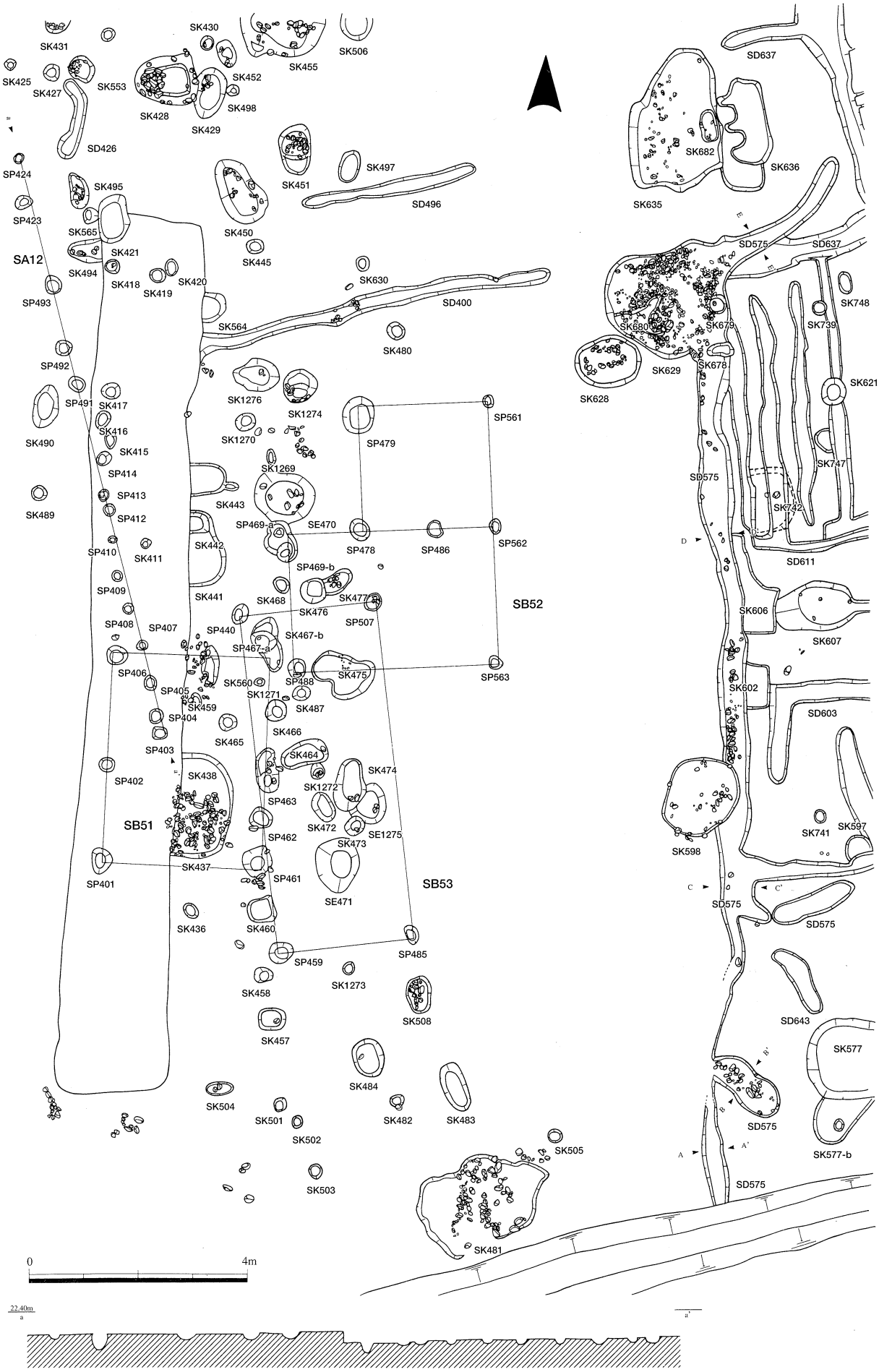
ＳＫ438はＳＫ437の北，礫がほとんどない部分で，西部を試掘トレンチに削られているが，長さ90cm，幅90cm，深さ６cmを測る。埋土は炭化物が多く混じる灰黄褐色砂質シルトで，ＳＫ437より新しい。ＳＫ437とともにＳＢ51の土間状，もしくは作業場的な機能をもつと推定する。

460号土坑（ＳＫ460，第97図）

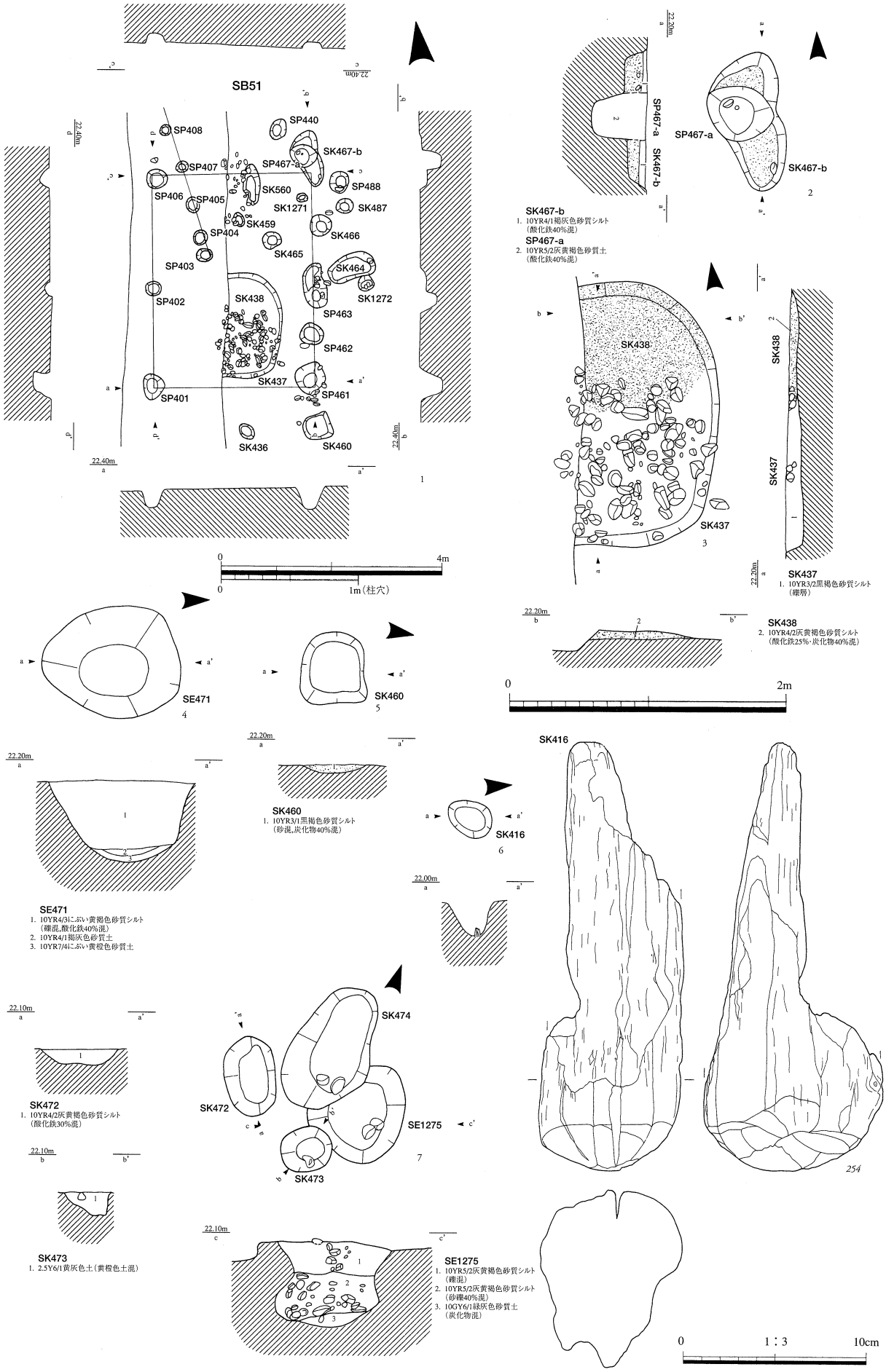
ＳＢ51の南50cmに位置し，53cm×46cm，深さ６cmを測り，平面形は不整形を呈する。埋土は黒褐色砂質シルトで，炭化物が多く混じる。出土遺物はないが，ＳＢ51に付属したものと推定する。

471号井戸（ＳＥ471，第97・98図，図版67・82）

ＳＢ51の東約１ｍに位置し，長軸102cm×短軸82cm，深さ52cmを測り，掘形は楕円形を呈する。埋土は上層からにぶい黄褐色砂質シルト，褐灰色砂質土，にぶい黄橙色砂質土で，石組や水溜などは確認されていない。しかし，中層位のにぶい黄褐色砂質シルトには礫が多量に混じっていることから，本来は石組であったものを破壊して廃棄したと考えられる。これらの礫に混じって礎石（*255*），加工石（*256*），炉壁（*257*～*260*）が出土しており，周辺で使用されたものが廃棄されたと考えられる。



第96図　遺構実測図（中世）
SB51・SB52・SB53・SA12



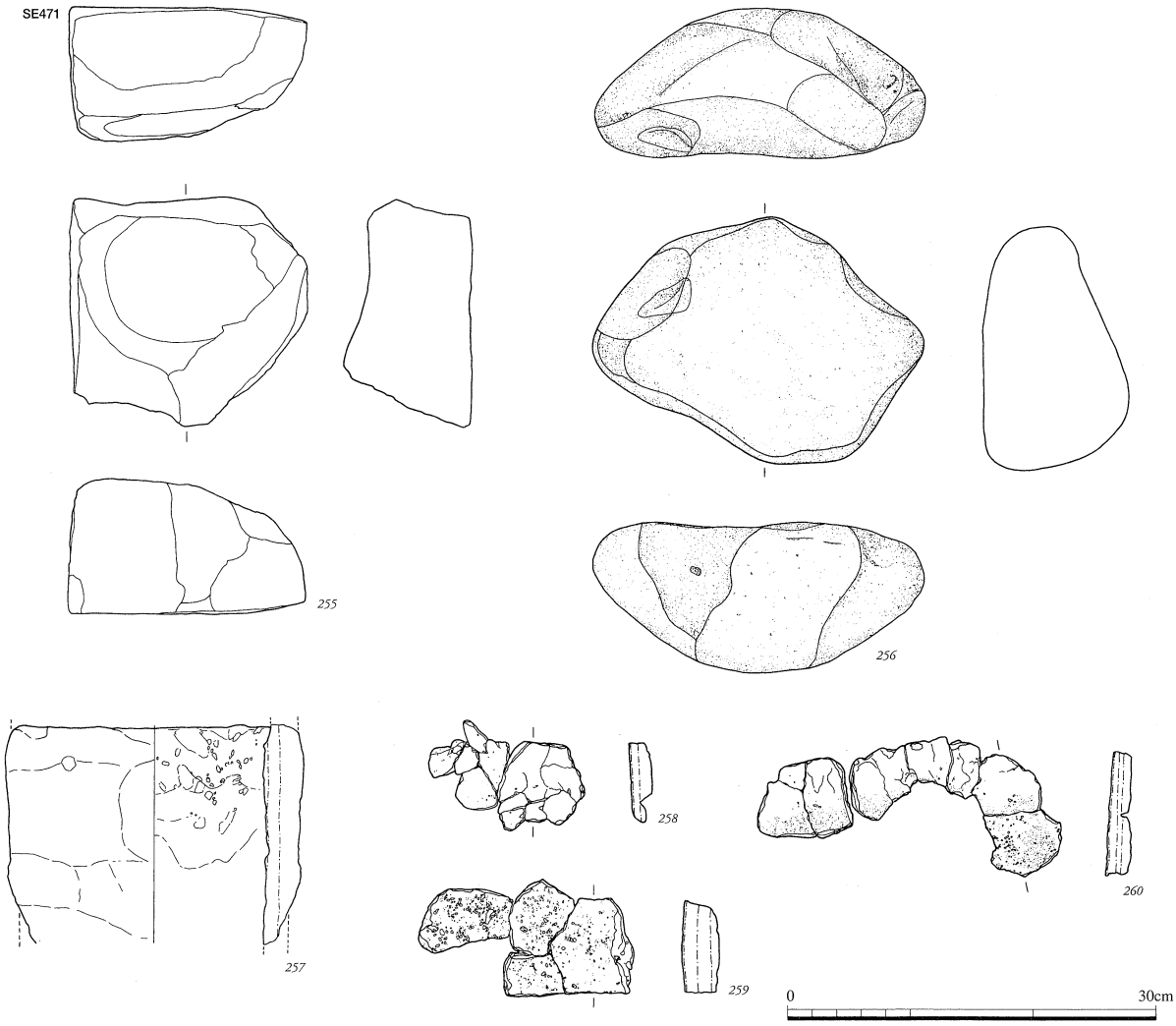
第97図　遺構・遺物実測図（中世）

1. SB51　2. SP467-a・SK467-b　3. SK437・SK438　4. SE471　5. SK460　6. SK416　7. SK472・SK473・SE1275
SK416（*254*）

*255*は19．5cm×18.5cm，高さ10.5cm，重さ6,000ｇを測り，周囲は打ち欠いて面取りしており，平面では不整形な五角形を呈する。底面は水平で，柱が載る部分は13cm×10cmほどのやや湾曲した部分と考えられ，断面形は台形を呈する。石材は安山岩であろう。*256*は27cm×20cm，高さ12cm，重さ6,800ｇを測り，四辺に底面にむけて抉りがあり，平面形は菱形，断面形は三角形を呈する。上面はほぼ水平で，約380㎠の広さがある。石に付着物やはっきりした使用痕が認められないことから，何に使用したかは不明である。*257*～*260*は炉壁である。*257*は外径24.5cm，内径約17cm，厚さ2.5cm～3.5cm，両端部を欠損しているが，残存部の長さ17.5cmを測る。胎土については，外面には直径１cm大の礫が目立つが，断面観察では内面から厚さ１cm程はほとんど礫がみられず緻密で，かなりしっかり焼締まっている。内面上半部には溶解物が付着し，表面には気泡が目立つが，上部ほど気泡が大きくなる。内面に付着した溶解物は非鉄であるが，分析の結果，鋳造溶解炉の炉壁と推定された。この炉壁の内径と検出した焼土の直径とはほぼ一致することから，いずれかの炉壁であることは間違いない。*258*～*260*は炉壁の破片で，*257*と同一個体とみられる。

1275号井戸（ＳＥ1275，第97図）

ＳＢ51の東約1.5m，ＳＥ471の北50cmに位置し，ＳＫ473・ＳＫ474に切られているが，長軸75cm×短軸70cm，深さ60cmを測り，平面形は不整形を呈する。埋土は上・中層は灰黄褐色砂質シルト，下層は緑灰色砂質土で，中層には礫が多く，下層には炭化物が混じる。断面形は中程が少しくびれる袋状



第98図　遺構実測図（中世）（1/6）
SE471（*255*～*260*）

であり，石組や水溜は確認されていないことから，素掘りの井戸と考えられる。出土遺物はなく，近接するＳＥ471との新旧関係は明確ではないが，ＳＢ51に付属したものである可能性が高い。

52号建物（ＳＢ52，第96・99図，図版57）

区画15の中央に重複している3棟の建物のうち，最も北に位置する。桁行3.7m×梁行2.5m，平面積9.25m²の規模をもち，主軸はＮ－1°－Ｗの東西棟である。梁行方向北東には１間×１間の付属屋と考えられるものがあり，その部分を加えると平面積14.75m²となる。柱穴の規模は直径30cm～60cm，深さ10cm～40cmを測り，平面形が円形を呈するものが主体である。桁行方向では柱穴数が不均等で，南側は両端の２基のみに対し，北側は４基確認されている。柱穴からの出土遺物には，ＳＰ469ｂからの瀬戸美濃がある。重複している３棟の建物の新旧関係については明らかでないが，ＳＰ469はＳＥ470より新しいことから，ＳＢ52はＳＥ470が付属している建物より新しいといえる。ＳＢ52に付属すると考えられる遺構には，炭化物が堆積した土坑が建物内部に１基，建物外には距離的に可能性が低いものを含め４基あり，これらには炉の可能性が高いものが含まれる。

469号柱穴（ＳＰ469ｂ，第99図，図版66）

ＳＢ52の北西隅の柱穴で，長軸36cm×短軸28cm，深さ40cmを測り，平面形は楕円形を呈する。ＳＫ469ａを掘り込んでおり，埋土は黒褐色砂質シルトである。北側の壁際には，底面から約20cm程の高さまで礫を積み重ねており，柱が傾くのを防ぐためと推測する。出土遺物には瀬戸美濃（*261*）がある。*261*は鉄釉の天目茶椀で，体部が屈曲し，Ｓ字口縁をもち，口径12cmを測る。時期は16世紀代である。

469号土坑（ＳＫ469ａ，第99図）

ＳＢ52の北西隅の柱穴ＳＰ469ｂより古く，長軸81cm×短軸57cm，深さ22cmを測り，やや不整形な楕円形を呈する掘形をもつ。埋土は褐灰色砂質シルトで，僅かに炭化物を含む。ＳＥ470を掘り込んでいることから，ＳＥ470よりは新しいことが明らかである。

476号土坑（ＳＫ476，第99図）

ＳＢ52の内部，西端に位置し，直径50cm，深さ６cmを測り，掘形は円形を呈する。埋土は上面に炭化物が多い褐灰色砂質シルト，下層に黒褐色砂質シルトが堆積している。褐灰色砂質シルト上面に焼土は確認されなかったが，ＳＢ52周辺の炭化物が堆積した土坑とともに，炉に関連した遺構である可能性が高い。

441号土坑（ＳＫ441，第99図）

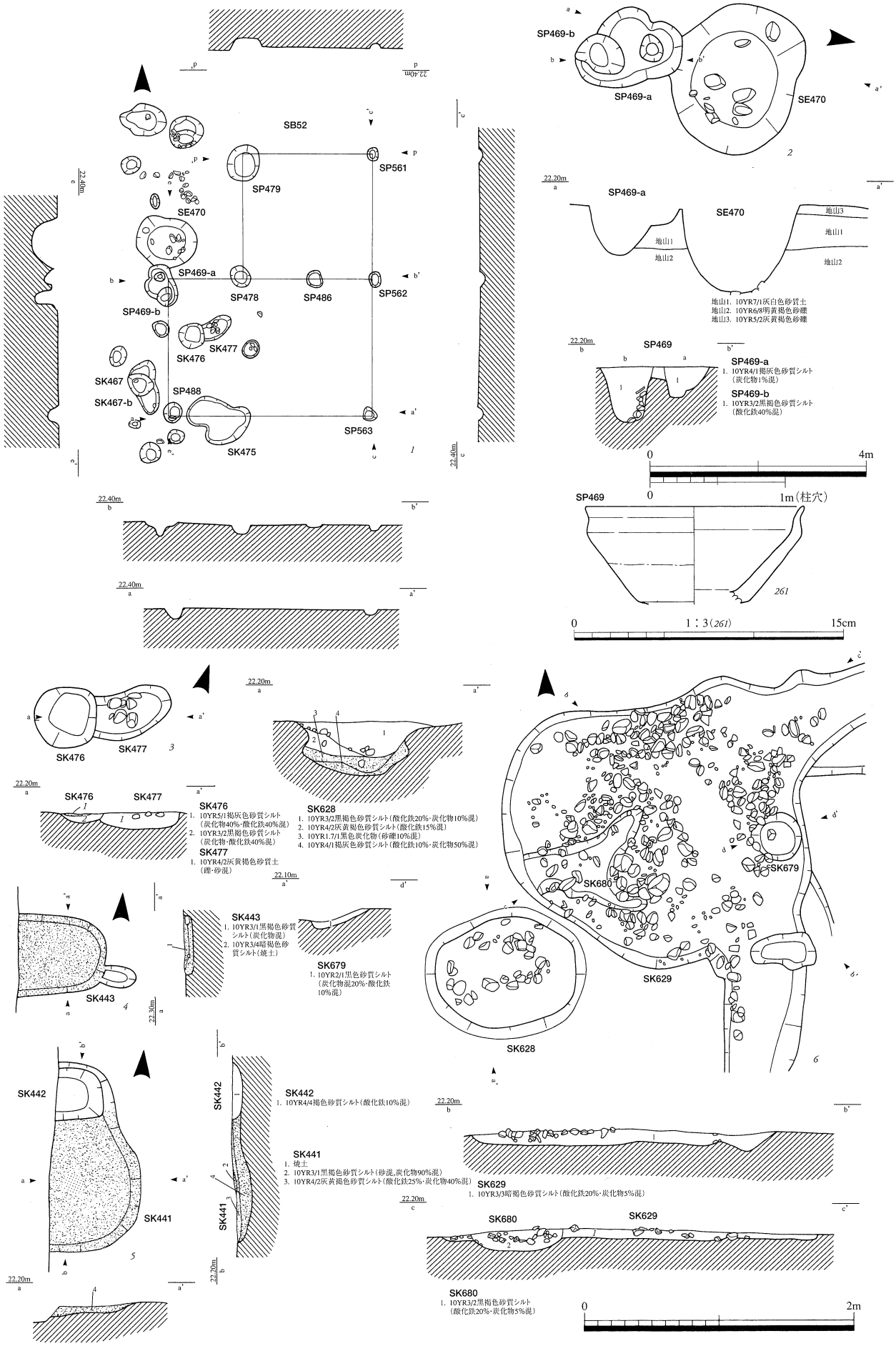
ＳＢ52の西約１ｍに位置し，西側を試掘トレンチに削られている。残存部分の規模は長さ140cm，幅70cm，深さ12cmを測り，北端はＳＫ442が掘り込んでいる。埋土は上層から焼土層，炭化物層，炭化物が多く混じる灰黄褐色砂質シルトである。焼土は中央やや南に確認され，石組などの施設はないが炉と考えられ，直径約20cmの円形を描くことから，上部に炉体があったと推定する。炭化物層は，炉から排出されたものと考えられる。

443号土坑（ＳＫ443，第99図）

ＳＫ441の北30cmに位置し，西側を試掘トレンチに削られているが，残存部分は長さ68cm，幅64cm，深さ６cmを測る。埋土は上層が炭化物が多く混じる黒褐色砂質シルト，下層が焼土層で，焼土は皿状に堆積している。炉体が上部にあったかどうかは不明であるが，ＳＫ441とともに炉に関連した遺構と考えられる。

1274号土坑（ＳＫ1274，第101図）

ＳＢ52の西約50cm，ＳＤ400の南１ｍに位置し，64cm×60cm，深さ６cmを測る。埋土は上層が灰黄褐



第99図　遺構・遺物実測図（中世）

1. SB52　2. SP469-a・SP469-b・SE470　3. SK476・SK477　4. SK443　5. SK441・SK442　6. SK628・SK629・SK679・SK680
SP469（*261*）

色砂質シルト，下層が炭化物層である。炭化物は厚さ約６㎝で皿状に堆積しており，ＳＫ411，ＳＫ443と関連する可能性が高い。

628号土坑（ＳＫ628，第99図，図版58）

ＳＢ52から約1.5m東に位置し，長軸120㎝×短軸98㎝，深さ40㎝を測り，平面形は楕円形を呈する。埋土は上層から黒褐色砂質シルト，灰黄褐色砂質シルト，炭化物層，炭化物が多く混じる褐灰色砂質シルトであり，断面形は袋状を呈する。炭化物層は厚さ約10㎝で，ほぼ水平に堆積している。他にＳＢ20に付属したＳＫ838も同様な構造をもつが，遺構の性格は不明である。出土遺物には加工材がある。

629号土坑（ＳＫ629，第99図）

ＳＫ628の東に隣接しており，東側には区画溝ＳＤ575が流れている。規模は230㎝×193㎝，深さ16㎝を測り，平面形は不整形である。埋土は炭化物が混じる暗褐色砂質シルトで，礫が多い。ＳＤ575との新旧関係は不明である。

53号建物（ＳＢ53，第96・100図，図版57）

区画15内に重複している３棟の建物のうち，中央に位置する。桁行6.2m×梁行2.5m，平面積15.5㎡の規模をもち，主軸はＮ－6°－Ｗの南北棟である。柱穴の規模は直径30㎝～45㎝，深さ10㎝～20㎝を測り，平面形が円形を呈する。桁行方向の西側と東側では柱穴数が不均等である。柱穴からの出土遺物には，ＳＰ485から中国製白磁がある。ＳＢ53に付属していると考えられる遺構には，炭化物が堆積した土坑が建物内部に１基，井戸が１基ある。この井戸がＳＢ52の柱穴より古いことから，ＳＢ53はＳＢ52より古いと推測する。また，ＳＡ12と重複しているＳＢ51が，ＳＡ12より新しい可能性が高いことから，ＳＡ12以東にあって主軸方向がほぼ近いＳＢ53は，ＳＢ51より古いと考えられる。したがって，この３棟の新旧関係は古い順にＳＢ53，ＳＢ51，ＳＢ52となると推定する。

485号柱穴（ＳＰ485，第100図，図版63）

ＳＢ53の南東隅の柱穴で，長軸36㎝×短軸24㎝，深さ６㎝を測り，平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色砂質シルトで，中国製白磁（*262*）が出土している。*262*は口縁部が外反する端反皿で，釉はやや厚く，灰白色を呈する。これは小野分類の白磁皿Ｃ群にあたり，15世紀後半～16世紀後半の時期と考えられる。

470号井戸（ＳＥ470，第99・100図，図版58・78）

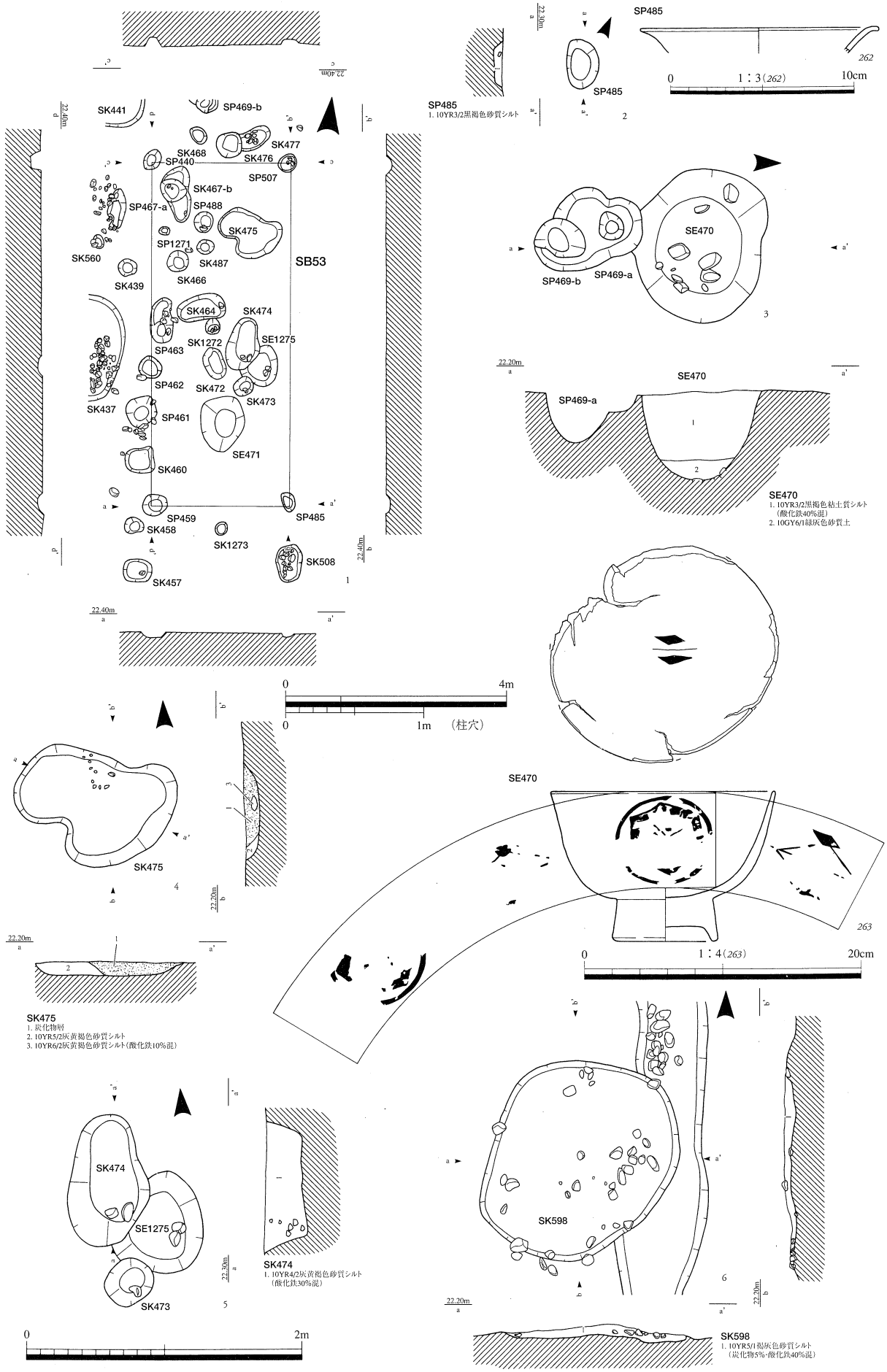
ＳＢ53の北約1.5mに位置し，長軸110㎝×短軸100㎝，深さ52㎝を測り，掘形がやや不整形な楕円形を呈する。埋土は上層が黒褐色粘土質シルト，下層が緑灰色砂質土であり，礫がほとんど含まれないことから素掘りの井戸であると考えられる。遺物は下層からほぼ完形の漆器椀（*263*）が出土している。*263*は高台脇から腰部が緩く屈曲しながら胴部から口縁へ開き気味に立ち上がり，口径16㎝，器高11.2㎝，高台高3.1㎝を測る。内外面は黒色漆塗りで，内面の見込みに植物，外面に丸に亀甲と菱形が各２組，赤色漆で描かれているが，文様は剥離が激しく，不明瞭である。樹種はブナである。

475号土坑（ＳＫ475，第100図）

ＳＢ53内，北東部に位置し，110㎝×90㎝，深さ10㎝を測り，平面形は不整形である。埋土は東半部が炭化物層，西半部が灰黄褐色砂質シルトである。炭化物層は皿状に堆積しているが，焼土は確認されていない。炉から排出された炭化物の可能性が高いが，ＳＢ53内には炉と考えられる遺構はないため，性格は不明である。

598号土坑（ＳＫ598，第100図）

ＳＢ53から約５m東に位置し，長軸150㎝×短軸126㎝，深さ７㎝を測り，平面形はやや不整形な楕



第100図　遺構・遺物実測図（中世）

1. SB53　2. SP485　3. SP469・SE470　4. SK475　5. SK474　6. SK598
SP485(*262*)　SE470(*263*)

円形を呈する。埋土は炭化物が混じる褐灰色砂質シルトであり，礫が多い。区画溝ＳＤ575より新しいことは明らかであるが，周囲の建物からは５ｍ～８ｍ離れており，最も近いＳＢ53とも遺構のない空間を挟んでいることから，付属する可能性は低いと考える。

481号土坑（ＳＫ481，第101図）

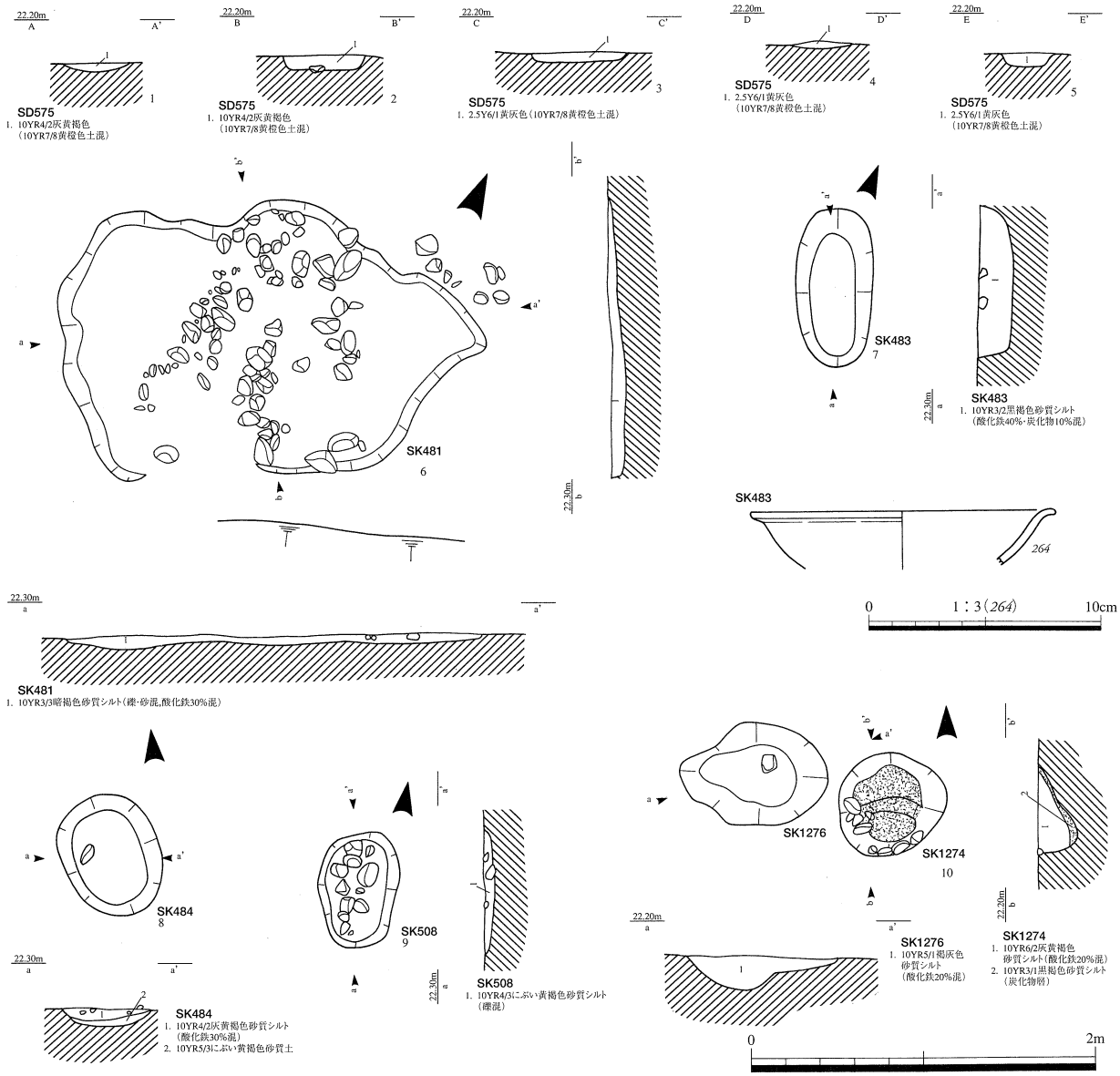
ＳＢ53の南約４ｍに位置し，245cm×152cm，深さ８cmを測り，不整形な平面形を呈する。埋土は暗褐色砂質シルトで，礫が非常に多く混じる。出土遺物もなく，遺構の性格は不明である。

483号土坑（ＳＫ483，第101図，図版63）

ＳＢ53から約2.5m南に位置し，92cm×45cm，深さ22cmを測り，平面は楕円形を呈す。埋土は炭化物が混じる黒褐色砂質シルトで，出土遺物には中国製白磁（*264*），須恵器がある。*264*は口縁部が外反する端反皿で，口径13.1cmを測る。口縁端部には僅かに砂が付着している。小野分類の白磁皿Ｃ群にあたり，15世紀後半～16世紀後半の時期と考えられる。

道路２西側遺構群

道路２の西側には僅か１棟の建物とそれに伴う数基の土坑，溝，自然流路が確認されたのみで，道路２東側とは著しく様相を異にする。また，遺構が確認されたのは自然流路の東側のみで，西側は表



第101図　遺構・遺物実測図（中世）

1～5. SD575　6. SK481　7. SK483　8. SK484　9. SK508　10. SK1274・SK1276
SK483（*264*）

土直下にⅤ層の砂礫層が露出しており，遺構は皆無である。

道路２（第７・８図）

道路２はＣ地区南西端から調査区西端の遺構空白地帯を掠めるように南北にほぼ直線的に伸びている。Ｅ地区の調査区東端には建物が確認されていることから，道路２はＥ地区・Ｆ地区調査区内にはかかっていないと考えられる。道路１の幅員が約10ｍと推定していることから，道路２もほぼ同様と推測しているが，道路１の東側や西側とは町並みの様相が異なることから，道路２は道路１に比較して小規模である可能性もある。

54号建物（ＳＢ54，第102図）

道路２西側で柱列のみ確認したもので，南約１ｍに土坑，西約４ｍに竪穴状土坑があることから，建物としている。柱列を桁行とすると3.7ｍを測り，主軸はＮ－10°－Ｗとなるが，竪穴状土坑が建物内部にあると仮定すると，東西５ｍ，南北3.7ｍを測る東西棟の建物となる。柱穴の規模は直径30cm～40cm，深さ10cm～20cmを測り，平面形が円形を呈する。柱穴からの出土遺物はない。ＳＢ54に付属していると考えられる遺構には，炭化物が堆積した土坑が２基ある。

5006号土坑（ＳＫ5006，第104図）

ＳＢ54の柱列から約４ｍ西に位置し，128cm×110cm，深さ８cmを測り，平面形は隅丸方形を呈する。埋土は植物遺体と炭化物層を含んでいる。出土遺物はないが，ＳＢ54に伴う竪穴状土坑の可能性が高いと考える。

5015号土坑（ＳＸ5015，第104図，図版78）

ＳＢ54の柱穴ＳＰ5010から約１ｍ南西に位置し，72cm×70cm，深さ24cmを測り，掘形はほぼ円形を呈する。埋土は礫が非常に多く混じる黒褐色シルトで，底面に植物遺体を含む炭化物が薄く堆積している。礫は意図的に組まれたり，敷き詰められたものではなく，上面に焼土なども確認できなかった。位置的にＳＢ54に伴うと推定する。出土遺物には漆器椀（*265*）がある。*265*は高台脇から腰部が緩く屈曲しながら胴部から口縁へ開き気味に立ち上がり，口径12.5cm，器高8.0cm，高台高2.6cmを測る。内外面とも黒色漆塗りである。

5003号土坑（ＳＫ5003，第104図，図版63）

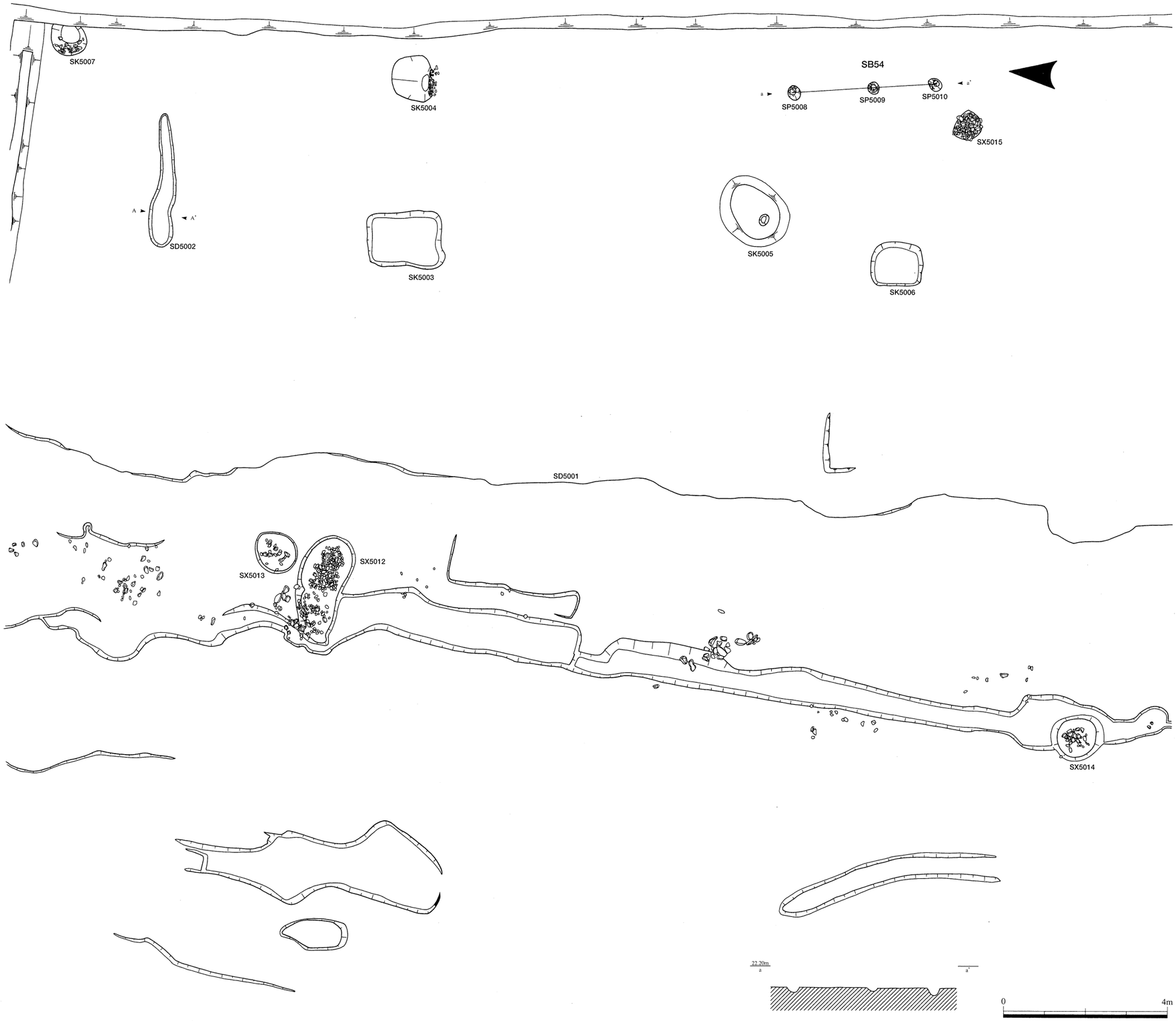
ＳＢ54の柱穴ＳＰ5008から約８ｍ北に位置し，180cm×130cm，深さ14cmを測り，平面形は方形を呈する。埋土は上層から黒褐色砂質シルト，黄灰色砂質シルト，黒色砂質シルトである。形状はＳＫ5006と類似しており，約2.5ｍ東に位置するＳＫ5004とともに建物に関連する遺構の可能性がある。出土遺物には中国製白磁（*266*）がある。*266*は皿の底部であるが，畳付けがやや尖り逆三角形で，細身である。高台下端部に細かな砂が付着しており，高台径6.5cmを測る。内面には目跡が残る。これは小野分類の白磁皿Ｃ群にあたり，15世紀後半～16世紀後半の時期と考えられる。

5004号土坑（ＳＫ5004，第104図）

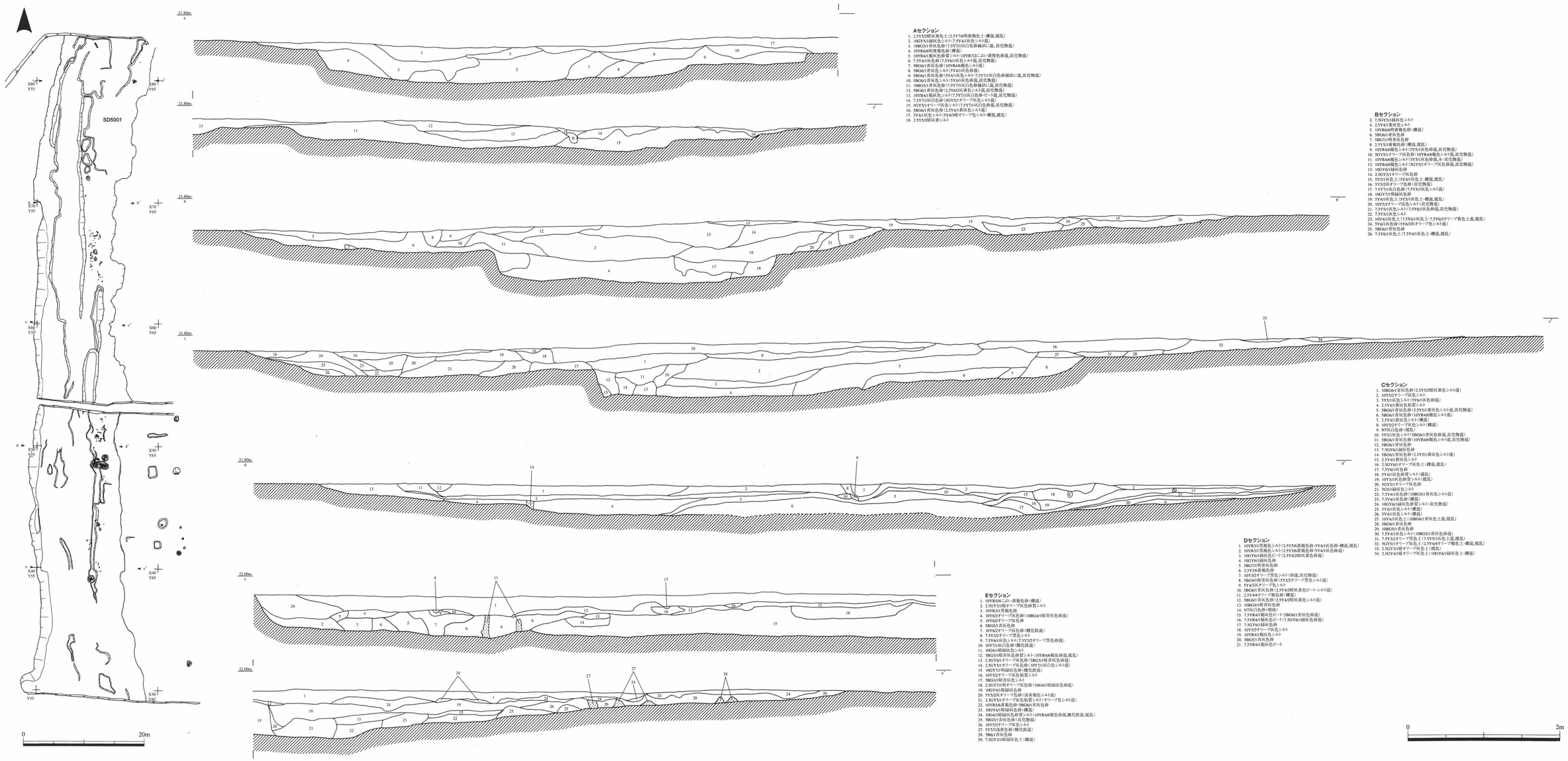
ＳＫ5006から約2.5ｍ東に位置し，114cm×100cm，深さ23cmを測り，掘形は不整形である。埋土は上層から黄灰色砂質シルト，黒褐色砂質シルト，黄褐色砂質土であり，南端には礫がみられる。ＳＤ5002・ＳＫ5003とともに，建物に関連した遺構と考えられる。

5002号溝（ＳＤ5002，第104図）

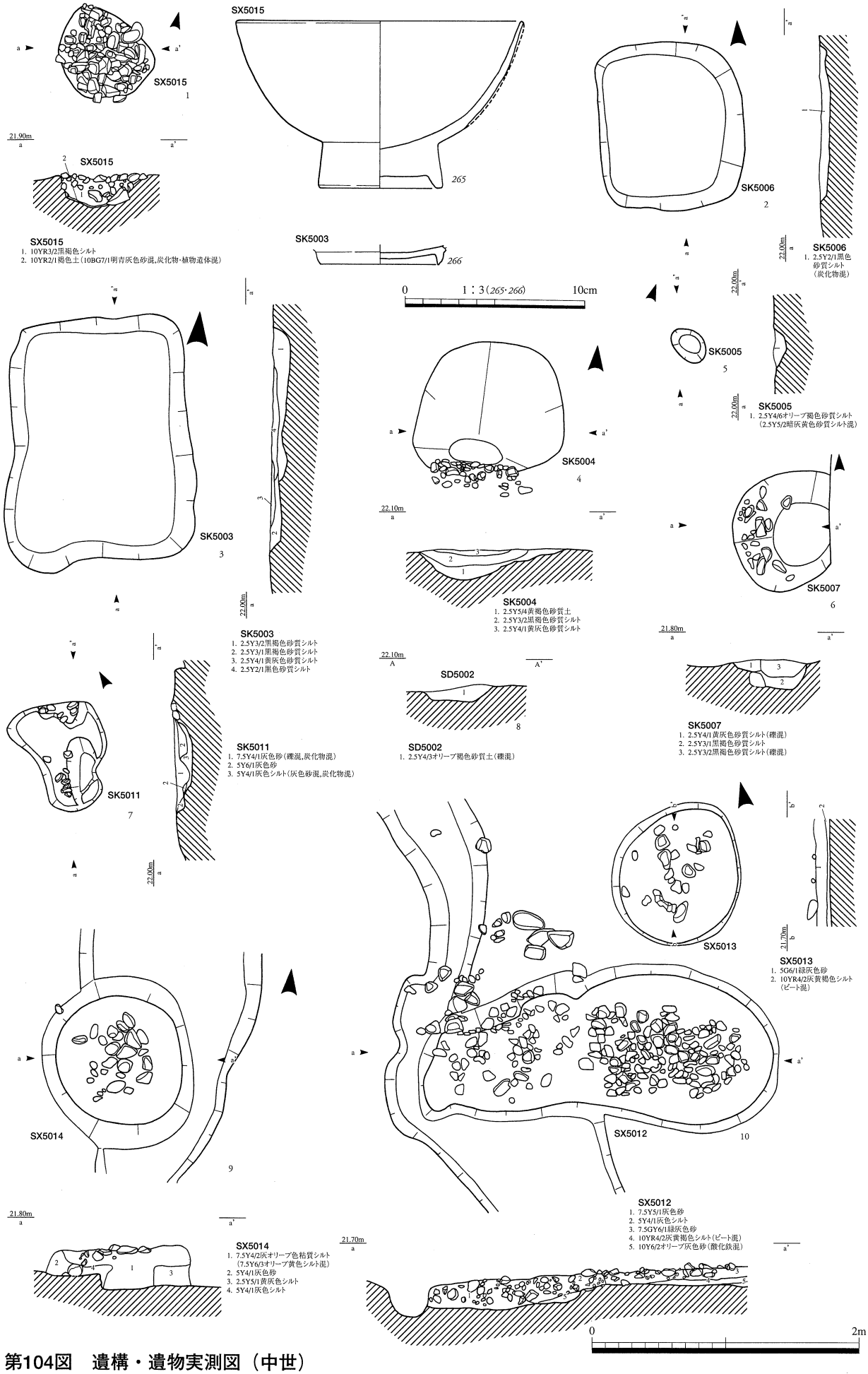
ＳＫ5003・ＳＫ5004の北約５ｍに位置し，幅54cm，深さ14cmを測る。埋土はオリーブ褐色砂質土で，出土遺物はない。ＳＫ5003・ＳＫ5004とともに建物に付属しており，建物の区画溝や土台痕の可能性が高いと考えられるが，遺構の性格は不明である。



第102図　遺構実測図（中世）
SB54



第103図　遺構実測図（中世）
SD5001



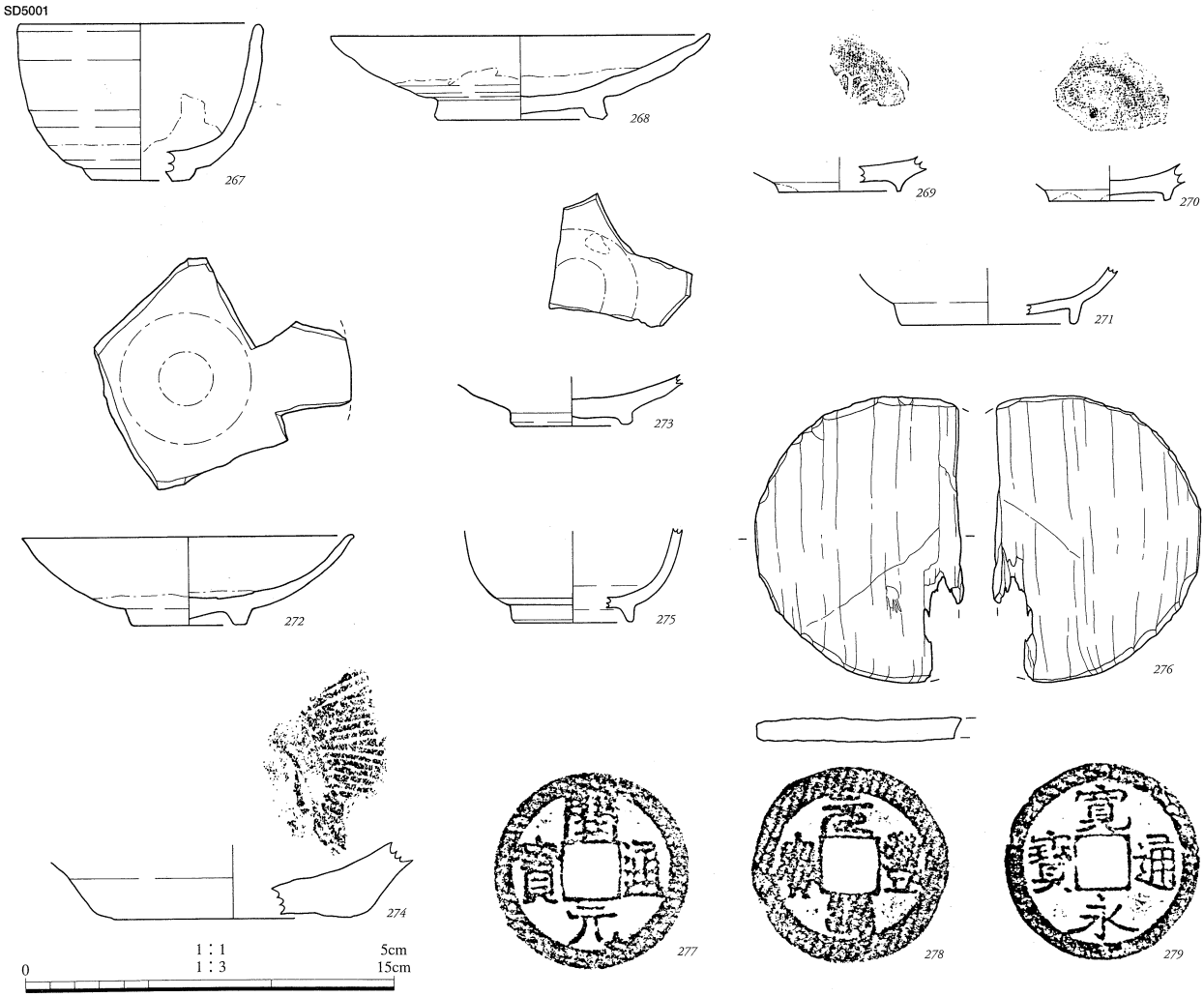
第104図　遺構・遺物実測図（中世）

1. SX5015　2. SK5006　3. SK5003　4. SK5004　5. SK5005　6. SK5007　7. SK5011　8. SD5002　9. SX5014　10. SX5012・SX5013

SX5015（*265*）　SK5003（*266*）

5001号溝（ＳＤ5001，第103・105図，図版59・63・78・87・88・91・92）

道路２の西約12ｍをＥ地区からＦ地区まで南北に流れる自然流路で，幅20m，深さ67cmを測る。埋土は複雑に堆積しており，徐々に埋没しながら流路を狭めている。出土遺物には須恵器，中世土師器，珠洲，中国製白磁（*271*），越中瀬戸（*267*～*270*），瀬戸美濃，唐津（*272*～*274*），伊万里（*275*），瓦，底板（*276*），古銭（*277*～*279*），蹄鉄等があり，近世まで機能していたことが窺える。*267*は体部下半が丸みを帯び，口縁部がやや開き気味に立ち上がる丸椀である。口径10.1cm，器高6.2cm，高台径4.1cmを測り，体部内外面は鉄釉を施し，内面には灰釉を流し掛けている。外面高台付近は錆釉が施されており，高台は削り出し輪高台で，高台外端部を面取りしている。時期は18世紀頃と考えられる[注4]。*268*は体部から口縁部端部まで直線的に伸びる内禿皿で，口径15.4cm，器高3.4cm，高台径6.7cmを測る。鉄釉を施し，釉止めの段をもつ。見込みには重ね焼きの痕跡を残す。高台は付け高台である。時期は17世紀前半～中頃と考えられる。*269*・*270*は内禿皿の底部で，削り出し高台で，断面が逆三角形を呈する。*269*は鉄釉，*270*は灰釉を施しており，見込みには菊の印花を押捺している。*269*は十二弁菊の印花が施され，印花の溝に釉が流れ込んでいる。*270*は十六弁菊の印花を施しているが明瞭ではない。*271*は中国製白磁皿の底部で，高台下端がやや尖る。畳付けは釉剥ぎされており，高台径は９cmを測る。小野分類の白磁皿Ｃ群にあたり，時期は15世紀後半～16世紀後半と考えられる。*272*～*274*は唐津で，*272*・*273*は皿，*274*は擂鉢である。*272*・*273*は内野山西窯などで焼成された銅緑釉系陶器の皿で，内面及び口縁部にのみ緑青色の銅緑釉を施し，内底面を蛇の目釉剥ぎする。体部外面は下半まで灰白色の灰釉を施す。*272*は体部がやや内湾しながら立ち上がり，口縁部が外上方に開き，削り出し高台



第105図　遺物実測図（中世）（*277*～*279*　1/1，*267*～*276*　1/3）
SD5001

をもつもので，口径13.4cm，器高3.6cm，高台径4.6cmを測る。*273*は削り出し高台をもつ底部であるが，高台径4.6cmを測り，蛇の目釉剥ぎした部分に砂目が残る。時期は17世紀後半～18世紀前半と考えられる。*274*は擂鉢の底部で，内外面に鉄釉を施している。内面の卸目は密であるが浅い。時期は17世紀後半～18世紀後半と考えられる[注5]。*275*は伊万里の陶胎染付椀で，高台径4.8cmを測り，腰の張った体部が直立気味に立ち上がる。底部は比較的薄く作られている。時期は18世紀と考えられる[注6]。*276*は底板で，直径11.6cm，厚さ0.7cmを測る。外周囲は細かく面取りされている。*277*～*279*は銭で，*277*は開元通寶，*278*は元豊通寶，*279*は寛永通寶である。

包含層出土遺物（第106・107図，図版61・62・64～66・68・79・82・86・91・92）

道路２東側の区画11～区画15と，道路２西側の包含層出土遺物には，中世土師器，珠洲，中国製青磁，中国製白磁，中国製染付，瀬戸美濃，越中瀬戸，唐津，伊万里，木製品，石製品，金属製品等がある。以下，種類ごとにまとめて記述する。

土器・陶磁器（第106図，図版61・62・64～66・68・91・92）

280～*285*は中世土師器で，全て器壁は薄い。*280*は丸底から体部は直線的に開く。*281*～*284*はやや平底気味で体部は直線的に開き，口縁端部は上方へ小さく摘み上げる。*285*の体部はやや内湾気味に開き，口縁部に１段のヨコナデを施す。越前分類[注7]のＮＪ類にあたり，時期は*280*は16世紀中頃，*281*～*284*は16世紀末，*285*は16世紀中頃～後半と考えられる。

286～*289*は珠洲の擂鉢である。*286*は底部の切り離しが静止糸切りによるもので，内面には卸目がない。*287*の卸目は1.8cm幅に10条を数え，間隔をあけて施入されている。*288*の口縁形態は面取りが弱く，端部を細く挽き出した長三角頭で，口縁端面に９条で１単位の櫛目波状文が加飾されている。*289*は波状の卸目が施入されているが，１単位の卸目は不明である。破片が小さいため時期は断定できないが，*287*は15世紀後半～16世紀前半，*288*が珠洲Ⅵ期に比定でき，15世紀後半，*289*は珠洲Ⅱ期で，13世紀前半である。

290・*291*は龍泉窯系青磁碗で，体部が内湾し，外面には線描の細蓮弁文を施す。*290*は内面にも文様がある。これは上田分類の碗ＢⅣ類[注8]にあたり，15世紀後半～16世紀前半である。*292*・*293*は中国製染付皿で，*292*は端反りの皿，*293*は内底面に獅子？と草花文が描かれた底部の破片であるが，内底面の染付文様から口縁部端反りの器形になる可能性が非常に高いものである。小野分類では皿Ⅶ群Ｂ1群にあたり，時期は15世紀後半～16世紀前半である。*294*は李朝の壺で，器壁は非常に薄く，体部はやや内湾気味に伸び，底部は僅かに高台のようなものを作り出している。体部外面下半には浅い沈線が２条巡り，内面にはロクロの挽き目が残る。時期は16世紀代と考える。

295・*296*は瀬戸美濃である。*295*は口径11cmを測り，灰釉を施すもので，丸皿１類と考えられる。*296*は鉄釉を施した天目茶椀で，体部が屈曲して，Ｓ字口縁をもつもので，高台は削り出し輪高台である。時期は16世紀である。

297～*299*は越中瀬戸である。*297*は鉄釉のひだ皿，*298*は灰釉を施し，体部中央で丸みをもって立ち上がる丸皿で，釉止めの段をもつ。内外面底部と高台付近は無釉の内禿皿である。口径10.8cm，器高2.5cm，高台径４cmを測り，高台は断面逆三角形の削り出し高台である。時期は17世紀前半～中頃と考えられる。*299*は灰釉の内禿皿で，断面逆三角形の削り出し高台をもち，見込みに印花を押捺する。印花は中心からややずれており，明瞭ではない。

300・*302*は唐津である。*300*は体部が内湾して立ち上がり，口縁部がほぼ直立するもので，京焼風唐津椀である。*302*は灰釉の皿で，外底部は無釉で，体部外面に墨痕があるが，字意不明である。ま

た内底面に胎土目が残る。時期は17世紀前半である。*301*は伊万里で，体部・口縁部が緩く内湾して外上方に開く皿である。口径11.8cm，器高2.9cm，高台径8cmを測り，逆三角形状の高台を削り出す。口縁部内面には格子文と草花文，外面には唐草文を描いている。

木製品（第106・107図，図版79）

*303*は小札で，外面が赤色漆塗り，内面が黒色漆塗りである。*304*・*305*は連歯下駄で，*304*は歯の部分のみが残存しており，樹種はニガキである。*305*は後壺側の約２分の１が残存している。台の平面形は小判形で，歯は台と同じ幅で縦断面が方形を呈する。*306*は約２分の１が欠損した底板で，直径約8.5cmを測る。*307*は台形を呈する加工板で，両面とも先端に向けて加工痕が残る。*308*は直径10.3cmを測る蓋で，樹種はヒノキである。

石製品（第107図，図版82）

*309*は五輪塔の水輪で，直径25cmの球形の上下端を切り取った形態で，上下輪との接地面の直径は17.5cmを測る。正面には梵字「バン」が彫られている。石材は凝灰角礫岩である。

金属製品（第107図，図版86）

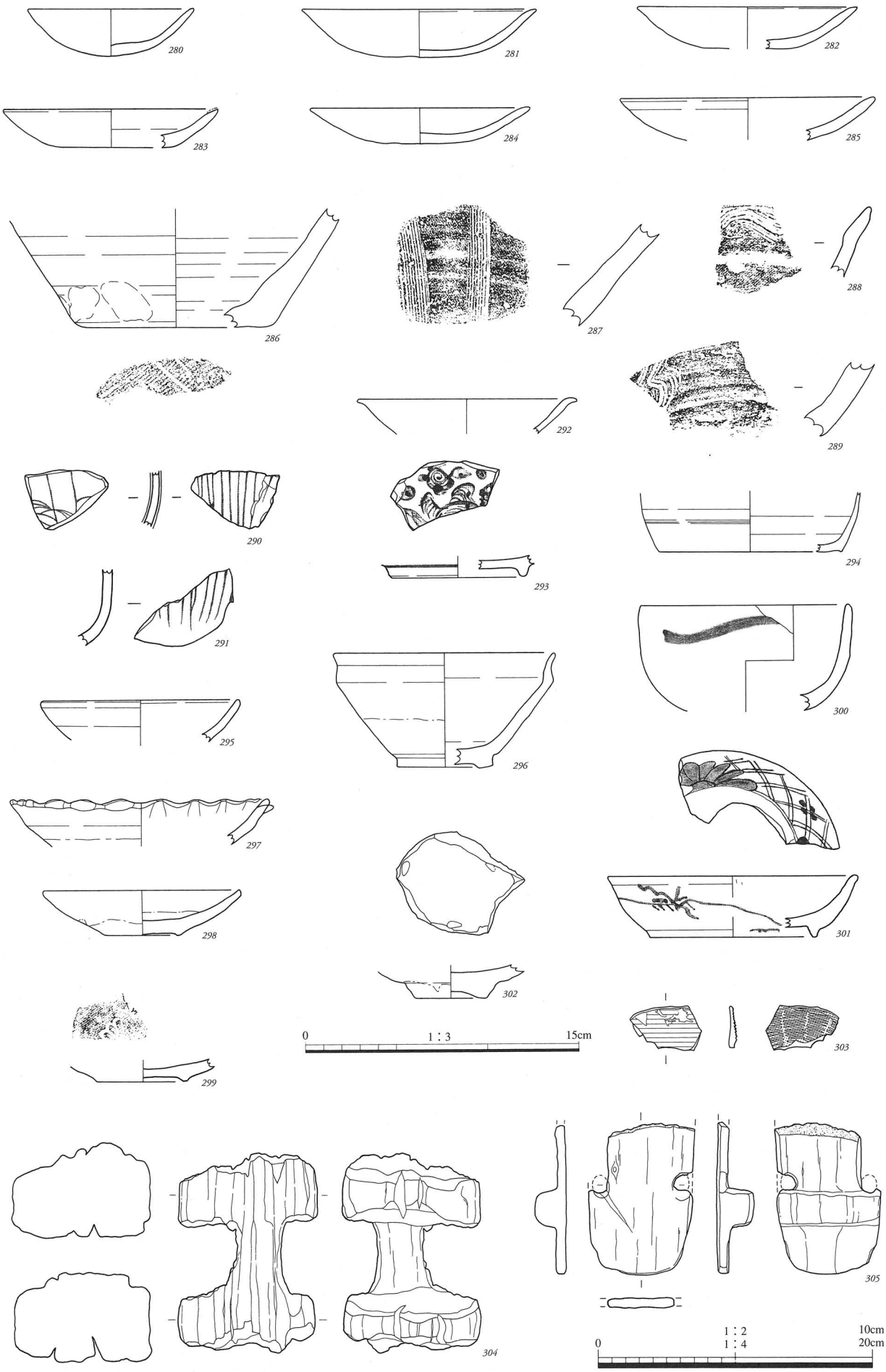
*310*は銅製の簪で，耳掻き状に折れた先端から二股に分かれている。*311*・*312*は釘で，頭部を欠損しており，断面形は方形を呈する。*313*は銅製の環状の金具で，外径2.6cm，内径２cm，高さ0.9cmを測る。上端部がＬ字状に折れていることから，飾り金具の可能性が高い。*314*は銅製の輪状金具で，変形が著しい。両端内側に穿孔された耳状の突起があり，両端を組み合わせて鋲等で固定して使用したものと考えられるが，用途は不明である。*315*は銅製の吊り金具で，外径5.5cm，内径４cmを測る輪に，幅1.5cm，長さ6.3cmの板状の吊り部分が取り付けられている。

土製品（第107図，図版86）

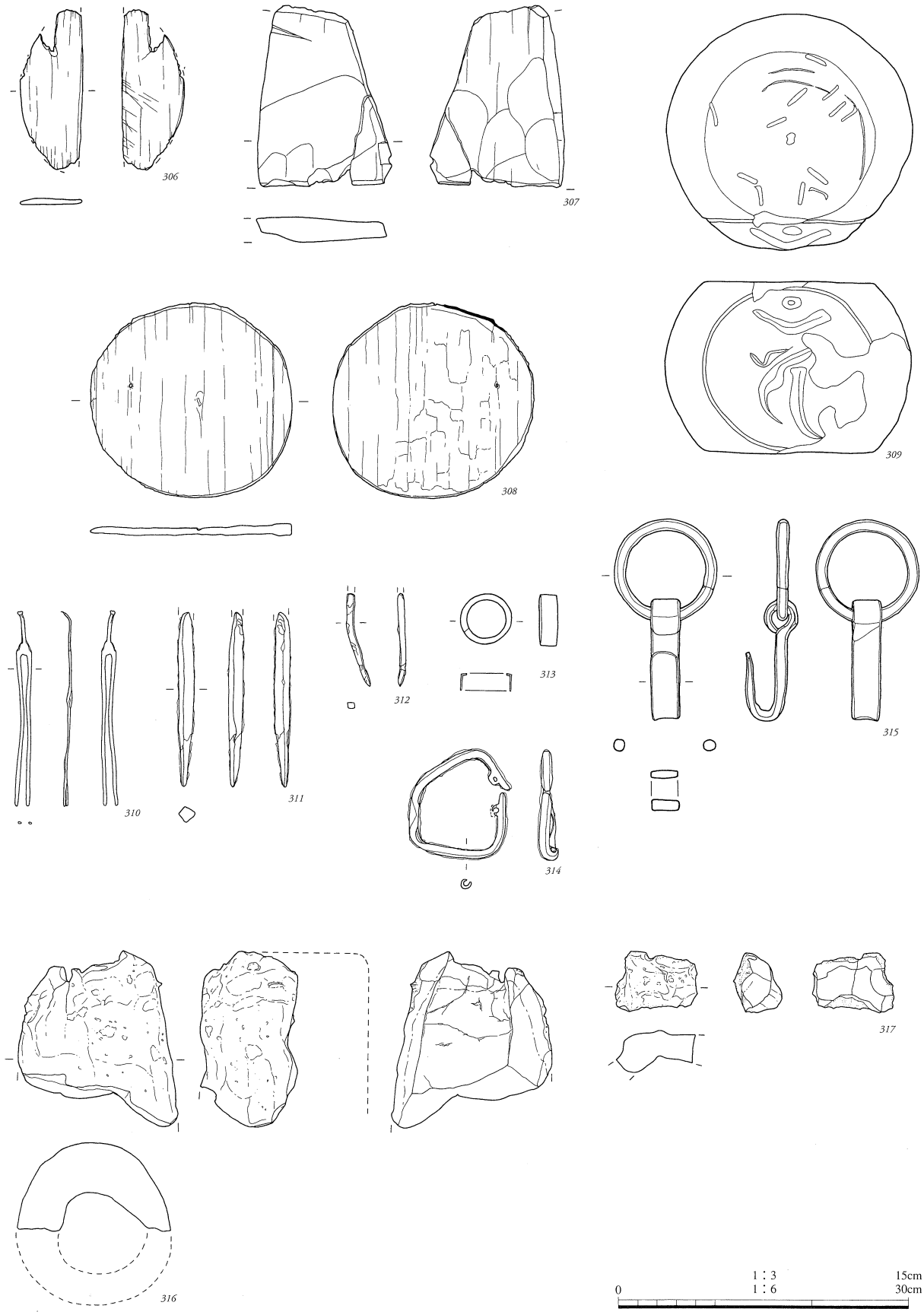
316・*317*は羽口である。*316*は外径８cm，内径4.6cm，器壁の厚さ2.4cmを測り，先端部に鉄が付着している。

（中川道子）

注１　吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館
注２　小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗，皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.２　日本貿易陶磁研究会
　　山本正敏　1996　「中国製陶磁器の分類と編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
注３　瀬戸市史編纂委員会　1993　『瀬戸市史Ⅳ』
注４　越中瀬戸焼発祥400年記念顕彰会実行委員会　1988　『越中瀬戸発祥400年記念誌』
　　宮田進一　1988　「越中瀬戸の窯資料(1)」『大境』第12号　富山考古学会
注５　大橋康二　1988　『肥前陶磁』　ニュー・サイエンス社
注６　注５に同じ。
注７　越前慎子　1996　「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
注８　上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.２　日本貿易陶磁研究会



第106図　遺物実測図（中世）（*303*　1/2，*280*～*302*　1/3，*304*・*305*　1/4）
包含層



第107図　遺物実測図（中世）（*306～308・310～317*　1/3，*309*　1/6）
包含層

B　近　　世

近世の遺構には畠跡と考えられる畝状遺構，溝３条，土坑，畦畔状遺構がある。畠と溝の間には切り合い関係があり，若干の時期差が認められるが，近世[注1]の範疇に収まるものと考えられる。

畠

畠跡と考えられるのはＡ地区の全面と，Ｃ地区の南半に広がる畝状の遺構である。畝の土は炭混じりの砂質シルトでＩｄ層にあたり，さくにあたる部分をＩｃ層が覆っている。また，Ｉｄ層は中世面の遺物包含層であることから，畠跡の時期は近世と考えられる。

Ｃ地区畠（ＳＸ10，第109・110・111・113図，図版87～89）

検出された畝状の遺構は，南北方向に並ぶものが６群，東西方向に並ぶものが３群の９ブロックに分かれる。畝の大きさは幅約１ｍ，長さは短いもので６ｍ～８ｍ，長いもので10ｍ～13ｍを測る。畝間（さく）の幅約50㎝，深さ平均８㎝である。遺物は銭のみで，*338*～*340*はＫブロックで４枚まとまって出土したもので，熙寧元寶・元豊通寶である。*338*は２枚が重なった状態である。

Ａ地区畠（ＳＸ2002，第109・110・111図，図版87～89）

Ａ地区のほぼ全面に渡って検出されており，南北方向に並ぶものが４群，東西方向が13群の17ブロックに分かれている。畝の大きさは幅約１ｍ，長さは短いもので４ｍ～５ｍ，長いものでも７ｍ～８ｍで，ＳＸ10に比べて短いものが多い。畝間の幅30㎝～50㎝，深さは10㎝ほどである。遺物は銭のみである。 畠の畝および畝間の構成土をプラント･オパールの分析に出しており，その結果イネ属が検出された。これにより，畠でのイネ栽培，もしくは畑作に伴う敷藁や施肥の可能性が考えられている[注2]。

畠の耕作土であるＩｄ層は，地震による噴砂に切られている。噴砂は中世面で検出したもので，断面からＩｄ層の上面まで噴砂が上がることが観察された。遺跡周辺で噴砂ができるような大きな地震は安政５(1858) 年以後起きていないことから，畠は安政５(1858) 年以前のものと考えられる。

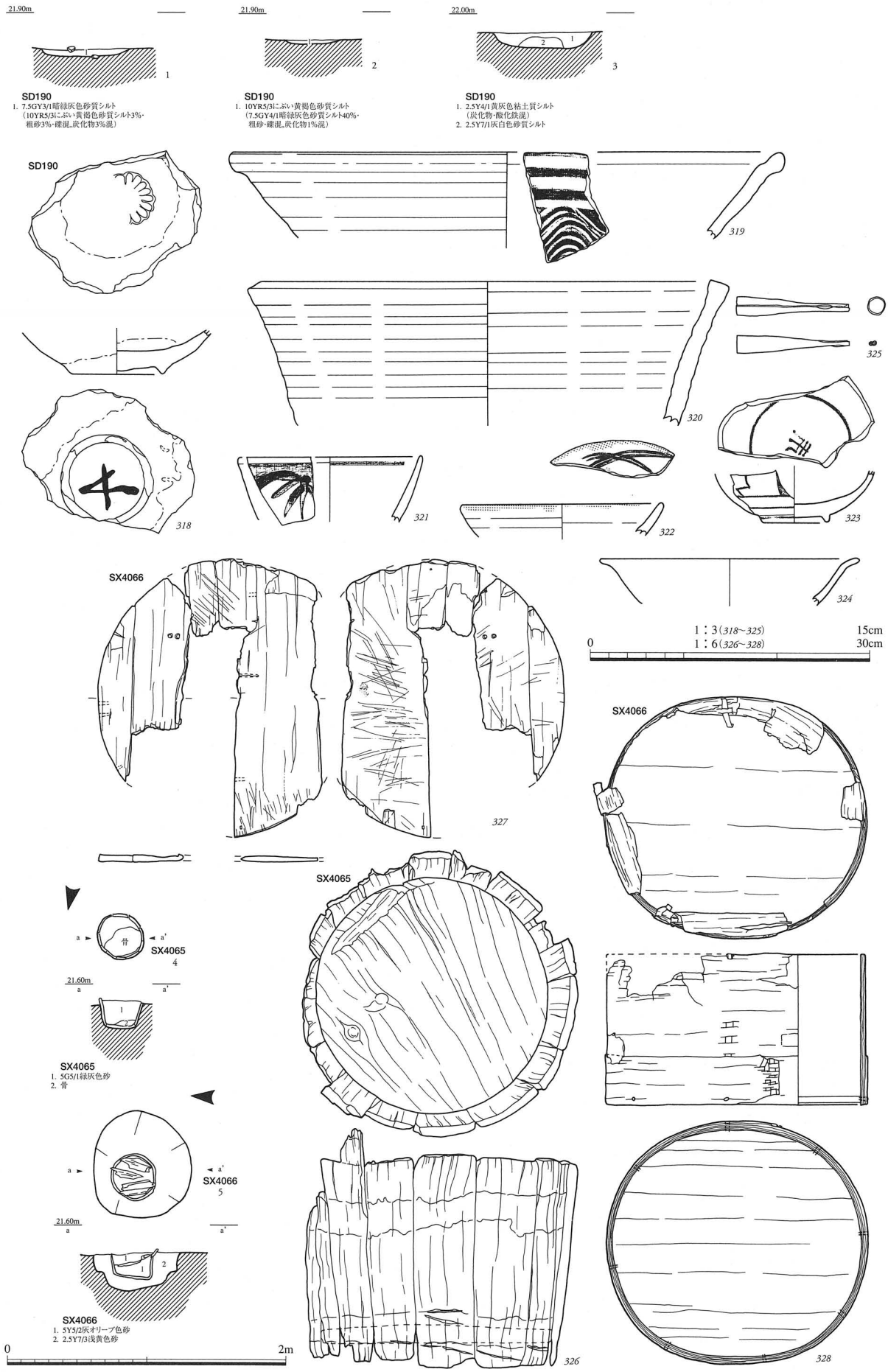
溝

190号溝（ＳＤ190，第108図，図版63・91・92・94）

ＳＤ190はＤ地区を斜めに横切りＣ地区まで続く溝で，Ａ地区で一部が確認されている。幅75㎝，深さ４㎝～12㎝を測る。埋土は暗緑灰色砂質シルト，黄褐色砂質シルト，黄灰色粘土質シルトである。出土遺物には越中瀬戸，瀬戸美濃，唐津，伊万里，底板，加工材，煙管（吸口）などがある。*318*は越中瀬戸の灰釉皿で，内禿で内面見込みに16弁菊と思われる印花があり，17世紀代と考えられる。*319*・*320*は唐津の鉢で，*319*は鉄釉に白色の化粧土で刷毛目を施しており17世紀後半代のものと考えられる。*321*・*322*は伊万里で，*322*は二重格子文の皿で口縁端部に漆が付着している。18世紀後半代の年代が想定される。*323*は瀬戸美濃の陶胎染付の椀である。*324*は端反り口縁の白磁碗で16世紀代のものである。遺物は若干古手のものも含むが，概ね17世紀～18世紀代に収まる。このことから，溝の時期は17～18世紀と考えられる。

2001号溝（ＳＤ2001，第110・112・113図，図版89・91）

ＳＤ2001はＡ地区を北流する溝で，南東端から北西端へ調査区を二分するように延びており，北西端で東へ大きく曲がっている。幅215㎝，深さ20㎝を測り，埋土は黒褐色砂質シルトのほぼ単層である。ＳＸ2002を切っており，ＳＤ2001が形成された時点では，ＳＸ2002は畠として耕作されなくなっていたと考えられる。出土遺物には越中瀬戸，瀬戸美濃，唐津，伊万里，近世磁器，加工材，金属製品などがあり，この他に中世土師器，珠洲，中国製白磁・染付などの中世面の遺物も若干含んでいる。*329*は伊万里の碗で18世紀代の年代が想定される。溝の時期はＳＸ2002より後出と考えられるが，出

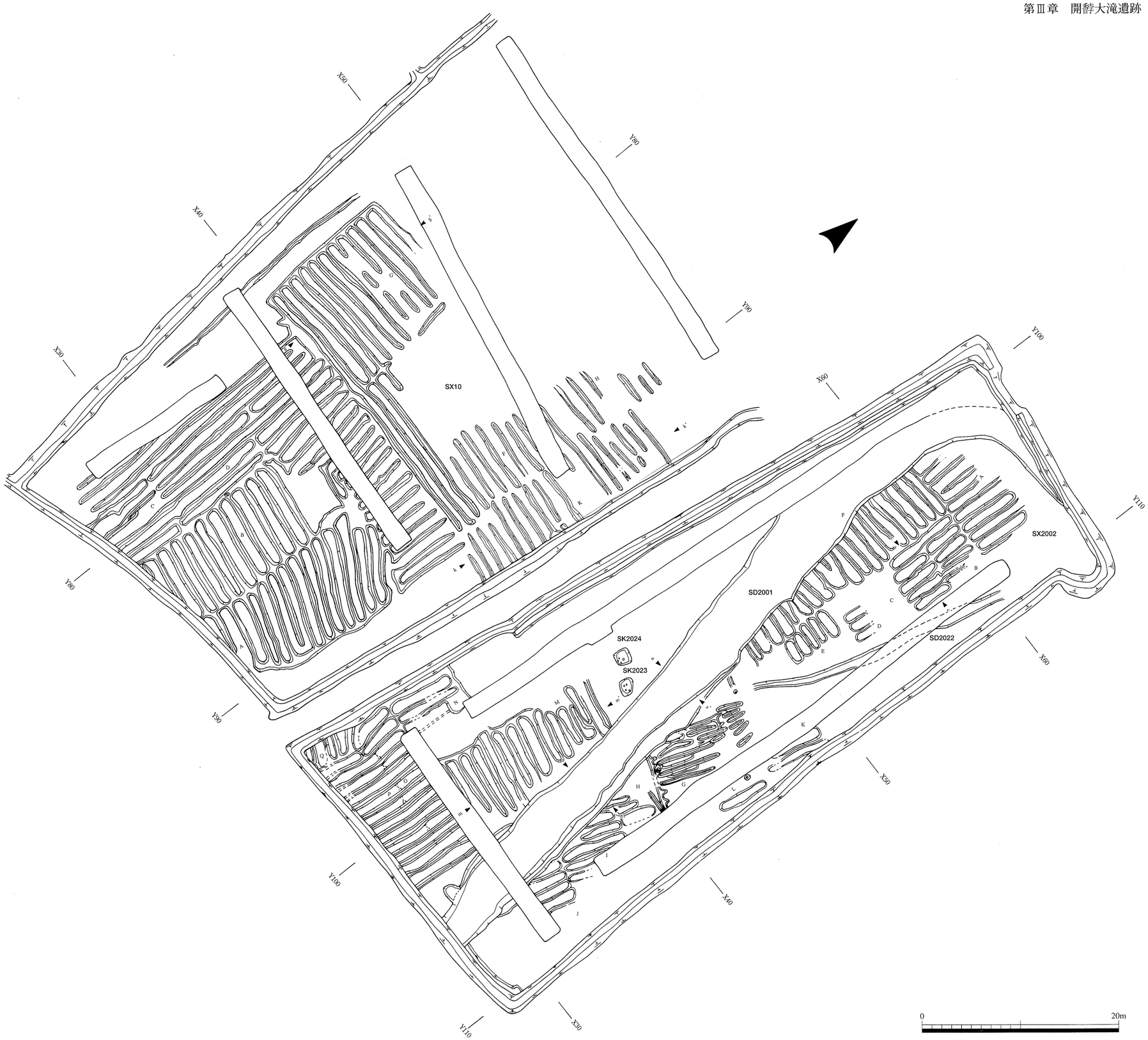


第108図　遺構・遺物実測図（近世）

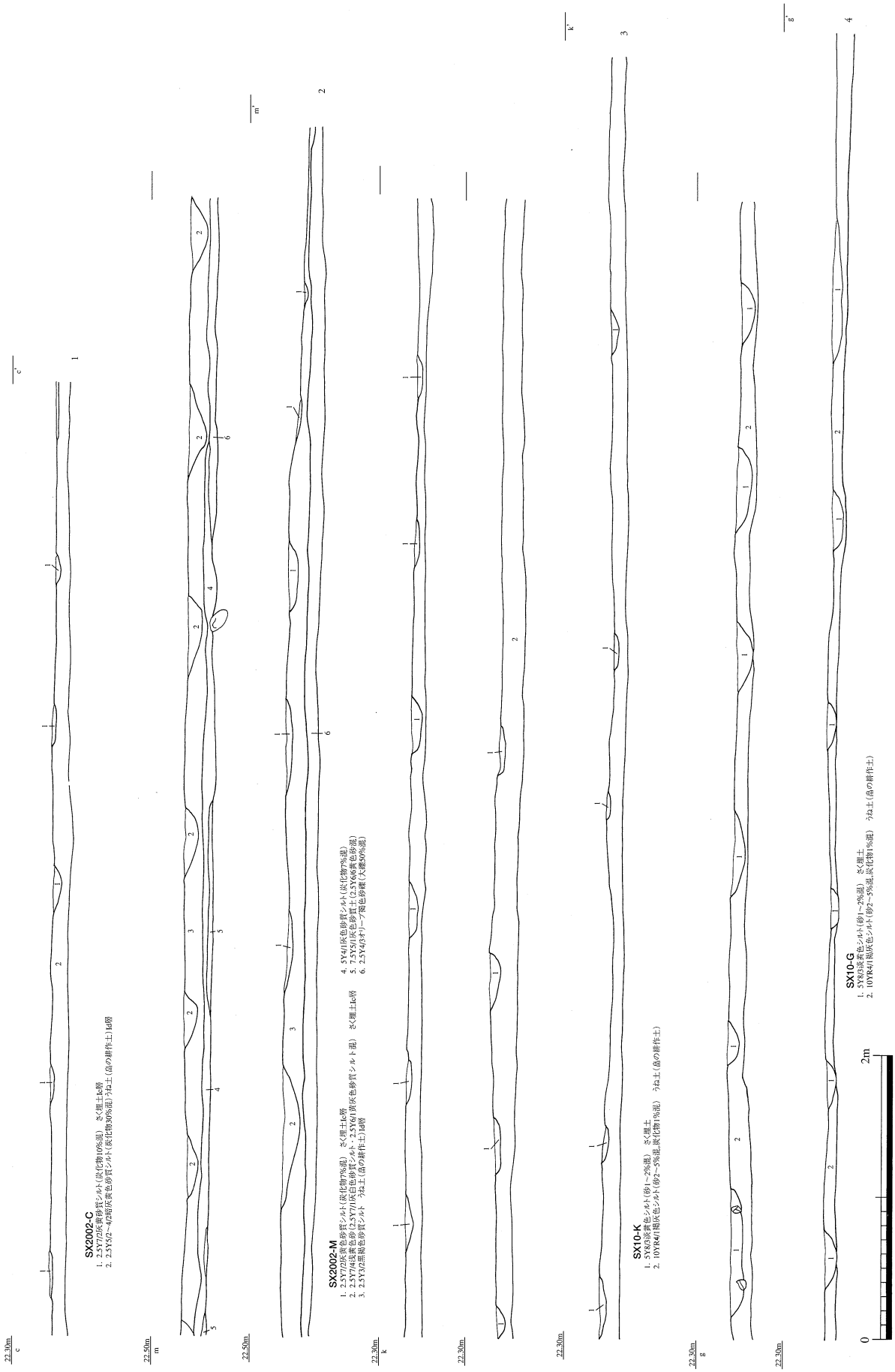
1～3. SD190　4. SX4065　5. SX4066

SD190(*318～325*)　SX4065(*326*)　SX4066(*327・328*)

第109図　遺構全体図（近世面）



第110図　遺構実測図（近世）
SX10，SD2001，SX2002，SD2022，SK2023，SK2024



第111図　遺構実測図（近世）

1. SX2002−C　2. SX2002−M　3. SX10−K　4. SX10−G

土遺物から近世の範疇に収まるものと思われる。

3001号溝（ＳＤ3001，第112・113図，図版90～92・94）

ＳＤ3001はＢ地区の北半を鉤状に折れ曲がって流れる溝である。幅252cm，深さ10cmを測り，埋土は黒色シルト，黒褐色砂質シルト，灰黄褐色砂質シルトである。東側の屈曲部分では一段深くなり40cmを測る。この付近では，土止めを行っていたと考えられる板材や杭列が検出されている。出土遺物には中世土師器，珠洲，越中瀬戸，瀬戸美濃，唐津，伊万里，近世磁器，中国製白磁・染付，漆器椀，加工材，石製品，煙管がある。*331*・*334*は越中瀬戸で，*331*は蓋，*334*は灯心受けである。*335*は珠洲で，全体的に赤味をおびており二次的に熱を受けていると思われる。*337*は板状に加工されたもので，石材は凝灰岩である。遺物は17～18世紀代のものが大半を占めている。また，中世面の自然河川がほぼ埋まった後に形成されていることからも，溝の時期は17～18世紀代と考えられる。

土坑

2023号土坑（ＳＫ2023，第110・112図）

ＳＫ2023はＳＸ2002のＭブロックの北側，ＳＤ2001の西側肩付近に位置する。東西180cm，南北140cmの楕円形の土坑で，深さは18cmを測る。埋土は黄褐色砂質土，にぶい黄色砂，青灰色砂，黒褐色砂質シルトで，底面付近には10cm～20cm大の礫が含まれている。出土遺物はないが，近世の遺構と思われる。

2024号土坑（ＳＫ2024，第110・112図）

ＳＫ2023の北西約２ｍに位置する。140cm×140cmの方形の土坑で，深さは15cmを測る。埋土は黒褐色砂質シルトで，底面付近に拳大の礫を含む。出土遺物はないが，ＳＫ2023同様に近世の遺構と思われる。

4065号土坑（ＳＸ4065，第108図，図版90・93）

ＳＸ4065はＤ地区の北西隅に位置する。32cm×35cmの円形の土坑で，深さは18cmを測る。掘形は小さく，桶を埋め込んだ穴である。埋土は緑灰色砂で，桶の底面付近から獣骨と思われる焼かれた骨[注3]が検出されている。*326*の桶はヒノキ科の木材を用い17枚の側板と底板からなる。出土遺物はないが，中世面の自然河川がほぼ埋まった後に掘り込まれており，近世の遺構と考えられる。

4066号土坑（ＳＸ4066，第108図，図版93）

ＳＸ4066はＳＤ190の東側150ｍほどに位置する。東西82cm，南北76cmの円形の土坑で，深さは26cmを測り，中央やや北西よりに曲物が埋め込まれている。埋土は浅黄色砂で，曲物内部は灰オリーブ色砂である。*328*の曲物の中に*327*の蓋が落ち込んだ状態で検出されている。ＳＸ4066は中世面の自然河川の肩付近に位置しており，出土遺物はないがＳＸ4065と同様に近世の遺構と考えられる。

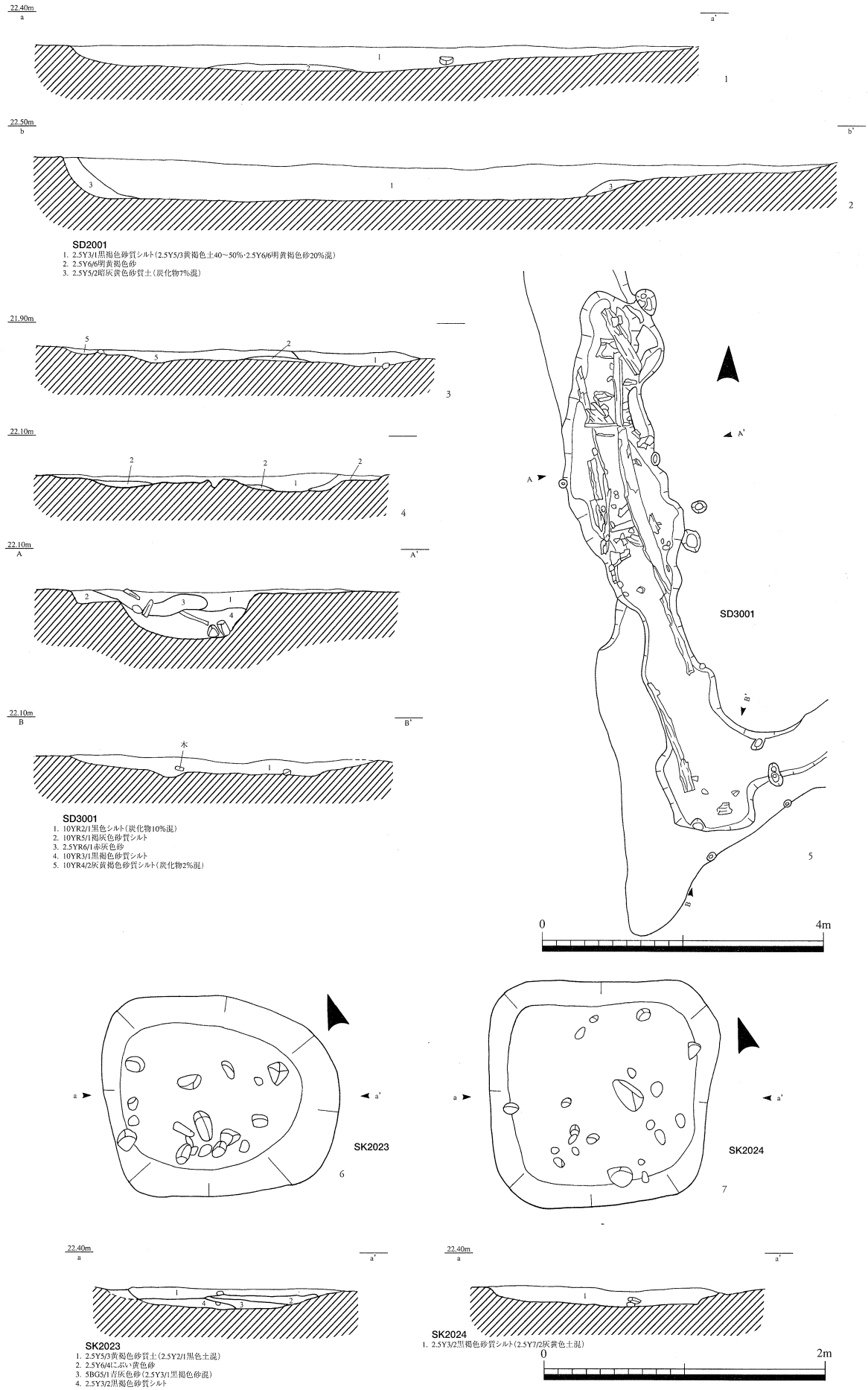
畦畔遺構（第109図）

Ｂ地区の南西隅を中心に検出されている。ＳＸ3032～ＳＸ3034，ＳＸ3036～ＳＸ3040の８本で，幅50cm～100cm，高さ10cmほどの畝状の遺構で，性格は不明である。ＳＸ3032の周辺には浅い掘り込みをもつ土坑が検出されているが，土坑・畦畔遺構共に中世面の自然河川が埋まった後に形成されていることから，17～18世紀代の遺構と考えられる。

包含層出土の遺物

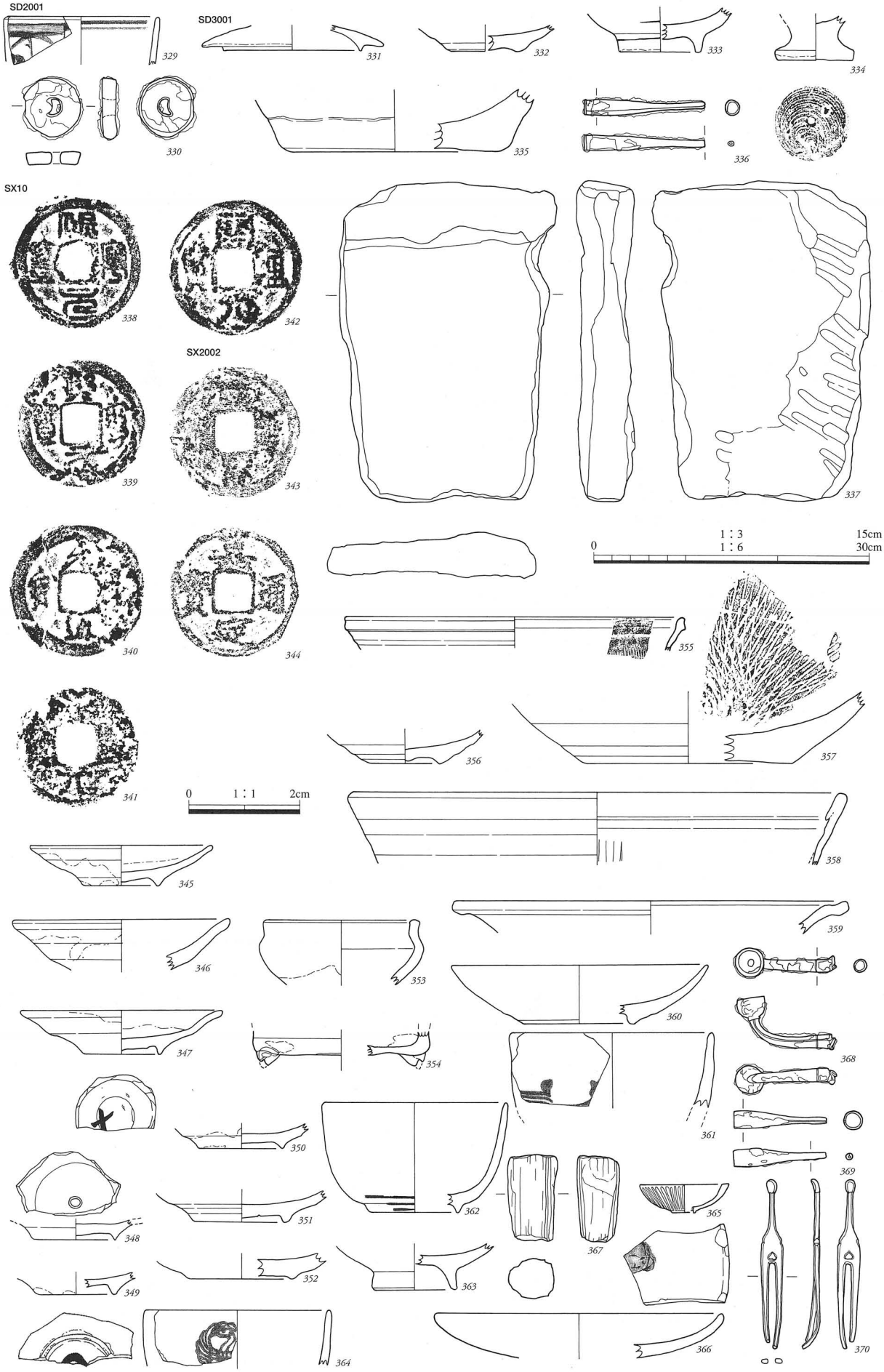
包含層から出土した遺物には越中瀬戸，瀬戸美濃，唐津，肥前，伊万里，木製品，金属製品がある。遺物は破片の小さいものが多く，出土量も少ない。ここでは種類ごとにまとめて記述していく。

土器・陶磁器（第113図，図版66・91・92）



第112図　遺構実測図（近世）

1・2. SD2001　3～5. SD3001　6. SK2023　7. SK2024



第113図　遺物実測図（近世）（*338～344*　1/1, *329～336・345～354・356～370*　1/3, *337・355*　1/6）
SD2001（*329・330*）　SD3001（*331～337*）　SX10（*338～342*）　SX2002（*343・344*）　他包含層

345～*352*は越中瀬戸の皿で，*346*を除いた７点は内禿で，外底面は無釉であり，釉薬は鉄釉である。*351*と*352*は内面見込みに直接重ね焼きの跡がある。高台は断面三角形状の削り出しのものが大半を占めている。高台裏に*347*は「十」，*349*は「○」の墨書がみられる。全体の形が解るものが少ないが，*345*・*347*は共に断面三角形の削り出し高台をもつ丸皿で，内底面に釉止めの段をもたない。これらのことは宮田進一氏による編年[注4]のⅢ期（17世紀後半～18世紀前半）の丸皿がもつ特徴を示すことから，*345*・*347*はⅢ期のものと考えられる。*353*・*354*は瀬戸美濃で，*353*は鉄釉の小壺，*354*は灰釉の香炉の底部である。*355*～*358*は唐津で，*356*は灰釉の皿である。*355*は卸目５本の擂鉢の口縁部，*357*は卸目８本の擂鉢で，底部外面は糸切り無調整である。*359*・*363*は肥前，*361*・*362*・*364*～*366*は伊万里である。*365*は貝の文様を型どった伊万里の型押し成形による紅皿で18世紀末～幕末頃のものである[注5]。図示したものも含め，破片が小さく器形が解るものは少ないが，17世紀～18世紀後半代のものに占められている。

木製品（第113図，図版93）

*367*は栓で，上径2.7㎝，下径2.1㎝の円柱状で，長さは4.6㎝である。材質は不明である。

金属製品（第113・114図，図版87・88・94）

*368*は煙管の雁首で，古泉　弘氏の変遷[注6]によると第４段階のもので，18世紀前半頃のものと考えられる。*369*は煙管の吸口の部分，*370*は簪である。*371*～*378*は銅銭で，Ａ地区のＩｃ層出土のものが多い。*371*～*374*は９枚まとまって出土したもので，*371*と*373*は２枚，*374*は３枚が重なった状態である。いずれも他の銅銭に比べて一回り小さい径2.1㎝で，銭文のない「無文銭」[注7]である。*375*と*378*は寛永通寶，*376*は開元通寶で，*377*は判読できない。（三島道子）

注１　ここでの近世は，江戸時代（17～18世紀）を示すものとする。

注２　パリノ・サーヴィ株式会社　1998　「五社遺跡ほか自然科学分析報告」『富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第９集　五社遺跡発掘調査報告』第二分冊　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

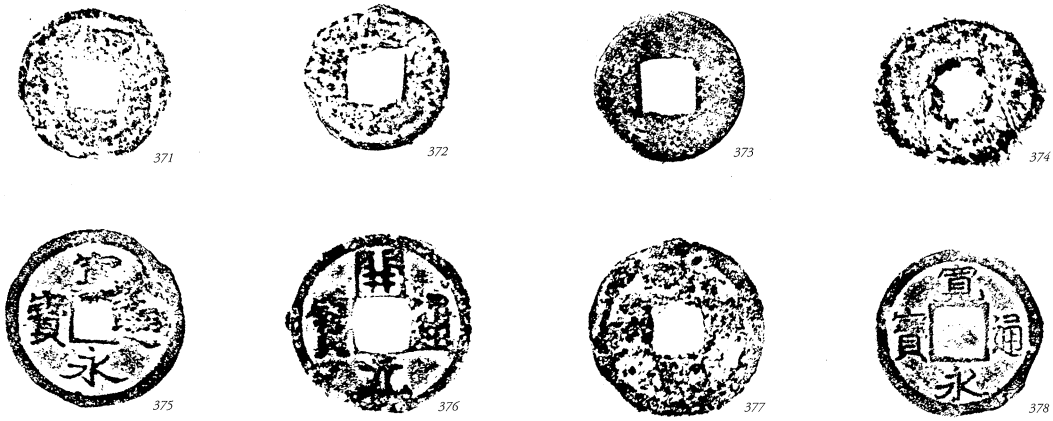
注３　骨の鑑定を行っていない為，動物の種類，骨の部位については不明である。

注４　宮田進一　1988　「越中瀬戸の窯資料(1)」『大境』第12号　富山考古学会
宮田進一　1997　「越中瀬戸の変遷と分布」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会

注５　大橋康二　1988　「肥前磁器の変遷図」『別冊太陽　古伊万里』平凡社

注６　古泉　弘　1985　「江戸の街の出土遺物」『季刊　考古学』第13号　雄山閣出版

注７　「無文銭」は全く文字が存在しない鋳型で造られたもので，直径は約21㎜を代表として，外縁・内郭の段がなく平坦なものとし，文字が摩滅して消えたものや，削り取ったもの，文字の痕跡はあるが判読出来ないものとは区別する。
永井久美男他　1994『中世の出土銭』兵庫埋蔵銭調査会



第114図　遺物実測図（近世）（1/1）
包含層

第4表　建物一覧

No.	桁行×梁行	桁行長(m)	梁行長(m)	面　積(m²)	棟方向	方　　位	柱形式	備　　考	挿　図	図　版
1	2×?	(5.7)			南北棟	N－22°－W		柱列のみ。土間と考えられる石敷きあり。	6	26
2	2×2	7.3	4	29.2	南北棟	N－15°－W	側柱	棟持柱?	7	26
3	4×1	6.4	2.4	15.36	南北棟	N－5°－W	側柱		9	27
4	2×3	7	5.2	36.4	南北棟	N－14°－W	側柱	棟持柱?	10	28
5	2×2	5.8	3.3	19.14	東西棟	N－5°－E	側柱		10, 11	28
6	2×2	6	5.7	34.2	南北棟	N－13°－E	側柱		12	29, 30
7	3×1	5	3.2	16	南北棟	N－14°－E	側柱		16, 17	30, 31
8	2×2	5.3	5.2	27.56	南北棟	N－21°－E	側柱		16, 18	31
9	3×2	5	3	15(18.06)	南北棟	N－18°－E	総柱?	1×1間の付属屋あり。	16, 19	31, 32
10	3×1	5.3	2.9	15.37	南北棟	N－26°－E	側柱		16, 20	31, 32
11	2×2	5.2	3	15.6	南北棟	N－18°－E	側柱	2×1間＋庇の付属屋か?	22	33
12	3×1	4.3	2.6	11.18	南北棟	N－16°－E	側柱		22	33, 34
13	3×1	6.7	2.5	16.75	南北棟	N－19°－E	側柱		26	33, 34
14	2×2	6	3	18	南北棟	N－18°－E	側柱		26	33, 34
15	3×1	4.2	3.2	13.44	南北棟	N－22°－E	側柱		26	33, 34
16	3×1	4.8	1.7	8.16	東西棟	N－10°－E	側柱		32, 33	36
17	2×2	3.4	2.9	9.86	南北棟	N－13°－E	側柱		32, 33	36
18	2×1	6.2	2.9	17.98	南北棟	N－20°－E	側柱		32, 34	36
19	2×2	5.6	2.5	14	南北棟	N－17°－E	側柱		32, 34	36, 37
20	2×2	3.5	3.2	11.2(12.22)	東西棟	N－8°－E	総柱	1×1間の付属屋あり。	32, 35	36, 37
21	1×1	2.1	1.9	3.99	東西棟	N－7°－E	側柱		32, 36	38
22	3×2	5.8	3.5	20.3	南北棟	N－4°－E	側柱		39, 40	38, 39
23	2×2	5.4	3.6	19.44	南北棟	N－5°－E	側柱		39, 43	38, 39
24	2×1	3.7	2.4	8.88	南北棟	N－9°－E	側柱	棟持柱あり。	39, 44	39, 40
25	2×1	5.9	2.8	16.52	南北棟	N－8°－W	側柱	楕円柱穴	39, 45	39, 40
26	2×1	5	3.1	15.5	東西棟	N－8°－W	側柱		39, 46	39, 40
27	4×1	7.1	2.1	14.91	南北棟	N－8°－E	側柱		50, 52	41
28	3×1	4.8	2.7	12.96	南北棟	N－1°－W	側柱		50, 54	41, 42
29	2×1	4.6	(3)	(13.8)	南北棟	N	側柱		50, 54	43
30	2×2	3.2	2.8	8.96	東西棟	N－11°－W	総柱		50, 55	44, 45
31	4×2	6.3	(4.4)	(27.72)	南北棟	N－22°－W	側柱	棟持柱あり。	51, 55	44, 45
32	4×1	(7.6)	3.3	(25.08)	南北棟	N－21°－W	側柱	楕円柱穴	51, 57	45
33	3×1	(5.5)	2.7	(14.85)	南北棟	N－13°－W	側柱		51, 59	45
34	3×2	(7)	(3.3)	(23.1)	東西棟	N－14°－W	総柱		51, 59	45
35	5×3	7	6	42 (46.5)	南北棟	N－20°－W	総柱	1×1間の付属屋あり。	60, 61	45, 46
36	3×1	6.9	3.4	23.46	南北棟	N－24°－W	側柱		60, 62	45, 46
37	3×2	6. 9	3.4	23.46	南北棟	N－20°－W	側柱		60, 64	45, 46
38	1×1 ?	2.2～	2.2～	4.84～	南北棟	N－18°－W	側柱?		67, 68	46
39	1～×1	2.3～	2.1	4.83～	南北棟	N－13°－W	側柱?		75	
40	5×1	4.8	2.4	11.52	南北棟	N－3°－W	側柱		78	
41	3×2	5	3.5	17.5	南北棟	N－3°－W	側柱	棟持柱か?	80	49
42	2×1	5.5	2.4	13.2	南北棟	N－5°－W	側柱		80	49
43	5×2	7.8	4.1	31.98	南北棟	N－2°－W	総柱?	楕円柱穴	82	50
44	2×2	3.6	3.2	11.52	南北棟	N－4°－W	側柱		85, 86	51, 52
45	4×2	6.1	4.9	29.89	南北棟	N－5°－W	側柱		85, 87	51, 52
46	2×2	3.7	3.5	12.95	東西棟	N	側柱		85, 87	51～53
47	2×2	3.1	2.4	7.44(8.98)	南北棟	N－1°－W	総柱	1×1間の付属屋あり。	85, 88	51～53
48	3×2	6	3	18	南北棟	N－8°－W	側柱		90	54, 55
49	4×1	9.3	2.5	23.25	南北棟	N－10°－W	側柱		94	57
50	2×2	4.7	4.7	22.09	南北棟?	N－10°－W	総柱		94	57
51	2×1	3.8	2.8	10.64	南北棟	N－5°－E	側柱		96, 97	57
52	3×1	3.7	2.5	9.25(14.75)	東西棟	N－1°－W	側柱	1×1間の付属屋あり。	96, 99	57
53	2×1	6.2	2.5	15.5	南北棟	N－6°－W	側柱		96, 100	57
54	2×?	3.7			南北棟	N－10°－W		柱列のみ。竪穴状土坑・集石あり。	102	

（　）内の数値は復元値

第5表　柱穴一覧(1)

建物番号	柱　穴　番　号	出　土　遺　物
SB1	SP4011，4015	
SB2	SP124，125，126，127，131，132，354	
SB3	SP2301，2350，2351，2352，2353，2356，2359，2360，2362，2386	
SB4	SP2317，2318，2327，2329，2334，2335，2394，2402，2408，2422	柱，底板，金箔付きの木
SB5	SP2326，2328，2319，2332，2409，2416	柱，加工材
SB6	SP2268，2292，2293，2294，2295，2297，2420，2424	柱
SB7	SP2244，2250，2252，2254，2258，2261，2262，2346，2477	柱
SB8	SP2218，2219，2222，2228，2231，2240，2242，2281，2284，2474	珠洲，箸
SB9	SP2164，2170，2188，2192，2193，2203，2204，2206，2226，2230，2233，2255，2291	柱
SB10	SP2172，2182，2186，2189，2190，2463，2472，2487	柱
SB11	SP2119，2123，2133，2149，2153，2155，2207，2479	柱
SB12	SP2080，2084，2087，2095，2115，2447，2480，2482	柱，加工材
SB13	SP2029，2037，2041，2064，2065，2081，2100，2440	
SB14	SP2027，2031，2032，2035，2039，2209，2442	
SB15	SP2028，2033，2034，2043，2047，2066，2067，2103，2210	
SB16	SP586，589，592，598，736，751，752，753	
SB17	SP595，760，761，763，772，781，783，784，816	
SB18	SP735，762，769，785，828	
SB19	SP803，809，812，826，827，831，848，849	
SB20	SP786，787，788，790，791，792，793，794，795，796，797	
SB21	SP621，624，640，748	
SB22	SP893，895，899，906，912，1262，1551	柱
SB23	SP900，902，904，917，929，931，1115	
SB24	SP649，650，651，657，659，685，686，687	
SB25	SP689，690，691，705，721，860，1299	瀬戸美濃，加工材
SB26	SP704，719，726，728，922，1264，1298	加工材，ガラス滓
SB27	SP1199，1212，1221，1232，1237，1240，1260，1292	瀬戸美濃，白磁
SB28	SP1164，1165，1169，1170，1171，1227，1228，1230	柱
SB29	SP1104，1105，1124，1126，1152，1183	
SB30	SP375，1225，1262，1263，1264，1265，1266	白磁
SB31	SP155，160，391，392，395，397，1269，1271，1279，1280	柱
SB32	SP161，162，163，164，165，182，183，184，278，286	柱
SB33	SP49，50，51，59，196，197	瀬戸美濃
SB34	SP60，61，62，63，64，65，66	加工材
SB35	SP103，104，111，114，134，135，137，138，139，140，141，143，144，145，146，147，148，149，150，175，282	
SB36	SP98，99，101，106，110，123，142，173，174	
SB37	SP199，218，221，224，232，234，253，280	瀬戸美濃，白磁，柱，箸，石硯
SB38	SP203，251，252	染付
SB39	SP4033，4035，4038	桶
SB40	SP1508，1509，1510，1511，1512，1513，1514，1515	
SB41	SP1500，1501，1502，1503，1504，1505，1506，1507，1522，1523	加工材，金属製品
SB42	SP82，272，273，274，291	

第5表　柱穴一覧(2)

建物番号	柱　穴　番　号	出　土　遺　物
SB43	SP17, 18, 37, 304, 305, 306, 307, 313, 314, 315, 335, 338, 339, 340, 343, 344, 345	
SB44	SP990, 994, 998, 1007, 1012, 1032	柱
SB45	SP949, 961, 962, 964, 965, 982, 1003, 1054, 1080	
SB46	SP967, 971, 975, 981, 1051, 1052, 1064, 1083	
SB47	SP1018, 1019, 1020, 1021, 1036, 1037, 1038, 1039, 1070, S1071, 1109, 1111	
SB48	SP435, 518, 526, 572, 573, 1268	
SB49	SP418, 430, 431, 433, 445, 499, 552, 565	
SB50	SP421, 432, 450, 452, 453, 497, 506, 553	
SB51	SP401, 402, 406, 461, 463, 467a	瀬戸美濃
SB52	SP469b, 478, 479, 486, 488, 561, 562, 563	
SB53	SP440, 459, 462, 485, 507	白磁
SB54	SP5008, 5009, 5010	
SA1	SP2142, 2143, 2168, 2214, 2215	
SA2	SP773, 844, 1282	
SA3	SP865, 866, 867, 868, 869, 870, 871, 872, 873	
SA4	SP661, 662, 663, 664, 665, 857	
SA5	SP667, 668, 669, 670, 671, 672, 673, 674	
SA6	SP695, 706, 1552	
SA7	SP1249, 1250, 1251, 1253, 1255	
SA8	SP1142, 1144, 1146, 1147, 1148	
SA9	SP378, 386, 396	
SA10	SP1516, 1517, 1518	
SA11	SP256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267	
SA12	SP403, 404, 405, 407, 408, 409, 410, 412, 413, 414, 423, 424, 491, 492, 493	

第6表　溝一覧(1)

遺構番号	建物番号	規模(幅・深さm)	出　土　遺　物	時期	特記事項	挿図番号	図版番号
SD6	35	0.37−0.1	瀬戸美濃，中国製白磁，漆椀，加工棒		区画溝	61	
SD9	36・37	0.2−0.04	中国製染付，中国製青磁		区画溝	63	
SD14		0.8−0.06	瀬戸美濃，中国製白磁，漆椀，加工板			84	
SD15		0.45−0.04				84	
SD19		0.75−0.04				84	
SD20		0.84−0.1	中世土師器			84	
SD21		0.68−0.04				84	
SD22		0.75−0.1				84	
SD23		0.45−0.05	白磁			84	
SD24		0.85−0.06				84	
SD27		0.22−0.04				84	
SD28		0.35−0.06				84	
SD36		0.25−0.04				84	
SD39	43	0.28−0.03			区画溝	84	
SD41		0.23−0.03			畠？	84	
SD42		0.3−0.03			畠？	84	
SD43		0.25−0.04			畠？	84	
SD44	31	0.45−0.03			区画溝	84	
SD45	33・34	0.46−0.03			区画溝	84	
SD47		0.3−0.03					
SD48		0.3−0.02					
SD52		0.4−0.04					
SD53		0.37−0.03					

第6表　溝一覧(2)

遺構番号	建物番号	規模(幅・深さm)	出　土　遺　物	時期	特記事項	挿図番号	図版番号
SD54		0.34－0.04					
SD68		0.3－0.04	中世土師器		区画溝	59	
SD69		0.25－0.03				59	
SD70	34・35	0.28－0.03			区画溝	59	
SD71		0.23－0.04					
SD72		0.2－0.02					
SD76	42・43	0.25－0.03			区画溝	84	
SD77		0.5－0.05				84	
SD78	42	0.45－0.04			区画溝	81	
SD79		0.43－0.06					
SD80	41	0.43－0.07	瀬戸美濃，中国製染付			81	65
SD84	32 ?	0.19－0.04					
SD85	32 ?	0.28－0.04					
SD86	32 ?	0.28－0.06					
SD88	41・42	0.29－0.1			区画溝	81	
SD89		0.22－0.04				81	
SD90	37・41	0.57－0.04			区画溝	81	
SD95		0.32－0.06					
SD115		0.25－0.03				81	
SD116		0.22－0.03				81	
SD120		0.27－0.03				84	
SD151		0.4－0.08					
SD152		0.45－0.06					
SD153		0.21－0.04					
SD157		0.22－0.04					
SD159		0.62－0.08					
SD167		0.25－0.04					
SD169		0.6－0.06					
SD170		0.6－0.08	中世土師器，珠洲，漆椀，石臼		道路中央の溝	8	
SD176		0.3－0.04				78	
SD177		0.36－0.03				78	
SD178		0.28－0.04				78	
SD179	40	0.54－0.06			区画溝	78	
SD180	38・40	1.35－0.04			区画溝	78	
SD190		0.75－0.04	瀬戸美濃，越中瀬戸，唐津，伊万里，底板，加工材，種子，煙管	近世		108	63，91，92，94
SD192	38	0.35－0.02			区画溝		
SD193		0.24－0.06					
SD194		0.34－0.05					
SD212		0.22－0.08					
SD213	37・38	0.37－0.06	中国製白磁，中国製青磁		区画溝	63	
SD214		0.22－0.04					
SD215		0.28－0.06					
SD216		0.3－0.04					
SD217		0.26－0.06					
SD231		0.18－0.07					
SD238		0.21－0.04				66	
SD243		0.2－0.04					
SD244		0.18－0.02					
SD246		0.39－0.07					
SD247		0.58－0.04					
SD250		0.45－0.04					
SD254	36・42	0.28－0.04			区画溝		
SD255	42	0.28－0.03				81	
SD270		0.2－0.04				81	
SD276		0.36－0.04				81	
SD294		0.36－0.03					
SD298		0.12－0.04				81	
SD301		0.44－0.03				81	
SD311		0.2－0.06					

第6表　溝一覧(3)

遺構番号	建物番号	規模(幅·深さm)	出　土　遺　物	時期	特記事項	挿図番号	図版番号
SD317		0.32－0.07					
SD327		0.25－0.03				84	
SD330		0.28－0.04				84	
SD334		0.18－0.05				84	
SD355		0.35－0.04				84	
SD356		0.27－0.04				84	
SD357		0.33－0.06					
SD358		0.29－0.66			畠？		
SD359		0.35－0.04			畠？	84	
SD360		0.2－0.04					
SD364		0.28－0.05					
SD366		0.27－0.07					
SD368		0.33－0.06					
SD369		0.4－0.07					
SD371		0.25－0.03					
SD372		0.25－0.04					
SD373		0.83－0.04				55	
SD374		0.35－0.1					
SD377		0.28－0.05					
SD382		0.27－0.04					
SD383		0.52－0.04					
SD400	50・52	0.32－0.08			区画溝	95	
SD426		0.22－0.1					
SD496	50	0.3－0.04				95	
SD500		0.31－0.02				93	
SD509		0.4－0.04				93	
SD510	24	0.55－0.06			区画溝	93	
SD512	48	0.7－0.06			区画溝		
SD513	44·45·46	0.55－0.12	中国製白磁，砥石		区画溝	86	63，83
SD514		0.33－0.02				91，93	
SD515	48	0.32－0.04				93	
SD516		0.6－0.04				93	
SD545		0.5－0.04				93	
SD548		0.54－0.06				93	
SD568		0.21－0.05					
SD575	21	0.38－0.05			区画溝	95，101	
SD584		0.28－0.04					
SD603		0.37－0.06					
SD611		0.3－0.04					
SD617		0.32－0.05					
SD631	48	0.33－0.06			区画溝	93	65
SD637	21	0.4－0.04				95	
SD638		＊＊－0.06					
SD642		0.26－0.06				93	
SD643		0.4－0.03					
SD645		0.2－0.03				44	
SD646	24	0.31－0.02	中国製染付		区画溝	44	
SD647		0.63－0.08	漆椀，底板，石臼，石鉢			44，46	
SD648		0.15－0.02					
SD681		0.52－0.05					
SD683		0.28－0.03					
SD701	25・26	0.22－0.03	容器		区画溝	45	
SD702		0.4－0.09					
SD703		0.58－0.09					
SD715		0.35－0.06					
SD718		0.13－0.06			区画溝		
SD722		0.6－0.08				46	
SD724		0.21－0.04					
SD759		0.26－0.06					
SD802	20	0.3－0.05			区画溝	35	

第6表　溝一覧(4)

遺構番号	建物番号	規模(幅･深さm)	出　土　遺　物	時期	特記事項	挿図番号	図版番号
SD834		0.32－0.06					
SD835		0.26－0.03					
SD837		0.28－0.04				46	
SD847		0.28－0.04					
SD875		0.4－0.08				49	
SD876		0.45－0.05	中国製白磁			49	
SD884		0.42－0.08				41	
SD887		0.27－0.03				41	
SD907		0.29－0.04					
SD940		0.33－0.12				89	
SD945		0.45－0.1				89	
SD946		0.23－0.03	加工材			86	
SD947		0.22－0.06				89	
SD948		0.35－0.06					
SD950		0.35－0.1	中世土師器			89	
SD951		0.25－0.04				89	
SD952		0.38－0.04			畠？	89	
SD974		0.38－0.06					
SD985		0.45－0.1					
SD997		＊＊－0.04				89	
SD1014		0.43－0.06				89	
SD1015		0.35－0.06				89	
SD1016		0.19－0.06				89	
SD1017		0.3－0.05				89	
SD1022		0.17－0.02					
SD1023		0.2－0.04					
SD1029		0.3－0.02				89	
SD1030		0.22－0.02				89	
SD1031		0.2－0.04				89	
SD1032	44	0.29－0.04				89	
SD1040		0.25－0.04				89	
SD1046		0.3－0.1					
SD1049		0.15－0.02					
SD1069		0.1－0.02					
SD1074		0.25－0.04				89	
SD1075		0.27－0.03					
SD1076		0.36－0.07				86	
SD1077		0.75－0.09			区画溝	86	
SD1078		0.43－0.08				89	
SD1085		0.27－0.03				86	
SD1086		0.18－0.03					
SD1087		0.4－0.07					
SD1088		0.2－0.04					
SD1089		0.2－0.03					
SD1090		0.17－0.03					
SD1093	27・28	0.8－0.1	中世土師器		区画溝	59	
SD1094		0.3－0.04					
SD1095	28・29	0.65－0.17	加工材		区画溝	59	
SD1096		0.23－0.04					
SD1097		0.25－0.04					
SD1098		0.15－0.04					
SD1099		0.38－0.05					
SD1100		0.34－0.02					
SD1101		0.11－0.02					
SD1102		0.2－0.04				89	
SD1103		0.18－0.1				89	
SD1107		0.22－0.02					
SD1108		0.17－0.03				89	
SD1112		0.25－0.05				89	
SD1113		0.3－0.06				89	

第6表　溝一覧(5)

遺構番号	建物番号	規模(幅·深さm)	出　土　遺　物	時期	特記事項	挿図番号	図版番号
SD1116		0.16－0.04					
SD1117		0.22－0.02					
SD1118		0.15－0.03					
SD1119		0.18－0.02					
SD1120		0.18－0.02					
SD1121		0.26－0.02					
SD1122		0.26－0.04					
SD1123		0.7－0.06	瀬戸美濃			41，59	
SD1132		＊＊－0.02					
SD1137		0.33－0.04					
SD1139		0.2－0.04					
SD1140		0.2－0.02					
SD1141		0.3－0.02					
SD1158	28	0.28－0.08			区画溝	48	
SD1159	23・27	0.3－0.06			区画溝		
SD1173		0.2－0.04					
SD1174		0.13－0.02					
SD1175		0.23－0.02					
SD1176		0.15－0.02					
SD1219		0.25－0.08					
SD1220		0.32－0.02					
SD1231		0.2－0.05	瀬戸美濃			52	
SD1246		0.52－0.1				52	
SD1260		0.2－0.03					
SD1265	48	0.32－0.06			区画溝	93	
SP1301		＊＊－0.04					
SD1520	40 ?	0.6－0.12				78	
SD2001		2.15－0.2	中世土師器，珠洲，瀬戸美濃，越中瀬戸，唐津，伊万里，近世磁器，中国製白磁，中国製染付，金属製品，加工材，種子	近世		110，112	89，91
SD2003		0.11－0.04		近世			
SD2004		0.19－0.06		近世			
SD2005		0.18－0.07		近世			
SD2006		0.15－0.03		近世			
SD2007		0.13－0.04		近世			
SD2008		0.15－0.04		近世			
SD2009		0.15－0.02	瀬戸美濃	近世			
SD2010		0.15－0.04		近世			
SD2011		0.1－0.05		近世			
SD2012		0.13－0.05		近世			
SD2013		0.12－0.02		近世			
SD2014		0.13－0.02		近世			
SD2015		0.09－0.02		近世			
SD2016		0.11－0.04		近世			
SD2017		0.15－0.04		近世			
SD2020		0.13－0.05		近世			
SD2021		0.2－0.06		近世			
SD2022		0.45－0.05		近世			
SD2052	12・14 ?	0.23－0.04			区画溝？	27	
SD2053	14 ?	0.31－0.09			区画溝？	27	
SD2055		0.25－0.1				27	
SD2098	12・14	0.28－0.04			区画溝	27	
SD2099	12・14	0.25－0.03			区画溝，SD2098と同一？	27	
SD2102		0.19－0.04					
SD2117		0.48－0.24				24	
SD2130		0.19－0.02				24	
SD2131		0.21－0.04					
SD2163		0.29－0.16					

第6表　溝一覧(6)

遺構番号	建物番号	規模(幅・深さm)	出　土　遺　物	時期	特記事項	挿図番号	図版番号
SD2167	11	0.21－0.1				23	
SD2199	11	0.28－0.03			SD2167と同一?	23	
SD2200		0.18－0.04	中世土師器，唐津			20	
SD2201		0.18－0.05				19	
SD2202		0.28－0.05				19	
SD2339	5	0.35－0.16	中世土師器，瀬戸美濃，刀子			11	
SD2378		0.44－0.07	珠洲			28	
SD2383		0.5－0.08					
SD2384		0.49－0.09				28	
SD2393		0.39－0.1					
SD2395		0.32－0.08					
SD2410		0.38－0.1					
SD2428		0.22－0.05					
SD2429		0.2－0.03					
SD2430		0.21－0.05					
SD2450		0.16－0.03					
SD2454		1.18－0.15					
SD3001		2.52－0.1	中世土師器，珠洲，瀬戸美濃，越中瀬戸，唐津，伊万里，近世磁器，中国製白磁，中国製染付，瓦，漆椀，底板，杭，加工材，石製品，煙管	近世		112，113	90～92，94
SD3035		0.2－0.05		近世			
SD3042		0.52－0.05		近世			
SD3046		0.36－0.06		近世			
SD3049		0.24－0.04		近世			
SD3060		0.44－0.06		近世			
SD3067		0.34－0.05		近世			
SD3069		＊＊－0.08					
SX4018-20A		0.44－0.12				71，73	
SX4018-20B		0.34－＊＊				71	
SX4018-24		0.62－0.16	漆器，加工材			71	
SX4018-25		0.26－0.1				71	
SX4018-26A		0.64－0.12			区画溝	71，73	
SX4018-26B		0.28－0.06				71，73	
SX4018-28		0.54－0.12			区画溝	71	
SX4018-29		0.24－0.05			区画溝	71	
SX4018-31		0.36－0.04				71	
SX4018-32		0.26－0.06				71	
SX4018-33		0.34－0.04				71	
SX4018-35		0.24－0.14				71	
SD4031		0.62－0.14					
SD4039		0.26－0.04					
SD4041		0.6－0.08					
SD4046		0.4－0.04					
SD4051		0.22－0.05					
SD4052		0.24－0.06					
SD4059		0.22－0.05					
SD4063		0.32－0.1	瀬戸美濃			6	
SD4073		0.33－0.06					
SD4079		0.28－0.04					
SD4082		0.16－0.1					
SD4084		0.1－0.2					
SD4085		0.22－0.04					
SD4086		0.16－0.02					
SD5001		20.0－0.67	須恵器，中世土師器，珠洲，瀬戸美濃，越中瀬戸，唐津，伊万里，陶器，磁器，瓦，底板，蹄鉄，銭			103，105	59，63，78，87，88，91，92
SD5002		0.54－0.14				104	

遺構が切り合っていて計測不能な場合＊で示した。

第７表　土坑一覧(1)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ･幅･深さｍ)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SK1	32	隅丸	1.36－1.3－0.1				57	45
SK2	32	円	0.33－0.32－0.06	石製品			57	
SK7	35	不整形	2.2－1.9－0.1	中世土師器，桶，木札，しゃもじ，櫛，小札，加工材			62	46
SK8	2	不整形	2.0－1.9－0.06	漆椀，底板，蓋			8	26
SK11	43	円	0.6－0.55－0.1	瀬戸美濃,近世磁器,加工材			83	50
SK12		楕円	2.13－0.7－0.1				84	51
SK13		楕円	0.65－0.35－0.04				84	
SK29	43	円	0.73－0.66－0.08				83	51
SK30		隅丸	0.91－0.75－0.04				83	
SK32		楕円	0.72－0.55－0.04				83	
SK33		円	0.42－0.4－0.06				83	
SK34	43	不整形	2.15－1.8－0.1				84	
SK38	43	不整形	0.68－0.4－0.1				83	51
SK46		不整形	1.06－0.9－0.1				58	
SK55	43	隅丸	0.9－0.59－0.25	石鉢			83	
SK67	34	隅丸	2.07－(1.8)－0.3	中世土師器，櫛，加工材			59	
SK73	43	不整形	0.33－＊＊－0.08				83	
SK81	42	楕円	0.76－0.46－0.06	鉄滓			80	
SK83		楕円	0.5－0.35－0.06				81	
SK87		円	1.23－1.08－0.04				81	
SK91	36	不整形	1.16－1.16－0.04				63	
SK92	36	不整形	0.67－0.6－0.08				63	
SK93		楕円	1.45－0.57－0.1				63	
SK97		楕円	0.68－0.42－0.08				63	
SK100	36	楕円	0.82－0.43－0.1				63	
SK102	36	楕円	1.35－0.6－0.12				63	
SK105	35	楕円	0.57－0.47－0.08				61	46
SK108	36	楕円	1.05－0.86－0.1				63	
SK109	36	楕円	0.8－0.52－0.12				63	
SK112	37	隅丸	0.88－0.84－0.06	中世土師器，焼石			64	46
SK113		楕円	1.17－0.47－0.06	釘			83	
SK115		円	0.33－0.33－0.06				61	
SK117	41	円	1.15－1.15－0.08				81	
SK118	41 ?	不整形	1.1－0.87－0.1				81	
SK119		楕円	0.92－0.48－0.07				61	
SK121	34	不整形	0.57－0.55－0.03					45
SK122	34	円	0.33－0.25－0.06					
SK129		円	0.8－0.75－0.28	加工板				
SK168		楕円	0.7－(0.4)－0.08				57	
SK171	31	方	2.05－1.9－0.12				55	
SK171-b	31	不整形	0.89－＊＊－0.02				55	
SK172		円	0.58－0.5－0.14				63	
SK195	40 ?	不整形	1.08－0.8－0.04	珠洲，漆椀			79	62
SK200	37	楕円	0.58－0.31－0.04	加工材			64	
SK201		楕円	0.5－0.35－0.08				68	
SK202		円	0.35－0.33－0.12				68	
SK204		円	0.48－0.48－0.12				68	
SK205		楕円	0.65－0.52－0.08				65	
SK206		楕円	0.73－0.32－0.06				65	
SK207		楕円	0.73－0.3－0.1				65	
SK208		楕円	0.75－0.27－0.06				68	
SK209		円	0.35－0.33－0.06				65	
SK210	37	楕円	1.08－0.7－0.16				64	
SK211		隅丸	0.88－0.65－0.11				68	
SK219		円	0.45－0.43－0.06				65	
SK220	37	楕円	1.35－0.65－0.1				65	
SK222		楕円	0.75－0.37－0.08				64	
SK223		不整形	0.29－＊＊－0.06				64	
SK227	40 ?	隅丸	1.9－1.2－0.08				79	

第７表　土坑一覧(2)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ･幅･深さm)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SK228		楕円	1.78－0.44－0.22				57	
SK230	37	楕円	0.7－0.38－0.06				65	
SK236		楕円	0.67－0.48－0.2	柱，金属製品			65	
SK237		楕円	0.6－0.37－0.06				65	
SK240		不整形	2.8－1.25－0.2				66	
SK241		不整形	3.07－＊＊－0.04				66	46
SK245		楕円	0.42－0.32－0.06	中世土師器				
SK248		不整形	0.22－＊＊－0.14				68	
SK249		不整形	0.68－0.37－0.03				68	
SK277		隅丸	2.35－1.98－0.14				65	46
SK278		不整形	＊＊－＊＊－0.04				68	
SK279		不整形	1.98－＊＊－0.16				68	
SK280		楕円	0.8－0.6－0.08				63	
SK281		楕円	0.35－0.23－0.03				65	
SK284		隅丸	0.68－0.58－0.08				81	
SK285		円	0.7－0.6－0.05				79	
SK287		隅丸	1.32－0.62－0.08				68	
SK288		楕円	0.72－0.54－0.06					
SK290		不整形	1.16－0.38－0.06				79	
SK292		楕円	1.02－0.46－0.06				81	
SK297		隅丸	0.52－0.5－0.24					
SK299		不整形	0.95－0.65－0.16				81	
SK309		楕円	0.84－0.55－0.16					
SK310		楕円	1.12－0.73－0.06					
SK318	43	隅丸	0.9－0.8－0.08				83	
SK328		不整形	1.05－＊＊－0.02					
SK329		楕円	0.78－0.48－0.06					
SK331	43 ?	不整形	2.05－1.85－0.06				84	
SK332	43 ?	隅丸	1.4－1.05－0.06				83	
SK333	43 ?	不整形	1.65－1.5－0.04				83	
SK337		不整形	0.58－＊＊－0.08				83	
SK381		不整形	＊＊－＊＊－0.16	瀬戸美濃，銭			58	
SX385		方	10.3－1.56－0.1				59	
SK387		不整形	0.72－0.4－0.06				58	
SK393		円	0.13－0.11－＊＊	柱			55	
SK398		不整形	0.75－＊＊－0.14				58	
SK416		楕円	0.35－0.26－0.09	柱			97	78
SK428	49・50	不整形	1.15－0.9－0.3				95	56，58
SK429	49・50	不整形	0.93－0.6－0.22	中世土師器，瀬戸美濃			95	56，61，67
SK437	51	不整形	1.9－1.0－0.12				97	
SK438		楕円	(0.9)－(0.9)－0.6				97	
SK441	52 ?	不整形	1.4－0.7－0.12				99	
SK442		不整形	0.37－＊＊－0. 08				99	
SK443	52 ?	不整形	0.68－0.64－0.06				99	
SK451		楕円	0.93－0.56－0.38				95	
SK455	50	不整形	1.57－1.25－0.26	白磁，加工材			95	
SK456	48	不整形	1.8－1.78－0.08				91	56
SK460		不整形	0.53－0.46－0.06				97	
SK467-b	53	不整形	1.0－0.48－0.16				97	
SK469-a		不整形	0.81－0.57－0.22				99	
SK472		楕円	0.59－0.37－0.12				97	
SK473		円	0.35－0.32－0.16				97	
SK474		不整形	0.98－0.6－0.3				100	
SK475	53	不整形	1.1－0.9－0.1				100	
SK476	52	円	0.5－0.5－0.06				99	
SK477		不整形	0.35－＊＊－0.12				99	
SK481		不整形	2.45－1.52－0.08				101	
SK483		楕円	0.92－0.45－0.22	白磁，須恵器			101	63
SK484		不整形	0.71－0.55－0.1				101	
SK498		円	0. 25－0. 21－0. 14				95	

第７表　土坑一覧(3)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ･幅･深さｍ)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SK508		楕円	0. 69－0. 46－0. 06				101	
SK511		不整形	3. 94－2. 09－0. 08				93	
SK517	49	楕円	1. 25－1. 17－0. 12				95	
SK519	48	隅丸	0. 82－0. 7－0. 06				91	
SK520	48 ?	不整形	0. 6－＊＊－0. 06				91	
SK521	48	不整形	1. 6－1. 5－0. 04	中世土師器			91	
SK522	48	楕円	2. 03－0. 85－0. 1				92	
SK523	48	不整形	1. 1－0. 62－0. 1				92	54
SK525	48 ?	不整形	0. 82－＊＊－0. 1				92	
SK527		不整形	(0.69)－0.32－0.14				91	
SK528	48 ?	不整形	0. 66－＊＊－0. 14				89	
SK529		円	0. 9－0. 88－0. 18				89	
SK530		不整形	0. 94－0. 74－0. 12				89	
SK531		楕円	0. 55－0. 32－0. 07				89	
SK534		不整形	1. 15－0. 98－0. 06				89	
SK535		不整形	0. 85－＊＊－0. 08				89	
SK537		不整形	0. 67－＊＊－0. 06				89	
SK543	48 ?	楕円	0. 71－0. 5－0. 14				92	
SK554		楕円	0. 9－0. 58－0. 06				93	
SK555		不整形	1. 06－0. 37－0. 1				93	
SK559	48 ?	不整形	1. 5－1. 1－0. 14				93	
SK564	49･50 ?	不整形	0. 55－＊＊－0. 24				95	
SK566	48	不整形	0. 53－0. 5－0. 06				91	
SK567		不整形	2. 15－0. 14－0. 32	加工材			91	
SK569		不整形	0. 76－0. 75－0. 1	漆椀			92	78
SK574		不整形	0. 7－＊＊－0. 12				91	
SK577		略方	1. 92－1. 67－0. 12				38	
SK577-b		不整形	0. 62－＊＊－0. 05					
SK590		不整形	0. 7－0. 5－0. 2				38	
SK591		楕円	1. 17－0. 63－0. 32	加工材			37	
SK593	16	円	0. 36－0. 33－0. 08				33	
SK594	16	楕円	0. 92－0. 37－0. 16				38	
SK596	16	不整形	2. 0－1. 47－0. 1				37	
SK598	16・53	楕円	1. 5－1. 26－0. 07				100	
SK602		不整形	0. 83－＊＊－0. 02				38	
SK605		長楕円	1. 1－0. 4－0. 1				38	
SK607		不整形	0. 91－＊＊－0. 04				38	38
SK628	52 ?	楕円	1. 2－0. 98－0. 4	加工材			99	58
SK629		不整形	2. 3－1. 93－0. 16				99	
SK632		不整形	0. 65－0. 55－0. 15					
SK635		不整形	2. 55－1. 75－0. 12				95	58
SK636		不整形	1. 55－＊＊－0. 06				95	
SK641		不整形	3. 0－2. 35－0. 13				37	38
SK653		楕円	0. 45－0. 27－0. 04				44	
SK654		円	0. 28－0. 23－0. 03				44	
SK655	24	略楕円	1. 35－1. 05－0. 32				44	
SK656	24	円	0. 57－0. 5－0. 04				44	
SK676	25	隅丸	0. 84－0. 84－0. 02	焼石			45	40
SK677		円	0. 4－0. 35－0. 04				44	
SK678			＊＊－＊＊－0. 06	白磁				
SK679		円	0. 36－0. 35－0. 14				99	
SK680		不整形	1. 0－0. 64－0. 18				99	
SK682		楕円	0. 6－0. 3－0. 12				95	
SK688		不整形	1. 0－0. 64－0. 14				44	
SK692		円	0. 44－0. 38－0. 2	種子				
SK693		楕円	0. 7－0. 29－0. 16				45	
SK700	26	円	0. 37－0. 35－0. 19	鉄瓶			46, 47	40
SK711	26	略長方	2. 74－1. 9－0. 04				46	40
SK712		円	0. 63－0. 57－0. 16				46	
SK714	26	楕円	1. 02－0. 65－0. 16				46	

第７表　土坑一覧(4)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ･幅･深さｍ)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SK716	26	略方	0．88－＊＊－0．04	金属製品			46	
SK717		不整形	1．23－＊＊－0．3					
SK725	25	円	0．49－0．47－0．18				45	
SK732		不整形	0．48－＊＊－0．08					
SK737		楕円	0．74－0．33－0．28				38	
SK738		不整形	1．87－1．48－0．1				37	
SK742		不整形	(1．17)－＊＊－0．14				38	
SK750		隅丸	0．85－0．75－0．1	石臼			37	38
SK754	16	不整形	0．72－0．55－0．12				33	
SK758		楕円	1．04－0．35－0．1				38	
SK764	17	不整形	0．64－＊＊－0．16				33	37
SK770	18	不整形	0．46－＊＊－0．05				34	
SK782	17	隅丸	0．85－0．77－0．24				33	
SK800	20	楕円	0．75－0．63－0．14	加工材			35	
SK805	20	略方	1．54－1．1－0．08	中世土師器			36	
SK808	19	隅丸	1．12－0．9－0．1				34	
SK814	18	不整形	0．74－0．64－0．12				34	37
SK815	17	円	0．23－0．18－0．05				33	
SK817	18	不整形	0．78－0．68－0．38	笄			34	
SK823		円	0．41－0．41－0．22				35	
SK824		不整形	0．37－＊＊－0．06				35	
SK829	18	不整形	1．17－0．73－0．05				34	
SK830	19	楕円	0．68－0．45－0．16				34	
SK838	20	楕円	0．8－0．64－0．53	金属製品			36	37
SK839		不整形	0．6－0．57－0．07				35	
SK840		円	0．35－0．3－0．08				35	
SK842	17	長楕円	1．3－0．68－0．3				33	
SK846		不整形	0．73－0．54－0．14					
SK851		円	0．48－0．43－0．12				34	
SK862		円	0．42－0．42－0．06				49	
SK877		楕円	0．96－0．63－0．16				49	
SK878	22	略方	1．24－1．06－0．17				40	
SK879	22	略方	2．2－2．0－0．16	加工板，柱，銭			41，42	39
SK880	22	隅丸	2．1－1．75－0．16	中世土師器，瀬戸美濃			40，41	39
SK882		方	1．0－0．92－0．1	加工板，加工棒			41	
SK883		不整形	0．62－＊＊－0．08				41	
SK885		円	0．25－0．22－0．06	柱，加工材				
SK886	22	長楕円	0．7－＊＊－0．46	中世土師器，木柄			41，42	
SK888	22	不整形	0．94－＊＊－0．03				41	
SK890		不整形	0．85－＊＊－0．14				40	
SK898		楕円	1．25－0．35－0．14				43	
SK908		楕円	0．51－0．36－0．14				43	
SK909	23	不整形	1．28－1．0－0．03					
SK910	22	楕円	0．87－0．71－0．03				43	
SK913		楕円	0．85－0．68－0．16				43	
SK918		楕円	0．94－0．36－0．06				49	
SK925		略円	1．22－1．07－0．08				49	
SK926		不整形	4．93－＊＊－0．2				48	40
SK934		円	0．68－0．61－0．1				41	
SK938		円	0．55－0．48－0．14				49	
SK939		円	0．27－0．25－0．1				49	
SK942		不整形	1．7－0．53－0．08				89	
SK944		楕円	0．77－0．75－0．11				89	
SK958		不整形	1．7－＊＊－0．16				87	
SK966		不整形	0．9－＊＊－0．07					
SK976		楕円	0．75－0．46－0．08				87	
SK978		不整形	1．15－0．57－0．28				87	
SK983	45・46	不整形	0．75－0．6－0．03					
SK984	45	楕円	0．52－0．42－0．11				87	53
SK1004		不整形	0．25－＊＊－0．07					

第7表　土坑一覧(5)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SK1011	44	不整形	0. 95－0. 62－0. 04				86	53
SK1041		楕円	0. 27－0. 2－0. 08				88	
SK1042		楕円	0. 92－0. 36－0. 08				88	
SK1043	47	不整形	2. 37－1. 93－0. 1				88	54
SK1065		不整形	1. 7－＊＊－0. 12				88	
SK1066		不整形	1. 25－0. 53－0. 06				88	
SK1068		不整形	0. 76－＊＊－0. 16	簪			87	84
SK1081		不整形	1. 07－＊＊－0. 17				88	
SK1104		楕円	0. 57－0. 5－0. 18					
SK1106		不整形	0. 72－＊＊－0. 1				58	
SK1107	46	不整形	1. 4－＊＊－0. 16				87	
SK1114		不整形	(0.42)－(0.34)－0.14				49	
SK1125	29	不整形	0. 87－＊＊－0. 1				54	
SK1129		円	0. 37－0. 33－0. 12				54	
SK1138		不整形	2. 27－1. 45－0. 12				58	
SK1156		楕円	0. 65－0. 47－0. 2				49	
SK1157		楕円	0. 36－0. 24－0. 07				49	
SK1160			＊＊－0. 9－0. 1				48	
SK1161	28	不整形	1. 05－＊＊－0. 07				54	
SK1162	28	不整形	＊＊－＊＊－0. 08			集石状	54	
SK1166	28	不整形	0. 93－0. 53－0. 1	瀬戸美濃			54	
SK1167	28	楕円	0. 63－0. 5－0. 04				54	42
SK1168	28	略円	0. 52－0. 48－0. 05				54	42
SK1177		隅丸	2. 62－＊＊－0. 08				58	
SK1179		楕円	0. 67－0. 45－0. 18				49	
SK1180		楕円	0. 58－0. 47－0. 15				49	
SK1181		楕円	0. 43－0. 34－0. 04				49	
SK1184		不整形	0. 18－＊＊－0. 12	木蓋				
SK1186		隅丸長方	2. 17－1. 22－0. 12				48	
SK1188		円	0. 82－0. 8－0. 06				49	
SK1196		楕円	0. 73－0. 42－0. 08				53	
SK1198		長楕円	1. 36－0. 3－0. 09				53	
SK1200			＊＊－＊＊－0. 38	白磁				
SK1203		不整形	1. 0－0. 73－0. 28				53	
SK1204		長楕円	0. 9－0. 48－0. 04				53	
SK1211		隅丸	1. 0－0. 93－0. 46				53	
SK1213		楕円	0. 92－0. 68－0. 28	青磁			53	
SK1214		円	0. 53－0. 48－0. 1				53	
SK1217	27	不整形	2. 12－＊＊－0. 06				52	42
SK1218	27	不整形	1. 9－＊＊－0. 24	中世土師器			53	42
SK1226		円	0. 5－0. 45－0. 12				49	
SK1233		不整形	0. 65－＊＊－0. 04				53	
SK1234		楕円	0. 5－0. 37－0. 14				53	
SK1242		不整形	0. 38－＊＊－0. 08				53	
SK1243		楕円	0. 3－0. 2－0. 06	柱			53	
SK1254		隅丸	0. 78－0. 58－0. 08				53	
SK1259		不整形	0. 77－0. 48－0. 12				53	
SK1269		不整形	0. 38－＊＊－0. 22				91	
SK1274		円	0. 64－0. 6－0. 06				101	
SK1275		楕円	0. 25－0. 17－0. 05					
SK1276		不整形	0. 86－0. 61－0. 2				101	
SK1281		楕円	0. 38－0. 25－0. 1				55	
SK1288			0. 8－0. 55－0. 1				92	
SK1294		円	0. 24－0. 19－0. 02	柱，加工材			46	
SK1525	40 ?	不整形	1. 5－1. 1－0. 03				79	
SK1526	41 ?	楕円	1. 6－1. 18－0. 02				81	
SK1529	40 ?	不整形	1. 4－1. 1－0. 1				79	
SK1550		楕円	0. 62－0. 5－0. 06					
SK2023		楕円	1. 8－1. 4－0. 18		近世		110，112	
SK2024		方	1. 4－1. 4－0. 15		近世		110，112	

第７表　土坑一覧(6)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ･幅･深さｍ)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SK2040	13？･15	円	0．41－0．38－0．4				27	
SK2049		楕円	0．45－0．22－0．06					
SK2054		楕円	0．28－0．21－0．03				27	
SK2056		楕円	0．85－0．72－0．2				27	
SK2062	14	円	0．52－0．47－0．05				27	
SK2063	14	不整形	0．86－＊＊－0．13				27	
SK2070		円	0．55－0．55－0．07				27	
SK2071		楕円	0．28－0．18－0．1				27	
SK2074		楕円	0．48－0．35－0．04				27	35
SK2083		円	0．32－0．31－0．12				24	
SK2089		方	0．92－0．77－0．07				24	35
SK2091		不整形	1．85－1．52－0．14	金箔			27	
SK2092	13	方	1．64－1．64－0．08	瀬戸美濃			27	35
SK2093		不整形	1．16－0．9－0．18				24	
SK2107		円	0．56－0．52－0．1					
SK2109		方	1．86－1．76－0．17				29	
SK2112		楕円	0．61－0．5－0．05				24	35
SK2118		円	0．5－0．45－0．21				23	
SK2121		円	0．23－0．21－0．09				23	
SK2122		楕円	0．27－0．23－0．09				23	
SK2125		楕円	0．75－0．65－0．24				23	
SK2129		円	0．51－0．42－0．12					
SK2137		楕円	1．74－1．4－0．2	白磁			24，25	35
SK2138		方	1．6－1．58－0．24	しゃもじ			24，25	35
SK2139		楕円	1．16－0．67－0．07				23	35
SK2140		楕円	0．77－0．64－0．09				23	35
SK2154		不整形	0．52－0．35－0．07	焼石			23	
SK2157		方	0．77－0．57－0．12				20	32
SK2158	10	円	0．46－0．46－0．14				20	
SK2165	9	楕円	1．0－0．88－0．44	中世土師器		井戸？	19	32
SK2166		不整形	0．95－0．78－0．12				20	
SK2176		不整形	0．93－0．82－0．05					
SK2180	10	円	0．45－0．41－0．44	珠洲，柱			20	
SK2195		方	1．2－1．12－0．2				19	
SK2196		方	1．6－1．45－0．12				19	
SK2197		不整形	0．8－0．63－0．06				24	
SK2212		円	0．48－0．45－0．18				23	
SK2216		円	0．27－0．32－0．15				24	
SK2232		方	1．48－1．42－0．12	瀬戸美濃			19	32
SK2236		楕円	0．25－0．19－0．06	柱			19	
SK2241	8	円	0．55－0．5－0．45	漆椀		井戸？	18	31
SK2256		不整形	1．11－1．0－0．14				18	31
SK2280		楕円	0．61－0．45－0．05	珠洲			18	
SK2282		方	1．4－1．13－0．1				17	
SK2285		方	1．08－1．02－0．42				17	31
SK2286		不整形	1．3－1．2－0．55	中世土師器,珠洲,瀬戸美濃		井戸？	17	
SK2291		楕円	0．37－0．3－0．3				13	
SK2296		円	0．43－0．47－0．2	柱				
SK2306	8？	楕円	1．55－138－0．3				18	31
SK2308		円	0．65－0．64－(0．09)				20	
SK2312		不整形	1．31－0．82－0．12				13	28
SK2313		不整形	1．52－1．36－0．12				29	28
SK2315		不整形	1．51－0．63－0．08					
SK2316		楕円	0．38－0．28－0．04					
SK2320		円	0．29－0．32－0．08					
SK2331	4	方	2．45－1．06－0．1				11	28
SK2355	3	方	1．78－1．02－0．1				9	27
SK2357		円	1．08－0．95－0．22				9	27
SK2366		方	2．25－1．34－0．1				29	
SK2373		円	0．82－0．73－0．09					

第7表　土坑一覧(7)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SK2376		楕円	0. 92－0. 76－0. 1					
SK2377		楕円	0. 2－＊＊－0. 36	柱			28	
SK2380		方	2. 27－1. 49－0. 35				28	
SK2381		不整形	2. 11－＊＊－0. 19	箸，加工材			28	
SK2385		不整形	0. 85－＊＊－0. 16	中世土師器			28	
SK2387		不整形	＊＊－0. 45－0. 15					
SK2403	6	不整形	2. 82－2. 65－0. 24	瀬戸美濃，漆椀，鎧，桶，曲物，箸，加工材，石臼，折敷			13	30
SK2406	4	円	0. 73－0. 71－0. 11				11	
SK2411		不整形	2. 4－1. 75－0. 27				29	
SK2413		楕円	1. 03－0. 89－0. 6	伊万里，柱			11	
SK2414		方	1. 6－1. 33－0. 12	柱			11	28
SK2415		不整形	0. 74－0. 36－0. 07				11	
SK2425		方	3. 09－1. 69－0. 19	白磁，染付			11	28
SX2432			＊＊－26. 8－0. 24				29	28
SK2444		不整形	0. 4－＊＊－0. 2					
SK2446		円	0. 35－0. 32－0. 13				24	
SK2449		円	1. 2－1. 23－0. 12				29	
SK2465	14	楕円	1. 33－0. 86－0. 15				27	
SK2466		方	1. 82－1. 11－0. 14				19	
SK2467		楕円	0. 32－0. 28－0. 2				24	
SK2470		円	(0.3)－(0.27)－0.11				20	
SK2471		楕円	(0.54)－(0.42)－0.46				20	
SK2473		不整形	(0.8)－(0.73)－0.46				20	
SK2484		円	0. 28－0. 25－0. 15				20	
SK2485		円	0. 28－0. 25－0. 09				20	
SK2486		円	0. 24－0. 26－0. 2				20	
SK2489		楕円	0. 53－0. 39－0. 36	柱				
SX4005	1	不整形	0. 84－0. 64－＊＊			集石遺構	6	
SK4006	1	不整形	0. 8－0. 48－0. 08				6	
SX4018-1		不整形	2. 18－1. 26－0. 1	小札，加工材，砥石			71，72	48
SX4018-2		円	0. 5－0. 44－0. 1	桶			71，72	48
SX4018-3		不整形	0. 46－＊＊－0. 12	銅線，砥石			71,72,74	48
SX4018-4		不整形	1. 16－0. 3－0. 04	加工材			71	
SX4018-5		楕円	1. 42－0. 24－0. 08	炭化材，底板			71，72	48
SX4018-6		楕円	0. 5－0. 2－0. 1	加工材			71	
SX4018-7		円	0. 4－0. 36－0. 16	加工材			71	
SX4018-8		楕円	0. 92－0. 34－0. 1	加工材			71	
SX4018-9		円	0. 24－0. 18－0. 06				71	
SX4018-10		不整形	0. 54－＊＊－0. 14	加工材		焼土	71，72	
SX4018-11		円	0. 22－0. 2－0. 06	引手			71，74	48
SX4018-12		不整形	0. 8－0. 66－0. 14	桶，加工材			71，72	48
SX4018-13		不整形	0. 34－＊＊－0. 16				71，72	48
SX4018-14		円	0. 66－＊＊－0. 12				71，72	48
SX4018-15		不整形	0. 52－＊＊－0. 14				71	48
SX4018-16		楕円	0. 98－0. 5－0. 08				71	
SX4018-17		楕円	0. 24－＊＊－0. 06				71	
SX4018-18		楕円	0. 92－0. 32－0. 06				71	
SX4018-19		円	0. 3－0. 2－0. 04				71	
SX4018-21		楕円	0. 82－0. 14－0. 04				71	
SX4018-27		楕円	0. 55－＊＊－0. 08				71	
SX4018-30		楕円	0. 68－0. 36－0. 04				71	
SX4018-34		楕円	0. 64－0. 18－0. 04				71	
SX4018-36		楕円	0. 56－0. 48－0. 12				71，73	
SX4018-37		楕円	0. 68－0. 54－0. 2				71	
SX4018-38		楕円	0. 66－0. 18－0. 04				71	
SX4018-39		楕円	0. 88－0. 48－0. 06				71，73	
SX4018-40		不整形	0. 35－＊＊－0. 06				71	
SX4018-41		楕円	0. 58－0. 32－0. 06	加工材			71	
SX4018-42		円	0. 52－0. 48－0. 04				71	
SX4018-43		不整形	＊＊－0. 4－0. 16	箸			71，73	
SX4018-46		不整形	1. 06－0. 68－0. 06				71，73	
SX4018-47		不整形	0. 54－＊＊－0. 02				71，73	
SX4018-48		楕円	0. 6－0. 18－0. 02				71	

第７表　土坑一覧(8)

遺構番号	建物	平面形	規模(長さ･幅･深さm)	出土遺物	時期	備考	挿図番号	図版番号
SX4018-49		円	0．54－0．44－0．06				71	
SX4018-51		不整形	1．2－0．1－0．14				71，73	
SX4018-52	39	不整形	0．7－0．6－0．04			焼土	71，73，	48
SX4018-53		楕円	0．96－0．16－0．06	小柄			71,73,74	48
SX4021		円	1．12－0．9－0．06				76	48
SK4022		不整形	(1.2)－(0.84)－0.1	底板			76	48
SK4023		不整形	0．9－＊＊－0．04					48
SX4043		円	0．72－0．68－＊＊	加工材				
SK4047		不整形	2．09－＊＊－0．22				76	
SK4048		不整形	1．48－＊＊－0．2	加工材			76	
SX4064	1	楕円	0．5－0．37－＊＊			集石遺構	6	
SX4065		円	0．32－0．35－0．18	桶	近世		108	90，93
SX4066		円	0．76－0．82－0．26	曲物，底板	近世		108	93
SK4070		不整形	0．79－＊＊－0．1				75	
SK4081		不整形	0．53－＊＊－0．1	加工材				
SX4088		円	0．1－0．1－0．34	杭			75	
SK5003		方	1．8－1．3－0．14				104	63
SK5004		不整形	1．14－1．0－0．23				104	
SK5005		楕円	1．46－0．96－0．1				104	
SK5006	54	隅丸	1．28－1．1－0．08				104	
SK5007		不整形	0．88－0．72－0．23				104	
SK5011		不整形	0．8－0．7－0．13				104	
SX5012		楕円	2．5－1．06－0．32				104	
SX5013		円	1．0－0．9－0．12				104	
SX5014		円	0．96－0．94－0．33				104	
SX5015	54	円	0．72－0．7－0．24	漆椀			104	78

（　）内の数値は復元値。遺構の切り合いなどにより計測不能な場合＊で示した。

第８表　井戸一覧

遺構番号	関連建物	平面形	規模 (長さ・幅・深さm)	最終 レベル(m)	出　土　遺　物	備　　考	挿図番号	図版番号
SE3	32	方	1.4－1.35－0.58	21.12	中世土師器,漆椀,曲物,下駄,加工板，加工棒		57	45
SE96	35	円	1.2－1.16－0.64	21.12	中世土師器		61	46
SE181	2	円	0.8－(0.8)－0.8	20.84	漆椀，桶		8	26
SK242	37	円	0.7－0.7－0.06	21.51			65	
SE319	43 ?	円	0.58－0.55－0.18	21.39	曲物，加工材		83	
SE470	52	不整形	1.1－1.0－0.52	21.38	漆椀		99，100	58，78
SE471	51・53	楕円	1.02－0.82－0.52	21.14	炉壁，礎石，加工石		97，98	67，82
SE524	48	円	1.45－1.4－0.52	21.44	加工材	噴砂に切られる	92	56
SE765	17	不整形	1.06－1.02－0.8	21.18			33	
SE804	20	不整形	1.44－1.34－0.78	21.21	小札，漆椀，加工材，加工棒，石臼		36	37
SE819	19	不整形	1.92－1.3－0.58	21.36	底板，加工棒		35	
SE864	23	円	0.88－0.85－0.58	21.34	中世土師器，桶		43	39
SE889	22	不整形	1.05－0.82－0.84	21.16	加工棒，石臼		40，42	39
SE1010		円	0.86－0.82－0.62	21.27			88	
SE1026	44	円	0.84－0.8－0.52	21.36			88	54
SE1035	44 ?	円	1.0－0.88－0.38	21.10	羽口，加工材		86	53
SE1182	46	円	1.1－0.95－0.3	21.28			87	
SE1194		楕円	1.23－0.93－0.62	21.24			53	
SE1215		不整形	1.8－1.15－0.80	21.16			53	42
SE1216	27	円	0.95－0.85－0.74	21.26	加工材		52	42
SE1275	51・53	不整形	0.75－0.7－0.60	21.42			97	
SE2094	12	方	1.02－1.02－0.62	21.52	漆椀，下駄		24，25	34
SE2283	8	円	0.83－0.77－0.5	21.60	桶，曲物		18	31
SE2302	3	円	1.0－0.95－0.64	21.06	曲物	地震によるずれ	9	27
SE2340	10	円	0.93－0.93－0.96	21.25	中世土師器，鎧，桶		21	32
SE2341	11	楕円	1.1－1.9－0.86	21.33	瀬戸美濃，桶		23，25	34
SE2423	6	方	1.56－1.45－0.66	21.30	珠洲，漆椀，桶，曲物，底板，竹		13	30
SE2455	6	円	0.68－0.62－0.37	21.42	桶，底板		13	30
SE2488	11 ?	不整形	1.1－0.94－0.7	21.34			23	
SE4004	1	円	1.11－1.08－(0.3)	21.00			6	26
SE4032	39	円	0.86－0.78－0.4	21.02			75	48

（　）内の数値は復元値。遺構の切りあいなどにより計測不能な場合＊で示した。

第9表　土器・陶磁器一覧(1)

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座　標	種　類	器　種	法量(口径·器高·底径(高台径)㎝)	色　調		年　代	分　類	備　考
6	1	92	SD4063		瀬戸美濃	Ⅲ	9.9−2.4−5.6	10YR8/3	浅黄橙色	16世紀後半		
8	8	61	SD170		中世土師器	Ⅲ	11.0−2.0−4.6	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀末		
	9	62	SD170		珠洲	甕	32.8−	5BG6/1	青灰色	15世紀後半	Ⅵ期	
	10	62	SD170		珠洲	甕		7.5Y6/1	灰色	15世紀前半	Ⅴ期	内面ナデ調整
11	15	63	SK2425		中国製白磁	Ⅲ	15.6−	7.5Y8/1	灰白色	15世紀後半	ⅢC群	
	16	65	SK2425		中国製染付	Ⅲ	9.8−	2.5Y7/3	浅黄色	16世紀代		染付10G3/1暗緑灰色
	17	65	SD2339	X55Y104	中国製染付	碗		7.5Y7/1	灰白色	16世紀代		染付7.5B4/4くすんだ青色
14	20	66	SK2403		瀬戸美濃	椀	12.0−	10YR5/1	褐灰色	16世紀		（無釉）10R4/2灰赤色
17	48	60	SK2286		中世土師器	Ⅲ	10.8−	2.5Y6/2	灰黄色	16世紀中頃〜後半		煤付着
	49		SK2286		瀬戸美濃	天目茶椀	12.0−	10YR7/4	にぶい黄橙色			
	50	67	SK2286		珠洲		＊＊−＊＊−15.2	5Y5/1	灰色			煤付着
18	52		SK2280		珠洲	甕		N6/0	灰色			
20	54	62	SK2180		珠洲	擂鉢	＊＊−＊＊−9.6	N4/0	灰色	12世紀後半	Ⅰ期	底面静止糸切り
	55	60	SD2200		中世土師器	Ⅲ	12.0−	N2/0	黒色	16世紀中頃〜後半		全面煤付着
21	56		SE2340		中世土師器	Ⅲ	13.0−	2.5Y3/1	黒褐色	16世紀末		
25	65	66	SE2341	X34Y99	瀬戸美濃	天目茶椀	11.6−5.1−4.8	2.5Y8/3	淡黄色			（サビ釉）7.5YR6/4にぶい橙色
	66	66	SE2341	X34・35Y98・99	瀬戸美濃	天目茶椀	10.4−5.3−4.0	2.5Y8/3	淡黄色	16世紀後半		（無釉）10YR8/6黄橙色
	67	63	SK2137		中国製白磁	Ⅲ	12.0−	N8/0	灰白色	16世紀中頃		
27	69	66	SK2092		瀬戸美濃	椀	11.6−	5Y8/1	灰白色	16世紀代		
28	73		SD2378		珠洲	甕		7.5Y5/1	灰色	15世紀前半	Ⅴ期	内面ナデ調整　10と同一個体か
30	75	68	A	X53Y104　Ⅰd	中世土師器	Ⅲ	9.2−2.2−4.6	2.5Y7/3	浅黄色	16世紀中頃		炭化物付着
	76	60	A	X31Y100　Ⅲa	中世土師器	Ⅲ	9.4−	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀中頃		煤付着
	77		A		中世土師器	Ⅲ	10.9−	2.5Y7/3	浅黄色	16世紀中頃〜後半		
	78		A		中世土師器	Ⅲ	11.2−	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀末		
	79		A	X62Y108　Ⅰd	中世土師器	Ⅲ	11.7−2.8−	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀末		
	80		A	X55Y105　Ⅰd	中世土師器	Ⅲ	11.0−	10YR8/4	浅黄橙色	16世紀中頃〜後半		
	81	60	A	X39Y98　Ⅲa	中世土師器	Ⅲ	11.4−	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀中頃〜後半		
	82	60	A	X29Y93　Ⅰb	中世土師器	Ⅲ	11.6−	2.5Y7/3	浅黄色	16世紀中頃〜後半		煤付着
	83	60	A	X62Y108　Ⅰb	中世土師器	Ⅲ	13.0−	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀末		
	84	60	A	X40Y100　Ⅰc	中世土師器	Ⅲ	13.6−	2.5Y8/4	淡黄色	16世紀中頃〜後半		
	85	60	A	X61Y102	中世土師器	Ⅲ	15.1−	10YR7/4	にぶい黄橙色	16世紀末		
	86	60	A	X30Y99	中世土師器	Ⅲ	14.6−	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀末		
	87	62	A	X61Y104	珠洲	擂鉢	24.2−	10Y6/1	灰色	14世紀前半	Ⅳ期	
	88	62	A	X43Y99　Ⅱ	珠洲	擂鉢	25.6−	7.5Y4/1	灰色	12世紀後半	Ⅰ期	
	89	62	A	X40Y100　Ⅲ	珠洲	甕		N5/0	灰色	14世紀〜15世紀中頃	ⅣかⅤ期	漆継ぎ
	90		A		瀬戸美濃	天目茶椀	11.0−	2.5Y8/3	淡黄色			
	91	66	A	X36Y101　Ⅰd	瀬戸美濃	天目茶椀	12.4−	10YR8/3	浅黄橙色			
	92		A	X44Y106　Ⅰd	瀬戸美濃	天目茶椀	10.6−	10YR7/1	灰白色			
	93	66	A	X35Y95	瀬戸美濃	天目茶椀	11.9−	2.5Y8/2	灰白色			漆継ぎ
	94		A	X28Y99　Ⅰd	越中瀬戸	天目茶椀	10.6−	N7/0	灰白色			
	95		A	X59Y106　Ⅰb	越中瀬戸	天目茶椀	＊＊−＊＊−4.0	2.5Y8/2	灰白色			
	96		A	X54Y106　Ⅰb	瀬戸美濃	天目茶椀	＊＊−＊＊−4.0	10YR8/2	灰白色			トチン痕
	97		A	X55Y104　Ⅰd	瀬戸美濃	天目茶椀	＊＊−＊＊−4.8	2.5Y8/2	灰白色			
	98	92	A		瀬戸美濃	Ⅲ	10.2−2.6−5.6	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀後半		
	99	66	A	X29Y97　Ⅲ	瀬戸美濃	Ⅲ	＊＊−＊＊−6.0	2.5Y8/3	淡黄色	16世紀前半	1か2段階	印花文
	100		A	X52Y105　Ⅲa	瀬戸美濃	天目茶椀	12.0−	10YR7/2	にぶい黄橙色			
	101	63	A	X35Y93　Ⅲa	中国製白磁	Ⅲ	13.4−	N8/0	灰白色	15世紀後半〜16世紀後半	ⅢC群	
	102	63	A	X45Y97　Ⅰa	中国製白磁	Ⅲ	11.4−	N8/0	灰白色	15世紀後半〜16世紀後半	ⅢC群	
	103	63	D	X112Y87	中国製白磁	Ⅲ	15.7−	7.5Y8/1	灰白色			
	104	63	A	X34Y98・99	中国製白磁	Ⅲ	＊＊−＊＊−8.0	N8/0	灰白色	15世紀後半〜16世紀後半	ⅢC群	
	105	63	A	X45Y97　Ⅲ	中国製白磁	Ⅲ	＊＊−＊＊−8.4	2.5GY7/1	明オリーブ灰色	15世紀後半〜16世紀後半	ⅢC群	
	106	64	D	X100Y105	伊万里	碗	13.1−	5Y7/1	灰白色	17世紀〜18世紀？		
	107	64	A	X63Y99	中国製青磁	碗	10.6−	N8/0	灰白色	16世紀代		
	108	64	D	X110Y89　Ⅲ	中国製青磁	陶製円盤	＊＊−＊＊−3.8	7.5Y8/1	灰白色			
	109	64	D	X95Y85	中国製青磁	碗		7.5Y7/1	灰白色			
	110	64	A	X34Y96	中国製白磁	Ⅲ		N8/0	灰白色	16世紀後半	ⅢC群	101と同一個体か
	111	65	A	X57Y104　Ⅰd	中国製染付	碗	12.0−	7.5Y8/2	灰白色	16世紀中頃〜後半	碗E群8か9類	染付7.5PB2/8紫みの青色　饅頭心
	112	68	A	X30Y97　Ⅲ	中国製染付	Ⅲ	＊＊−＊＊−3.2	2.5GY8/1	灰白色	15世紀後半〜16世紀前半	ⅢC群1類	碁笥底・染付5PB2/4暗い青色
	113	65	A	X29Y97　Ⅲ	中国製染付	Ⅲ	＊＊−＊＊−6.8	N8/0	灰白色	15世紀後半〜16世紀前半	ⅢB1群7類	染付5PB4/4くすんだ青色
36	129	61	SK805		中世土師器	Ⅲ	9.9−	10YR5/3	にぶい黄褐色	16世紀末		
41	133	66	SD1123/SK	X43Y91	瀬戸美濃	天目茶椀	9.4−	2.5Y8/1	灰白色	16世紀		漆継ぎ・（サビ釉）2.5YR3/1暗赤灰色

第９表　土器・陶磁器一覧(2)

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座　　標	種　類	器　種	法量(口径･器高･底径(高台径)㎝)	色　調		年　　代	分　　類	備　　考
54	153	66	SK1166		瀬戸美濃	天目茶椀	11.0－	7.5Y8/1	灰白色			
61	161	61	SE96		中世土師器	皿	13.2－2.1－	2.5Y8/3	淡黄色	16世紀中頃～後半		
	163	63	SD6	X76Y88	中国製白磁	皿	13.0－	7.5Y8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	断面漆付着
62	165	61	SK7外の北		中世土師器	皿	13.9－	10YR6/3	にぶい黄橙色	16世紀前半		ロクロ土師器
63	169	64	SD9	X76Y81	中国製青磁	碗	13.3－	10YR8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀中頃	龍泉碗Ｂ4類	
64	171	61	SK112	X77Y86 Ⅳ	中世土師器	皿	8.9－1.7－	2.5Y8/3	淡黄色	16世紀中頃		煤付着
	174		SP199		瀬戸美濃	水滴	2.6－	5Y8/1	灰白色			
68	176	65	SP252		中国製染付	皿	12.0－	10Y8/1	灰白色	16世紀中頃～後半	Ⅲ B 2群9か10類	染付7.5B5/3暗青灰色
	177	65	SK278		中国製染付	碗		N8/0	灰白色	16世紀中頃～後半	碗Ｅ群7類	染付7.5B3/4くすんだ青色
	178	91	SD213		中国製白磁	皿	＊＊－＊＊＊－3.8	2.5Y7/1	灰白色			煤付着
69	179	61	C	X42Y91　Ⅰd	中世土師器	皿	9.0－1.8－4.4	N2/0	黒色	16世紀中頃～後半		全面煤付着
	180	61	C	X40Y91　Ⅰd	中世土師器	皿	9.0－	2.5Y6/2	灰黄色	16世紀末		
	181		C	X54Y90	中世土師器	皿	9.8－	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀中頃～後半		
	182	68	C	X58Y91 Ⅱ	中世土師器	皿	10.2－2.5－	2.5Y8/3	淡黄色	16世紀中頃～後半		
	183	61	C	X46Y83	中世土師器	皿	10.8－	5Y3/1	オリーブ黒色	16世紀中頃～後半		黒変
	184	61	C	X63Y80 Ⅲ	中世土師器	皿	11.0－1.9－	2.5Y8/2	灰白色	16世紀末		
	185	61	C	X30Y88　Ⅰd	中世土師器	皿	12.0－	2.5Y7/2	灰黄色	16世紀中頃～後半		煤付着、二次的に被熱
	186	61	C	X43Y93	須恵器	杯	13.8－	10YR7/3	にぶい黄橙色			
	187	61	C	X22Y88	土師質	坩堝	5.8－	2.5Y8/3	淡黄色			
	188	66	C	X70Y87	瀬戸美濃	丸皿	8.4－2.0－5.6	10YR8/1	灰白色	16世紀中頃	2段階丸皿1類	灰釉
	189	66	C	X69Y84	瀬戸美濃	丸皿	＊＊－＊＊＊－6.0	7.5Y7/1	灰白色		丸皿1類	
	190	66	C	X60Y93 Ⅲ	瀬戸美濃	天目茶椀	12.0－	7.5Y8/1	灰白色			口縁部漆接ぎ
	191		C	X33Y92 Ⅱ	瀬戸美濃	天目茶椀	12.2－	5Y8/1	灰白色			
	192	66	C	X40Y86　Ⅰd	瀬戸美濃	天目茶椀	14.2－	7.5Y7/1	灰白色			
	193	64	C	X53Y92	中国製青磁	稜花皿	13.9－	N8/0	灰白色			
	194	65	C	X43Y90	中国製染付	杯	7.0－	N8/0	灰白色			染付7.5B6/3青灰色
	195	65	C	X42Y91　Ⅰc	中国製染付	皿	10.5－	10GY8/1	明緑灰色	15世紀後半～16世紀前半	Ⅲ B 1群7類	染付2.5PB5/4くすんだ青色
	196	65	C	X28Y88 Ⅰd	中国製染付	碗	12.1－	N8/0	灰白色	16世紀中頃～後半	碗Ｅ群	染付2.5PB5/4くすんだ青色
	197	68	C	X95Y85 Ⅰ	中国製染付	碗	(12.6) －	7.5Y7/1	灰白色	16世紀代		染付5PB5/4うすい紫みの青色
	198	63	C	X40Y89	中国製白磁	皿	10.8－	7.5Y8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	
	199	63	C	X78Y90　Ⅰ	中国製白磁	皿	11.4－	10YR8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	断面漆付着
	200	63	C	X38Y89　Ⅲ	中国製白磁	皿	15.8－	5Y8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	
	208	68	C	X36Y76　Ⅰd	越前	擂鉢	＊＊－＊＊＊－11.0	2.5Y8/3	淡黄色			おろし目8本単位
	209	62	C	X74Y90	珠洲	甕	46.0－	N5/0	灰色			
74	219	60	SX4018－1		中世土師器	皿	9.3－2.4－	2.5Y7/2	灰黄色	16世紀中頃～後半		指おさえ
	220	60	SX4018－1		中世土師器	皿	10.0－ 2.2－	2.5Y8/3	淡黄色	16世紀中頃～後半		
	221	67	SX4018－1		中世土師器	皿	9.8－2.1－	10YR6/2	灰黄褐色	16世紀前半		煤付着
75	230	66	SK4070	X85Y　Ⅲ	瀬戸美濃	輪花皿	11.0－	5Y8/1	灰白色	16世紀後半	3段階	ひだ皿
76	231	60	SX4021		中世土師器	皿	9.6－	10YR7/3	にぶい黄橙色	16世紀末		煤付着
77	233	68	D	X85Y82 Ⅱ	中国製白磁	菊皿	11.9－2.3－6.9	5Y7/1	灰白色	16世紀中頃～後半	Ⅲ D 群	貫入
	234		D	X81Y93 Ⅳ	越中瀬戸	天目茶椀	11.3－	5Y8/1	灰白色			
79	240	62	SK195		珠洲	擂鉢		N4/0	灰色		Ⅵ期	おろし目9本単位
81	242	65	SD80－Ｂ		中国製染付	碗		10GY8/1	明緑灰色	16世紀中頃～後半	碗Ｅ群6類	染付2.5PB5/4くすんだ青色
86	248	63	SD513		中国製白磁	杯	7.6－3.1－4.4	7.5Y8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半		
93	251	65	SD631		中国製染付	皿	11.9－	10GY8/1	明緑灰色	16世紀中頃～後半	Ⅲ B 2群9か10類	染付2.5PB6/4くすんだ青色
95	252	61	SK429		中世土師器	皿	13.0－2.6－	2.5Y7/2	灰黄色	16世紀中頃～後半		煤付着
	253	67	SK429		瀬戸美濃	水滴	4.1－6.9－4.0	2.5Y8/3	淡黄色			
98	257	67	SE471		炉壁		19.0－					内面上半溶解物付着
	258		SE471		炉壁							
	259		SE471		炉壁							
	260		SE471		炉壁							
99	261	66	SP469		瀬戸美濃	天目茶椀	12.0－	7.5YR8/4	浅黄橙色	16世紀		
100	262	63	SP485		中国製白磁	皿	13.0－	N8/0	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	
101	264	63	SK483		中国製白磁	皿	13.1－	7.5Y8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	
104	266	63	SK5003	X49Y64	中国製白磁	皿	＊＊－＊＊＊－6.5	7.5Y8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	
105	267	92	SD5001	X60Y63 Ⅳ	越中瀬戸	椀	10.1－6.2－4.1	2.5Y7/1	灰白色	18世紀頃		
	268		SD5001	X43Y60/X43Y50	越中瀬戸	皿	15.4－3.4－6.7	10YR8/2	灰白色	17世紀前半～中頃		重ね焼痕
	269	92	SD5001		越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊＊－5.0	2.5YR6/4	にぶい橙色			見込みに印花
	270	92	SD5001		越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊＊－5.0	7.5Y7/3	にぶい橙色			印花
	271	63	SD5001	X46Y54 Ⅰ	中国製白磁		＊＊－＊＊＊－9.0	7.5Y8/1	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	Ⅲ C 群	
	272	91	SD5001	X80Y59 Ⅰ	唐津	皿	13.4－3.6－4.6	5Y8/1	灰白色	17世紀後半～18世紀前半		内野山窯･蛇の目釉剥･(灰釉)5Y7/1灰白色

第9表　土器・陶磁器一覧(3)

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)cm)	色調		年代	分類	備考
	273		SD5001	X48Y60 Ⅰ	唐津	皿	＊＊－＊＊－4.6	5Y7/1	灰白色	17世紀後半～18世紀前半		内野山窯・蛇の目釉剥・砂目
	274	91	SD5001		唐津	擂鉢	＊＊－＊＊－9.8	7.5YR7/4	にぶい橙色	17世紀後半～18世紀後半		底部に板状圧痕
	275		SD5001	X33Y58	伊万里	碗？	＊＊－＊＊－4.8	N8/0	灰白色	18世紀		陶胎染付
106	280	61	C	X68Y74 Ⅱ	中世土師器	皿	9.0－2.6－	2.5Y7/2	灰黄色	16世紀中頃		煤付着
	281	61	C	X82Y76 Ⅱ	中世土師器	皿	13.0－2.7－	2.5Y7/3	浅黄色	16世紀末		
	282	61	C	X81Y75 Ⅱ	中世土師器	皿	12.0－	2.5Y7/4	浅黄色	16世紀末		煤付着
	283		C	X50Y72 Ⅲ	中世土師器	皿	11.7－	2.5Y7/3	浅黄色	16世紀末		
	284		C	X64Y75 Ⅲ	中世土師器	皿	12.0－ 2.0－	2.5Y7/2	灰黄色	16世紀末		
	285		C	X66Y73 Ⅲ	中世土師器	皿	13.8－	2.5Y6/3	にぶい黄色	16世紀中頃～後半		
	286		C	X36Y74 Ⅱ	珠洲	擂鉢？	＊＊－＊＊－10.7	5Y6/1	灰色			
	287	62	E	X47Y35	珠洲	擂鉢		2.5GY6/1	オリーブ灰色	15世紀後半～16世紀前半		
	288	62	C	X73Y78	珠洲	擂鉢	23.0－	10BG6/1	青灰色	15世紀後半	Ⅵ期	
	289	62	F	X75Y56	珠洲	擂鉢		N6/0	灰色	13世紀前半	Ⅱ期か	
	290	64	C	X37Y78	中国製青磁	碗		N8/0	灰白色	15世紀後半～16世紀前半	龍泉碗Ｂ4類	
	291	64	C	X55Y74	中国製青磁	碗		2.5Y8/2	灰白色	15世紀後半～16世紀前半	龍泉碗Ｂ4類	
	292	65	C	X39Y37	中国製染付	碗	12.0－	N8/0	灰白色			染付2.5PB5/4くすんだ青色
	293	65	C		中国製染付	碗	＊＊－＊＊－6.3	N8/0	灰白色	15世紀後半～16世紀前半	皿Ｂ1群7類	染付2.5PB5/3くすんだ青色
	294	68	C	X43Y80 Ⅰd	李朝	壺	＊＊－＊＊－10.0	7.5R5/2	灰赤色	16世紀		
	295	66	C	X65Y74	瀬戸美濃	皿	11.0－	2.5Y8/3	淡黄色		丸皿1類	SK11の遺物と接合
	296	66	C	X27Y76Ⅰd	瀬戸美濃	天目茶椀	11.9－ 6.1－4.5	10YR7/2	にぶい黄橙色	16世紀		漆継ぎ
	297	92	D		越中瀬戸	皿	14.4－	7.5YR7/3	にぶい橙色			ひだ皿
	298	92	E	X110Y105 Ⅱ	越中瀬戸	皿	10.8－2.5－4.0	7.5YR7/3	にぶい橙色	17世紀前半～中頃		
	299	92	F	X59Y58	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.9	5YR7/4	にぶい橙色			印花
	300	91	E	X43Y63	唐津？	椀	10.8－	7.5Y5/3	灰オリーブ色			
	301	91	F	X55Y55	伊万里	皿	11.8－2.9－8.0	N8/0	灰白色			染付2.5PB5/4くすんだ青色
	302	91	E	X43Y63 Ⅰb	唐津	皿	＊＊－＊＊－4.0	10YR7/4	にぶい黄橙色	17世紀前半		墨痕あり、胎土目
108	318	92	SD190	X48Y97	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.0	10YR7/3	にぶい黄橙色			菊印花文，高台裏墨書
	319	91	SD190		唐津	鉢	29.0－	5YR6/4	にぶい橙色	17世紀後半～18世紀前半		白泥・刷毛目
	320	91	SD190		唐津	鉢？	26.0－	10R6/6	赤橙色			
	321	91	SD190		伊万里	碗	9.8－	N8/0	灰白色	19世紀前半		染付7.5B5/2暗青灰色　湯飲み
	322	91	SD190		伊万里	皿？	10.8－	N8/0	灰白色	18世紀後半		口縁に漆付着・染付2．5PB4/2青灰色
	323	91	SD190		瀬戸美濃	椀	3.8－	N8/0	灰白色			染付2.5PB4/2暗い灰青色
	324	63	SD190		中国製白磁	碗	13.8－	N8/0	灰白色	15世紀後半～16世紀後半	皿Ｃ群	
113	329	91	SD2001		伊万里	碗	7.9－	N8/0	灰白色	18世紀？		染付7.5B5/2暗青灰色
	331	92	SD3001		越中瀬戸	蓋	10.0－	2.5Y8/3	淡黄色			
	332	91	SD3001		唐津	皿？	＊＊－＊＊－3.8	5YR7/3	にぶい橙色			砂目、灰釉
	333	91	SD3001		伊万里	碗？	＊＊－＊＊－4.5	5Y8/1	灰白色			染付7.5B6/3青灰色
	334	92	SD3001		越中瀬戸	灯芯受け	＊＊－＊＊－4.2	7.5YR7/3	にぶい橙色			
	335		SD3001		珠洲	壺	＊＊－＊＊－11.4	7.5R6/1	赤灰色			内外面ともに被熱
	345	92	D	X96Y108	越中瀬戸	皿	10.0－2.2－4.0	2.5Y7/2	灰黄色	17世紀後半～18世紀前半		
	346	92	D	X100Y100	越中瀬戸	皿	11.8－	2.5Y6/1	黄灰色			
	347	92	D	X110Y90，91 Ⅰ	越中瀬戸	皿	10.9－2.4－4.2	10YR7/2	にぶい黄橙色	17世紀		墨書
	348	92	C	X36Y73 Ⅰc	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.4	5YR7/3	にぶい橙色			
	349		D	X103Y89 Ⅰ	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.0	7.5YR8/3	浅黄橙色	17世紀後半～18世紀前半		墨書
	350		B	X88Y115 Ⅱ	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.7	2.5Y6/2	灰黄色	17世紀後半～18世紀前半		
	351	92	D	X103Y107	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.0	7.5YR7/3	にぶい橙色			重ね焼き
	352	92	C	X85Y81 Ⅰ	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.8	5YR7/3	にぶい橙色			重ね焼き
	353	92	B	X104Y120 Ⅰa	瀬戸美濃	小壺	8.6－	10YR8/3	浅黄橙色			
	354	66	B	X78Y105 Ⅰa	瀬戸美濃	香炉	＊＊－＊＊－9.6	2.5Y7/4	浅黄色			
	355	91	D	X113Y90	唐津	擂鉢	37.0－	10YR6/1	褐灰色			
	356		B	X93Y111 Ⅰa	唐津	皿？	＊＊－＊＊－3.8	2.5Y7/2	灰黄色	17世紀前半		灰釉
	357	91	A	X57Y110 Ⅰb	唐津	擂鉢	＊＊－＊＊－11.4	10R4/4	赤褐色			
	358	91	B	X94Y110 Ⅰa	唐津	擂鉢	27.4－	5Y5/1	灰色			
	359	91	A	X65Y110 Ⅰa	肥前	鉢	21.4－	2.5YR4/3	にぶい赤褐色	17世紀後半～18世紀前半		刷毛目
	360	91	D	X113Y90	伊万里	皿	13.8－3.2－6.0	N8/0	灰白色			染付7.5B7/3青灰色
	361	91	C	X65Y88 Ⅰ	伊万里	碗	9.6－	7.5Y7/1	灰白色			染付2.5GY5/1オリーブ灰色
	362	91	B	X93Y115 Ⅰa	伊万里	碗	10.2－6.0－4.8	7.5Y8/1	灰白色			染付7.5B6/3青灰色
	363		B	X104Y126 Ⅰa	肥前	碗？	＊＊－＊＊－4.6	2.5Y7/2	灰黄色			
	364	91	D	X105Y80	伊万里	碗	9.8－	N8/0	灰白色	18世紀前半		染付2.5PB5/4くすんだ青色・コンニャク印判
	365	91	B		伊万里	紅皿	4.8－1.5－1.4	7.5Y8/1	灰白色	18世紀末～		白磁
	366		D	X95Y90 Ⅰ	伊万里	皿	15.6－	N8/0	灰白色			染付2.5PB5/3くすんだ青色

法量の数値は左から口径・器高・底径（高台径）を示し、残存部が少なく計測不能な場合は＊で示し、数値が何の値を示すかわかるようにし

第10表　木製品一覧(1)

挿　図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座　　標	種　　類	規格（長・幅cm）	材　　質	備　　考
8	2		SK8		漆椀	5.1−3.2		
	3	69	SK8		漆椀	9.3−5.3	ブナ	
	4	69	SK8		漆椀	9.3−5.3	ブナ	
	5	69	SK8		漆椀	9.3−5.3	ブナ	
	6	69	SK8		蓋	8.2−5.0		
	7		SE181		漆椀	6.7−3.5		
9	13	69	SE2302		曲物	27.0−14.0	ヒノキ	上段
	14	69	SE2302		曲物	27.0−14.0	ヒノキ	下段
11	19	69	SP2317		底板	23−11	ヒノキ	
14	21		SK2403		漆椀	4.0−3.7	ブナ	
	22	70	SK2403		漆椀	11.0−8.0	ブナ	
	23	70	SK2403		漆椀	8.8	ケヤキ	
	24	70	SK2403		漆椀	7.0	ブナ	
	25	70	SK2403		漆椀	6.6	ブナ	
	26		SK2403		小札			
	27		SK2403		小札	3.3−2.2		
	28	72	SK2403		加工材	10.7−0.7	ヒノキ	
	29	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	30	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	31	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	32	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	33	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	34	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	35	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	36	72	SK2403		加工材	9.8−1.0	ヒノキ	
	37	72	SK2403		箸	13.6−0.5		
	38	71	SK2403		加工板	30.5−7.8		
	39	71	SK2403		小札			
	40	71	SK2403		小札			
	41	71	SK2403		小札			
	42	71	SK2403		加工材	19.4−3.6		
	43		SK2403		加工板	17−3.2		
15	44		SE2423		漆椀	3.1−1.5	ケヤキ	
	45	72	SE2423		漆椀	9.5−6.2	ブナ	
	46	69	SE2455		底板	14.2−8.5	ヒノキ	
	47	69	SE2455		桶	20.0−5.3	スギ	
18	51	73	SK2241		漆椀	15.5	ブナ	
	53	72	SP2281		箸	22.0−0.6		
21	57	72	SE2340		桶	37.8−8.5	二葉松類	
25	58	73	SP2479		柱	19−7.5	ネムノキ	
	59	73	SP2480		加工材	45.5−8.0		柱？
	60	72	SP2447		加工棒	8.5−1.6		
	61		SE2094		漆椀	11−10.5	ブナ	
	62		SE2094		漆椀	4.4−3.1		
	63		SE2094		下駄	13.0−6.8	ヤナギ類	
	64	72	SE2341		桶	22.0−7.0	ヒノキ科	
	68	73	SK2138		しゃもじ	17.0−2.8	ヒノキ	
27	70	73	SK2091		加工板	3.1−1.7	同定不可	金箔？
	71	73	SK2091		加工板	3.1−1.7	同定不可	金箔？
28	74		SK2377		柱	72.0−6.2		
31	114	79	D	X87Y90Ⅳ	漆椀	10.5−4.1		
	115	79	D	X100Y89Ⅲ	漆蓋	4.0−4.0		蓋？
	116	79	A	X44Y99	小札	3.2−2.9		
	117	79	A	X48Y100Ⅱ	蓋	5.0−（4.0）	ヒノキ	底板か
35	128	74	SE819		底板	29.0−10.0		
37	131		SK591		加工板	29.5−9.5		桶？
38	132	74	SD579		漆椀	12.5	ブナ	
41	135		SK879		加工板	10.0−3.3	スギ	
42	136	75	SK882		板	14.3−4.5		四隅に角釘穴有
	137	75	SK882		板	14.3−4.5		四隅に角釘穴有

第10表　木製品一覧(2)

挿　図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座　　標	種　　類	規格（長・幅cm）	材　　質	備　　考
	138	75	SK882		建築材	10.8−4.3		ほぞ穴有
	139		SK879		杭	14.8−3.5	二葉松類	
	140	74	SK886		柄	13.4−2.8		
	141	75	SK879		杭	38.0−2.2	二葉松類	ホゾ穴有
	142	74	SK879		杭	38.5−2.3	二葉松類	
	143	74	SK879		杭	159−8.5	二葉松類	
43	*146*	76	SK908		柱	21.0−6.5	ニガキ	
	147	75	SE864		手桶	28.5−6.2	ヒノキ科	
45	*149*	76	SD701	X47Y82	容器	16.0−15.0	ヒノキ	
47	*150*	76	SD647		漆椀		ブナ	
	151		SD647		底板	13.6	ヒノキ	
56	*154*	76	SP392		杭	20.5−5.5		
	155	76	SP391		杭	17.3−8.0		
	156		SK393		杭	62.3−7.3		
57	*157*	77	SE3		下駄	(14.2)−8.5	二葉松類	
	158		SE3		曲物	(26.0)−8.8	ヒノキ	
	159	77	SE3		加工板	25.8−2.0		
61	*162*		SD6		加工棒	7.3−0.7		
	164	77	SD6	X76Y88	漆椀	16.6	同定不可	
62	*166*	77	SK7	X75Y88Ⅱ	しゃもじ	(14.5)−5.5	ヒノキ	
	167	77	SK7		小札			
	168	72	SK7		櫛	(7.5)−4.0	ばら科ナシ亜科	
64	*170*	77	SK200		折敷	17.0−3.0		コゲ有り
	173		SP199		箸	5.7−0.5		
69	*202*		C	X69Y90Ⅱ	小札	6.8−2.2		
	203		C	X69Y90Ⅱ	小札	6.8−2.2		
	204		C	X69Y90Ⅱ	小札	6.8−2.2		
70	*210*		C	X80Y83Ⅱ	漆椀		ブナ	
	211		C	X35Y90	漆椀		ケヤキ	
	212	79	C	X61Y83Ⅱ	漆蓋		ケヤキ	皿か蓋？
	214	80・81	C	X46Y87Ⅰ	加工材	26.7−6.2	ヒノキ	
	215	80・81	C	X46Y87Ⅰ	加工材	26.7−6.2	ヒノキ	
	216	80・81	C	X46Y87Ⅰ	加工材	26.7−6.2	ヒノキ	
	217	80	C	X46Y87Ⅰ	加工材	26.7−6.2	ヒノキ	
	218	80	C	X46Y87Ⅰ	加工材	26.7−6.2	ヒノキ	
74	*224*	84	SX4018−1		小札	(2.5)−(1.6)		
74	*229*	72	SX4018−43		箸	14.7−0.7		
76	*232*	77	SK4022		底板	16.2	スギ	
92	*250*	78	SK569		漆椀	8.5	ブナ	
97	*254*	78	SK416		柱	24.0−9.0		
100	*263*	78	SE470		漆椀	16.0	ブナ	
104	*265*	78	SX5015		漆椀	12.5−8.0		
105	*276*	78	SD5001	X39Y62Ⅰ	底板	11.6−0.7		
106	*303*		C	X67Y78	小札	2.6−1.6		
	304		C	X44Y81Ⅲ	下駄	14.5−10.0	ニガキ	
	305	79	E	X53Y59Ⅰb	下駄	11.0−7.6		
107	*306*		C	X85Y74Ⅳ	底板	8.5−3.2		
	307		C	X63Y74Ⅲ	加工板	9.0−6.6		
	308	79	C		蓋	10.3	ヒノキ	
108	*326*	93	SX4065		桶	22.1−11.5	ヒノキ科	
	327	93	SX4066		蓋	29.8−9.3		
	328	93	SX4066		曲物	28.0−14.5	ヒノキ科(ヒノキ？)	
113	*367*	93	A	X63Y102Ⅰa	せん	4.6−2.6		

欠損している場合は残存している部分の数値を（　）内に示した。

第11表　石製品一覧

挿　図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座　　標	種　類	規格（長・幅・重 cm・g）	材　　質	備　　考
8	*11*		SD170		石臼	11.5－＊＊－540	凝灰角礫岩	
	12	82	SD170		石臼	14.0－＊＊－1300	凝灰角礫岩	
31	*118*		A	X46Y100Ⅱ	砥石	11.2－4.5－300	砂質泥岩	
36	*130*	82	SE804		石臼	31.0－＊＊－6000	凝灰角礫岩	
42	*144*	82	SE889		石臼	30.6－＊＊－2700	凝灰角礫岩	SK2403の遺物と接合
	145		SE889		石臼	21.0－＊＊－1500	凝灰角礫岩	
45	*148*	83	SK676		焼石	17.0－＊＊－2000		
64	*172*	83	SK112		焼石	15.5－＊＊－2600		
70	*213*		C	X33Y92	石鉢	11.5－＊＊－310	凝灰角礫岩	
74	*226*		SX4018		砥石	3.8－＊＊－50	凝灰岩	
	227	83	SX4018	Ⅲ	砥石	5.8－1－8	泥岩	
	228	83	SX4018		砥石	9.0－＊＊－100	泥岩	
77	*239*		D	X100Y105Ⅰ	砥石	2.8－0.8－4	粘板岩	
83	*244*		SK55		石鉢	15.0－＊＊－1000	凝灰角礫岩	
86	*247*	83	SD513		砥石	7.0－＊＊－150	泥岩	
98	*255*		SE471		礎石	19.5－＊＊－6000	安山岩？	
	256	82	SE471		作業石	27.0－＊＊－6800		
107	*309*	82	E		五輪塔	25.0－17.5－12600	凝灰角礫岩	水輪
113	*337*		SD3001		加工石	34.0－＊＊－4500	凝灰岩	板状

欠損などにより計測不能な場合＊で示した。

第12表　金属製品一覧(1)

挿　図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座　　標	種類	規格（長・幅・厚・重cm・g）	材質	備　　考
11	*18*	84	SD2339		刀子	5.3－0.8－0.4－3.38	鉄	
27	*72*	87・88	SD2339		銭	2.5－＊＊－＊＊－3.70	銅	熙寧元寶
31	*119*	85	A	X41Y99Ⅰd	刀状	8.3－2.4－1.2－33.98	鉄	
	120		A	X39Y107Ⅱ	刃状	9.0－2.1－0.5－29.12	鉄	
	121	85	A	X39Y100Ⅲ	刃状	17.0－4.0－2.5－101.61	鉄	
	122	85	A	X31Y98Ⅱ－Ⅲe	飾金具	6.2－2.1－0.2－5.84	銅	
	123	87・88	A	X30Y98Ⅲ	銭	2.4－＊＊－＊＊－2.63	銅	
	124	87・88	D	X86Y82Ⅳ	銭	2.3－＊＊－＊＊－2.64	銅	聖宋元寶
	125	87・88	D	X86Y82Ⅳ	銭	2.3－＊＊－＊＊－2.24	銅	熙寧元寶？
	126	87・88	D	X90Y82Ⅲ	銭	2.5－＊＊－＊＊－2.86	銅	皇宋通寶
34	*127*	84	SK817		笄	21.7－1.3－0.3－38.03	銅	
41	*134*	87・88	SK879		銭	2.4－＊＊－＊＊－2.99	銅	元豊通寶？
47	*152*	84	SK700		鉄瓶	24－20－13－2140.0	鉄	
58	*160*	87・88	SK381		銭	2.4－＊＊－＊＊－3.79	銅	元祐通寶
65	*175*		SK236		金具	4.8－1.5－0.1－4.27	亜鉛	
69	*201*	85	C	X46Y93Ⅰd	鉄鏃	5.5－1.1－1.0－7.04	鉄	
	205	85	C	X28Y84Ⅰd	鳶口	16.5－7.0－1.0－151.52	鉄	
	206	85	C	X38Y91Ⅲ	匙	14.5－2.2－0.1－6.27	銅	
	207	87・88	C	X78Y89Ⅱ	銭	2.4－＊＊－＊＊－3.16	銅	熙寧元寶
74	*222*	84	SX4018－53		小柄	7.5－1.2－0.6－8.38	銅	
	223	84	SX4018－11	X88. 5Y82. 5Ⅳ	引手	2.6－1.8－0.2－3.35	鉄	
	225	84	SX4018－3		銅線	6.1－1.3－0.7－4.96	銅	
77	*235*	86	D	X90Y85Ⅰ	板	20.8－0.1－1.65－11.41	銅	
	236		D	X91Y81Ⅲ	釘	2.6－1.5－0.8－1.87	鉄	
	237	86	D	X97Y81Ⅲ	小柄	4.9－1.2－0.4－3.03	銅	
	238	86	D	X91Y83－84Ⅰ	釘	12.2－1.1－1.2－26.38	鉄	
81	*241*	84	SP1522		輪状	5.6－4.5－2.1－29.0	鉄	
	243		SP81		鉄滓	4.5－3.7－2.5－58.79		湯口？
83	*245*		SK113		釘	1.2－0.5－0.5－0.3	鉄	
86	*246*		SE1035		羽口	7.5－6.0－2.0－16.67	土製	鉄付着

第12表　金属製品一覧(2)

挿　図	挿図番号	図版番号	遺構番号	座　　標	種類	規格（長・幅・厚・重cm・g）	材質	備　　考
87	*249*	84	SK1068		簪	6.8－1.3－0.1－6.46	銅	
105	*277*	87・88	SD5001	X69Y59	銭	2.5－＊＊－＊＊－2.96	銅	開元通寶
	278	87・88	SD5001	X76Y59	銭	2.5－＊＊－＊＊－3.28	銅	元豊通寶
	279	87・88	SD5001	X65Y57	銭	2.5－＊＊－＊＊－3.53	銅	寛永通寶
107	*310*	86	F	X75Y60Ⅰ	簪	10.2－0.9－1.0－3.35	銅	
	311	86	C	X67Y74Ⅱ	釘	9.2－0.7－0.7－15.81	鉄	
	312		E	X114Y107Ⅰ	釘	5.0－0.5－0.5－2.19	鉄	
	313	86	C	X66Y76Ⅲ	環状	2.6－2.6－0.9－6.04	銅	
	314	86	C	X39Y37Ⅲ	輪状	5.8－5.5－0.7－11.66	銅	
	315	86	F	X68Y62	金具	10.5－5.5－2.2－63.71	鉄	
	316	86	C	X35Y81Ⅱ	羽口	9.0－9.0－5.0－167.82	土製	鉄付着
	317		C	X64Y75Ⅲ	羽口	4.5－3.0－1.7－44.60	土製	鉄付着
108	*325*	94	SD190		煙管	6.0－0.9－0.9－2.87	銅	
113	*330*		SD2001	X38Y103Ⅲ	円盤状	3.5－＊＊－＊＊－27.04	鉄	
	336	94	SD3001	X104Y120Ⅰa	煙管	7.5－1.0－1.0－4.89	銅	
	338	87・88	SX10		銭	2.9－＊＊－＊＊－6.71	銅	熈寧元寶，２枚重ね
	339	87・88	SX10		銭	2.9－＊＊－＊＊－3.41	銅	熈寧元寶
	340	87・88	SX10		銭	2.9－＊＊－＊＊－2.24	銅	元豊通寶
	341	87・88	SX10	X49Y92Ⅰd	銭	2.3－＊＊－＊＊－2.42	銅	熈寧元寶？
	342	87・88	SX10	X47Y92Ⅰd	銭	2.5－＊＊－＊＊－3.49	銅	開元通寶
	343	87・88	SX2002	X55Y104Ⅰd	銭	2.5－＊＊－＊＊－2.86	銅	
	344	87・88	SX2002	X55Y103Ⅰd	銭	2.4－＊＊－＊＊－2.89	銅	嘉定通寶
	368	94	A	X53Y103Ⅰ	煙管	4.0－2.0－1.7－6.46	銅	
	369	94	D	X100Y95Ⅰ	煙管	5.0－1.0－1.0－3.89	銅	
	370	94	A	X65Y111Ⅰa	簪	9.3－1.2－0.3－8.61	銅	
114	*371*	87・88	A	X34Y96Ⅰc	銭	2.1－＊＊－＊＊－2.08	銅	９枚一括，２枚重ね
	372	87・88	A	X34Y96Ⅰc	銭	2.1－＊＊－＊＊－0.86	銅	９枚一括
	373	87・88	A	X34Y96Ⅰc	銭	2.1－＊＊－＊＊－1.63	銅	９枚一括，２枚重ね
	374	87・88	A	X34Y96Ⅰc	銭	2.1－＊＊－＊＊－3.47	銅	９枚一括，３枚重ね
	375	87・88	A	X53Y103Ⅰ	銭	2.4－＊＊－＊＊－2.42	銅	寛永通寶
	376	87・88	C		銭	2.5－＊＊－＊＊－2.03	銅	開元通寶
	377	87・88	A	X38Y99Ⅱ	銭	2.5－＊＊－＊＊－3.39	銅	
	378	87・88	D	X94Y88Ⅰ	銭	2.4－＊＊－＊＊－1.94	銅	寛永通寶

銭の場合、規格は径と重さを示している。

第Ⅳ章　地崎遺跡

1　遺跡の概要

A　概　　要

地崎遺跡は小矢部市字地崎地内に所在する。地形的には小矢部川と岸渡川に挟まれた河岸段丘状に立地し，遺跡の約１㎞北東に現在の小矢部川の河道がある。調査面積は1,636㎡で，標高は22.4～22.7ｍを測る。現況は水田で，ＪＲ北陸本線の線路沿いに位置する。

検出した遺構は近世の掘立柱建物・柵・溝・井戸・土坑である。掘立柱建物は４棟あり，西側調査区・東側調査区でそれぞれ建て替えが考えられる。建物内部には，土間部分と推定される方形の竪穴状土坑がある。井戸も，３基のうち２基は建物の内部あるいは庇下に存在したものと考えられる。井戸の形態は，井戸側に石組と曲物を使用するもの，石組と刳り抜き丸太を使用するもの，素掘りのものがあり，建物内にあったと推定される井戸は前二者の形態をとる。溝は，自然流路のほかに建物の敷地を区画したと考えられるものもある。土坑は，建物の周囲に密集し，大小あわせて500余りを数える。その中には柱穴状の小土坑も多数含み，建物の床持柱かとも思われるが，２棟の敷地が重複しておりどちらに属するか判断が困難なため，主柱列に並ぶものを建物の柱穴と捉え，その他は土坑に含めて記述する。ただし，柱根が残るものと土層断面に柱の痕跡（柱痕）がみられるものは，ピットとして土坑とは別に記載する。

遺物は，土師器・珠洲・八尾・輸入陶磁器・土師質土器・瀬戸美濃・信楽・越中瀬戸・唐津・伊万里・須佐唐津・木製品・石製品・金属製品があり，16世紀末～18世紀前半のものが主体である。特に越中瀬戸が多く，底部に墨書のあるものが一定量みられる。木製品は，漆器・箱？・曲物・下駄・加工木のほか，柱穴に遺存した柱や杭が多い。石製品は，石臼が多く，礎石として用いられたものもある。他に石硯・石鉢・茶臼・砥石がある。金属製品には煙管・銅銭・馬鍬の刃等がある。

B　調 査 経 過

調査は平成５年５月17日に開始した。調査区の中央には農道があったが，この農道を使って北側の水田へ農業用機械が進入するために撤去不可能であった。そのため農道部分は発掘調査を行わず，この農道を境に，調査区を便宜的に西側調査区，東側調査区に分けて調査を行った。表土は水田耕作土で，層厚約20㎝と薄かったため人力による掘削を行った。まず西側調査区から表土を除去し，西側調査区の包含層掘削及び遺構精査と並行して東側調査区の表土除去を行った。遺構精査の結果，建物等の遺構が調査区外に延びる可能性が高いと考え，調査区の東西及び南側に，約600㎡調査面積を拡張した。排水溝が東側調査区のＳＤ450の東側を切ってＳＫ500の南で曲がり，西側調査区へ続いてＳＤ403を切って北へ曲がるように掘られているが，この排水溝に囲まれた部分が当初の調査予定区域である。５月25日に，西側調査区から遺構発掘を開始し，６月22日に西側調査区の空中写真測量を行った。西側調査区は遺構の切り合いが多く，井戸や礫の詰まった土坑の断ち割り等の残務に時間を要し，並行して東側調査区の遺構発掘を行った。東側調査区は７月21日に空中写真測量を行い，このとき西側調査区の石等除去後の写真測量を兼ねた。全調査を終えたのは７月27日である。

C　土　　層

基本層序は，Ⅰａ層：2.5YR3/1黒褐色シルト（耕作土），Ⅰｂ層：5Y4/1灰色シルト（床土），Ⅱａ

層：2.5Y5/1黄灰色シルト（遺物包含層），Ⅱb層：7.5YR4/1褐灰色シルトに2.5Y7/3浅黄色砂が粒状または帯状に混入（遺物包含層），Ⅲ層：2.5Y7/3浅黄色砂質シルトまたは砂（遺構確認面）である。Ⅱ層の土は，耕地整理による削平のため部分的にしかなく，厚さは20cmを越えない。Ⅲ層は，西区北東端から東区にかけては砂であるため，降雨の後は遺構の崩壊が著しく，これを防ぐためにマーキングを兼ねて固めに溶いた石灰を遺構の肩に塗布し，その粘性によってかろうじて肩を保護し，崩壊した部分は修復を重ねるという状態であった。なお，当遺跡のように遺構面が軟弱な場合に，樹脂を利用して遺構を一時的に保護することができないか，Ⅲ層の砂をサンプルとして実験を行っている[注1]。

遺構内の埋土は，西側調査区と東側調査区で異なった特徴がある。東区の埋土は，褐灰色もしくは黄灰色のシルト系を主体として，地山の砂や黒褐色粘質土，灰白色シルト等が粒または帯状に少量混入するパターンが多い。これに対し西区では，上記の異なる様々な土の粒またはブロックが霜降り状に混じり合うパターンが多くみられ，時折これが遺構の違いなのか同一遺構内の埋土の違いなのか判断に迷うことがあった。

2 遺　　構

A 掘立柱建物

1号掘立柱建物（ＳＢ１，第115～118図，図版99～101）

西側調査区に位置し，切り合いからＳＢ３より新しい。東西棟で主棟方向はＮ－77°－Ｗ，面積はＳＰ247から西へ続く東西方向の柱列までを敷地に含めると162.6㎡，ＳＰ220の柱列までにとどめると132㎡である。西面及び南面はＳＤ７により敷地を区画したものと考えられる。

ＳＰ299からＳＰ324まで東西方向に並ぶ柱列は棟支え柱と考えられる。この柱列のうち柱根が残っていたものはＳＰ150・ＳＰ194で，柱の直径は約12cmであり，ＳＰ194の柱は炭化している。ＳＰ324は柱は残存しないが柱穴の底に柱の痕跡かと思われる炭化物が残っている。またＳＫ373の上面には集石がみられるが柱の土台とされたものであろうか。

ＳＰ249からＳＰ143まで東西方向に並ぶ柱列は北側の上屋柱と考えられる。ＳＰ249の上面には割れた石臼が置かれており，礎石に転用したものと思われる。石臼は摺り面の周りが欠損し，底面の方が残りがよく凹面になっているため柱の座りがよいと思われたか，底面を上にして据えられていた。ＳＰ285は礫が多く根固めに使用された可能性もある。また上層と下層の境に打ち割った石がみられるが，礎石であろうか。この柱列のうち埋土に柱痕が認められるものはＳＰ323，柱根が残るものはＳＰ143・ＳＰ205で，ＳＰ143の柱は直径約15cmである。ＳＰ205は長楕円を呈し，中心に柱が据えられていた。長径124cm，短径30cm，深さ36cmである。柱の径に対して掘形は狭く，中程の深さから柱は掘形いっぱいになる。このように柱の直径に対して掘形に余裕をもたせないのは，この柱を動きにくくする必要があったためと考えられ，また柱の直径は約20cmで当遺跡から出土した柱の中では最も太いことから，大黒柱であった可能性が高いと考えられる。

ＳＰ177からＳＰ18まで東西方向に並ぶ柱列は南側の上屋柱と考えられる。このうち柱根が残るものはＳＰ17・ＳＰ83である。柱の直径はともに約12cmである。またＳＰ15は柱痕は確認されなかったが，多数の礫がちょうど柱を取り囲んだような状態で検出された。これらは根まき石であろう。

ＳＰ253からＳＰ145まで東西方向に並ぶ柱列は下屋柱と考えられる。このうち柱根が残るものはＳＰ145・ＳＰ175・ＳＰ253・ＳＰ288，埋土に柱痕が認められるものはＳＰ283である。柱の直径はＳＰ145が約８cm，ＳＰ175が根元の太い部分で約18cm，ＳＰ253・ＳＰ288が約10cmである。

ＳＰ220からＳＰ146まで東西方向に並ぶ柱列は又下屋柱と考えられる。この柱列のうち柱根が残っていたものはＳＰ298・ＳＰ333で，柱の直径はＳＰ298で約10cmである。またＳＫ365内の柱もこの柱列に並ぶ。またＳＰ362は，埋土に柱痕が認められる。

ＳＰ186からＳＰ125まで東西方向に並ぶ柱列は，埋土に柱痕がみられるか柱根そのものが残っている柱穴であるが，梁方向の柱列には並ばないため床持柱あるいは間仕切り的な柱と考えられる。ＳＰ125には柱が残っており，その直径は約10cmである。ＳＰ136は柱の表皮のみ残り，ＳＰ186は埋土に柱痕が認められる。ＳＰ327は礫が多く，埋土に炭化物がみられる。

ＳＰ247からＳＰ393まで東西方向に並ぶ北端の柱列は，軸方向が主軸とは若干異なるが，４基の柱穴が梁方向の柱列に並ぶことから，庇を付けて井戸（ＳＥ278）を屋根の下に取り込んだ構造と考えられる。この柱列のうち柱根が残っていたものはＳＰ209・ＳＰ236・ＳＰ383で，ＳＰ236の柱の直径は約14cmである。またＳＰ208は断面形から中心に柱が据えられていたと思われる。

井戸，溝の他にＳＢ１に付属する遺構として，敷地内北東隅に位置する土間がある。土坑の項で後述するが，土間はＳＫ330・ＳＫ394・ＳＫ395から構成される。また土間よりさらに北に位置するＳＫ245は整地土坑と思われるもので，位置的には入り口付近を整地したものである可能性が高い。

出土遺物は中国製染付（ＳＰ15）・越中瀬戸（ＳＰ175・ＳＰ221・ＳＰ241・ＳＰ298・ＳＰ323・ＳＰ362・ＳＰ366・ＳＰ393）・伊万里（ＳＰ15・ＳＰ241），柱（ＳＰ17・ＳＰ83・ＳＰ113・ＳＰ125・ＳＰ175・ＳＰ194・ＳＰ205・ＳＰ209・ＳＰ236・ＳＰ253・ＳＰ277・ＳＰ286・ＳＰ333・ＳＰ383），礎板？（ＳＰ186）・曲物（ＳＰ194・ＳＰ393）・加工木（ＳＰ150・ＳＰ194・ＳＰ241），石臼（ＳＰ249）・砥石（ＳＰ175）である。遺物の年代と，切り合いでＳＢ３より新しいことから，時期は17世紀後半～18世紀前半頃と考えられる。

２号掘立柱建物（ＳＢ２，第119・120図，図版99・101・102）

東側調査区に位置し，切り合いからＳＢ４より新しい。南北棟で，棟方向はＮ－5°－Ｗ，面積は南端のＳＰ616までを建物の敷地と想定すると209.8㎡である。

ＳＰ583・ＳＰ540から南へ続く中央の柱列が上屋柱，ＳＰ469から南と東へ続く柱列及びＳＰ682から南へ続く柱列は下屋柱，南端のＳＰ616も１基であるが下屋柱となる可能性がある。ＳＰ478から南へ続く柱列が又下屋柱と考えられる。北面のＳＰ575から西へ続く柱列は屋根の下に井戸を取り込むために張り出した部分と考えられる。さらにその北側には石列を伴う土坑ＳＫ582が接し，これは屋外ではあるが建物に付属する施設と推測される。また敷地内北東隅にあるＳＫ500は土間部分と考えられる。ＳＫ500に隣接して屋外に位置するＳＫ644は，遺物から建物の廃絶に伴う廃棄土坑の可能性がある。

棟支え柱に関しては，棟の通る位置にいくつかの柱穴は存在するがＳＢ４にみられるような柱列はない。中央の２列の上屋柱が主となって小屋組を支え，小屋組により棟木があげられたものと考えられる。上屋柱の柱穴は不整形を呈し，長径は129～253cm，深さ29～51cmで他の柱穴より規模が大きい。これらは，柱抜き取り穴としては大きすぎるようで，砂地で軟弱な地盤を整地するために，建築前に地山の土をシルト系の土と入れ替え搗き固めたものと考えられる。ＳＢ２より古いＳＢ４の棟支え柱にもこの様な柱穴がみられ，規模はＳＢ２の方が大きくなっている。建物の軸組構造の中で主要となる柱にのみこのような整地が行われたのであろう。このタイプの柱穴に限っていえば，埋土に柱痕を残すものはＳＢ４のＳＰ584のみで他は一気に埋め戻した土と思われ，掘立柱ではなく礎石など土台となるものが使用された可能性がある。また同時期に隣接する建物でありながらＳＢ１・ＳＢ３にこ

の様な柱穴がみられないのは，遺構面の土の性質の違いによるものであろう。調査中も，西側調査区は比較的安定していたが，砂を地盤とする東側調査区では降雨の後の遺構の崩壊が激しく，脆い地盤であった。

柱根が残るものはＳＰ504のみで，柱の直径は約８㎝である。柱は腐食していた。ＳＰ526は埋土に柱痕かと考えられる部分がある。ＳＰ574は埋土に3～10㎝大の礫が多量に含まれており，柱の土台とされた可能性がある。ＳＰ573は長楕円形を呈し，埋土には小礫から30㎝大の礫が多く含まれ，また「次エ門」の墨書のある越中瀬戸が出土した。建物の北面にあたり，ＳＰ574同様土台として使用されたものと仮定すると，位置的には柱ではなく壁を支えたものとも考えられる。

出土遺物は越中瀬戸（ＳＰ412・ＳＰ483・ＳＰ573・ＳＰ581・ＳＰ586・ＳＰ632・ＳＰ633）・唐津（ＳＰ573・ＳＰ581・ＳＰ632・ＳＰ641）・伊万里（ＳＰ641・ＳＰ685），柱（ＳＰ504），加工木（ＳＰ586），石鉢（ＳＰ483）である。切り合いからＳＢ４より新しく，ＳＫ482より古い。建物の時期は，17世紀後半～18世紀前半頃と考えられる。

３号掘立柱建物（ＳＢ３，第121・122図，図版99・102・103）

西側調査区に位置し，切り合いからＳＢ１より古い。東西棟で，棟方向はＮ－86°－Ｗ，面積は92.4㎡である。建物の西面及び南面の柱の並びに平行してＳＤ５が取り囲んでおり，溝により敷地を区画したものと考えられる。

ＳＰ81から西へ続く柱が棟支え柱の柱列，ＳＰ358及びＳＰ49から西へ続く柱列が上屋柱，ＳＰ218から西へ続く柱列が下屋柱と考えられる。

棟支え柱に関しては，東端の柱穴であるＳＰ81には径約16㎝の腐食した角柱が残っていた。また同じ柱穴内に上部を角材状に加工した杭が打たれていた。対する西端のＳＰ124からも，角柱かどうかは不明であるがＳＰ81と同等の径の柱が検出された。ＳＰ328は小礫が詰まった柱穴で，柱の土台として埋め込まれたものと考えられる。ＳＰ165からは径約８㎝の柱が出土した。このＳＰ165については南北に並ぶ柱列がないが，棟支え柱列のみ強化するために柱間を狭くしている可能性もあると考えＳＢ３の柱穴に含めた。

上屋柱ではＳＰ122・ＳＰ153・ＳＰ167・ＳＰ358に柱根が残っていた。ただしＳＰ122は根のような部分があり，自然木の可能性もある。ＳＰ153は腐食した柱根が残っていた。ＳＰ167の柱根も腐食しているが，径は約12㎝である。ＳＰ358は東側に礫が詰まっているが，径約12㎝の柱根が西端で地山に約30㎝食い込んだ状態で検出された。東側は柱の土台として礫が埋め込まれたのであろうか。ＳＰ58には柱痕と思われる埋土の違いが認められた。ＳＰ123は15㎝大の礫が数個詰まっており，土台または根固め石の可能性がある。ＳＰ149は上屋柱列に並び径約６㎝の柱痕が残るが，位置的に対称となる柱が無く，床持柱または間仕切り的な柱と考えられる。

下屋柱ではＳＰ168･ＳＰ218から柱根が出土した。ＳＰ168は中央に径約12㎝の柱が立っており，柱穴の底から硯が出土した。ＳＰ218の柱根の径は約17㎝で西端から出土した。ＳＰ140では埋土に柱痕が確認された。

ＳＢ３に付属する土坑として敷地内南西隅にあるＳＫ170がある。規模や形状は土坑の項で後述するが，配置からみても厩の可能性があると考えられる。

出土遺物は瀬戸美濃（ＳＰ140・ＳＰ163）・越中瀬戸（ＳＰ165・ＳＰ168），柱（ＳＰ81・ＳＰ123・ＳＰ165・ＳＰ168・ＳＰ218・ＳＰ358）・杭（ＳＰ81）・加工木（箱？）（ＳＰ124）・硯（ＳＰ168）である。これら遺物の年代と，切り合いでＳＢ１より古いことから，時期は16世紀末～17世紀前半頃に

推定される。

４号掘立柱建物（ＳＢ４，第123・124図，図版99・101・104）

東側調査区に位置し，切り合いからＳＢ２より古い。南北棟で，棟方向はＮ－2°－Ｗ，面積は東端のＳＰ545・ＳＰ618までを建物の敷地と想定すると136.5㎡である。

中央のＳＰ584からＳＰ675を結ぶ柱列が棟支え柱で，ＳＰ507・ＳＰ541から南に続く柱列が上屋柱と考えられる。ＳＰ479から南と東に続く柱列が下屋柱と考えられ，東側の２基の柱穴も下屋柱の可能性がある。ＳＰ496・ＳＰ522・ＳＰ536・ＳＰ538の柱列は床持柱あるいは間仕切り的な柱と思われる。棟支え柱及び北側の上屋柱であるＳＰ507・ＳＰ584・ＳＰ541は不整形を呈し，長径は94～166㎝，深さ22～41㎝で他の柱穴より規模が大きい。これらはＳＢ２同様に，砂地で軟弱な地盤を整地するために，建築前に地山の土をシルト系の土と入れ替えたものと考えられる。

柱根が検出された柱穴はＳＰ475・ＳＰ522・ＳＰ525・ＳＰ536，また柱痕と思われる埋土の違いを確認した柱穴はＳＰ477・ＳＰ496・ＳＰ584である。柱根の直径はＳＰ475・ＳＰ522が約10㎝，ＳＰ525が約20㎝，ＳＰ536が約７㎝で，腐食して表皮のみ残っていた。掘形埋土は基本的には褐灰色シルトが主体で，これに地山の砂・砂質シルトや黒褐色粘土質シルトが混入するものが多い。

ＳＢ４の敷地内北東隅に位置するＳＫ677は不整形の土坑であるが，若干削平されて西側検出面が低くなっており，元の平面形とは異なると思われる。またＳＢ１のＳＫ500と同様に建物の北東隅にあたることから，ＳＢ４の土間部分であった可能性が考えられる。

出土遺物は越中瀬戸（ＳＰ629）・伊万里（ＳＰ629），柱（ＳＰ475・ＳＰ522・ＳＰ525・ＳＰ536）・円形板（ＳＰ525）である。ＳＢ２より古く，16世紀頃のものと思われる土師質土器擂鉢が出土したＳＫ677の上面から柱穴が掘り込まれていることから，ＳＢ４の時期は16世紀末～17世紀前半頃と推定される。

Ｂ　柵　　列

１号柵列（ＳＡ１，第125図）

西側調査区の南に位置する。６基の柱穴から構成されるが，排水溝付近にもう１基あった可能性がある。柱穴は楕円形を呈し，長径は40～60㎝前後のものが多く，深さは25～30㎝である。ＳＰ99・ＳＰ25は柱痕らしき埋土の違いを認める。埋土は褐灰色または黄灰色シルトに，地山の砂と灰白色シルトが混入する土である。東側に関連する遺構があったかもしれないが，撹乱を受けており不明である。

Ｃ　ピ　ッ　ト

24号ピット（ＳＰ24，第126図）

西側調査区のＳＤ５の南に位置する。楕円形を呈し，長径60㎝，深さ34㎝である。埋土は上層が淡黄色シルト，下層は灰黄褐色粘土質シルトで杭状に突出しており，杭が腐食したか抜き取られたものと推測される。切り合いからＳＫ23・ＳＫ126より新しい。

51号ピット（ＳＰ51，第126図）

ＳＢ３の東側，ＳＫ170の南東に位置する。楕円形を呈し，長径60㎝，深さは８㎝である。東端に杭または柱と思われる木を検出したが，削平をうけて残っている部分が少なく，柱根と断定し難い。埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトが混入する土であり，中央には礫がある。

53号ピット（ＳＰ53，第137図）

ＳＢ３の敷地内南側，ＳＤ５の北に位置する。楕円形を呈し，深さは25㎝である。埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で，中央に径約12㎝の加工木が立った状態で出土した。杭であろうか。

切り合いからＳＫ372より新しい。

56号ピット（ＳＰ56，第126図）

ＳＢ３の南辺に接し，切り合いからＳＫ359よりも新しい。楕円形を呈し，遺構内の東端から柱根を検出した。柱根は表皮しか残っておらず，表皮内には浅黄色砂が混入する黄灰色シルトが入っていた。掘形の土は黄灰色シルトに褐灰色シルトと地山の砂が混入する土である。

62号ピット（ＳＰ62，第126図）

ＳＰ56の東側に位置する。切り合いからＳＢ３より古い。楕円形を呈し，中央やや北寄りに柱根が残っていた。柱の直径は約９㎝である。埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土である。

68号ピット（ＳＰ68，第126図）

ＳＢ３の南辺に接し建物の柱列には並ばないが，床持柱であった可能性もある。楕円形を呈し，中心に腐食した柱根が残っていた。掘形の埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトが混入する土である。

112号ピット（ＳＰ112，第126図）

ＳＢ１の東辺に接し，切り合いからＳＢ１に属するＳＰ113よりも新しい。楕円形を呈し，長径86㎝，深さ29㎝である。中心に柱痕を認める。掘形の土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土である。

116号ピット（ＳＰ116，第126図）

直径約15㎝の柱が出土したが，ＳＢ３を取り囲んでいるＳＤ５の外（西側）にあり，他に建物として並ぶ柱穴は検出されなかった。円形を呈し，直径54㎝，深さは17㎝である。掘形の埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土である。柱の根元約15㎝は掘形が無く，軟弱な地盤に沈んだものと思われる。切り合いからＳＫ117よりも古く，ＳＫ116の時期は17世紀以前と考えられる。

135号ピット（ＳＰ135，第126図）

ＳＢ１の西辺に接し，遺構内の南隅から柱根または杭の根元と思われる木を検出したが，建物の柱列には並ばない。切り合いからＳＫ134より新しい。円形を呈し，直径は60㎝，深さは15㎝である。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と褐灰色シルトが混入する土である。

144号ピット（ＳＰ144，第127図）

ＳＢ１の西側の敷地内に位置するが柱列には並ばない。円形を呈し，直径46㎝，深さは36㎝である。中央に柱痕と考えられる埋土の違いを認める。柱痕部分は黄灰色シルトに褐灰色シルトが混入する土で，柱または杭が腐食したか抜き取られたものと考えられる。

184号ピット（ＳＰ184，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内中央，試掘トレンチの南に位置する。埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入し中央には礫が多い。北隅から柱根と思われる木を検出した。切り合いからＳＫ389，ＳＫ390より新しい。出土遺物は内野山窯系の唐津である。

219号ピット（ＳＰ219，第127図）

ＳＢ１の東辺に接するが，敷地外で，柱列には並ばない。楕円形を呈し，長径104㎝，深さは20㎝である。中央に柱痕を認める。掘形の土は黄灰色シルトに地山の砂と灰白色シルトが混入する土である。

244号ピット（ＳＰ244，第141図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。楕円形を呈し，長径70㎝，深さは22㎝である。上面は砂混じりの黒色シルトで礫が覆っていた。その下は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で，最下層は黒色シルトである。礫の下から直径約８㎝の柱が出土した。円形板・越中瀬戸も出土した。

271号ピット（ＳＰ271，第140図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の東に接する。楕円形を呈し長径は96cm，深さは30cmである。南側は底面が一段高くなっているが，そこから杭を検出した。南側の埋土は地山の砂に黄灰色シルトが混入する土で，北側の埋土は黄灰色シルトに灰白色シルトと地山の砂が混入する土で２層に分かれる。上面では埋土の違いがわからず一つのピットとしたが，南と北で別の遺構であった可能性もある。

281号ピット（ＳＰ281，第140図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。ほとんど掘形はなく，直径約12cmの柱根が掘形いっぱいに据えられている。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，炭化物を含む。ＳＫ394の上面から掘り込まれている。出土遺物は越中瀬戸である。

308号ピット（ＳＰ308，第138図）

ＳＢ３の敷地内東側，ＳＫ170の北に位置する。楕円形を呈し，長径26cm，深さは18cmである。柱は南端に立った状態で出土した。埋土は褐灰色シルトに明褐灰色シルトと地山の砂が混入する土で，単層である。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ186より古く，ＳＰ309より新しい。

326号ピット（ＳＰ326，第143図）

ＳＢ１の東側に位置し，ＳＫ402に接する。杭または柱と思われる直径約10cmの木が中央に立った状態で検出された。円形を呈し，直径は52cm，深さは20cmである。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の土が混入する土で，２層に分かれる。切り合いからＳＫ402より新しい。出土遺物は伊万里である。

350号ピット（ＳＰ350，第134図）

ＳＢ１の西側敷地内に位置し，ＳＫ363に接する。切り合いから，ＳＢ１に属するＳＰ298，及びＳＫ363，ＳＫ349より古い。深さは17cmで浅いが，南側に腐食した木があり，柱根の可能性がある。埋土は灰白色シルトに地山の砂が混入する土で，中央には礫がみられる。

351号ピット（ＳＰ351，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の西側敷地内，試掘トレンチの北側に位置する。楕円形を呈し，深さは19cmである。埋土は酸化鉄を含むにぶい黄橙色シルト一層で，細杭が検出された。切り合いからＳＫ160より新しい。

377号ピット（ＳＰ377，第139・141図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の砂が混入する土で，何層かに分かれる。上面には礫が覆い。中央が一段深く掘り込まれており，そこから杭または柱の根元と思われる木片を検出した。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ362，及びＳＫ378・ＳＰ244より古く，ＳＫ245・ＳＫ379・ＳＫ380・ＳＫ382より新しい。

410号ピット（ＳＰ410，第143図）

西側調査区の東端，ＳＫ402の西に位置する。掘形は無く杭が打ち込まれていた。付近にはＳＰ420，ＳＰ421等，当遺構と同様に直接地山に打ち込まれた杭や，ＳＰ218，ＳＰ219，ＳＰ326等掘形をもつものが散在するが，位置的には不規則で，建物の柱列に並ばず，性格は不明である。

420号ピット（ＳＰ420，第143図）

西側調査区の東端，ＳＫ402の西に位置する。ＳＰ410と同様に掘形は無く杭が打ち込まれていた。

421号ピット（ＳＰ421，第143図）

西側調査区の東端，ＳＫ402内に位置する。ＳＰ410と同様に掘形は無く杭が打ち込まれていた。

459号ピット（ＳＰ459，第127･131図，図版104）

ＳＤ450の北側に位置するピットで，杭が東側と北側に２本打ち込まれていた。上面には集石がみられ，その中に混じって破損した石臼の一部が出土した。集石の下の土層は二層に分かれており，杭

の先端は下層から土中約40cmの深さまで達していた。隣にはこの遺構と同じく集石と杭のみられる遺構ＳＰ460があり，同じ性格のものと考えられる。

460号ピット（ＳＰ460，第127・131図，図版104）

ＳＰ459の隣に位置する土坑で，ＳＰ459同様杭が４本打ち込まれていた。１本は西側にあり，３本は東側に少し間隔をあけながら並んだ状態で打ち込まれていた。上面には集石がみられ，埋土は褐灰色シルトに地山土が混入する土一層である。杭はＳＰ459とほぼ同じ深さまで打ち込まれている。これら二つの遺構を断ち割る際，杭の先端まで掘ると水が湧き出してきた。地山も砂であるから，軟弱な地盤に杭を数本ずつ打ち込み，さらに石で根元を固めて何かを固定したものと推測される。またＳＤ450を隔てた対岸に，２箇所の集石がみられる。ＳＤ462・ＳＤ467の西端に位置するものである。この２箇所の集石下から杭は検出されなかったが皿状に落ち込みＳＰ460同様の土が堆積していた。これら４箇所の集石が同じ性格のものであるなら，ＳＤ450に架かる簡易な橋を固定したものとも推測される。ＳＤ460の出土遺物は杭の他に板状の加工木がある。

461号ピット（ＳＰ461，第127図）

ＳＰ460の北側に位置する。円形を呈し，ほぼ掘形いっぱいに柱を検出した。柱の径は約15cmである。

519号ピット（ＳＰ519，第127図，図版104）

ＳＢ２及びＳＢ４の敷地内西側に位置する。柱列に並ばないが床持柱の可能性も考えられる。楕円形を呈し，長径56cm，深さ29cmである。中央から直径約15cmの柱が出土した。柱の根元は地山に若干食い込み，掘形の埋土は灰黄褐色シルトである。

529号ピット（ＳＰ529，第127図）

ＳＢ２・ＳＢ４の敷地内東側に位置し，ＳＢ２に属するＳＰ483に接する。楕円形に近い不整形を呈し，長径56cm，深さ19cmである。埋土に柱痕と思われる埋土の違いを認める。埋土は，柱痕部分は灰黄褐色砂質シルト，掘形は灰白色シルトに黄灰色シルトと地山の砂が混入した土である。切り合いからＳＰ483より古い。

549号ピット（ＳＰ549，第123・124図）

ＳＢ４の敷地内中央に位置する。ＳＢ４の柱穴であるＳＰ598に接し，切り合いからＳＰ598より古い。柱穴内のやや北寄りに直径約７cmの柱根が残る。掘形の埋土は褐灰色シルトに地山の砂と黄灰色シルトが混入する土である。

619号ピット（ＳＰ619，第127図）

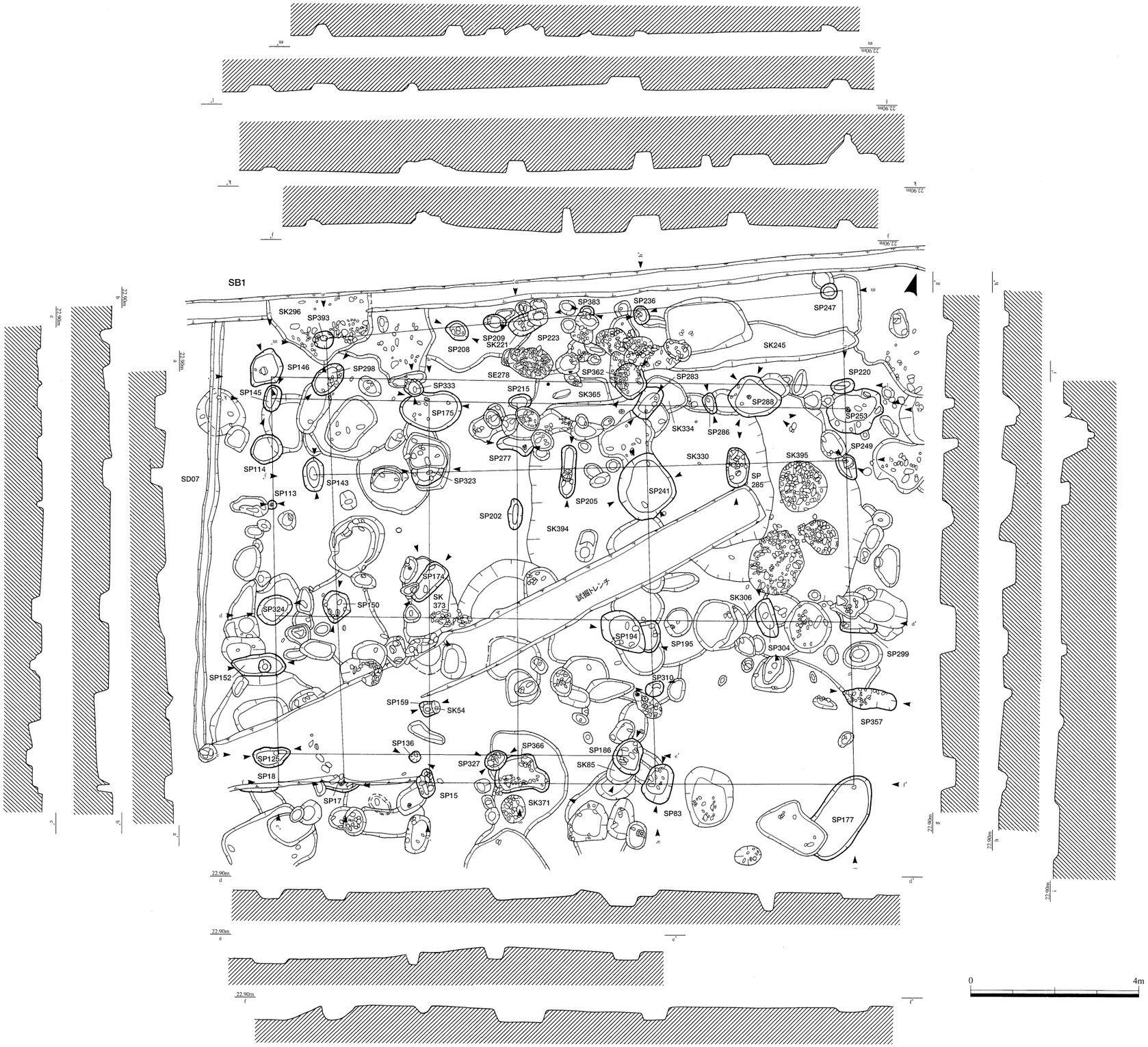
東側調査区のＳＥ634の西に位置する。楕円形を呈し，長径90cm，深さは32cmである。中央に柱痕を認める。根元と考えられる部分は地山に突出しており，杭か柱が食い込んだものと思われる。

665号ピット（ＳＰ665，第147図）

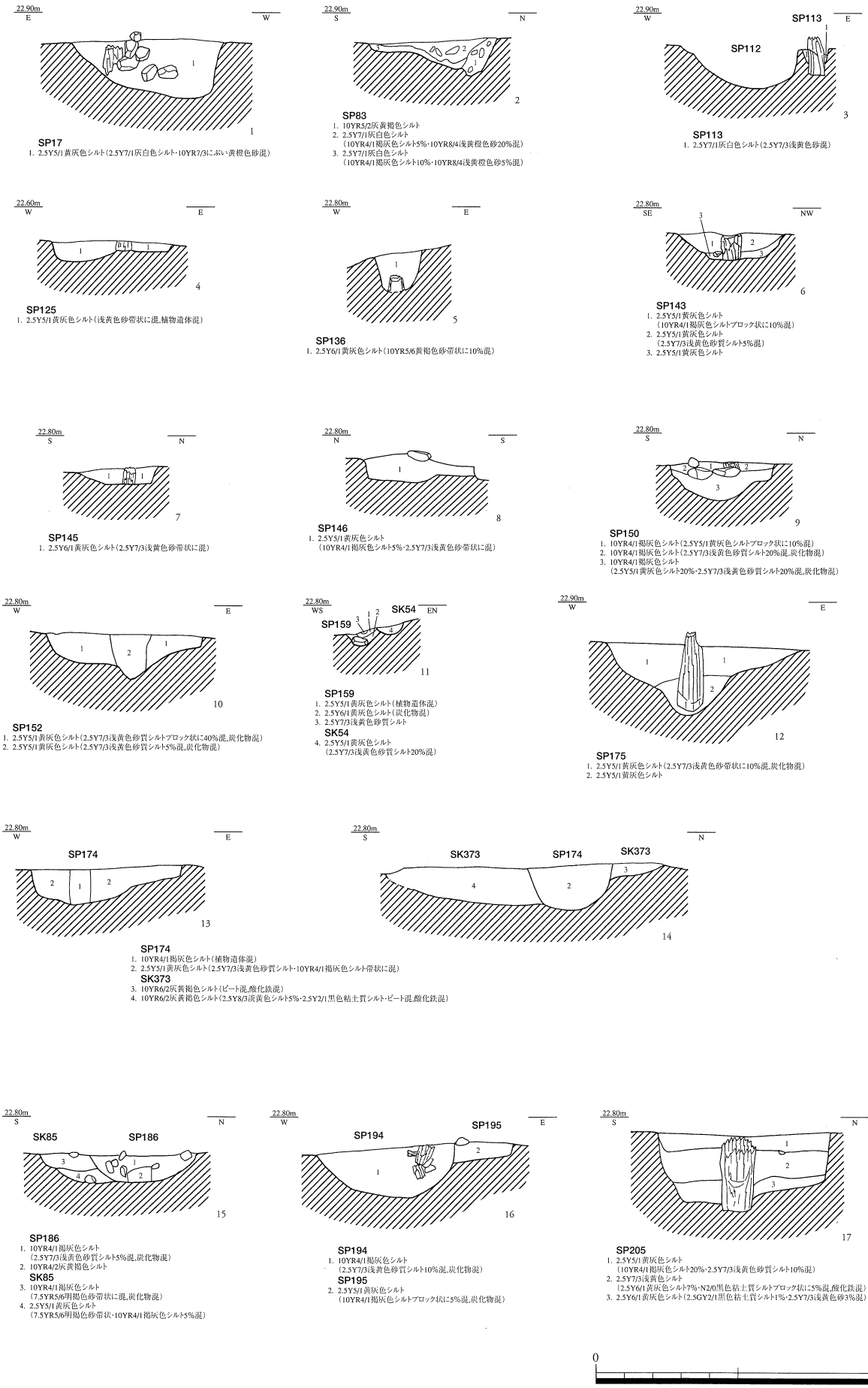
調査区東端，ＳＫ645の東に位置する。やや不整な楕円形を呈し，長径52cm，深さ16cmである。中心よりやや北寄りに柱痕と考えられる埋土の違いを認める。柱痕部分の埋土は黒褐色砂質シルトで締まりがやや悪く，掘形には地山土を埋め戻している。ＳＫ645の周囲にはこれを取り巻くように柱穴状の小土坑がみられ，ＳＰ665もそのひとつである。ＳＫ645に関連する柱穴群であろうか。

672号ピット（ＳＰ672，第146図）

ＳＢ２の敷地内東側，ＳＫ500の上面から掘り込まれており，中央に柱痕がある。柱痕のまわりには柱の表皮のみ残っている。掘形の埋土は褐灰色シルトに地山の土が混入する土である。円形を呈し，

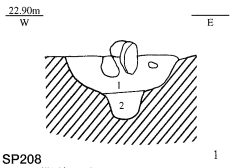


第115図　遺構実測図
SB1

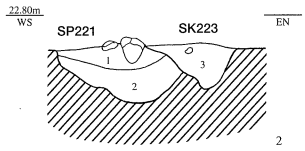


第116図　遺構実測図

1. SP17　2. SP83　3. SP113　4. SP125　5. SP136　6. SP143　7. SP145　8. SP146　9. SP150　10. SP152
11. SK54・SP159　12. SP175　13. SP174　14. SP174・SK373　15. SK85・SP186　16. SP194・SP195　17. SP205

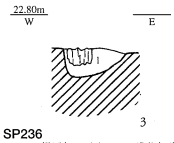


SP208
1. 10YR4/1褐灰色シルト
(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト5%・2.5Y4/1黄灰色シルト2%混)
2. 10YR5/1褐灰色砂質シルト
(2.5Y7/3浅黄色砂1%混,酸化鉄混)

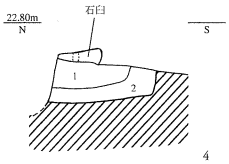


SP221
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト5%混)
2. 10YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト混,炭化物混)

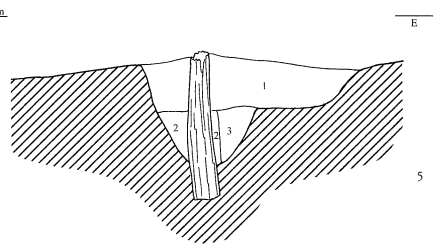
SK223
3. 10YR4/1褐灰色シルト



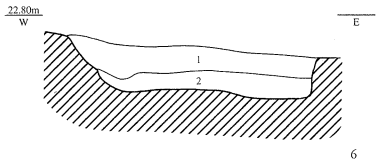
SP236
1. 10YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト5%混)

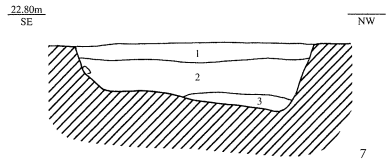


SP249
1. 2.5Y6/1黄灰色シルト(酸化鉄混)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト(浅黄色砂20%混)

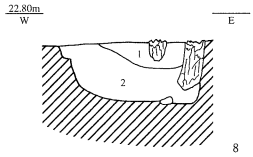


SP253
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y4/1黄灰色シルト・2.5Y7/3浅黄色砂10%混,植物遺体混)
2. 5Y6/1灰色砂(2.5GY6/1オリーブ灰色砂10%・2.5Y7/3浅黄色砂3%混,炭化物混)
3. 2.5GY6/1オリーブ灰色砂(2.5Y7/3浅黄色砂20%混,炭化物混)

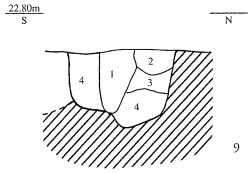




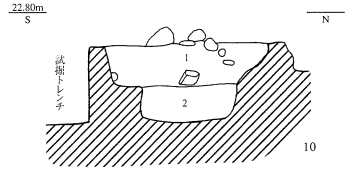
SP241
1. 2.5Y7/3浅黄色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト10%混,炭化物混)
2. 2.5Y7/3浅黄色シルト(10YR4/1褐灰色シルト10%混)
3. 5B4/1暗青灰色粘土質シルト



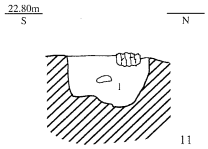
SP277
1. 2.5Y6/1黄灰色(2.5Y7/1灰白色シルトブロック状に1%・2.5Y7/3浅黄色砂1%・N21黒色粘土質2cm粒状に混)
2. 2.5Y7/1灰白色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂10%・N2/1黒色粘土質シルト2cm粒状に混)



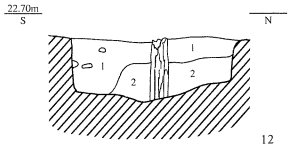
SP283
1. 10YR4/1褐灰色シルト
(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト2%混,炭化物混)
2. 10YR4/1褐灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂ブロック状に混)
3. 2.5Y5/1黄灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂ブロック状に混)
4. 2.5Y5/1黄灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂帯状に混)

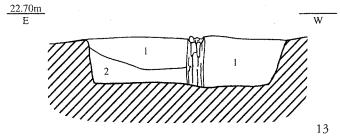


SP285
1. 10YR4/1褐灰色シルト
(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト20%混,炭化物混)
2. 10YR4/1褐灰色シルト(2.5Y5/3淡黄色7%混)



SP286
1. 10YR4/1褐灰色シルト
(2.5Y5/1黄灰色シルト混,炭化物混)

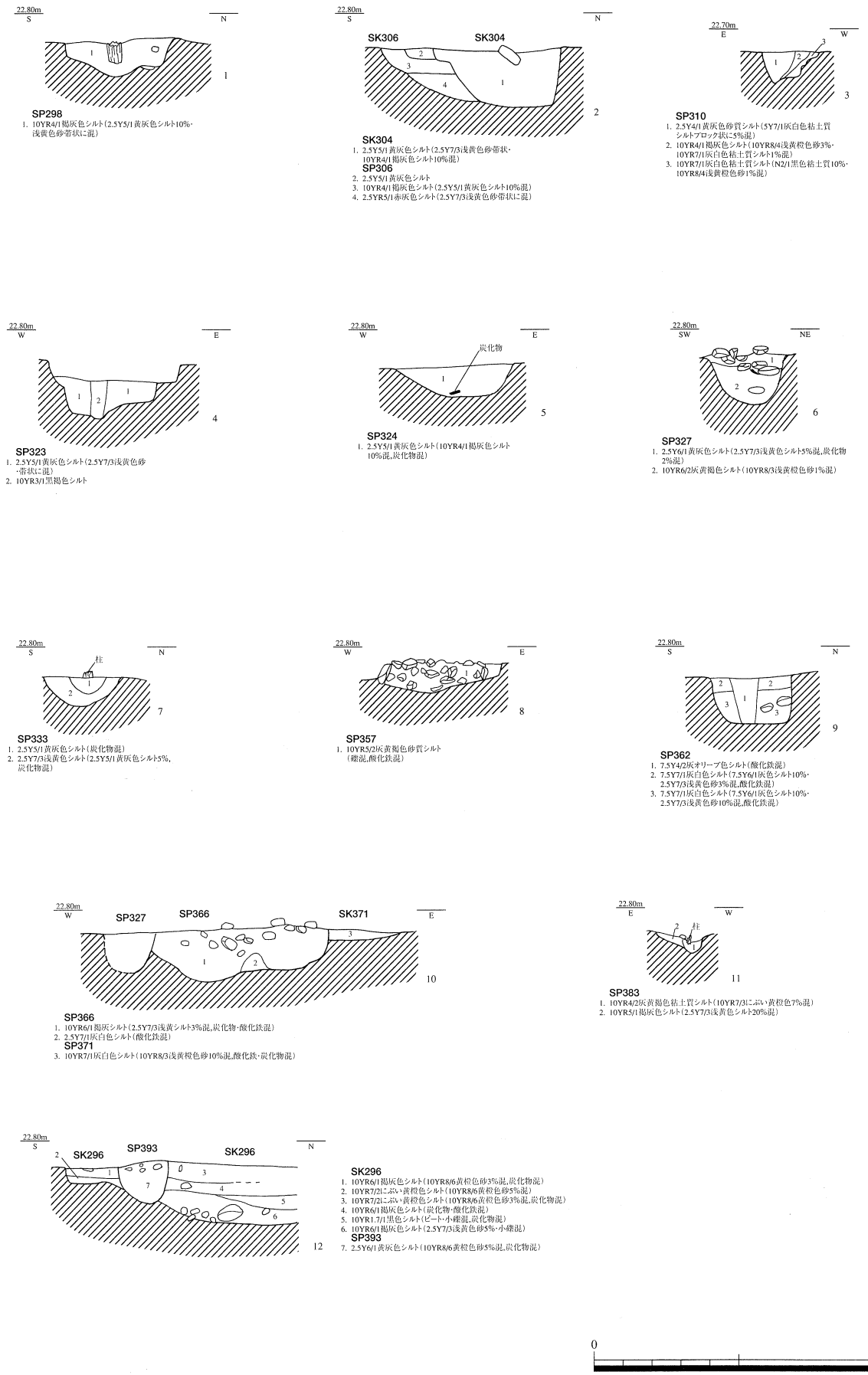




SP288
1. 10YR5/1褐灰色砂質シルト(10YR7/1灰白色シルト5%・N2/1黒色粘土質シルト・10YR7/3にぶい黄橙色砂10%・小礫混)
2. 10YR4/1褐灰色砂質シルト(10YR7/1灰白色シルト5%・N2/1黒色粘土質シルト・10YR7/3にぶい黄橙色砂10%・小礫混)

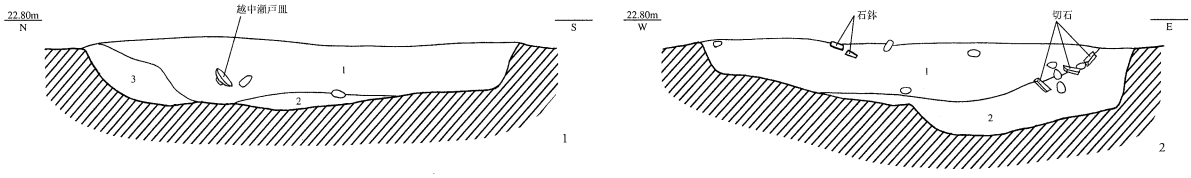
第117図 遺構実測図

1. SP208 2. SP221・SK223 3. SP236 4. SP249 5. SP253 6・7. SP241 8. SP277 9. SP283 10. SP285 11. SP286 12・13. SP288

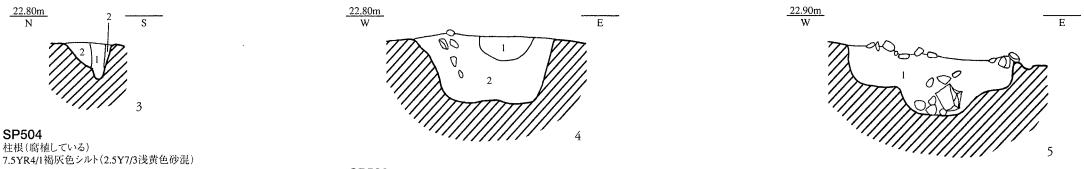


第118図　遺構実測図

1. SP298　2. SP304・SK306　3. SP310　4. SP323　5. SP324　6. SP327　7. SP333　8. SP357
9. SP362　10. SP366・SK371　11. SP383　12. SK296・SP393



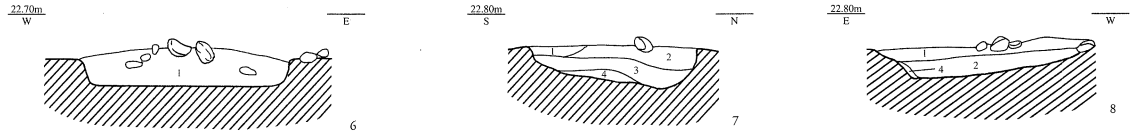
SP483
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂20%・大礫5%混)
2. 7.5YR3/1黒褐色シルト(10YR4/1褐灰色粘土質シルト10%混)
3. 2.5Y7/3浅黄色砂(7.5YR4/1褐灰色砂質土5%混)



SP504
1. 柱根(腐植している)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂混)

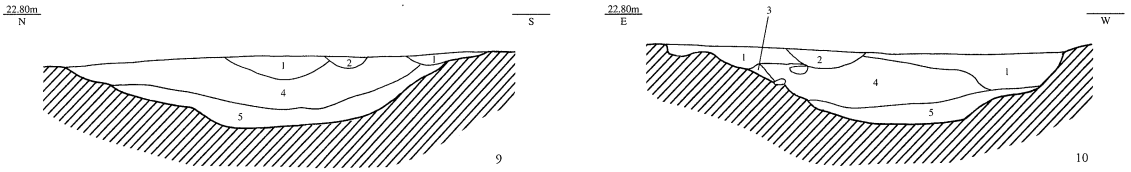
SP526
1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト(7.5YR5/4にぶい褐色砂混)
2. 10YR3/1黒褐色砂質土(大礫2%)

SP574
1. 7.5YR4/4褐色シルト(大礫30～50%混)

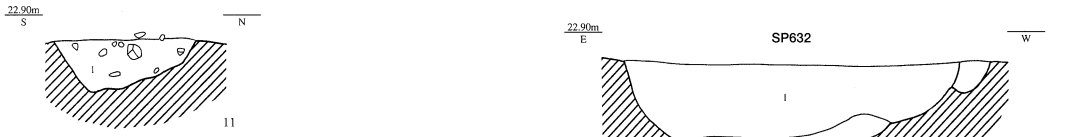


SP573
1. 10YR3/2黒褐色砂質土

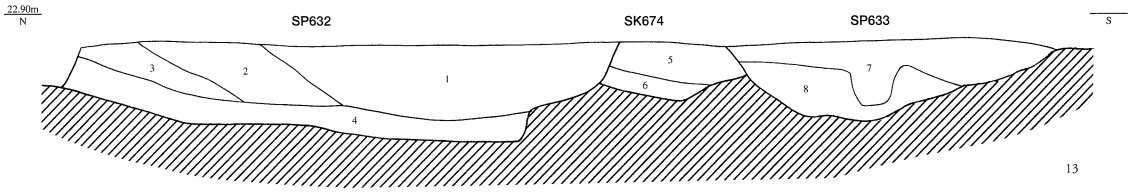
SP581
1. 7.5YR3/1黒褐色砂質シルト
2. 2.5Y7/3浅黄色砂
3. 7.5YR3/1黒褐色砂質土
4. 7.5YR4/2灰褐色砂質シルト



SP583
1. 10YR4/1褐灰色シルト(10YR2/1黒色砂質土5%・2.5Y7/3浅黄色砂5%・10YR6/1褐灰色粘土5%混)
2. 2.5Y7/3浅黄色砂
3. 7.5YR4/1褐灰色シルト
4. 7.5YR4/1褐灰色シルト(10YR2/1黒色砂質土1%・2.5Y7/3浅黄色砂5%混)
5. 7.5YR5/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂10%混)



SP616
1. 10YR4/1褐灰色シルト(礫20%混)



SP632
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト15%・2.5Y2/1黒色粘土質シルトブロック状に2%混,炭化物混)
2. 2.5Y7/3浅黄色砂(7.5YR4/1褐灰色シルトブロック状に40%混)
3. 2.5Y7/3浅黄色砂(礫30%混)
4. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状に50%混)

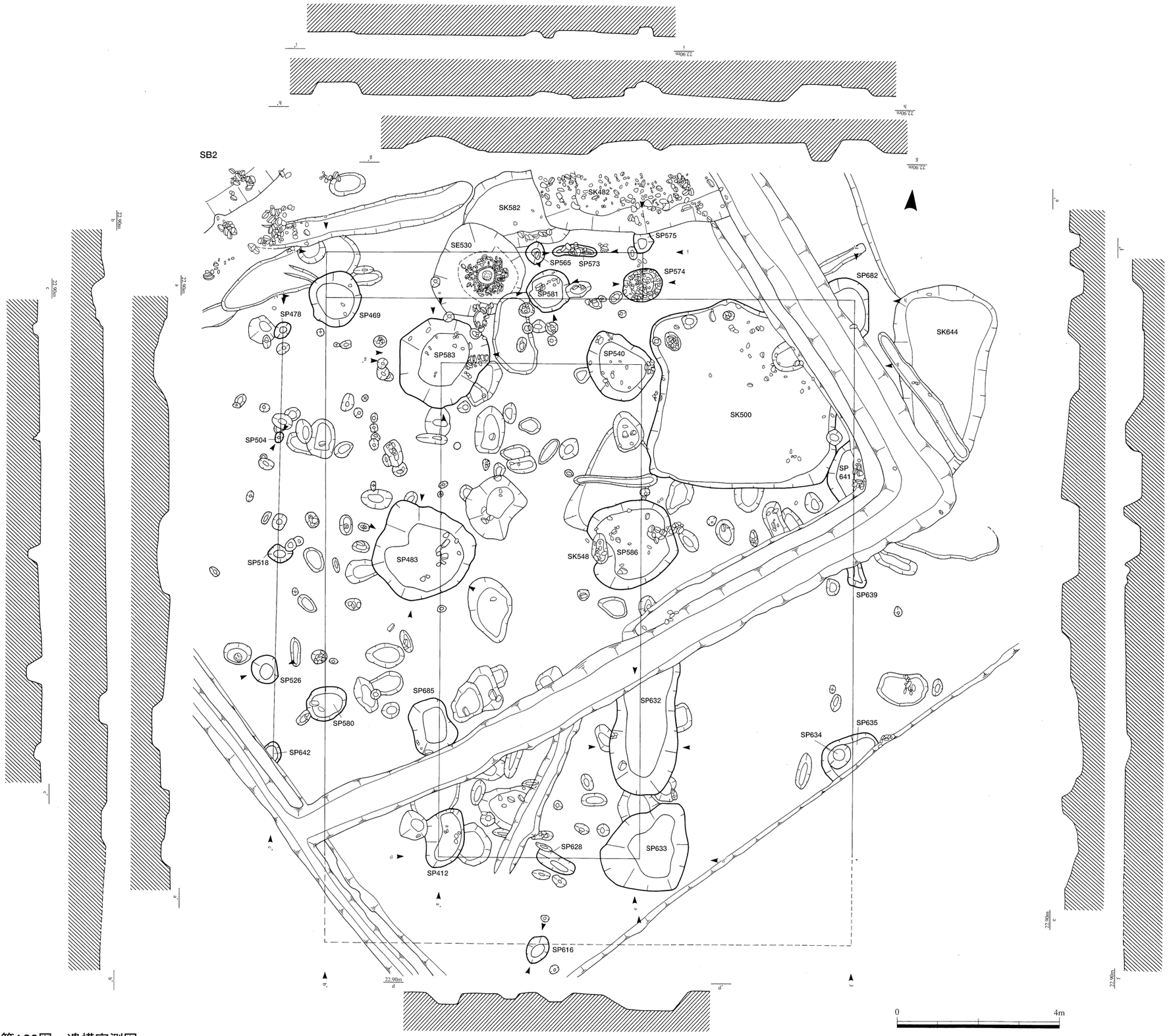
SK674
5. 7.5YR4/1褐灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂帯状に5%・礫2%混)
6. 2.5Y7/3浅黄色砂(2.5Y5/1黄灰色シルトブロック状に20%混)

SP633
7. 2.5Y5/1黄灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂帯状に10%・礫5%混)
8. 7.5YR4/1褐灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂帯状に5%・2.5Y7/3浅黄色砂質シルト帯状に5%混)

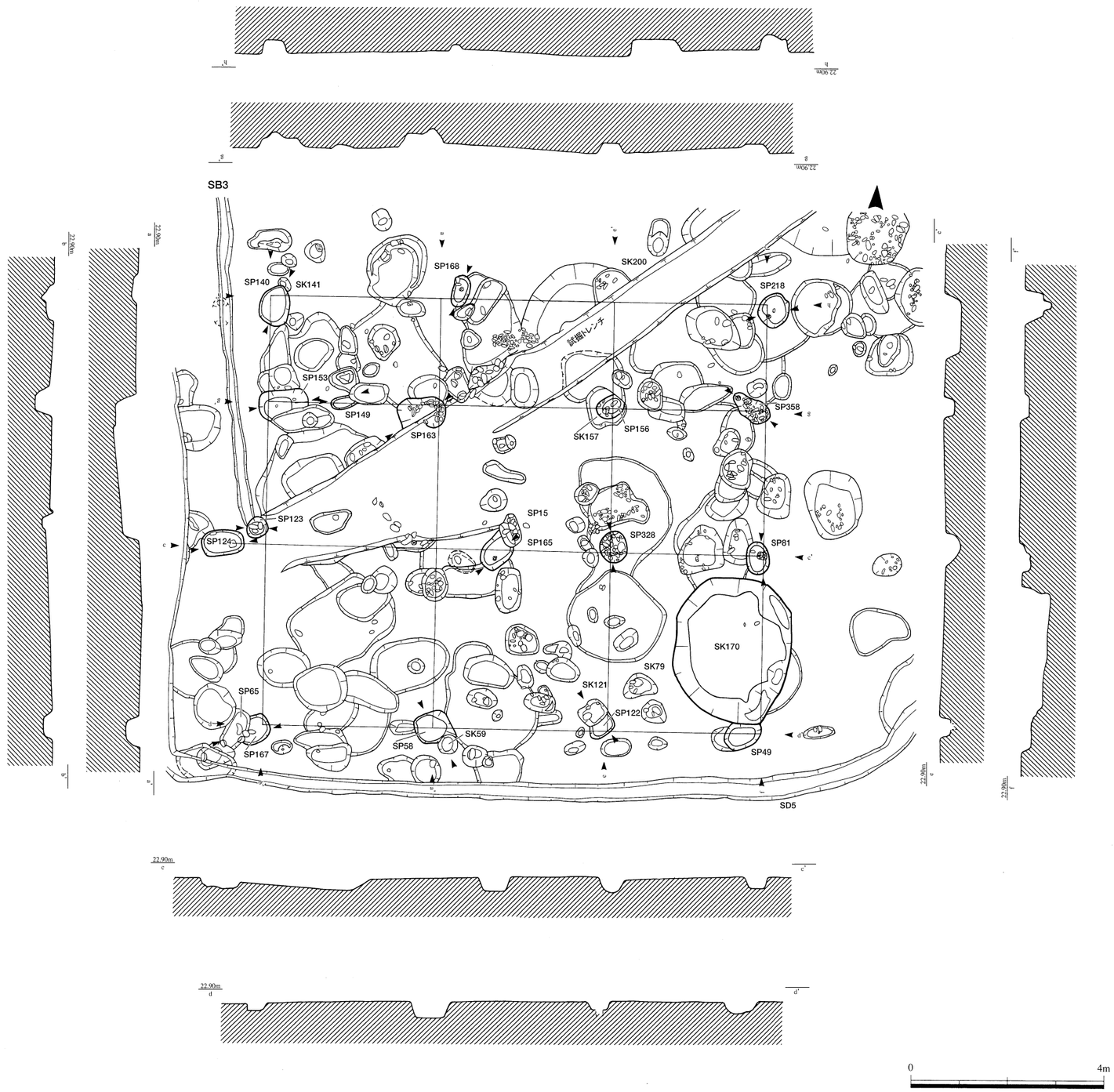
0 2m

第119図 遺構実測図

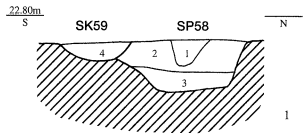
1・2. SP483 3. SP504 4. SP526 5. SP574 6. SP573 7・8. SP581 9・10. SP583 11. SP616 12. SP632 13. SP632・SP633・SK674



第120図　遺構実測図
SB2

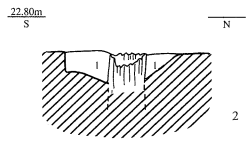


第121図　遺構実測図
SB3

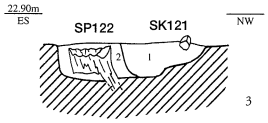


SP58
1. 10YR8/1灰白色シルト(黄灰色シルト5%・2.5Y7/3浅黄色砂質シルト10%混,炭化物混)
2. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト2%混)
3. 7.5YR5/8明褐色砂(2.5YR5/1赤灰色シルト10%混,炭化物混)

SK59
4. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルトブロック状・10YR4/1褐灰色シルト10%混)

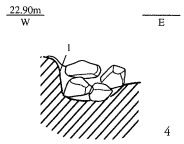


SP81
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂ブロック状・帯状に混)

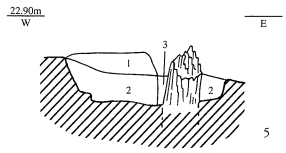


SK121
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂20%・N4/0灰色シルト1%混)

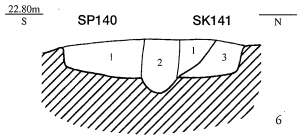
SP122
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂30%・N4/0灰色シルト1%混)



SP123
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(10YR4/1褐灰色シルト10%・2.5Y7/3浅黄色砂20%混)

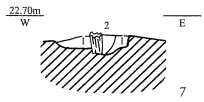


SP124
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト20%混,炭化物混)
2. 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト(2.5Y7/3浅黄色砂混)
3. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト

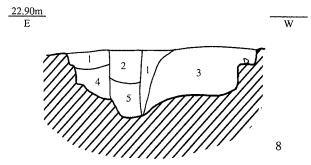


SP140
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(10YR4/1褐灰色シルトブロック状30%・2.5Y7/3浅黄色砂質シルト10%混)
2. 柱痕　7.5YR4/1褐灰色シルト

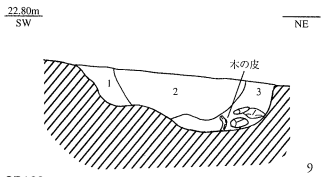
SK141
3. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト10%混)



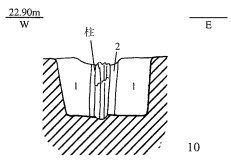
SP149
1. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状に混)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト



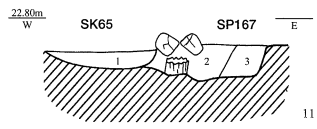
SP153
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト混)
2. 柱痕　2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト(植物道体混)
3. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト帯状に混)
4. 2.5Y6/1黄灰色シルト
5. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト30%混,植物道体混)



SP163
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(10YR4/1褐灰色シルト20%混,炭化物混)
2. 10YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト10%・2.5Y5/1黄灰色シルトブロック状30%混,炭化物混)
3. 10YR4/1褐灰色シルト(炭化物混)

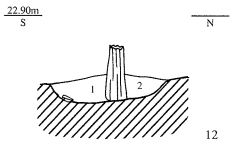


SP165
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(浅黄色砂質シルト20%混,炭化物混)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト(浅黄色砂質シルト2%混,炭化物混)

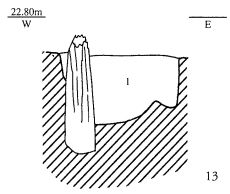


SK65
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト

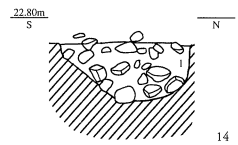
SP167
2. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト
3. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状に混)



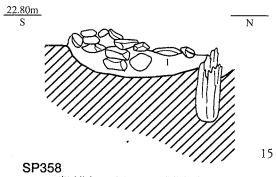
SP168
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト5%・10YR4/1褐灰色シルト5%混,炭化物混)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト



SP218
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂ブロック状5%混,炭化物混)



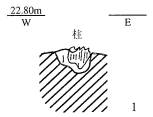
SP328
1. 2.5Y6/1黄灰色シルト(酸化鉄混)



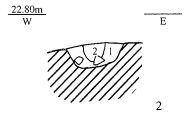
SP358
1. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂10%混)

第122図　遺構実測図

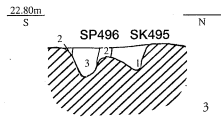
1. SP58・SK59　2. SP81　3. SK121・SP122　4. SP123　5. SP124　6. SP140・SP141　7. SP149　8. SP153　9. SP163　10. SP165　11. SK65・SP167　12. SP168　13. SP218　14. SP328　15. SP358



SP475
1. 7.5Y4/1褐灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂2%混)

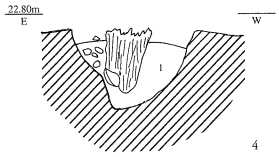


SP477
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂帯状・2.5Y7/3浅黄色砂20%混)
2. 柱痕 7.5Y4/1褐灰色シルト(植物遺体混)

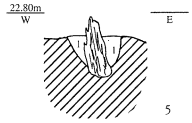


SK495
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂混)

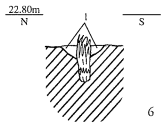
SP496
2. 2.5Y7/3浅黄色砂(褐灰色シルト10%混)
3. 柱痕 7.5YR4/1褐灰色シルト



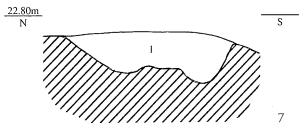
SP525
1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト(2.5Y7/3浅黄色砂1%・大礫1%混)



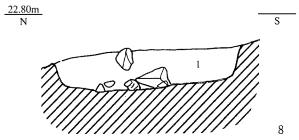
SP522
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(7.5YR3/1黒褐色シルトブロック状に5%混)



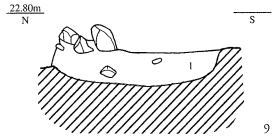
SP536
1. 5Y6/1灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂10%混)



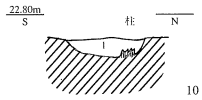
SP538
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂2%混)



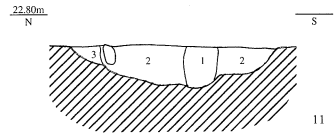
SP541
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状・2.5Y4/1黄灰色シルト中粒10%混,炭化物混)



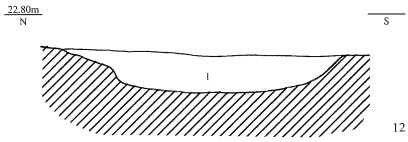
SP545
1. 7.5YR3/2黒褐色砂質土(2.5Y7/3浅黄色砂5%混)



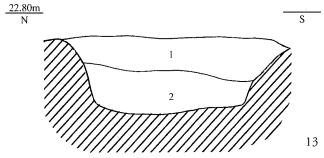
SP549(SB4外)
1. 2.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状に20%・2.5Y5/1黄灰色シルト10%混)



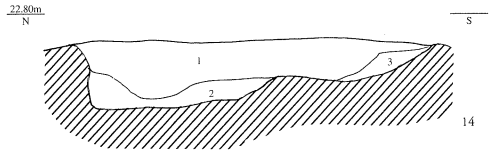
SP584
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(7.5YR2/1黒色粘土質シルト2%混)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状に混)
3. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂2%混)



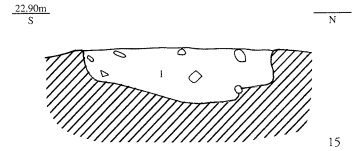
SP587
1. 10YR4/1褐灰色シルト(礫15%混)



SP598
1. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト(7.5YR4/1褐灰色シルトブロック状に40%・7.5YR2/1黒色粘土質シルト1%混)
2. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト(7.5YR4/1褐灰色シルト2%混,炭化物混)



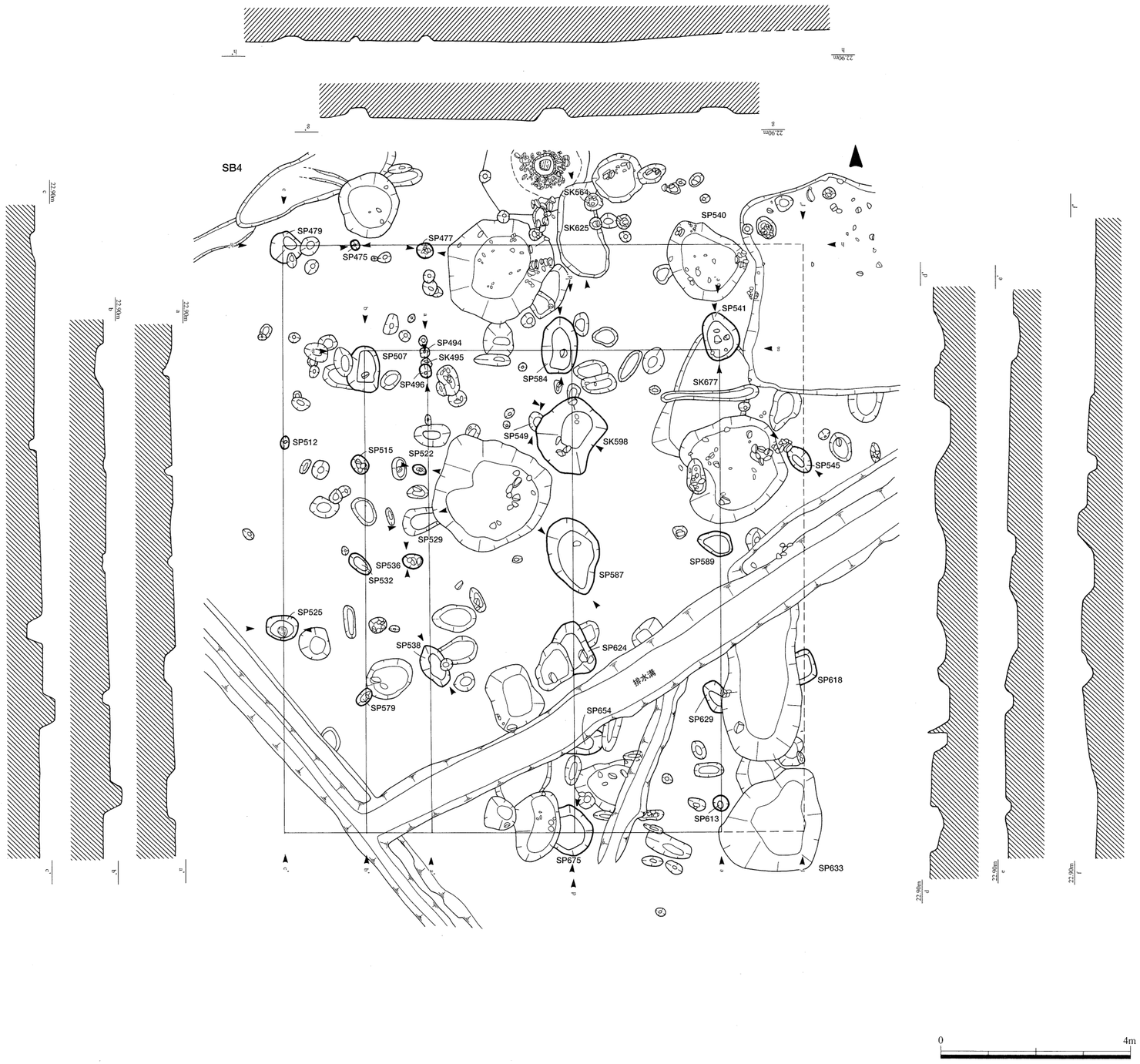
SK625(SB4外)
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂帯状に10%・2.5Y2/1黒色粘土質シルト2%混)
2. 2.5Y7/3浅黄色砂(7.5YR4/1褐灰色シルト5%・2.5Y2/1黒色粘土質シルト1%混)
3. 2.5Y7/3浅黄色砂(7.5YR4/1褐灰色シルト2%混)



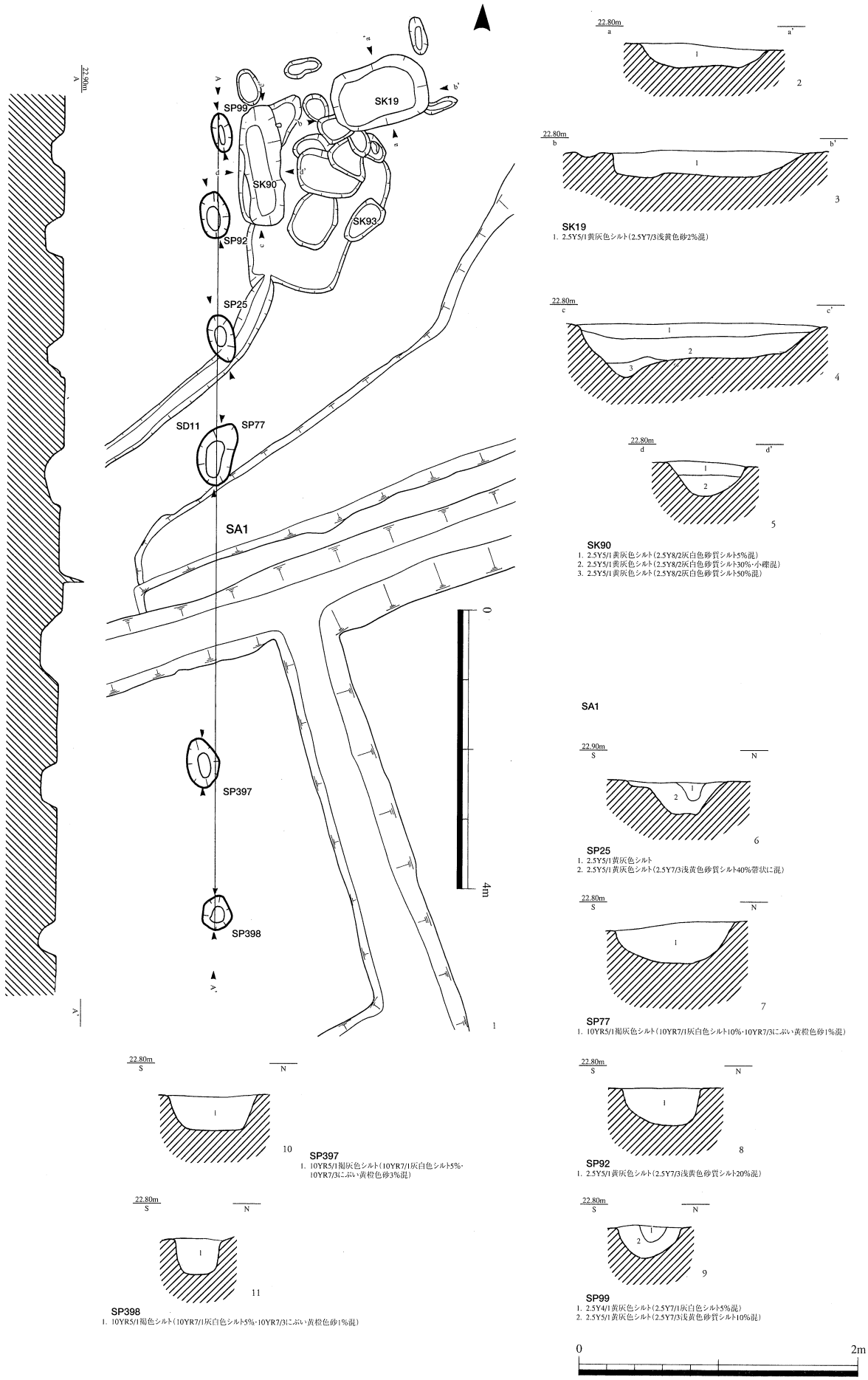
SP675
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状・礫2%混)

第123図 遺構実測図

1. SP475 2. SP477 3. SK495・SP496 4. SP525 5. SP522 6. SP536 7. SP538 8. SP541 9. SP545 10. SP549(SB4外) 11. SP584 12. SP587 13. SP598 14. SK625(SB4外) 15. SP675

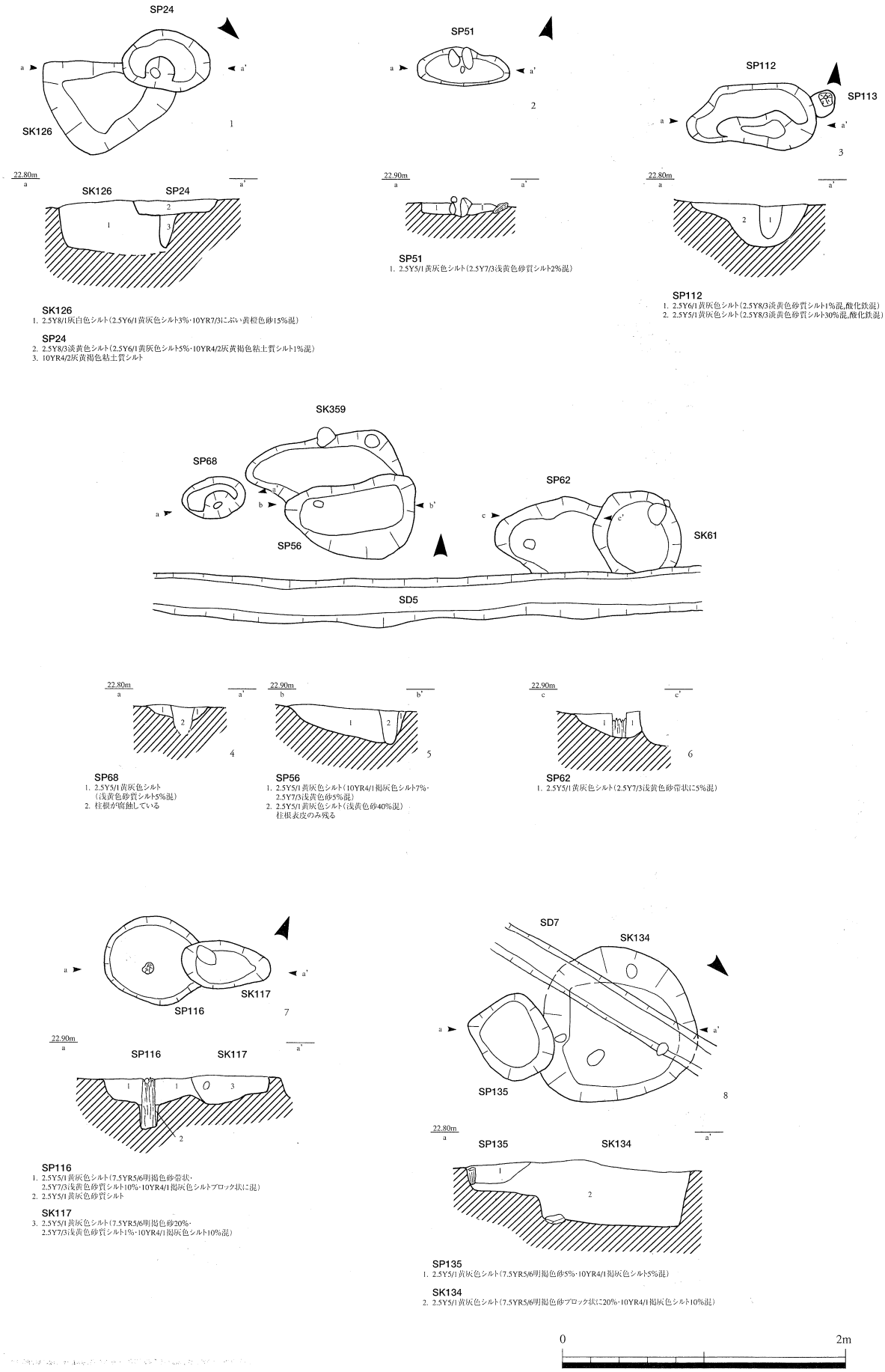


第124図　遺構実測図
SB4



第125図　遺構実測図

1. SA1　2・3. SK19　4・5. SK90　6. SP25　7. SP77　8. SP92　9. SP99　10. SP397　11. SP398



SK126
1. 2.5Y8/1灰白色シルト(2.5Y6/1黄灰色シルト3%・10YR7/3にぶい黄橙色砂15%混)

SP24
2. 2.5Y8/3淡黄色シルト(2.5Y6/1黄灰色シルト5%・10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト1%混)
3. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト

SP51
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト2%混)

SP112
1. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y8/3淡黄色砂質シルト1%混,酸化鉄混)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y8/3淡黄色砂質シルト30%混,酸化鉄混)

SP68
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト
(浅黄色砂質シルト5%混)
2. 柱根が腐蝕している

SP56
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(10YR4/1褐灰色シルト7%・2.5Y7/3浅黄色砂5%混)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト(浅黄色砂40%混)
柱根表皮のみ残る

SP62
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状に5%混)

SP116
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂帯状・2.5Y7/3浅黄色砂質シルト10%・10YR4/1褐灰色シルトブロック状に混)
2. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト

SK117
3. 2.5Y5/1黄灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂20%・2.5Y7/3浅黄色砂質シルト1%・10YR4/1褐灰色シルト10%混)

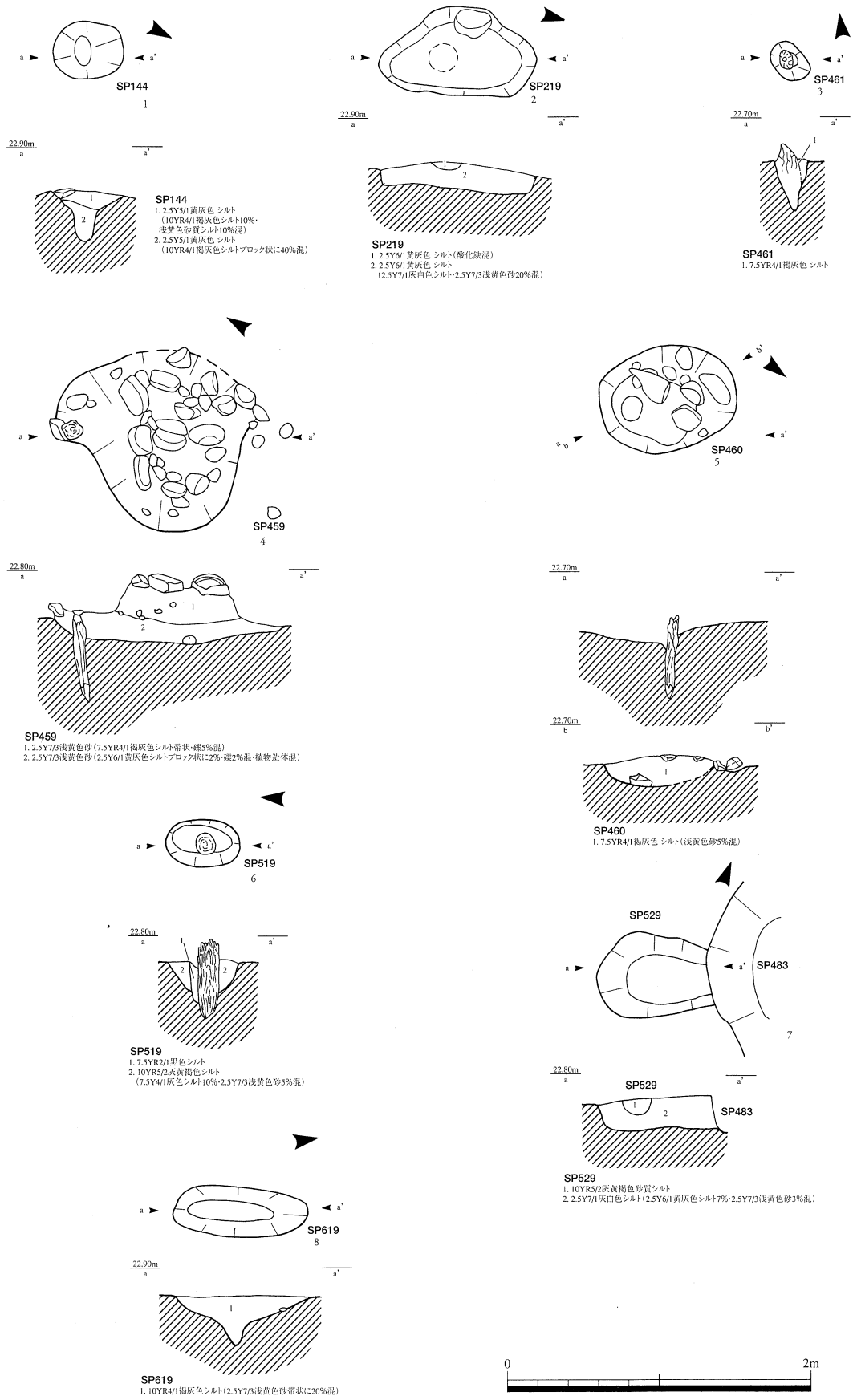
SP135
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂5%・10YR4/1褐灰色シルト5%混)

SK134
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト(7.5YR5/6明褐色砂ブロック状に20%・10YR4/1褐灰色シルト10%混)

0 2m

第126図 遺構実測図

1. SP24・SK126 2. SP51 3. SP112 4. SP68 5. SP56 6. SP62 7. SP116・SK117 8. SK134・SP135



第127図　遺構実測図

1. SP144　2. SP219　3. SP461　4. SP459　5. SP460　6. SP519　7. SP529　8. SP619

直径は21cm，深さは19cmである。ＳＢ１の柱穴の可能性があるが，柱列に並ばない。

D 溝

１号溝（ＳＤ１，第128・129図）

西側調査区の東端に位置する南北方向の溝で，北側は農道下にのび，東肩は若干撹乱をうけている。幅170cm，深さ62cmである。埋土は何層かに分かれるが，基本的には下層に粘土質シルトが堆積し，上層に若干の礫が混入するシルト系の土が堆積する。底の標高は南側で22.33m，北側で22.16mを測り，北へ向かって傾斜している。

東側調査区のＳＤ450の方へ向かうが，ＳＤ450は東から西へ向かって流れており，埋土も異なるので別の遺構と考えられる。

出土遺物は越中瀬戸，漆器，煙管である。煙管は上層から出土しており，埋土と包含層の間から唐津内野山窯の製品が出土していることから，溝は17世紀頃の遺構で，17世紀末～18世紀前半頃に埋まったものと推測される。

２号溝（ＳＤ２，第128・130図，図版105）

西側調査区の西側に位置する南北方向の溝で，北側は調査区外へのび，南側はＳＤ403に接するが切り合いは不明である。幅は380cm，深さは32cmである。ＳＤ５・ＳＤ７が建物の敷地を区画する溝と考えられる一方，当遺構はこの集落を大きく区画する溝と考えられる。

基本的には幅広の１条の溝と考えられるが，底は３条の溝が平行して走るような地山の高まりがある。中央の地山の高まりと，溝の底の高低差は20～40cmである。３条の溝状のプランは溝全体を10cm程下げた時点で検出され，ｄセクション付近までは明瞭であったが，ＳＤ403と接する辺りで不明瞭になった。形状から人工的に掘られた溝と考えられるが，なぜこの様な形状を呈するのか不明である。

出土遺物は，珠洲・土師質土器・越中瀬戸・唐津・伊万里，漆器・加工木，石臼，金属製品である。唐津内野山窯製品の小破片を下限と考えると，溝は17世紀末～18世紀前半頃に埋まったと推測される。

５号溝（ＳＤ５，第128・132図，図版105）

ＳＤ３の西側から南側を囲むように巡る溝で，敷地を区画する溝と考えられる。幅は最も広い部分で80cm，深さは19cmである。埋土は黄灰色シルトである。北側は調査区外にのび，南西のコーナーはＳＢ３の敷地に合わせて直角に曲がり，ＳＢ３の西辺を過ぎた辺りでやや内側に入り再び西へ向かう。西側ではＳＤ６が平行に走っているが，切り合いからＳＤ５がＳＤ６より新しく，当初ＳＤ６の流路であったものが，後でやや南の方へ付け替えられたものと考えられる。

切り合いから，柱根のあるＳＰ62，及びＳＫ106・ＳＫ107・ＳＫ133より新しく，ＳＫ133から胎土目の唐津が出土していることから，ＳＤ５は16世紀末～17世紀後半に造られたものと考えられる。また，埋土から伊万里の青磁皿が出土していることから，17世紀後半頃に埋まったものと推測される。

６号溝（ＳＤ６，第128・132図）

ＳＢ３の南西に位置し，切り合いからＳＤ５の付け替え前の溝と考えられる。幅は42cm，深さは10cmで，埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトが混入する土である。

７号溝（ＳＤ７，第128・132図）

ＳＢ１の西側から南西端にかけて検出された溝で，幅30cm，深さ12cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトが混入する土である。ＳＢ１より南西に位置するＳＫ29・ＳＫ30の上面にもこの溝の埋土が確認されたが，薄く残っているだけだったため精査中にみえなくなってしまった。もとはＳＫ29付近で西へ曲がり，ＳＢ１を取り囲んでいたと推測される。切り合いからＳＫ134より新しい。

８号溝（ＳＤ８，第128・132図）

ＳＤ２とＳＤ５の間にある細い溝で，幅32cm，深さ６cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトが混入する土である。浅いため途切れがちで南北に続きがあったのかどうかは不明である。

９号溝（ＳＤ９，第128・130図）

西側調査区の南側にある溝で，ＳＤ10・ＳＤ11と平行に走るが，性格は不明である。幅54cm，深さ７cmで，埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトが混入する土である。

10号溝（ＳＤ10，第128・130図）

西側調査区の南側にある溝で，ＳＤ９・ＳＤ11と平行に走るが，性格は不明である。幅は最も広いところで210cm，深さ10cmで，埋土は褐灰色シルトにピートが混入する土である。

11号溝（ＳＤ11，第128・132図）

西側調査区の南側にある溝で，ＳＤ９・ＳＤ10と平行に走るが，性格は不明である。幅40cm，深さ12cmで，埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルト，ピート，植物遺体が混入する土である。

403号溝（ＳＤ403，第128・130図，図版105）

西側調査区の西端に位置する溝である。ＳＤ２と接するが，切り合いは不明であった。北側は深さ14cmと浅く，埋土は地山の砂質シルトに灰白色シルトが少量混入する土で，南端では深さ40cmで埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトと灰黄褐色粘質シルトが混入する土である。

南側の，東肩が直線的になる部分が本流で，北側は氾濫により地山が削られた部分ではないかと考えられる。幅は北の最も広いところで760cmであるが，南の本流と推測する部分では，底に礫が集まっている辺りが最も低く，西の方へ向かって高くなっており，本来の溝の幅は３～４ｍと推測される。上面からＳＤ405が掘り込まれており，ＳＤ403が古い。出土遺物は越中瀬戸・伊万里，加工木で，遺物の年代から溝は17世紀～18世紀の遺構で18世紀後半～19世紀初頭頃に埋まったものと推測される。

404号溝（ＳＤ404，第128・132図）

調査区西端の細い溝で，流路は直角に曲がる。幅22cm，深さは６cmで浅く，北側は途切れる。埋土は黄灰色シルトで，時期は不明である。

405号溝（ＳＤ405，第128・130図）

調査区西端に位置し，ＳＤ403の上面から掘り込まれている。幅は最も広いところで120cm，深さは７cmで浅く，南側は途切れる。埋土は褐灰色シルトに小礫と炭化物が混入する土である。

出土遺物は越中瀬戸の小破片である。ＳＤ403より新しいので，18世紀後半～19世紀初頭以降の溝と考えられる。

450号溝（ＳＤ450，第131・144図，図版105）

東側調査区の北側を東西に走る幅約２ｍ，深さ30cmの溝である。埋土は，上層が褐灰色シルトに地山の砂質シルトが混入する土で，下層は灰黄褐色砂質シルトである。下層には植物遺体が多く含まれていた。

底面の標高は西端で22.28m，東端で22.48mを測り，西へ向かって傾斜している。西端は南に向かって緩やかに湾曲し，西側調査区のＳＤ１の方向へ向かっているが，ＳＤ１は北へ向かって底面が傾斜しており埋土も異なるため，別の遺構と考えられる。

切り合いからＳＫ451より古く，ＳＤ455・ＳＫ415・ＳＫ454・ＳＫ456より新しい。ＳＫ454から登窯期の製品と考えられる越中瀬戸皿が出土しているため，ＳＤ450は17世紀以降に造られたと考えられる。また，埋土から越中瀬戸・唐津・伊万里が出土しており，その年代から溝は17世紀末～18世紀

前半に埋まったものと推測される。

455号溝（ＳＤ455，第131図）

東側調査区のＳＤ450の北に位置する。幅22cm，深さ14cmで，埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入した土である。切り合いからＳＤ450より古く，ＳＫ415より新しい。ＳＫ415から越中瀬戸が出土しており，ＳＤ455の時期は17世紀前半頃と考えられる。

462号溝（ＳＤ462，第131図，図版105）

東側調査区のＳＤ450の南に位置する。幅56cm，深さ16cm，埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土である。西端に集石がみられる。南側のＳＤ467と平行し，埋土も同様の幅，深さ，埋土であることから２つの溝に挟まれた幅約１ｍの範囲が，公的あるいは建物に伴う私有の道であった可能性が考えられる。

遺物は伊万里の一重網目文の陶胎染付が出土しており，ＳＤ467の時期も併せて考えると，溝は17世紀末～18世紀前半頃に埋まったと推定される。これはＳＢ２の廃絶の時期とも重なり，ＳＢ２に伴うものであった可能性が高い。

463号溝（ＳＤ463，第131図）

東側調査区のＳＤ450の北に位置する。幅26cm，深さ20cm，埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土である。切り合いからＳＤ464より古い。

464号溝（ＳＤ464，第131図）

東側調査区のＳＤ450の北に位置する。幅21cm，深さ23cm，埋土は明褐灰色砂質シルトに地山の砂が混入する土である。切り合いからＳＤ463より新しい。

467号溝（ＳＤ467，第131図）

東側調査区のＳＤ450の南に位置する。幅77cm，深さ16cm，埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，西端に集石がみられる。ＳＤ462と同様の性格のものと考えられる。刷毛目唐津の椀が出土しており，溝は17世紀後半～18世紀前半頃に埋まったと推定される。

471号溝（ＳＤ471，第131図）

東側調査区のＳＤ450の南に位置する。幅38cm，深さ８cm，埋土は地山の砂質シルトに褐灰色シルトが混入する土である。切り合いからＳＫ470・ＳＤ467より古い。胎土目の唐津が出土しており，溝は16世紀末～17世紀初頭頃に埋まったものと考えられる。

473号溝（ＳＤ473，第131図）

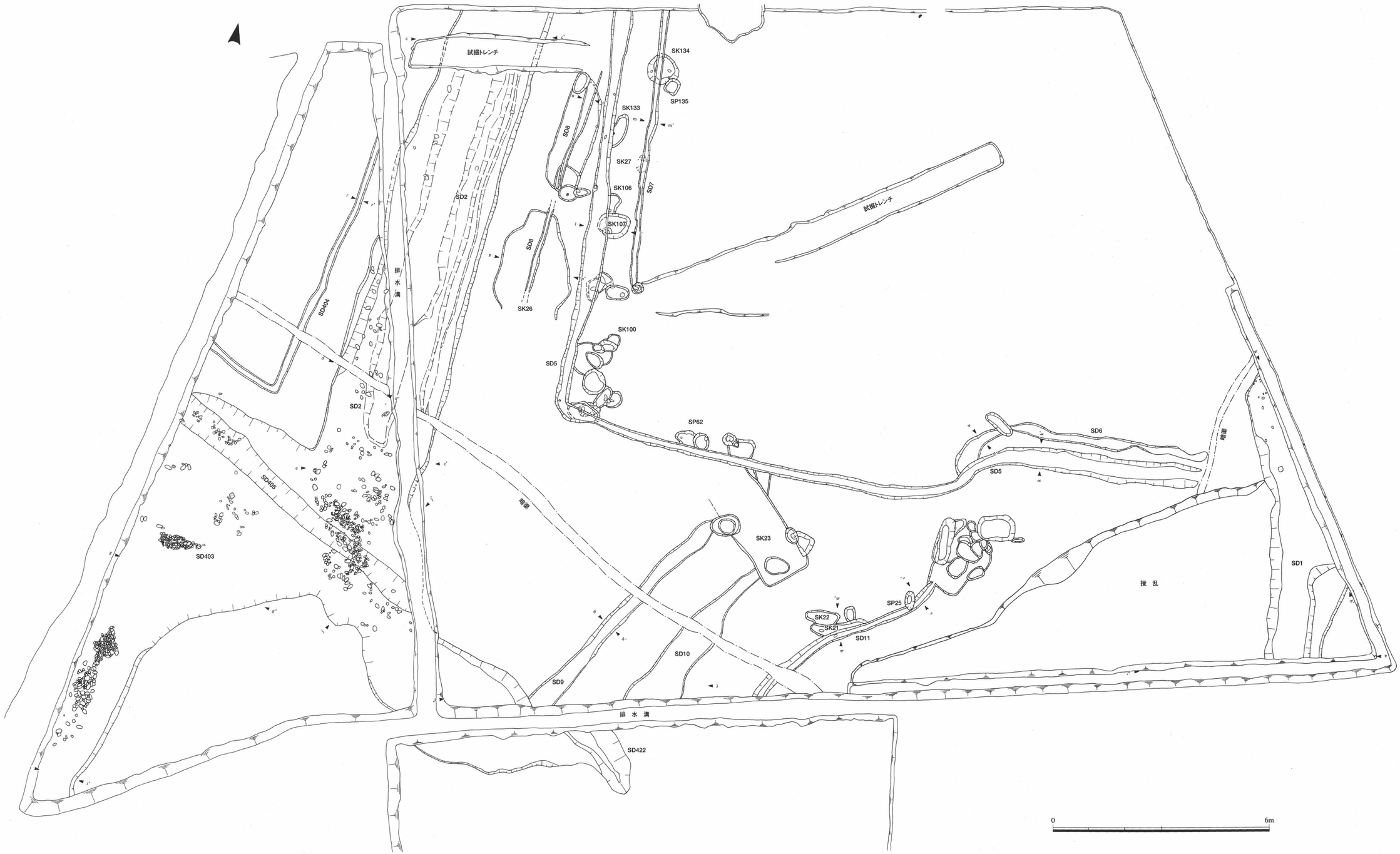
東側調査区のＳＤ450の南に位置しＳＫ470の下から検出された溝状の遺構である。幅23cm，深さ11cm，埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土である。出土遺物は瀬戸美濃の志野丸皿で，ＳＤ467より古いことから，溝は16世紀末～17世紀初頭の遺構と考えられる。

542号溝（ＳＤ542，第146図）

ＳＢ２・ＳＢ４の敷地内東側，ＳＫ677の上面に掘られた短い溝状の遺構である。幅22cm，深さは５cmで，東へ向かって深くなっている。埋土は黒褐色シルトである。切り合いからＳＫ677より新しく，ＳＫ500の南辺に平行であることからＳＢ２に関連する遺構の可能性もあるが，性格は不明である。

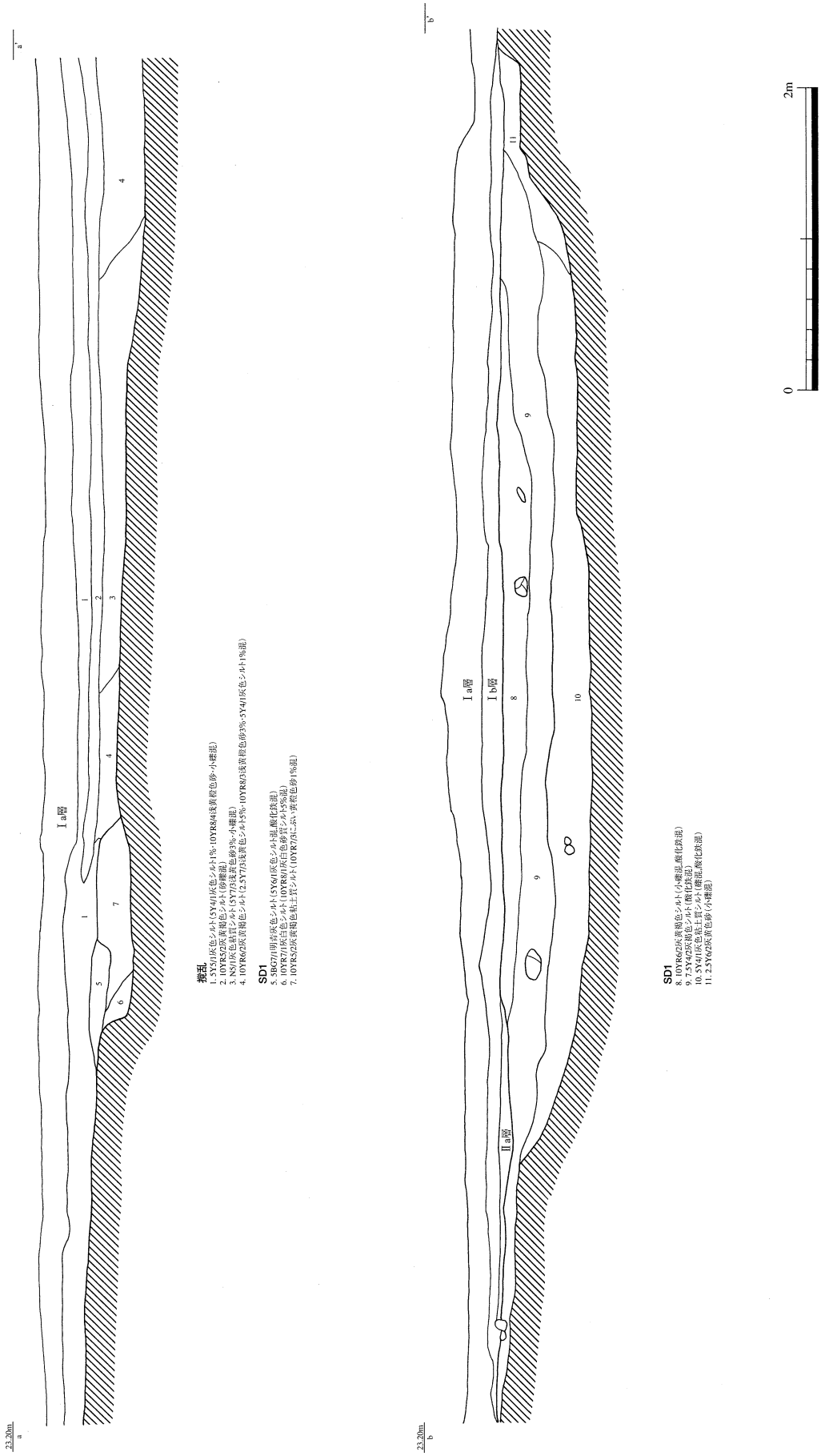
647号溝（ＳＤ647，第147図）

調査区東端，ＳＫ644の上面に位置する細い溝状の遺構である。方向は建物や土坑の向きとは異なり，関連性はないものと考えられる。幅は42cm，深さは７cmである。埋土は褐灰色シルトで，砂が混入する。切り合いからＳＫ644より新しい。

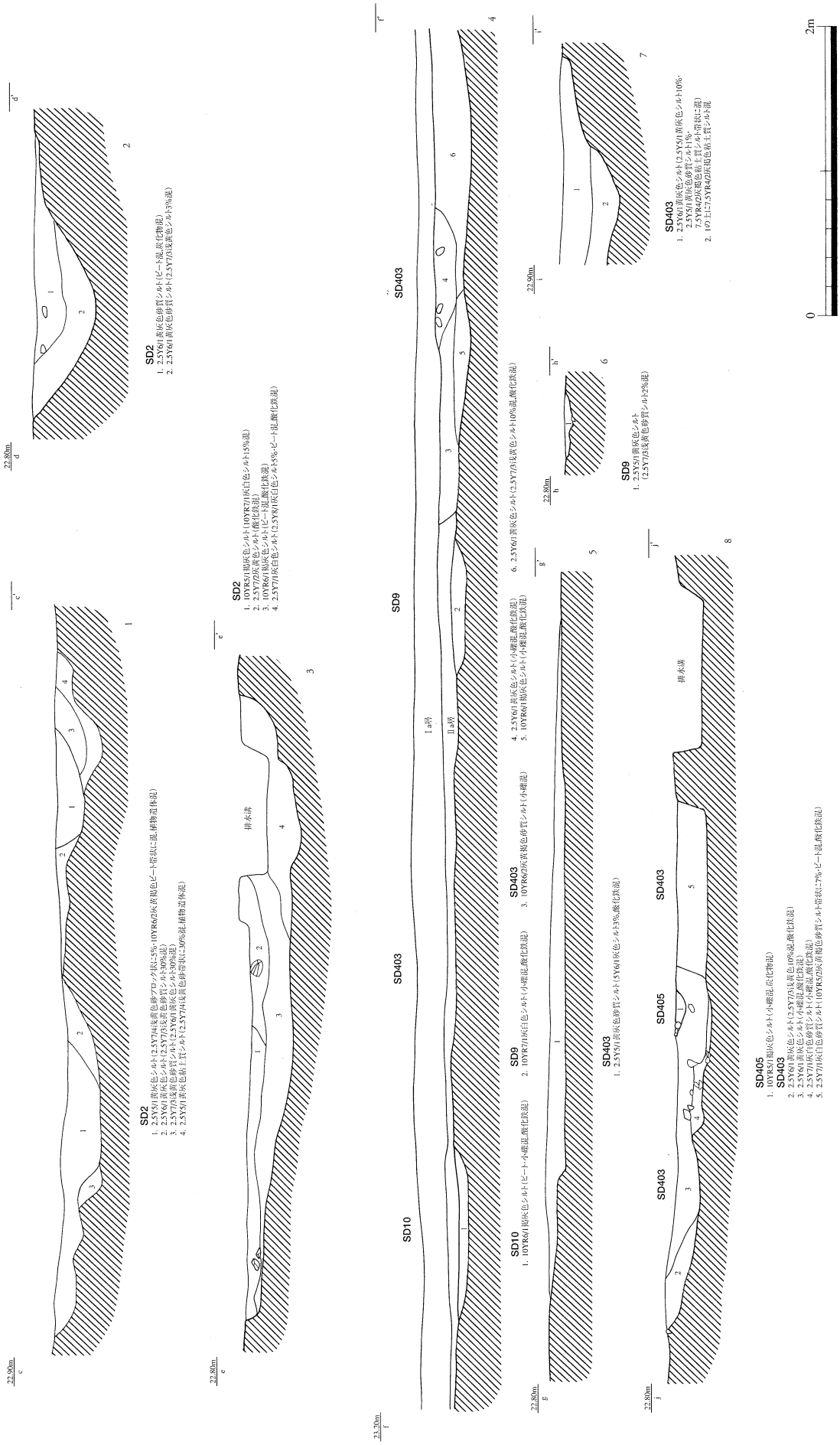


第128図　遺構実測図

SD1・SD2・SD5・SD11・SD403・SD405・SD422

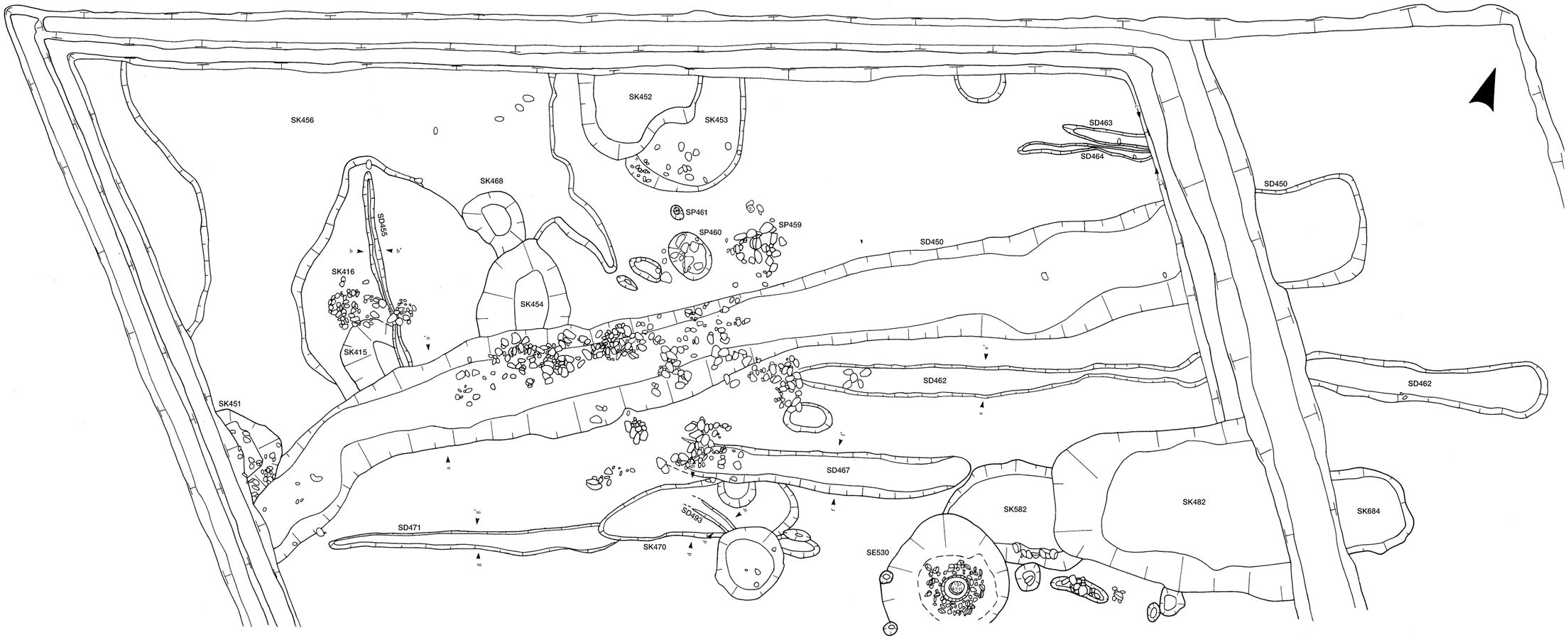


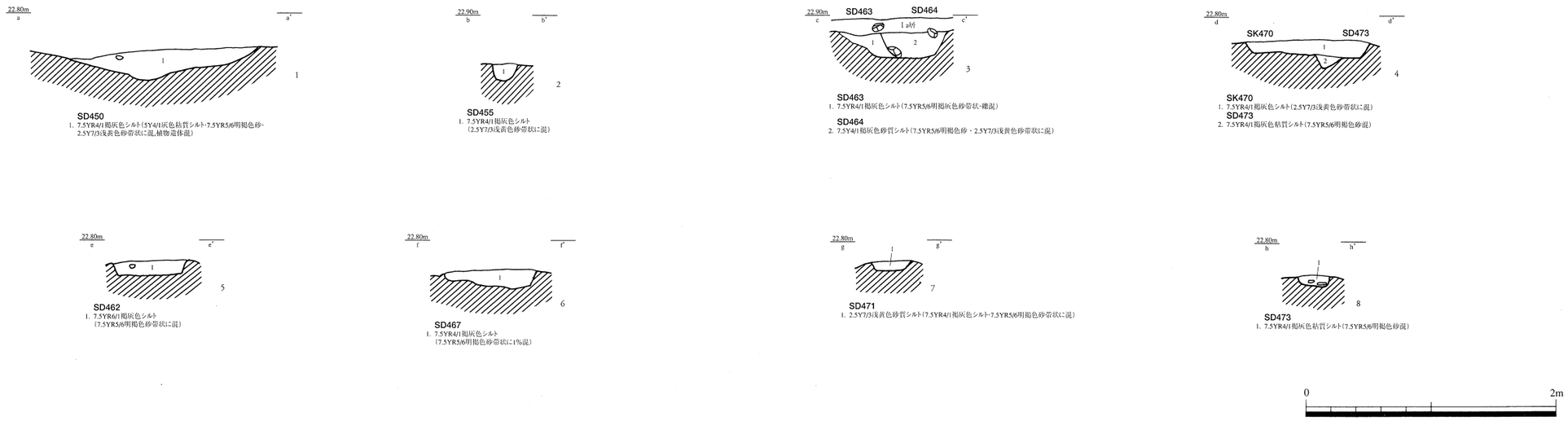
第129図　遺構実測図
SD1



第130図　遺構実測図

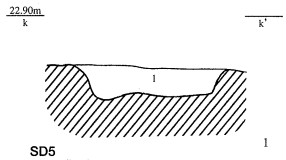
1～3. SD2　4. SD10・SD403・SD9　5・7. SD403　6. SD9　8. SD403・SD405



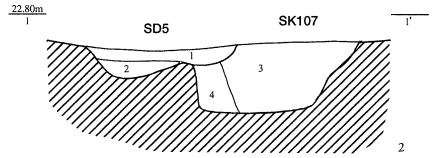


第131図　遺構実測図

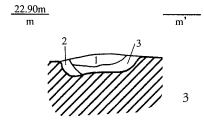
1. SD450　2. SD455　3. SD463・SD464　4. SK470・SD473　5. SD462　6. SD467　7. SD471　8. SD473



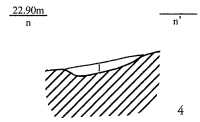
SD5
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト



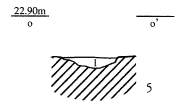
SD5
1. 2.5Y6/1黄灰色シルト(酸化鉄混)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト(酸化鉄混)
SK107
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト(2.5Y7/1灰白色砂質シルト50%混,炭化物・酸化鉄混)
4. 2.5Y4/1黄灰色シルト(2.5Y7/1灰白色砂質シルト1%混)



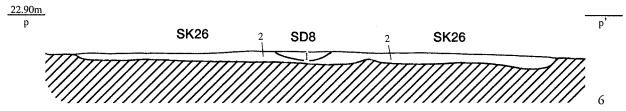
SD7
1. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト(2.5Y5/1黄灰色シルト帯状に混)
2. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト
3. 2.5Y5/1黄灰色シルト



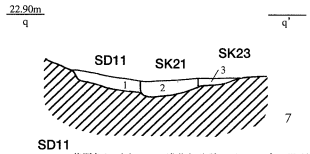
SD6
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト5%混)



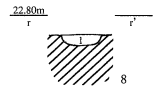
SD8
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト5%混)



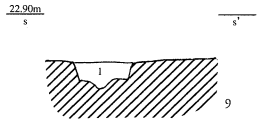
SD8
1. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト
SK26
2. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト(2.5Y6/1黄灰色砂質シルト10%混)



SD11
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト20%・ピート混,植物遺体混)
SK21
2. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト20%混)
SK22
3. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂質シルト20%混)



SD404
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(酸化鉄混)



SD11
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト

第132図　遺構実測図

1. SD5　2. SD5・SK107　3. SD7　4. SD6　5. SD8　6. SD8・SK26　7. SD11・SK21・SK22　8. SD404　9. SD11

E 井　　戸

278号井戸（ＳＥ278，第115・133図，図版106）

井戸側が石組，水溜に曲物を使用する井戸である。西に接するＳＫ279とは埋土の切り合いがなく，ＳＫ279がＳＥ278を構築する際に同時に掘られた浅いテラス部分と考えられる。掘形の平面形は楕円形で直径74㎝，深さは136㎝，底の標高は22.05ｍである。地山は表面に５～７㎝の浅黄色シルトがあり，その下は浅黄色砂，灰色砂が堆積している。井戸は灰色砂の途中まで掘り込まれており，湧水は井戸底より約10㎝下で確認した。石組は，最下段の石が曲物の上面に少しかかる程度に置かれ，上に向かってわずかに開き気味に積まれる。石は10～20㎝大の長方形の河原石を使用し，放射状に置く。曲物は径27㎝，高さは23㎝で二箇所で樺皮綴じされたものであったが調査中に崩れてしまった。下部には釘穴があることから，底板を外し転用したものと考えられる。水溜部分の掘形は約30㎝で曲物に対して狭く，裏込めの土はシルト・砂質シルトである。石組部分の裏込めはシルト・粘土質シルトを用いより強固にしている。井戸内部の埋土は褐灰色シルトにブロック状の黒褐色シルトと粒状の浅黄色砂質シルトが混入する土である。

530号井戸（ＳＥ530，第120・133・145図，図版106）

井戸側が石組で水溜は刳り抜き丸太の井戸である。掘形は径約2.3ｍの円形を呈し，深さは63㎝，底の標高は22.32ｍである。地山は表面に浅黄色シルトが20～30㎝堆積し，その下は褐灰色砂礫，青灰色砂となる。井戸は黄褐色砂礫の途中まで掘られ，湧水は灰色砂を20㎝掘り下げた時点で確認した。

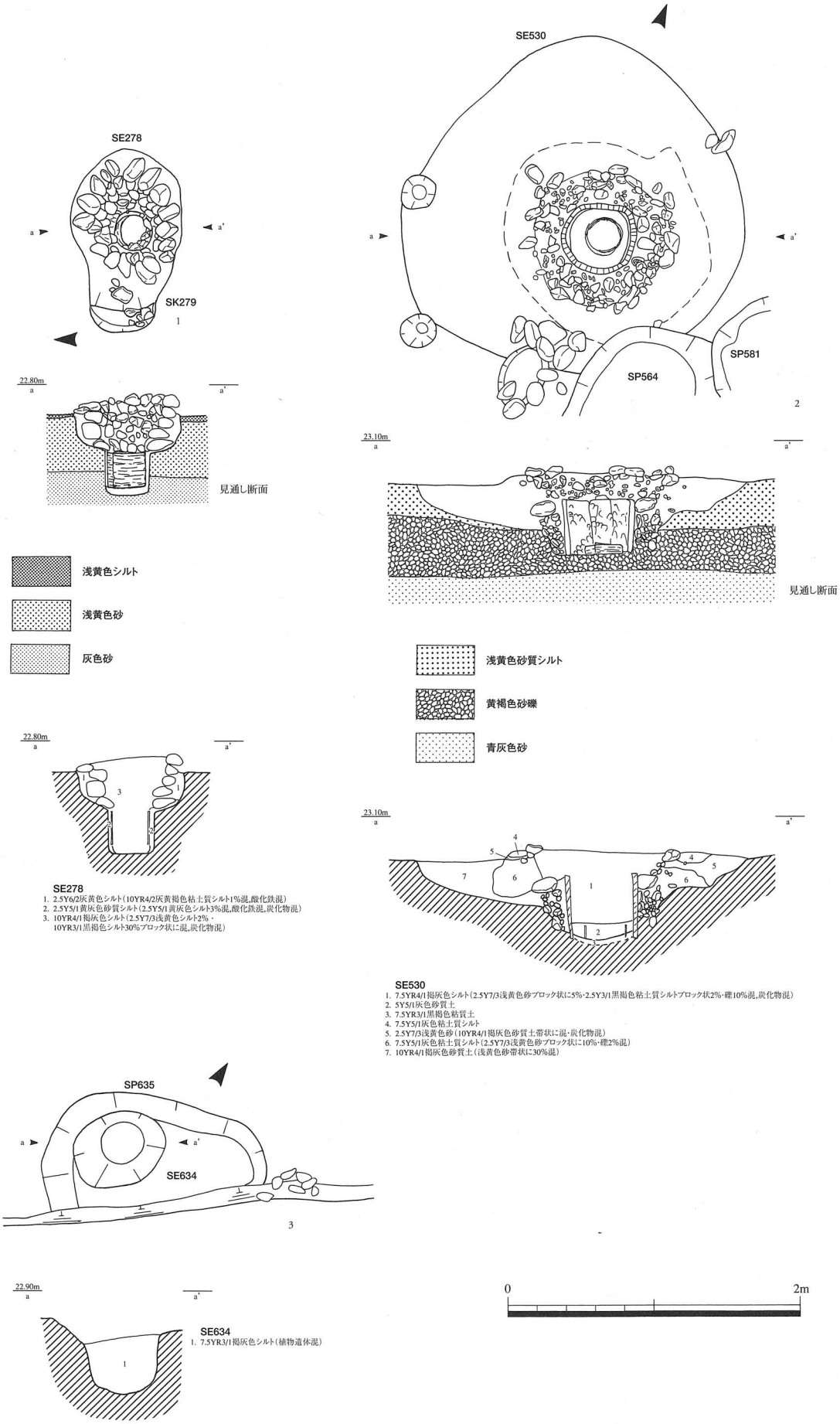
井戸の掘形の埋土は，石組を囲む固くしまったシルトと，さらにそれを取り囲む砂質土に分けられ，この埋土の違いは真上からみると二重円を描いたようにみえる。石組は椀状に緩やかに開く形態で，積み上げるというよりも，むしろ井戸側をシルトで固めその表面が崩落するのを防ぐために大小の石を隙間無く貼り付けたという構造である。またＳＥ278の曲物直上の石のように水溜の丸太を押さえるように置かれた石はなく，丸太の上面は露出しており装飾のためか３～５㎝の間隔で放射状に線刻されている。掘形は底部が狭く，丸太の半分程の高さから上に向かって皿状に広がる形態である。掘形の狭い水溜下半部分の裏込めには径２～５㎝の比較的細かい石を充填し，上部では10㎝前後の石を用いて固定させている。

この井戸の構築の順序は次のように推測される。はじめに２ｍ余りの穴を掘り，水が湧き出た辺りをさらに15㎝程掘り下げ，水溜となる刳り抜き丸太を据える。石をいれて裏込めした後，穴の外側から掘り返した地山の砂を埋め戻す。井戸側をよく締まるシルトで固め，さらに石を貼って完成させる。また井戸底から曲物が出土した。底板が無く，水を浄化させるための装置とも考えられるが，曲物を据えるための掘形が確認されなかったため井戸構造の一部として固定されたものとは断定しがたい。

井戸内の埋土は，最下層が黒褐色粘質土，下層が灰色砂，上層は褐灰色シルトに地山の浅黄色砂・黒褐色粘質土・礫等が混入する土である。下層及び最下層は井戸使用時に堆積したもので，上層は埋め戻しの際の土と考えられる。

634号井戸（ＳＥ634，第133図，図版105）

東側調査区の南端に位置する素掘りの井戸である。ＳＢ２の柱穴ＳＰ635の埋土の下から検出され，ＳＰ635より古いと考えられる。直径は約60㎝の円形を呈し，底面の標高は22.19ｍである。似たような板状加工木が７点出土しており，井戸側かあるいは井戸の上部施設に使用されていた部材の可能性も考えられる。隣に柱痕のあるＳＰ619があり，覆い屋が付いた可能性もあるが，南側は調査区外で実証性は低い。



第133図　遺構実測図

1. SE278　2. SE530　3. SE634

F 土　　坑

14号土坑（ＳＫ14，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側に位置し，南側は試掘トレンチに切られる。埋土は黄灰色シルト，褐灰色シルト，黒色粘質土シルト，地山の土が混じった土で，単層である。炭化物と木屑を含む。切り合いからＳＫ160より新しい。

16号土坑（ＳＫ16，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。平面形は切り合いのため不明であるが，２ｍ前後の大型の土坑である。埋土は，基本的には黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で何層かに分かれ，下層には黒褐色ピート層や灰色粘土質シルト層がみられ，炭化物が混入する。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ15・ＳＰ17，ＳＢ３に属するＳＰ35・ＳＰ165，及びＳＫ34・ＳＫ39・ＳＫ344より古く，ＳＫ325より新しい。

19号土坑（ＳＫ19，第125図）

西側調査区のＳＡ１の東に位置する。方形を呈し，長辺は138cm，深さは19cm，埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で，ＳＡ１に近接するが性格は不明である。

27号土坑（ＳＫ27，第128図）

西側調査区のＳＤ７に切り合う土抗で，ＳＤ７より古い。浅い落ち込み状の遺構で，埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土である。出土遺物は越中瀬戸である。

29号土坑（ＳＫ29，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈し，長径は84cm，深さは24cmである。埋土は褐灰色シルトに灰白色シルトが混入する土の単層で，ピートと酸化鉄が含まれる。切り合いからＳＫ30より古く，ＳＫ102より新しい。また，当初ＳＤ７の土が上面にみえていたが，薄かったため精査中にみえなくなってしまった。

30号土坑（ＳＫ30，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。円形を呈し，直径は110cm，深さは26cmである。埋土は褐灰色シルトに灰白色シルトが混入する土の単層で，炭化物が含まれる。切り合いからＳＫ29・ＳＫ31・ＳＫ102・ＳＫ360・ＳＫ361より新しい。また，当初ＳＤ７の土が上面にみえていたが，薄かったため精査中にみえなくなってしまった。出土遺物は加工木である。

31号土坑（ＳＫ31，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈し，直径は70cm，深さは24cmである。埋土は明褐灰色シルトに灰白色シルトが混入する土の単層で，ピートと酸化鉄が含まれる。切り合いからＳＫ30より古く，ＳＫ101・ＳＫ360・ＳＫ361より新しい。

34号土坑（ＳＫ34，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。円形を呈し，直径54cm，深さは23cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と礫が混入する土で，単層である。切り合いからＳＫ35より古い。出土遺物は唐津である。

35号土坑（ＳＫ35，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。円形を呈し，直径70cm，深さ25cmである。切り合いからＳＫ34より新しい。ＳＢ４の南北方向の柱列に並ぶが，東西方向では若干位置がずれる。補助的な柱穴の可能性もあるが，土坑に含めておきたい。

38号土坑（ＳＫ38，第137図）

ＳＢ３の敷地内南側，ＳＤ５の北に位置する。楕円形を呈し，長径は64cm，深さは36cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で，礫を含む。切り合いからＳＰ53・ＳＫ372より新しい。

39号土坑（ＳＫ39，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈し，長径は90cm，深さは30cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で，単層である。埋土中には小礫が多く，木片も混入していた。切り合いからＳＫ344より新しい。出土遺物は中国製白磁，加工木である。

43号土坑（ＳＫ43，第137図）

ＳＢ３の敷地内南側，ＳＤ５の北に位置する。円形を呈し，直径は68cm，深さは20cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，酸化鉄と礫を多く含み，礫の中には打ち割ったものも含まれる。ＳＢ３の補助的な柱穴の可能性もあるが柱列には並ばない。出土遺物は越中瀬戸である。

79号土坑（ＳＫ79，第121図））

ＳＢ３の敷地内東側，ＳＫ170の西に位置する。楕円形を呈し，長径70cm，深さは21cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と炭化物が混じる。出土遺物は伊万里小杯で，遺物の年代から時期は17世紀前半頃と推定され，ＳＢ３の柱穴であった可能性があるが，柱列には並ばない。

86号土坑（ＳＫ86，第138図，図版102）

ＳＢ３の敷地内東側，ＳＫ170の北に位置する。楕円形を呈し，長径は60cm，深さは27cmである。埋土は基本的には黄灰色シルトに灰白色シルトと地山の砂が混入する土で，３層に分かれる。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ81より古く，ＳＰ87より新しい。

87号土坑（ＳＫ87，第138図）

ＳＢ３の敷地内東側，ＳＫ170の北に位置する。円形に近い不整形を呈し，長径は98cm，深さは42cmである。埋土は灰黄褐色シルトに黒褐色シルトが混入する土で，多量の小礫と酸化鉄を含む。切り合いからＳＫ86より古い。出土遺物は越中瀬戸・須佐唐津である。

90号土坑（ＳＫ90，第125図）

西側調査区のＳＡ１の東に位置する。長楕円形を呈し，長径170cm，深さ24cm，埋土は基本的には黄灰色シルトに灰白色シルトと礫が混入する土で，何層かに分かれる。ＳＡ１に隣接するが性格は不明である。

93号土坑（ＳＫ93，第125図）

西側調査区ＳＤ５の南側，ＳＡ１の東に位置する。楕円形を呈し，長径68cm，深さ16cmで，柱穴状の小土坑であるが性格は不明である。出土遺物は瀬戸美濃・須佐唐津である。

100号土坑（ＳＫ100，第128図）

西側調査区のＳＤ５の東，試掘トレンチの西に位置する。円形を呈し，直径48cm，深さ26cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土である。出土遺物は唐津である。

101号土坑（ＳＫ101，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形に近い不整形を呈し，長径は108cm，深さは27cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と褐灰色シルトが混入する土で，単層である。西側の隅から木片が出土したが，杭ではないようである。切り合いからＳＫ31より古い。

102号土坑（ＳＫ102，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。方形に近い楕円形を呈し，長径は220cm，深さ

は30cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と褐灰色シルトが混入する土で，単層である。切り合いからＳＫ29・ＳＫ30より新しい。

103号土坑（ＳＫ103，第137図）

ＳＢ１の敷地内南端，ＳＫ371の西に位置する。円形を呈し，直径36cm，深さは16cmである。埋土は黄灰色シルトに褐灰色シルトと地山の砂質シルトが混入する土である。ＳＢ４の柱列に並び，補助的な柱の可能性もあるが，梁方向に並ばず柱痕もないので土坑に含めておく。出土遺物は越中瀬戸である。

106号土坑（ＳＫ106，第128図）

西側調査区のＳＤ５に接し，切り合いからＳＤ５より古い。不整形を呈し，深さは16cmである。埋土は灰白色砂質シルトに黄灰色シルトと地山の砂が混入する土である。出土遺物は越中瀬戸である。

107号土坑（ＳＫ107，第128・132図）

西側調査区ＳＤ５の東に位置し，切り合いからＳＤ105より古い。円形を呈し，直径は110cm，深さは38cmである。埋土は黄灰色シルトに灰白色シルトと炭化物が混入する土である。出土遺物は越中瀬戸で，時期は16世紀末～17世紀と考えられる。

108号土坑（ＳＫ108，第135図）

ＳＢ１及びＳＢ３の敷地内西側，ＳＫ386の北に位置する。円形を呈し，直径40cm，深さは26cmである。埋土は灰黄色シルト及び灰白色シルトに地山の土が混入する土で，何層かに分かれる。酸化鉄とピートが含まれる。出土遺物は越中瀬戸である。

111号土坑（ＳＫ111，第135図）

ＳＢ１の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。円形を呈し，直径22cm，深さ20cmで，埋土は黄灰色シルトの単層である。出土遺物は曲物である。

117号土坑（ＳＫ117，第126図）

西側調査区のＳＤ５の西側に位置し，ＳＰ116と接する。切り合いからＳＰ116より新しい。楕円形を呈し，長径64cm，深さ20cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂質シルトと褐灰色シルトが混入する土である。出土遺物は瀬戸美濃・越中瀬戸である。

121号土坑（ＳＫ121，第121・122図，図版102）

ＳＢ３の敷地内南端に位置する。ＳＢ３に属するＳＰ122に接する。隅丸方形を呈し，径は56cm，深さは19cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の土が混入する土である。出土遺物は16世紀末～17世紀初頭の唐津で，遺物の年代と切り合いでＳＰ122より新しいことから時期は17世紀前半頃と考えられる。

130号土坑（ＳＫ130，第137図）

ＳＢ３の敷地内南側，ＳＤ５の北に位置する。平面形は楕円形で長径106cm，深さは39cmである。埋土は，基本的には地山の砂と黄灰色シルトが混じる土で，上層は地山の砂の割合が高く，下層は黄灰色シルトが主体となる。切り合いからＳＫ372より新しい。

131号土坑（ＳＫ131，第138図）

ＳＢ３の敷地内南側，ＳＤ５の北に位置する。平面形は切り合いのため不明で，深さは24cmである。埋土は赤灰色シルトに地山の砂が混入する土で，単層である。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ49より古い。

133号土坑（ＳＫ133，第128図）

西側調査区のＳＤ５の東に接し，切り合いからＳＤ５より古い。楕円形に近い不整形を呈し，長径

110cm，深さ18cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と灰色シルトが混入する土である。出土遺物は唐津である。

148号土坑（ＳＫ148，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。不整形を呈し，長さ60cm，深さ23cmである。埋土は褐灰色シルト，黄灰色シルト，地山の土が混じる土で，何層かに分かれるが，すべて埋め戻しの際の土と考えられる。切り合いからＳＫ172より古く，ＳＫ386より新しい。出土遺物は越中瀬戸である。

155号土坑（ＳＫ155，第134図）

ＳＢ１の北西，ＳＫ363の上面に位置する。楕円形を呈し，深さは13cmで浅い。埋土は黄灰色シルトに灰黄色シルトと地山の砂が混入する土である。出土遺物は越中瀬戸である。

157号土坑（ＳＫ157，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の西側敷地内，試掘トレンチの北に位置する。円形に近い不整形を呈し，直径は66cm，深さは13cmである。埋土は黄灰色シルトに浅黄色砂，黒褐色粘質土が混入する土で，単層であり，炭化物を含む。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ156，及びＳＫ207より新しい。

160号土坑（ＳＫ160，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ２の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。円形に近い不整形を呈し，直径は２m，深さは47cmである。切り合いからＳＫ14・ＳＫ351より古い。埋土は灰白色砂に地山の土が混入し，酸化鉄を含む。出土遺物は越中瀬戸である。

161号土坑（ＳＫ161，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。楕円形に近い不整形を呈し，中央は一段下がっている。直径は66cm，深さは30cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の土が混入する土で，２層に分かれる。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ152，ＳＢ３に属するＳＰ153より古く，ＳＫ386より新しい。出土遺物は越中瀬戸である。

162号土坑（ＳＫ162，第143図）

西側調査区の東端に位置し，南西側を暗渠に切られる。楕円形を呈し，長径は120cm，深さは34cmで大型の土坑である。埋土は褐灰色シルトに地山の砂と，ピートが混入する土で，酸化鉄を含む。切り合いからＳＫ367より新しい。

170号土坑（ＳＫ170，第138図）

ＳＢ３の敷地内東側に位置する。楕円形を呈し，長径は３m，深さは63cmである。北側の壁面がほぼ垂直に立ち上がり，南側は不規則な段状に掘られている。東西の壁は上方は垂直な立ち上がりをみせるが，下半は皿状に緩やかに湾曲している。床面はほぼ平らである。埋土は基本的には黄灰色シルトに地山の砂と黒色シルト，灰白色シルト，明青灰色シルト等が混入する土で，何層かに分かれる。当遺跡の井戸は標高22.05～22.32mまで掘り込まれており，ＳＫ170は約22.10mに底面があることから，井戸の可能性も考えられるが，土層断面には井戸側等の痕跡は確認できず，また規模も井戸にしては大きすぎると思われる。位置的にはＳＢ３の南東隅にあたり，この建物に付属する土坑と考える。具体的な機能としては厩に相当しようか。出土遺物は中世土師器・瀬戸美濃，越中瀬戸・唐津，加工木，銅銭である。加工木は多数あり，その中には板状のものや数本の杭などが含まれる。遺物の年代と，ＳＢ３に伴うと考えられることから，土坑の時期は16世紀末～17世紀前半頃と考えられる。

172号土坑（ＳＫ172，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の西側敷地内，試掘トレンチの北に位置する。楕円形を呈し，中央はやや深くなっている。長径80cm，深さは20cmである。埋土は褐灰色シルトに黄灰色シルトが混入する土で，単層である。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ149，及びＳＫ148・ＳＫ387より新しい。

179号土坑（ＳＫ179，第143図）

ＳＢ３の東側，ＳＫ170より東に位置する。楕円形を呈し，長径76cm，深さは20cmである。埋土は赤褐色砂で礫が充填されている。隣に同様に礫を充填したＳＰ353があるが，ともに建物の敷地外で性格は不明である。

183号土坑（ＳＫ183，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。楕円形を呈し，長径は144cm，深さは25cmである。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の砂が混じる土で，何層かに分れるが，すべて埋め戻しの際の土と考えられる。切り合いからＳＫ387より新しい。出土遺物は唐津である。

193号土坑（ＳＫ193，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内中央，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈し，長径は110cm，深さは27cmである。埋土は基本的には黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で，３層に分かれる。上・中層には炭化物が含まれる。切り合いからＳＰ184より古く，ＳＫ389・ＳＫ390より新しい。出土遺物は瀬戸美濃・越中瀬戸である。

196号土坑（ＳＫ196，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内東側，試掘トレンチの南に位置する。円形を呈し，直径128cm，深さは30cmである。埋土は基本的には黄灰色シルトに地山の砂と黄灰色シルトが混入する土で，何層かに分かれ凹状に堆積している。西側は一段高くなっている。切り合いからＳＫ313より新しい。出土遺物は京焼風唐津・越中瀬戸，漆器，煙管である。

200号土坑（ＳＫ200，第135図）

ＳＢ４の敷地内北端，試掘トレンチの北に位置する。円形を呈し，直径90cm，深さ23cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と黒色粘土質シルトが混入する土である。切り合いからＳＫ315・ＳＫ394より新しい。ＳＢ４の柱列に重なり，位置的にみてＳＫ200が掘られる以前にはＳＢ４の柱穴があった可能性がある。

207号土坑（ＳＫ207，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３敷地内西側に位置し，北側は試掘トレンチに切られる。深さは49cmである。埋土は上面の一部に褐灰色シルトのブロックがあり，以下は地山の砂に褐灰色シルト，黄灰色シルトが混入する土である。切り合いからＳＢに属するＳＰ156，及びＳＫ157より古い。

210号土坑（ＳＫ210，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北西に位置する。楕円形を呈し，長径は50cm，深さは30cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂が混入する土で，上面に礫がある。切り合いからＳＫ214より古く，ＳＫ211・ＳＫ212より新しい。

211号土坑（ＳＫ211，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北西に位置する。切り合いのため平面形は不明で，深さは14cmである。埋土は何層かに分かれるが，基本的にはシルト系の土に地山の砂質シルトが混入する土である。出土遺物は越中瀬戸である。

212号土坑（ＳＫ212，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北西に位置する。円形を呈し，直径は50cm，深さは20cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土である。炭化物が含まれる。切り合いからＳＫ210より古く，ＳＫ213より新しい。

213号土坑（ＳＫ213，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北西に位置する。不整形を呈し，深さは26cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，上面には礫が多い。切り合いからＳＫ212より古い。出土遺物は越中瀬戸である。

214号土坑（ＳＫ214，第139・140図，図版107）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北西に位置する。楕円形を呈し，長径66cm，深さは18cmである。埋土は酸化鉄を含む灰黄褐色土で，小礫が充填される。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ215，及びＳＫ210・ＳＫ211より新しい。

224号土坑（ＳＫ224，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北西に位置する。円形を呈し，長径60cm，深さは16cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，礫を多く含む。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ277，及びＳＫ211・ＳＫ395より新しい。

232号土坑（ＳＫ232，第139・141図）

西側調査区の北端，ＳＫ394の北に位置する。円形を呈し，直径44cm，深さ16cmで，柱穴状の小土坑であるが性格は不明である。出土遺物は越中瀬戸である。

235号土坑（ＳＫ235，第139・141図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。円形を呈し，直径は54cm，深さは9cmである。埋土は黄灰色シルトに褐灰色シルトが混入する土で，上面を礫が覆っている。

237号土坑（ＳＫ237，第139・141図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。楕円形を呈し，深さは11cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，炭化物を含む。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ236，及びＳＫ243より古い。出土遺物は越中瀬戸である。

240号土坑（ＳＫ240，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，南は試掘トレンチに切られる。径は126cm，深さは51cmである。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の砂が混入する土で，水平堆積の２層に分かれる。ＳＫ394の上面から掘り込まれている。出土遺物は越中瀬戸である。

243号土坑（ＳＫ243，第139図）

ＳＢ１の北東にある方形の土坑で，長さ190cm，幅140cm，深さ23cmである。埋土は灰褐色シルトと褐灰色シルトの水平堆積で，切り合いからＳＫ245より新しくＳＰ244より古い。

245号土坑（ＳＫ245，第139図）

ＳＢ１の北東にある不整形の土坑である。長さ228cm，深さ25cmで，溝状に長く，ＳＢ１の北東隅に位置し，土間と考えられるＳＫ395の北辺に平行している。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の浅黄色砂が混入する土で，部分により若干異なる。地山が砂質シルトで軟弱なため，地盤を強化するため整地を行った土坑であろうか。出土遺物は越中瀬戸である。

250号土坑（ＳＫ250，第143図）

ＳＢ１の東に位置し，ＳＫ402の西に接する。円形を呈し，直径は110cm，深さは22cmである。埋土

は灰色シルトに炭化物が混入する土で，礫を含む。切り合いからＳＫ256・ＳＫ402より新しい。

256号土坑（ＳＫ256，第143図）

ＳＢ１の東に位置し，ＳＫ402の西に接する。不整形を呈し，長径は136cm，深さは17cmである。埋土は褐灰色シルトに黄灰色シルトと炭化物が混入する土で，礫を多く含む。切り合いからＳＫ250より古く，ＳＫ402より新しい。

259号土坑（ＳＫ259，第139・140・142図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の南に接する。円形を呈し，直径124cm，深さ26cmである。埋土は褐灰色シルトに黄灰色シルトと炭化物が混入する土である。切り合いから，ＳＫ305・ＳＫ306・ＳＫ395・ＳＫ396より新しい。出土遺物は下駄である。

261号土坑（ＳＫ261，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内東側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈し，深さは35cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂質シルトと黄灰色シルトが混入する土で，単層である。ＳＫ313の上面から掘り込まれている。出土遺物は越中瀬戸である。

262号土坑（ＳＫ262，第139・140・142図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の東に接する。不整形を呈し，深さは34cmである。埋土は基本的には褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，何層かに分かれる。切り合いからＳＫ263・ＳＫ265・ＳＫ299より新しい。

263号土坑（ＳＫ263，第139・140・142図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の東に接する。不整形を呈し，深さは28cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土である。切り合いからＳＫ262より古く，ＳＫ265より新しい。出土遺物は唐津である。

265号土坑（ＳＫ265，第139・140・142図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の東に接する。楕円形を呈し，深さは23cmである。埋土は基本的には褐灰色シルトに地山の砂と炭化物が混入する土で，２層に分かれる。切り合いからＳＫ262・ＳＫ263より古く，ＳＫ299・ＳＫ396より新しい。出土遺物は唐津・越中瀬戸である。

269号土坑（ＳＫ269，第139・140・142図，図版107）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の上面から掘り込まれる。円形を呈し，直径120cm，深さは14cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，礫が充填される。隣接するＳＫ354・355は同様に礫が充填された円形の遺構で，これらは同種の性格をもつ可能性が高いと考えられる。ＳＫ395はＳＢ１の土間の一部と考えられるが，近世民家における土間は主に作業場として機能分化した空間である。そこに掘られているこれらの遺構は，土間で行われる作業の土台として使用されたものかもしれない。

280号土坑（ＳＫ280，第139～141図）

ＳＢ１の敷地内東側，ＳＫ394内に位置する。不整形を呈し，長径134cm，深さ50cmである。埋土は水平堆積の３層に分かれる。上・中層は基本的には黄灰色シルトに地山の砂質シルトと褐灰色シルトが混入する土で，上層には炭化物が多く混入する。下層は暗青灰色粘土質シルトである。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ241・ＳＰ283より古く，ＳＫ264・ＳＫ394より新しい。出土遺物は越中瀬戸，加工木で，２点の越中瀬戸に墨書がみられる。

284号土坑（ＳＫ284，第139・141図）

ＳＢ１の敷地内東側，ＳＫ394内に位置する。平面形は切り合いのため不明で，深さは33cmである。埋土は基本的には褐灰色シルトに地山の砂と黄灰色シルトが混入する土で２層に分かれる。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ283，及びＳＫ280より古く，ＳＫ334・ＳＫ394より新しい。

287号土坑（ＳＫ287，第139・141図）

ＳＢ１の北端，ＳＫ394の北に位置する。円形を呈し，直径40cm，深さ22cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土である。切り合いからＳＫ378・ＳＫ382より古い。

296号土坑（ＳＫ296，第118・134図）

不整形を呈し，深さは44cmで，北側は調査区外にのびる。埋土には礫が多く含まれる。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ393より古い。出土遺物は越中瀬戸・伊万里，漆器・円形板・加工木，銅銭である。この遺構から出土した越中瀬戸には「○」等の墨書のあるものが２点含まれ，１点は登窯期のものである。隣接するＳＫ363からも越中瀬戸が多く出土し，墨書のものが含まれることから，切り合いはあるが，埋土の違いだけで，一連の遺構の可能性も考えられる。欠けた食器類が多く出土することから，ＳＢ３の廃棄に伴う廃棄土坑であろうか。時期は17世紀前半～中頃と推定される。

305号土坑（ＳＫ305，第139・140・142図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の南に接する。切り合いのため平面形は不明で，深さは24cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と褐灰色シルトが混入する土である。切り合いではＳＫ306・ＳＫ395より新しく，ＳＢ１に属するＳＰ304，ＳＫ259・ＳＫ355より古いが，単に埋土の違いで，実質はＳＫ395と同様に土間の一部を構成するものと考えられる。

306号土坑（ＳＫ306，第118・139・140・142図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の南に接する。切り合いのため平面形は不明で，深さは40cmである。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と褐灰色シルトが混入する土である。切り合いではＳＢ１に属するＳＰ304，ＳＫ259・ＳＫ305・ＳＫ355より古いが，ＳＫ305との関係は，単に埋土の違いで，実質はＳＫ395と同様に土間の一部を構成するものと考えられる。

313号土坑（ＳＫ313，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内東側，試掘トレンチの南に位置する。深さは22cmである。埋土は褐灰色シルトに黄灰色シルトと炭化物が混入する土である。北側の掘形がどこになるのかは不明瞭であった。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ194，ＳＢ３に属するＳＰ218，及びＳＫ196・ＳＫ314より古い。建物を構築する際，地盤を強固に整地するため掘られた土坑であろうか。

314号土坑（ＳＫ314，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ313に接する。平面形は切り合いのため不明で，深さは32cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂と黄灰色シルトが混入する土で，単層である。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ194・ＳＰ195より古く，ＳＫ313より新しい。出土遺物は土師質土器である。

315号土坑（ＳＫ315，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。円形を呈し，南側は試掘トレンチに切られている。直径110cm，深さは41cmである。埋土は黄灰色シルトに，褐灰色シルトと地山の土が混入する。ＳＫ200・ＳＫ339よりも古い。建物を構築する前に，地盤を強固に整地するため土を入れ替えた土坑であろうか。出土遺物は越中瀬戸である。

325号土坑（ＳＫ325，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈し，長径は60cm，深さは24cmであ

る。埋土は褐灰色シルトに，地山の砂と黄灰色シルトが混入する土で，炭化物が混入する。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ35，及びＳＫ344より古く，ＳＫ16より新しい。出土遺物は中国製染付である。

330号土坑（ＳＫ330，第139・140図，図版107）

ＳＢ１の敷地内北東に位置する大型土坑である。切り合いのため平面形は不明であるが，東側の肩はほぼ直線をなす。深さは19cmで，埋土は上下２層の水平堆積である。下層が灰白色シルトに灰色シルトと浅黄色シルト，酸化鉄が混入する土で堅くしまっており，上層は褐灰色シルトに浅黄色砂質シルトと炭が混入する土である。これらはＳＫ395の埋土の上面にのっている。ＳＫ394とＳＫ395は埋土の違いはあるが一連の遺構と考えられ，ＳＫ330と共にＳＢ１の土間部分を形成したものと推測される。切り合いではＳＢ１に属する柱穴やその他の土坑はすべてＳＫ330の上面から掘り込まれたもので，ＳＢ１の建築にあたっては，土間を構築した後に柱穴を掘り柱を立てたものと考えられる。出土遺物は越中瀬戸・伊万里，加工木である。

334号土坑（ＳＫ334，第139～141図）

ＳＢ１の敷地内東側，ＳＫ394内に位置する。平面形は切り合いのため不明で，深さは20cmである。埋土は褐灰色シルトに黄灰色シルトと地山の砂が混入する土で，単層である。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ283，及びＳＫ284より古く，ＳＫ335より新しい。

335号土坑（ＳＫ335，第139～141図）

ＳＢ１の敷地内東側，ＳＫ394内に位置する。楕円形を呈し，深さは20cmである。埋土は基本的にシルト系の土に地山の砂が混入する土で２層に分かれる。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ286，及びＳＫ334より古い。出土遺物は越中瀬戸である。

340号土坑（ＳＫ340，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側に位置し，南側は試掘トレンチに切られる。上面に礫が多く，深さは12cmで浅い。埋土は黄灰色シルトの単層で，炭化物を含む。切り合いからＳＫ391・ＳＫ373より新しい。

344号土坑（ＳＫ344，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈し，長径は68cm，深さは19cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂と黄灰色シルトが混入する土の単層で，炭化物を含む。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ35より古く，ＳＫ325より新しい。

345号土坑（ＳＫ345，第134図）

不整形を呈し，深さは36cmである。ほぼ中央が一段低くなる断面形から，柱穴の可能性も考えられるが，埋土は単層で性格は不明である。切り合いからＳＫ348より新しく，ＳＢ１に属するＳＰ333より古い。

348号土坑（ＳＫ348，第134図）

不整形を呈し，深さは47cmである。ＳＢ１の北西に位置し，ＳＫ296に接する。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ333，及びＳＫ345・ＳＫ296・ＳＫ363より古い。埋土は地山の砂と灰黄色シルトが混入する黄灰色シルトで，単層である。出土遺物は曲物である。切り合いはあるが，ＳＫ296・ＳＫ363と一連の遺構である可能性があり，時期は16世紀末～17世紀前半である。

349号土坑（ＳＫ349，第134図）

楕円形を呈し，深さは27cmである。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ298よりも古く，ＳＫ363より新しい。埋土は黄灰色シルトに地山の砂と褐灰色シルトが混入する土で単層である。

353号土坑（ＳＫ353，第143図，図版107）

ＳＢ３の東側，ＳＫ170より東に位置する。楕円形を呈し，長径60cm，深さは24cmである。埋土は灰黄褐色砂質シルトで，礫が充填されている。隣に同様に礫を充填したＳＫ179があるが，ともに建物の敷地外にあり，性格は不明である。

354号土坑（ＳＫ354，第139・140・142図，図版107）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の上面から掘り込まれる。楕円形を呈し，長径92cm，深さ27cmである。埋土は礫が充填され，隙間には淡褐色土の混入する褐色砂質シルトが入る。隣接するＳＫ269・ＳＫ355と同様の性格をもつ可能性が高いと考えられる。ＳＫ395はＳＢ１の土間と考えられ，近世民家において土間は作業空間であるから，そこに位置するこれらの遺構は作業の土台として使用されたものかもしれない。『富山県史　民俗編』によれば，富山県の民家では，土間で藁仕事をするとき，藁を杵や木槌で打たねばならないので，ジョウボ石という台石が前のかみ手の一隅に半分埋めて置かれていたという。これらの遺構はその前身的なものではないだろうか。

355号土坑（ＳＫ355，第139・140・142図，図版107）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳＫ395の上面から掘り込まれる。楕円形を呈し，長径152cm，深さ24cmである。埋土は礫が充填され，隙間には灰色シルトが入る。隣接するＳＫ269・ＳＫ354と同様の性格をもつ可能性が高いと考えられる。

359号土坑（ＳＫ359，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形に近い不整形を呈し，長径86cm，深さ34cmである。埋土は上層が褐灰色シルトで，下層はこれに地山の砂が混入する土である。切り合いからＳＰ56より古く，ＳＫ360・ＳＫ361より新しい。

360号土坑（ＳＫ360，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。楕円形を呈すると思われるが切り合いのため不明で，深さは29cmである。埋土は灰黄褐色シルトの単層である。切り合いからＳＫ30・ＳＫ31・ＳＰ56・ＳＫ359より古く，ＳＫ361より新しい。

361号土坑（ＳＫ361，第136図）

ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの南に位置する。平面形は切り合いのため不明で，深さは26cmである。埋土は褐灰色シルトの単層で酸化鉄が含まれる。切り合いからＳＫ30・ＳＫ31・ＳＰ56・ＳＫ60・ＳＫ359より古い。

363号土坑（ＳＫ363，第134図）

不整形を呈し，深さは51cmである。埋土はほとんど水平堆積であるが，何層かに分かれる。ＳＢ１の北西，ＳＫ296の南に位置する。切り合いから，ＳＢ１に属するＳＰ175・ＳＰ298・ＳＰ333，及びＳＫ155・ＳＫ296・ＳＫ345・ＳＫ349より古く，ＳＫ348・ＳＫ384より新しい。

出土遺物は越中瀬戸，茶臼である。この土坑からは越中瀬戸がまとまった量出土しており，その中には「○」等の墨書のあるものが２点含まれる。隣接するＳＫ296からも墨書のある越中瀬戸など欠けた食器が多く出土しており，切り合いはあるが，埋土の違いだけで，一連の遺構の可能性がある。ＳＢ３の廃棄に伴う廃棄土坑であろうか。時期は17世紀前半～中頃と推定される。

364号土坑（ＳＫ364，第138図）

ＳＢ３敷地内東側に位置し，西側をＳＫ170に切られる。長径は130cm，深さは38cmである。埋土は下層にＳＫ170の上層と同様の土が入り，上層は灰白色砂質シルトに黄灰色シルトと酸化鉄を含む土

である。

365号土坑（ＳＫ365，第139・140図）

ＳＢ１の敷地内北側に位置し，ＳＫ394の北に接する。方形を呈し，長さ170cm，深さは44cmである。西側が一段深く掘り込まれており，そこから杭または柱と考えられる木が検出された。また杭より南側，ＳＫ394に近い位置の上面に打ち欠いて加工を加えたと思われる石が出土した。石は長楕円形で，長さは38.5cm，厚さは17.2cm，5.3kgの重量がある。上面は平坦で，裏面は剥離している。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の砂が混入する土であるが２層に分かれる。切り合いから，ＳＥ278・ＳＫ214・ＳＫ394より古い。

367号土坑（ＳＫ367，第143図）

西側調査区の東端に位置する。円形を呈し，南東は暗渠に，南側をＳＫ162に切られる。直径は約180cm以上，深さは36cmで，大型の土坑である。埋土は黄灰色砂に地山に砂が混入する土で，単層である。切り合いからＳＫ162より古い。

368号土坑（ＳＫ368，第137図）

ＳＢ３の敷地内東側，ＳＫ170の北西に位置する。円形を呈し，直径は220cm，深さは38cmである。埋土は，基本的には灰黄色シルトに地山の砂が混入する土で，２層に分かれ，下層には砂が多く混入する。炭化物と酸化鉄が含まれる。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ48より古く，ＳＫ371より新しい。建物を構築する前に，地盤を強固にするため整地を行った土坑であろうか。

371号土坑（ＳＫ371，第118・137図）

ＳＢ３の敷地内東側，ＳＫ170の北西に位置する。不整形を呈し，長径は192cm，深さは32cmである。埋土は灰白色シルトに地山の砂が混入する土の単層で，酸化鉄と炭化物を含む。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ327・ＳＰ366，ＳＢ３に属するＳＰ328，及びＳＫ368より古い。建物を構築する前に，整地するため掘られた土坑であろうか。

372号土坑（ＳＫ372，第137図）

ＳＢ３の敷地内南側，ＳＤ５の北に位置する。楕円形に近い不整形を呈し，長径は246cm，深さは38cmである。埋土は，基本的には灰褐色シルトまたは青灰色シルトに地山の砂と褐灰色シルトが混入する土で，３層に分かれる。切り合いからＳＫ38，ＳＫ130より古く，ＳＰ53より新しい。出土遺物は越中瀬戸である。

373号土坑（ＳＫ373，第116・135図）

ＳＢ１の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。長楕円に近い不整形を呈し，長径190cm，深さは28cmである。埋土は灰黄褐色シルトに地山の土と黒色シルトが混入する土で何層かに分かれ，酸化鉄とピートが含まれる。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ174，ＳＢ３に属するＳＰ168，及びＳＫ339，ＳＫ340より古い。出土遺物は伊万里・越中瀬戸，加工木である。

378号土坑（ＳＫ378，第141図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。楕円形を呈し，長径70cm，深さは18cmである。上面は礫に覆われ，東側が一段深く掘り込まれている。埋土は灰黄褐色シルトに地山の砂が混入する土で，単層である。切り合いからＳＫ380・ＳＫ382・ＳＰ377・ＳＫ379より新しい。

379号土坑（ＳＫ379，第141図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。上面には礫が多く，埋土は地山の砂が混入する褐灰色シルトである。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ362，及びＳＫ378・ＳＰ244・ＳＰ377より古い。

382号土坑（ＳＫ382，第141図）

ＳＢ１の敷地内北側，ＳＫ394の北に位置する。不整形を呈し，深さは12cmである。埋土は灰黄褐色シルトに地山の砂が混入する土で，単層である。上面に礫がみられる。切り合いからＳＫ378・ＳＫ380より古く，ＳＫ287より新しい。

384土坑（ＳＫ384，第134図）

円形を呈し，深さは27cmである。ＳＢ１の北西に位置し，ＳＫ363の南に接する。切り合いからＳＫ363より古い。埋土は明褐灰色シルトに褐灰色シルトと地山の砂が混入する土である。

386号土坑（ＳＫ386，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。不整形を呈し，深さ26cmで単層の落ち込みである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂と灰白色シルトが混入する土である。切り合いから，ＳＢ１に属するＳＰ324・ＳＰ152，ＳＢ３に属するＳＰ149・ＳＰ153，及びＳＫ148・ＳＫ161よりも古い。

387号土坑（ＳＫ387，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側，試掘トレンチの北に位置する。方形に近い不整形を呈し，深さは20cmである。埋土は水平堆積で２層に分かれる。上層は褐灰色シルトに黒色粘土質シルトと酸化鉄，ピートが混入する土で，下層はにぶい黄褐色シルトに褐灰色シルトと酸化鉄が混入する土である。切り合いから，ＳＢ１に属するＳＰ150，ＳＢ３に属するＳＰ163，及びＳＫ148・ＳＫ172・ＳＫ183・ＳＫ391より古い。出土遺物は越中瀬戸である。

389号土坑（ＳＫ389，第140図）

ＳＢ１の敷地内東側，試掘トレンチの南に位置する。円形を呈し，直径は110cm，深さは36cmである。埋土は灰白色シルトに地山の砂と黒色粘土質シルトとピートが混入し，酸化鉄を含む。断面は擂鉢状に中央が深くなる。切り合いからＳＫ184・ＳＫ193より古く，ＳＫ390より新しい。出土遺物は唐津である。

390号土坑（ＳＫ390，第140図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内東側，試掘トレンチの南に位置する。方形を呈すると思われるが，北側は切り合いのため不明である。東西に320cm余りある大型の土坑で，深さは38cmである。埋土は灰白色シルトに地山の砂と黒色粘土質シルトが混入する土で，ピートと酸化鉄を含む。切り合いからＳＢ１に属するＳＰ194，ＳＢ３に属するＳＰ358，及びＳＫ184・ＳＫ193・ＳＫ314・ＳＫ389より古い。ＳＢ３の敷地の北東隅にあたり，建物に付属する土坑であった可能性がある。

391号土坑（ＳＫ391，第135図）

ＳＢ１・ＳＢ３の敷地内西側に位置し，南側は試掘トレンチに切られる。埋土は灰色シルトの単層で，炭化物を含む。切り合いからＳＢ３に属するＳＰ163，及びＳＫ340より古く，ＳＫ387より新しい。

394号土坑（ＳＫ396，第140図，図版107）

ＳＢ１の敷地内北東に位置する大型土坑である。切り合いのため平面形は不明であるが，西側のプランはほぼ直線をなし，およそ方形を呈したものと推測される。深さは38cmである。埋土は，最下層に灰黄褐色粘土質シルトがあり，上層は灰白色シルトに灰色シルトと酸化鉄，炭が混入する土が厚く堆積する。上層は堅くしまっている。完掘すると床面は東に隣接するＳＫ395とフラットになることから，ＳＫ394とＳＫ395は埋土の違いはあるが一連の遺構で，共にＳＢ１の土間部分を形成したものと推測される。またＳＫ395の上面にはＳＫ330の締まった土が水平堆積している。土間の構築はまずＳ

K394・ＳK395を掘って地山の砂質シルトとシルト系の土を入れ替え，さらに上面にＳK330の土をのせて搗き固めたものと推測される。切り合いでは，ＳK365よりは新しいが，ＳＢ１に属する柱穴やその他の土坑はすべてこの土坑の上面から掘り込まれたものであり，土間の構築は柱穴を掘って柱を立てる作業に先行したものと考えられる。出土遺物は越中瀬戸である。

395号土坑（ＳK395，第140図，図版107）

ＳＢ１の敷地内北東に位置する大型土坑である。切り合いのため平面形は不明であるが，ＳK330・ＳK394と一連の土坑と考えられ，およそ方形を呈するものであろう。深さは36cmである。埋土は最下層に酸化鉄とピートが混入する青灰色粘土質シルトがあり，その上に灰白色シルトに灰色シルトと浅黄色シルトが混入する土が水平堆積し，さらに上層は灰色シルトに淡黄色シルトと酸化鉄が混入する土で堅くしまっている。切り合いでは，ＳＢ１に属する柱穴とその他のほとんどの土坑がこの土坑の上面から掘り込まれている。出土遺物は曲物，石硯である。

396号土坑（ＳK396，第142図）

ＳＢ１の敷地内東側に位置し，ＳK395の南に接する。不整形を呈し，深さは32cmである。埋土は基本的には黄灰色シルトに灰白色シルトと地山の砂が混入する土で，水平堆積の何層かに分かれる。切り合いからＳK199・ＳK259・ＳK262・ＳK263・ＳK265・ＳK299・ＳK301より古い。

402号土坑（ＳK402，第143図，図版107）

西側調査区の東端に位置する。不整形を呈し，深さは35cmである。南北に長く約11.5mで，北は調査区外へと続く。また東側は農道下に続くため，全体の規模はわからない。当初いくつかの土坑が切りあっているようなプランが見えたが，発掘していくと異なる土がブロック状に混入しているだけのものとわかり，単一の土坑とした。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の砂と，砂質シルト，粘土質シルト，炭化物が混入する土で，皿状に堆積するが，床面はほぼ平坦である。埋土は堅く締まっており，整地を行った遺構の可能性がある。切り合いからＳP326・ＳK250・ＳK256より古い。また中央よりやや南よりにＳP410・ＳP420・ＳP421の杭が打たれているが，関連性があるものかどうかは不明である。出土遺物は中国製青磁・土師質土器・越中瀬戸・唐津，漆器椀・下駄・折敷？・加工木で，遺物の年代から，遺構の時期は16世紀末～17世紀前半と推測される。

415号土坑（ＳK415，第144図）

東側調査区ＳD450の北に位置する。不整形を呈し，長さは71cm，深さは14cmの浅い落ち込み状の土坑である。埋土は褐灰色シルトに地山の砂と黄灰色シルトが混入する。切り合いからＳD450，ＳD455より古い。出土遺物は越中瀬戸で，遺構の時期は16世紀末～17世紀前半と推定される。

416号土坑（ＳK416，第144図）

西側調査区のＳD450の北に接し，切り合いからＳD450より古い。浅い落ち込み状の土坑で，上面には集石がみられる。深さは22cmである。出土遺物は唐津である。

451号土坑（ＳK451，第144図）

東側調査区西端に位置し，ＳD450に接する。西側は農道下へのびている。深さは36cmである。埋土は褐灰色シルトに地山の砂質シルトと黒褐色シルト，青灰色砂質シルトが混入する土である。切り合いからＳD450より新しい。出土遺物は唐津で，内野山窯の製品があり，遺構の時期は17世紀後半～18世紀前半頃と推定される。

452号土坑（ＳK452，第144図）

東側調査区の北端に位置する。北側は調査区外へのびる。不整形を呈し，長さは230cm，深さ22cmで

浅い落ち込み状の土坑である。埋土は黒褐色粘土質シルトで,単層である。切り合いからＳＫ453より新しい。出土遺物は唐津・伊万里，漆器・加工木で，遺構の時期は17世紀後半～18世紀前半と推定される。

453号土坑（ＳＫ453，第144図）

東側調査区の北端に位置する。北側の肩は緩やかにあがる。平面形は円形を呈すると思われるが，切り合いのため不明である。直径は270cm，深さは14cmで，ＳＫ452同様浅い落ち込み状の土坑である。埋土は褐灰色シルトで，単層である。切り合いからＳＫ452より古い。出土遺物は越中瀬戸で登窯期のものがあり，遺構の時期は17世紀前半頃と推定される。

454号土坑（ＳＫ454，第144図）

東側調査区の北側に位置し，ＳＤ450の北に接する。楕円形に近い不整形を呈し，深さ14cmの浅い落ち込み状の土坑である。埋土は，上層が褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，下層は上層の土に植物遺体と礫が多く混入する。切り合いからＳＤ450より古くＳＫ456より新しい。出土遺物は越中瀬戸・唐津で，遺構の時期は16世紀末～17世紀前半頃と推定される。

456号土坑（ＳＫ456，第144図）

東側調査区の北端に位置する。北側は調査区外にのびる。東西に約８ｍの幅で広がっており，南側は二股に分かれ，深さは32cmである。自然流路の可能性も考えられるが，底面の標高は北端で22.30～22.34ｍ，南端で22.37ｍと南が若干高くなっており，性格は不明である。埋土は灰褐色シルトに地山の砂が混入する。出土遺物は，珠洲・中国製白磁・土師質土器・越中瀬戸・唐津・伊万里，曲物，馬鍬の刃で，遺構が埋まったのは16世紀末～17世紀前半頃と推定される。

468号土坑（ＳＫ468，第144図）

東側調査区の北側に位置し，ＳＫ456内にある。ただしＳＫ456はその部分ではかなり浅くなってきており，新旧は不明である。円形を呈し，直径108cm，深さは10cmの浅い土坑である。埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土で，小礫を多く含む。

470号土坑（ＳＫ470，第131図）

東側調査区のＳＤ450の南に位置する。楕円形に近い不整形を呈し，長さ366cm，深さ14cmである。埋土は地山の砂が混入する褐灰色シルトである。切り合いからＳＤ467より古く，ＳＤ471より新しい。またＳＤ473はＳＫ470の下から検出した。

482号土坑（ＳＫ482，第145図，図版108）

ＳＢ２の北側に位置する。長方形に近い不整形の大型土坑で，東側は排水溝に切られる。東西に349cm，深さは37cmである。埋土は２層に分かれ，下層にはオリーブ黒色粘質土，上層には褐灰色シルトに地山の砂が混入する土が堆積する。埋土には近世の遺物と多量の礫や割石が含まれていた。ＳＢ２の付属施設と考えられるＳＫ582を切っており，ＳＢ２の廃絶に伴う廃棄土坑と考えられる。割石は建物の基礎に使用されていたものであろうか。出土遺物は信楽・越中瀬戸・唐津・伊万里・陶器，漆器・加工木（箱？）で，それらの年代から遺構の時期は18世紀前半頃と推測される。

500号土坑（ＳＫ500，第146図，図版107・108）

ＳＢ１の北東隅に位置する方形の土坑である。北側は埋土の違いがあり，平面形もやや不整形になるが，一連の土坑と考えられる。南北465cm，東西444cm，深さ24cmである。埋土は基本的には黄灰色シルトに地山の砂質シルトが混入するシルトで，何層かに分かれるが，堅くしまっている。北側部分は明褐色砂に黄灰色シルトと褐灰色シルトが混入する土である。貼床は確認されなかったが，ＳＢ１

の土間部分と推測され，埋土がしまっていることからこれが埋められた状態で機能したものと考えられる。建物の間取りとして，この土間の位置（建物の北東隅）と，土間の北西（建物の北面）に井戸を配する構造はＳＢ１と共通する。出土遺物は越中瀬戸・唐津・伊万里，加工木である。

543号土坑（ＳＫ543，第146図）

ＳＢ２・ＳＢ４の敷地内東側に位置し，ＳＫ500の南に接する。平面形は円形または楕円形を呈すると思われるが，切り合いのため不明である。深さは25cmである。埋土は基本的には褐灰色砂質土に褐灰色粘土質シルトが混入する土で，２層に分かれる。

548号土坑（ＳＫ548，第120図）

ＳＢ２の敷地内中央に位置し，切り合いからＳＢ２に属するＳＰ586より新しい。楕円形を呈し，長径76cm，深さ20cmである。埋土は黒褐色砂質土，褐色砂質土の上下２層に分かれ，上面に礫がある。出土遺物は越中瀬戸・唐津である。

564号土坑（ＳＫ564，第124図）

ＳＢ４の北側，ＳＥ530の南に位置する。切り合いからＳＫ625より新しい。円形を呈し，直径37cm，深さ17cmである。埋土は黒褐色シルトで礫が混入する。出土遺物は唐津である。

582号土坑（ＳＫ582，第145図，図版108）

ＳＢ２の北に位置する。平面形は楕円または長方形と思われるが，切り合いのため不明である。東西に184cm，深さは13cmである。南側縁辺部に石列がある土坑で，石は拳大の河原石を用いており，石列の上面は堅くしまった浅黄色シルトで覆われている。検出面ではこのシルトが南側に帯状に見えた。東西に切った土層断面では浅黄色シルトの上面に薄い炭の層が確認された。ＳＢ１の北面に接し，石列が北側の柱列と平行であることから，建物の付属施設と考えられる。浅黄色シルトは石列の上にのみみられ，石とシルトで堅く整地して使用されたものと考えられる。浅黄色シルトより北に堆積する埋土は，基本的にはシルト系の土に地山の砂が混入する土で何層かに分かれるが，ＳＫ582がこれらの土が埋められた状態で機能したものか，廃棄後埋め戻したものなのか不明である。ＳＥ530に切られており，井戸が後で作られたことを示している。出土遺物は唐津，漆器である。

592号土坑（ＳＫ592，第146図）

ＳＢ２の敷地内東側に位置し，ＳＫ500の上面から掘り込まれている。円形を呈し，東側は排水溝に切られる。直径は26cm，深さは30cmである。埋土は灰黄褐色シルトに地山の砂と小礫，炭化物が混入する土で，木屑が含まれる。

593号土坑（ＳＫ593，第146図）

ＳＢ２の敷地内東側，ＳＫ500の南に位置する。楕円形を呈し，南側は排水溝に切られる。深さは30cmで，埋土は褐灰色シルトに地山の砂が混入する土である。ＳＢ２の柱穴の可能性もあるが，柱列には並ばない。出土遺物は越中瀬戸である。

600号土坑（ＳＫ600，第147図，図版108）

調査区東端に位置する，大型の方形土坑である。南北に672cm，東西に429cm，深さは33cmである。埋土は基本的には上層が砂礫，下層は植物遺体を多く含む粘質シルトで，部分的にシルト，砂質シルトが堆積する。下層と上層の境は凹状で所々波打っており，生活面らしきものは認められない。下層は灰色粘質シルトで植物遺体が含まれしまりがやや悪い土であることから，まず当時の表土が埋められ，その後砂礫を敷いて何らかの目的のため整地を行ったものと考えられる。切り合いからＳＫ644，ＳＫ645より古い。出土遺物は瀬戸美濃・越中瀬戸・伊万里，加工木で，遺物の年代から遺構の時期は

17世紀前半頃と推測される。

625号土坑（ＳＫ625，第123図）

ＳＢ２・ＳＢ４の敷地内北端に位置し，ＳＥ530に接する。切り合いからＳＥ530より新しい。楕円形を呈し，長径198cm，深さは40cmである。埋土は上層が褐灰色シルトに地山の砂と黒褐色シルトが混入する土で，下層は地山の砂にシルト系の土が混入する土である。ＳＢ４の柱列に重なり，位置的にみてＳＫ625が掘られる以前にはＳＢ４の柱穴があった可能性がある。

644号土坑（ＳＫ644，第147図，図版108）

調査区東端に位置し，ＳＫ600の南に接する。南側は排水溝に切られる。方形を呈し，東西240cm，南北は４ｍ以上になり，深さは29cmである。埋土は，上層が黒褐色砂質土，下層は褐灰色砂質シルトに灰白色シルトが混入する土で，上層には木片が含まれる。北側には褐灰色砂がみられる。切り合いからＳＤ647より古く，ＳＫ600より新しい。向きがＳＢ２の軸線と平行になり，土間と考えられるＳＫ500の隣に位置する。出土遺物は越中瀬戸・唐津・伊万里・陶器で，遺物の年代から遺構が埋まった時期は17世紀後半～18世紀前半頃と推定される。欠けた食器類が多量に出土し，その年代がＳＢ２の廃棄の時期に重なることから，ＳＢ２の廃絶に伴う廃棄土坑の可能性が考えられる。

645号土坑（ＳＫ645，第147図，図版108）

調査区東端に位置し，ＳＫ600の南に接する。やや不整な方形を呈し，東西237cm，南北159cm，深さは18cmである。埋土は下層に薄く灰黄褐色砂があり，上層に厚く黒褐色シルトが堆積する。切り合いからＳＫ600より新しい。周囲には断面に柱痕が残るＳＰ665の他，柱穴状の小土坑が多く，この土坑に関連するものであるかもしれない。出土遺物は越中瀬戸・唐津・伊万里・陶器である。

669号土坑（ＳＫ669，第146図）

ＳＢ２の敷地内東側，ＳＫ500の上面から掘り込まれた柱穴状の小土坑である。円形を呈し，直径は26cm，深さは20cmである。埋土は褐灰色シルトで，礫を含む。

671号土坑（ＳＫ671，第146図）

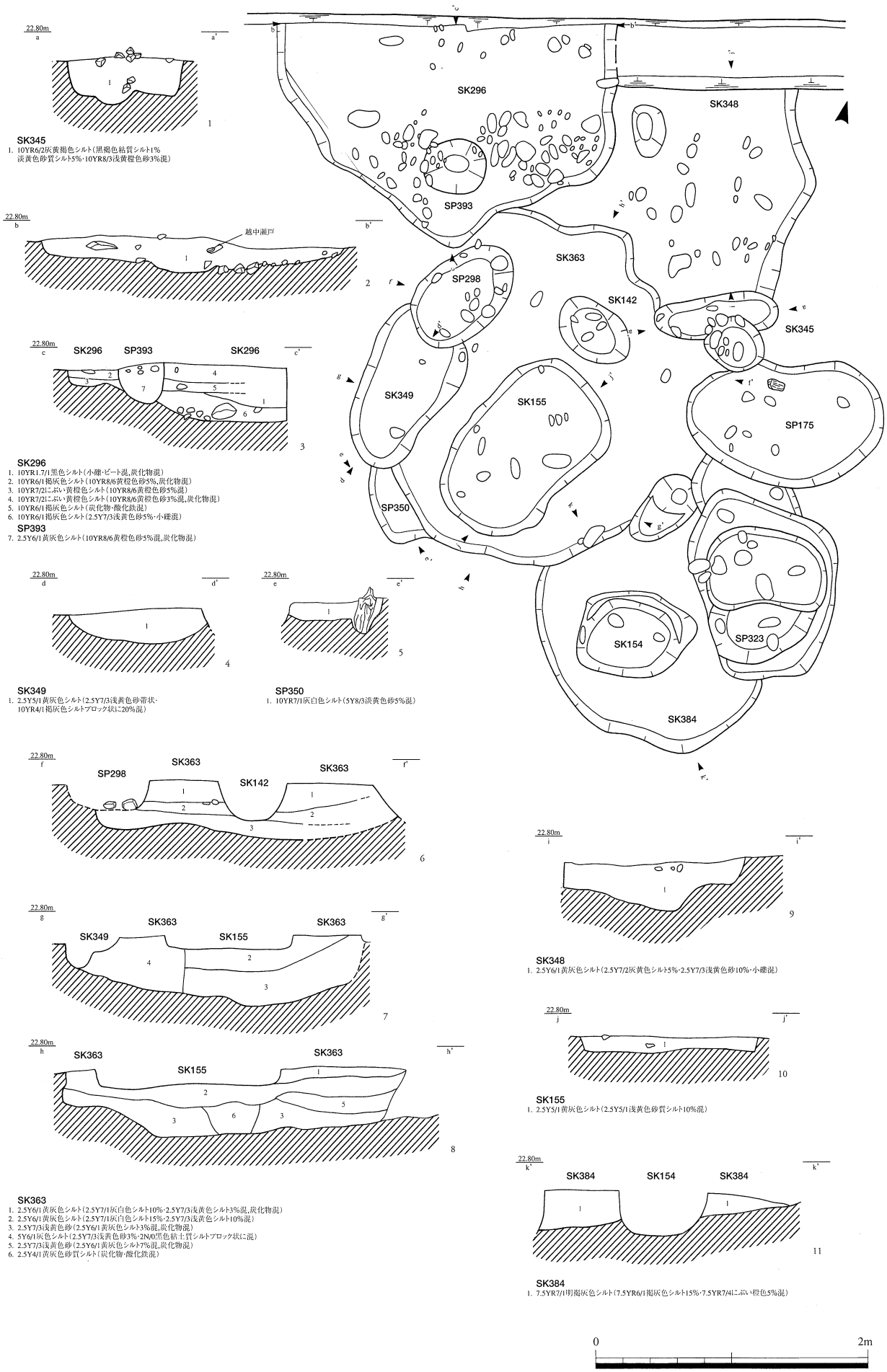
ＳＢ２の敷地内東側，ＳＫ500の上面から掘り込まれている。楕円形を呈し，長径は49cm，深さは11cmである。埋土は褐灰色シルトに黄灰色シルトと炭化物が混入する土で，礫が多く含まれる。ＳＢ１の柱穴の可能性もあるが，柱列に並ばず，性格は不明である。

677号土坑（ＳＫ677，第146図）

ＳＢ４の敷地内北東隅に位置する。現況では長方形に近い不整形を呈するが，西側の検出面は若干削平されて低くなっており，西側のプランは原形をとどめていないものと思われる。深さは20cmである。埋土は基本的にはシルト系の土に地山の砂や黒褐色粘土質シルトが混入するもので，何層かに分かれる。ＳＫ500と同様に建物の北東隅にあたる土坑であることからもＳＢ４の土間であった可能性が考えられる。出土遺物は土師質土器である。

684号土坑（ＳＫ684，第145図）

調査区東側，ＳＫ482の東に位置する。平面形は円形または楕円形と思われるが，西側は排水溝に切られているため不明である。深さは23cmである。埋土は褐灰色シルトに灰白色シルトと礫が混入する土で，単層である。ＳＫ482と排水溝を隔てて隣り合っているが別の遺構と考えられる。



SK345
1. 10YR6/2灰黄褐色シルト(黒褐色粘質シルト1%
淡黄色砂質シルト5%・10YR8/3浅黄橙色砂3%混)

SK296
1. 10YR1.7/1黒色シルト(小礫・ピート混,炭化物混)
2. 10YR6/1褐灰色シルト(10YR8/6黄橙色砂5%,炭化物混)
3. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト(10YR8/6黄橙色砂5%混)
4. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト(10YR8/6黄橙色砂3%混,炭化物混)
5. 10YR6/1褐灰色シルト(炭化物・酸化鉄混)
6. 10YR6/1褐灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂5%・小礫混)

SP393
7. 2.5Y6/1黄灰色シルト(10YR8/6黄橙色砂5%混,炭化物混)

SK349
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂帯状・
10YR4/1褐灰色シルトブロック状に20%混)

SP350
1. 10YR7/1灰白色シルト(5Y8/3淡黄色砂5%混)

SK348
1. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y7/2灰黄色シルト5%・2.5Y7/3浅黄色砂10%・小礫混)

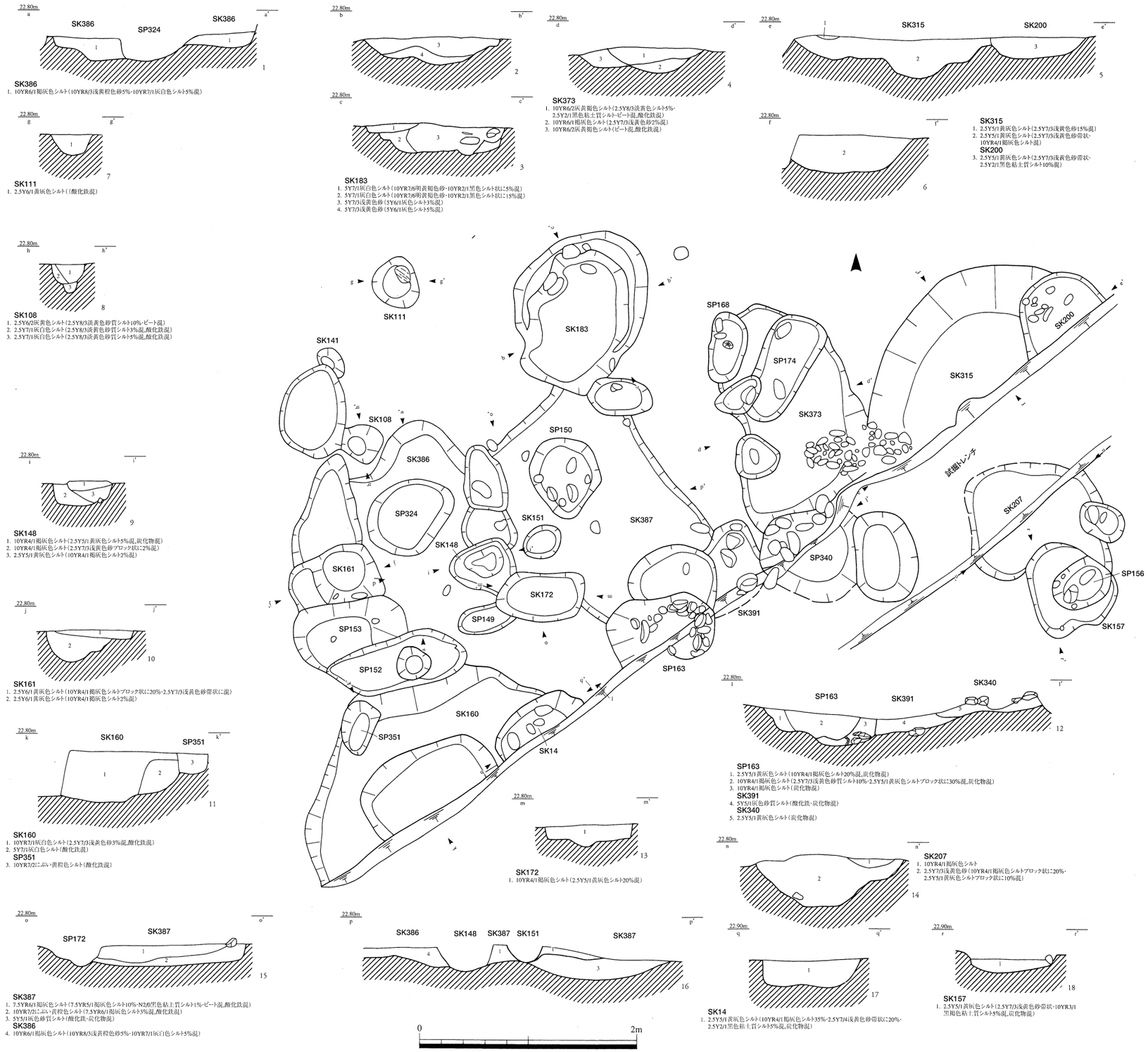
SK155
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y5/1浅黄色砂質シルト10%混)

SK363
1. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y7/1灰白色シルト10%・2.5Y7/3浅黄色シルト3%混,炭化物混)
2. 2.5Y6/1黄灰色シルト(2.5Y7/1灰白色シルト15%・2.5Y7/3浅黄色シルト10%混)
3. 2.5Y7/3浅黄色砂(2.5Y6/1黄灰色シルト3%混,炭化物混)
4. 5Y6/1灰色シルト(2.5Y7/3浅黄色砂3%・2N/0黒色粘土質シルトブロック状に混)
5. 2.5Y7/3浅黄色砂(2.5Y6/1黄灰色シルト7%混,炭化物混)
6. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト(炭化物・酸化鉄混)

SK384
1. 7.5YR7/1明褐灰色シルト(7.5YR6/1褐灰色シルト15%・7.5YR7/4にぶい橙色5%混)

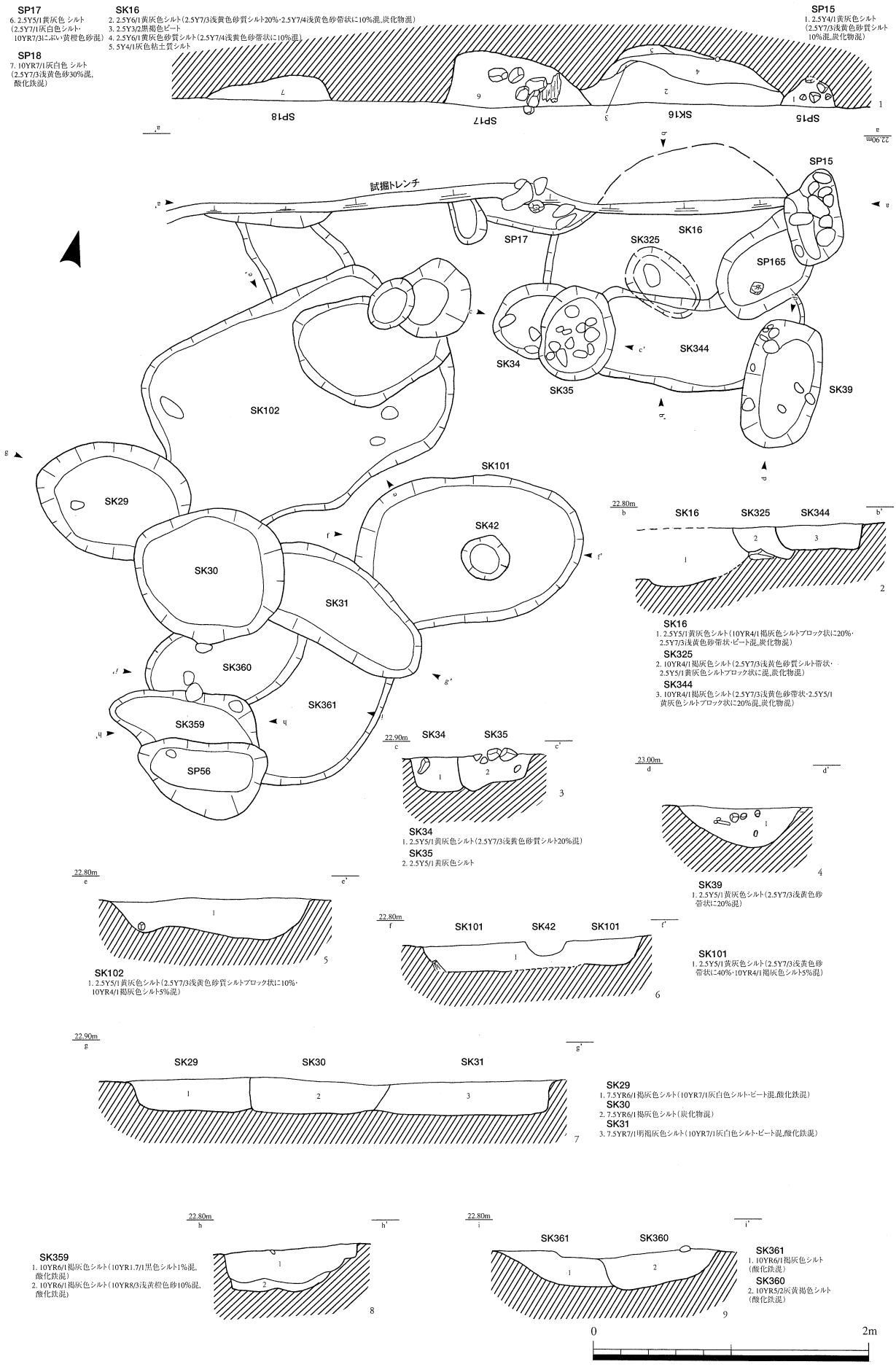
第134図　遺構実測図

1. SK345　2. SK296　3. SK296・SP393　4. SK349　5. SP350　6～8. SK363　9. SK348　10. SK155　11. SK384



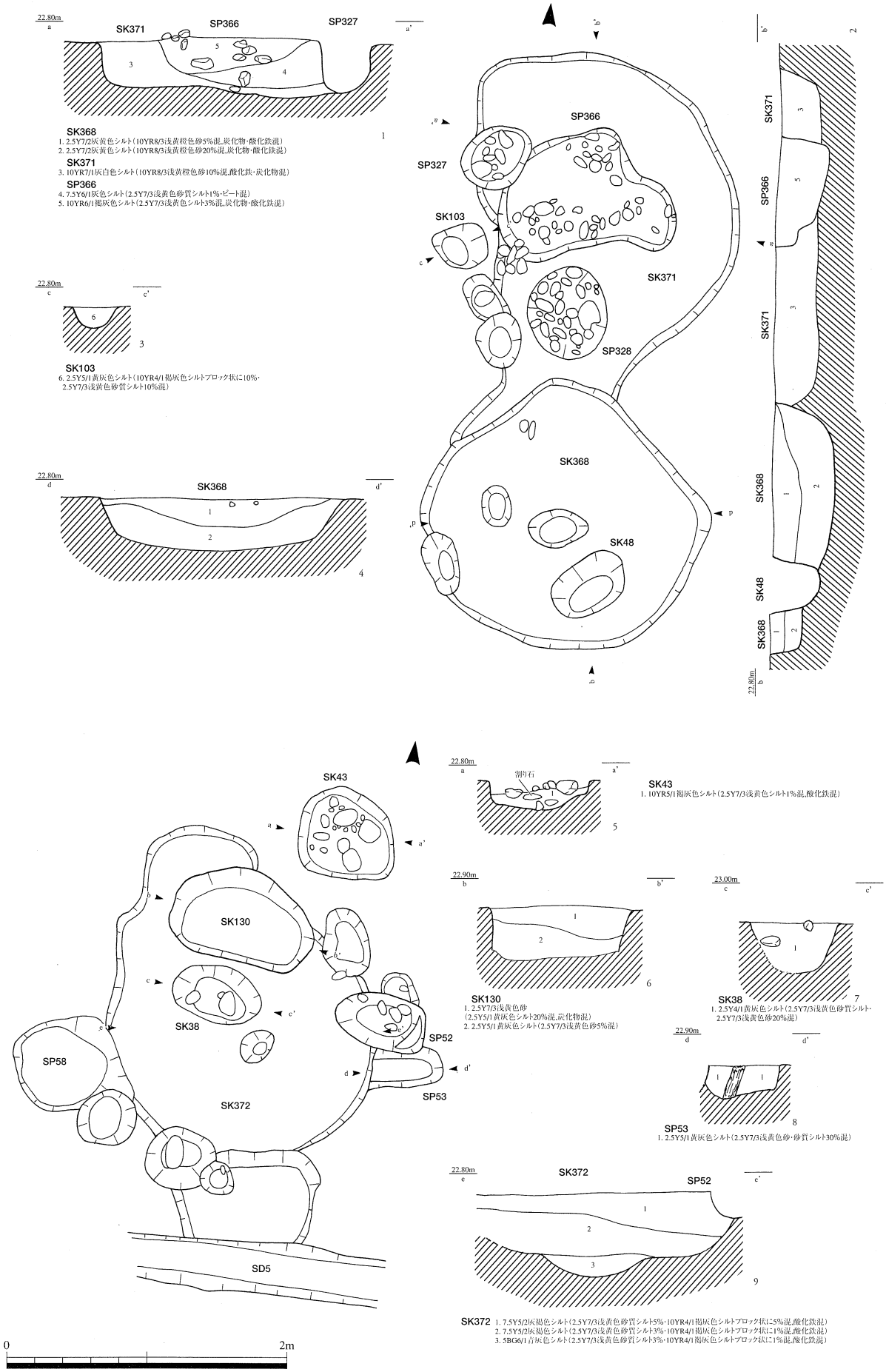
第135図　遺構実測図

1. SK386　2. 3. SK183　4. SK373　5. SK315・SK200　6. SK315　7. SK111　8. SK108　9. SK148　10. SK161　11. SK160・SP351　12. SP163・SK340・SK391　13. SK172　14. SK207　15. SK387　16. SK386・SK387　17. SK14　18. SK157



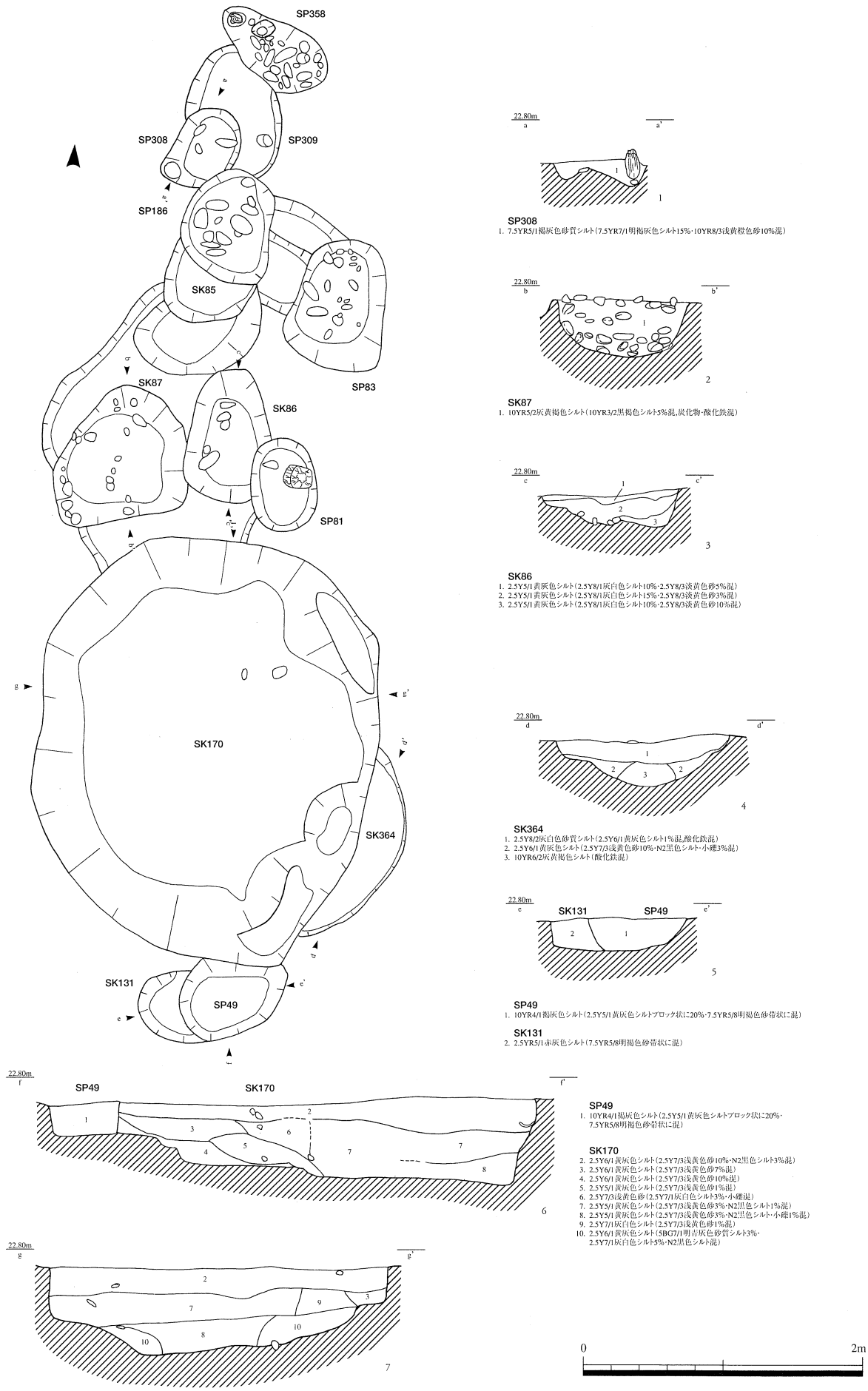
第136図　遺構実測図

1. SP15・SK16・SP17・SP18　2. SK16・SK325・SK344　3. SK34・SK35　4. SK39　5. SK102　6. SK101
7. SK29・SK30・SK31　8. SK359　9. SK360・SK361



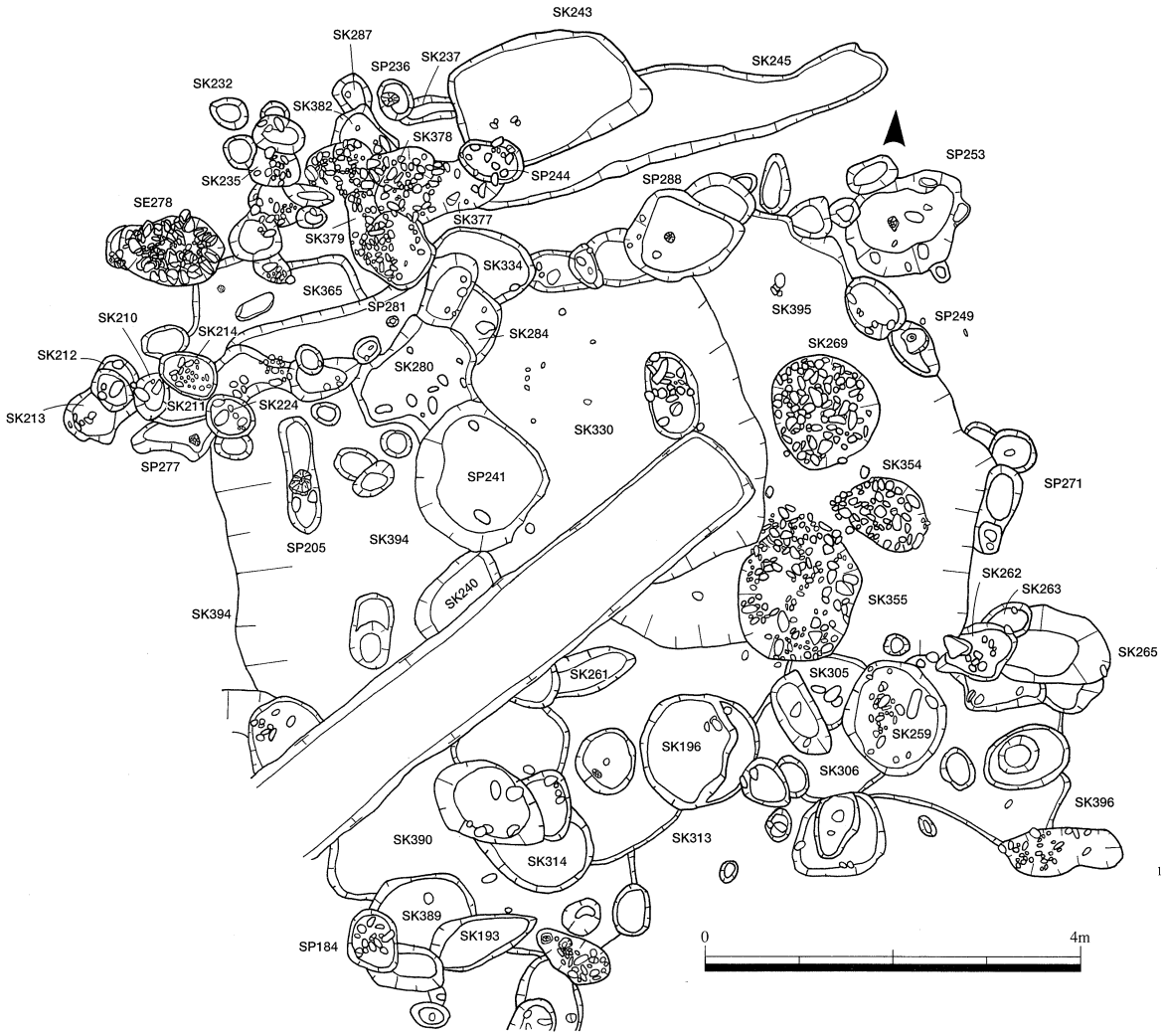
第137図　遺構実測図

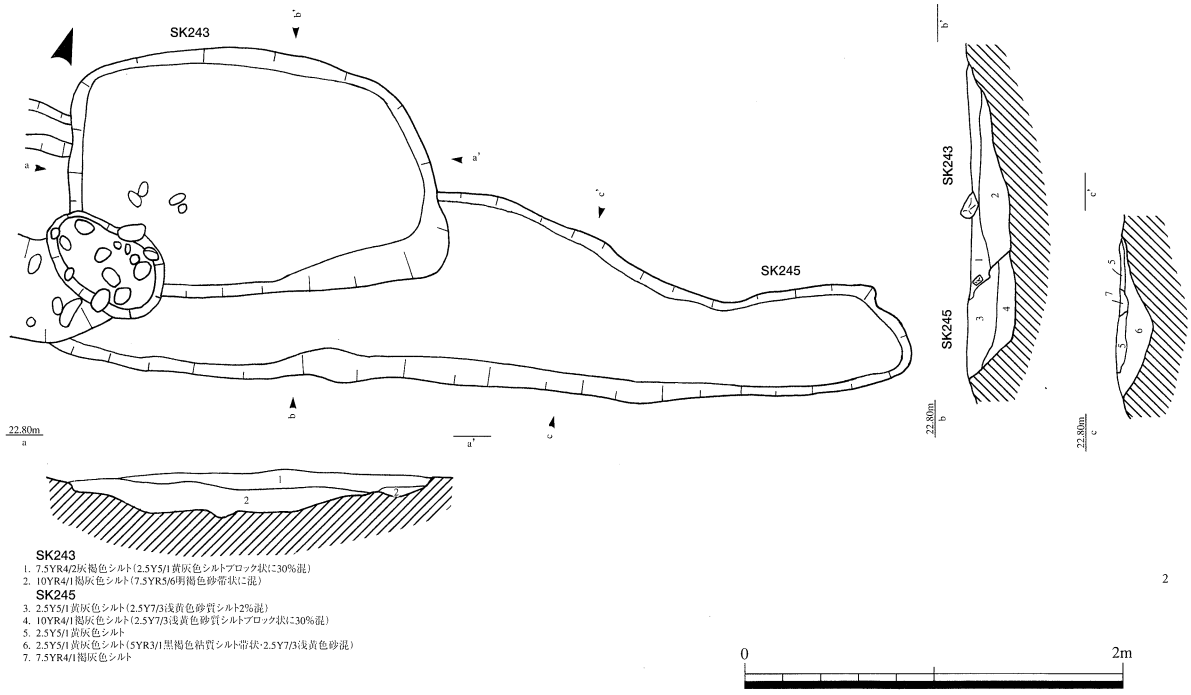
1. SP366・SK368・SK371　2. SK48・SP366・SK368・SK371　3. SK103　4. SK368　5.SK43　6. SK130　7. SK38　8. SP53　9. SK372



第138図　遺構実測図

1. SP308　2. SK87　3. SK86　4. SK364　5. SP49・SK131　6. SP49・SK170　7. SK170



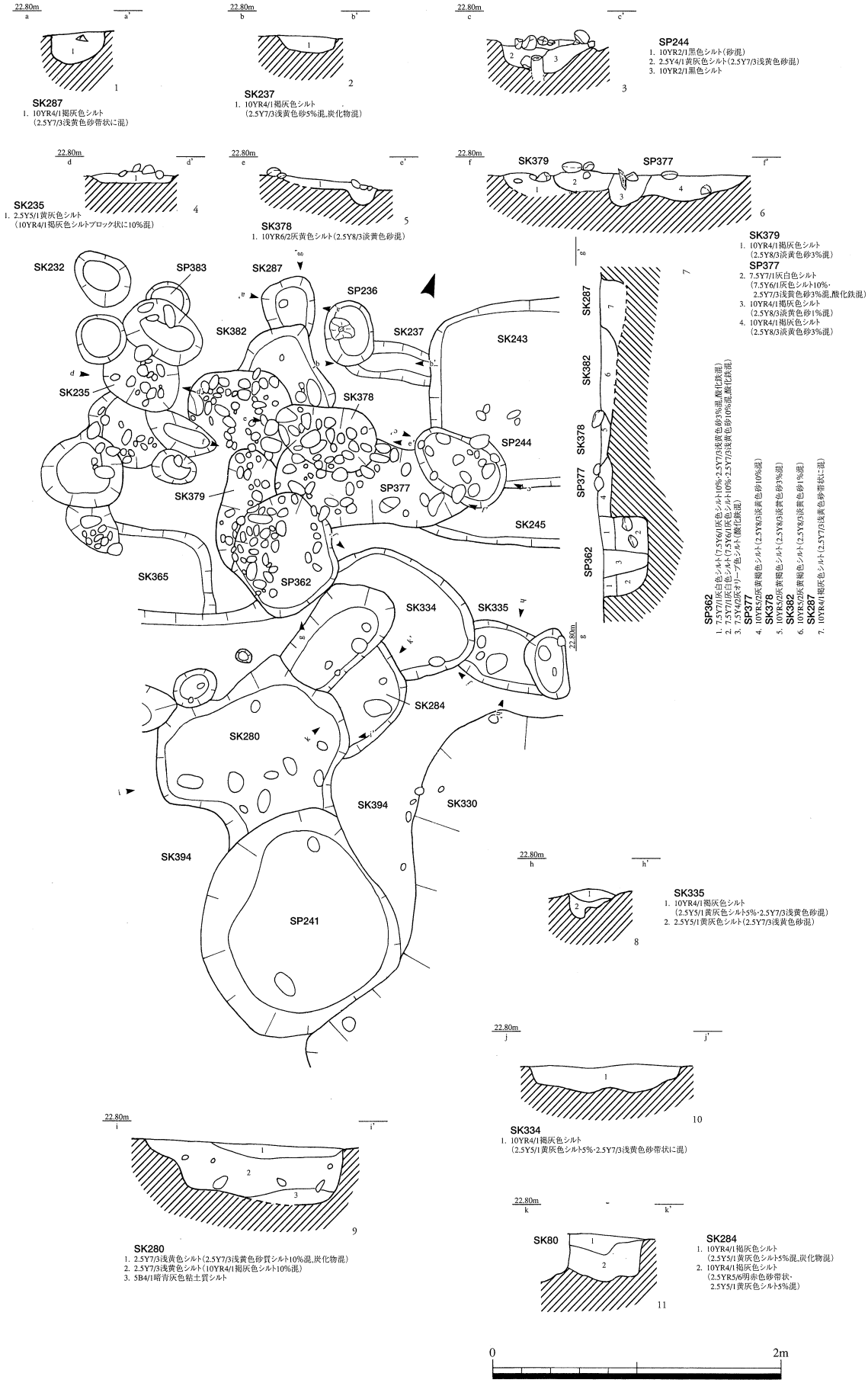


第139図　遺構実測図

1. SK330付近平面図　2. SK243・SK245

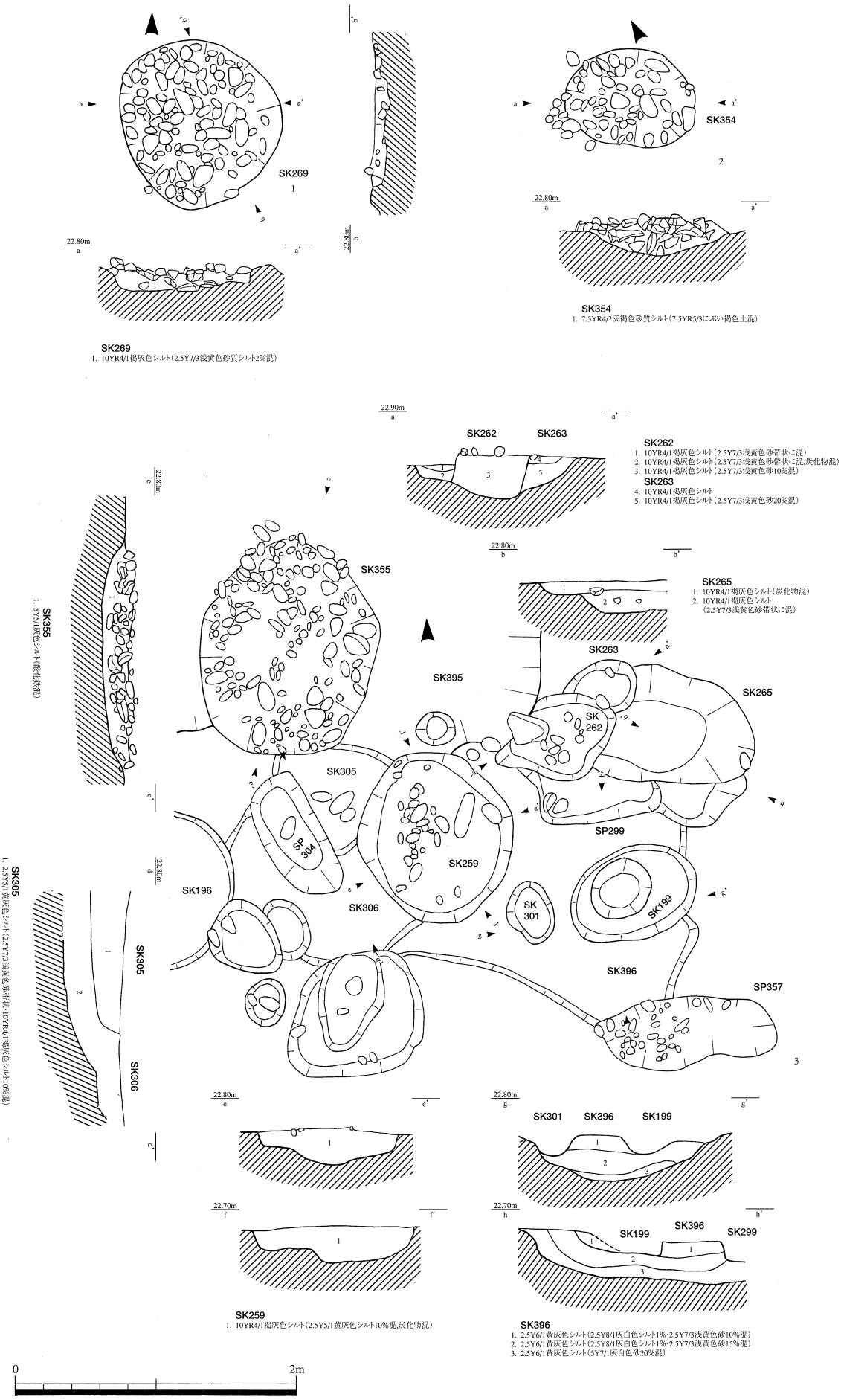
第140図　遺構実測図

1. SK210・SK211・SK212・SK224　2. SK212・SK213　3. SK214　4. SK240　5. SK261　6. SK313　7. SK314　8. SK389　9・10. SK394　11. SK390　12. SK196　13. SP365　14. SP281
15. SP184　16. SK193　17. SP285・SK330・SK395　18・19・21. SK395　20. SK330・SK395　22. SP271



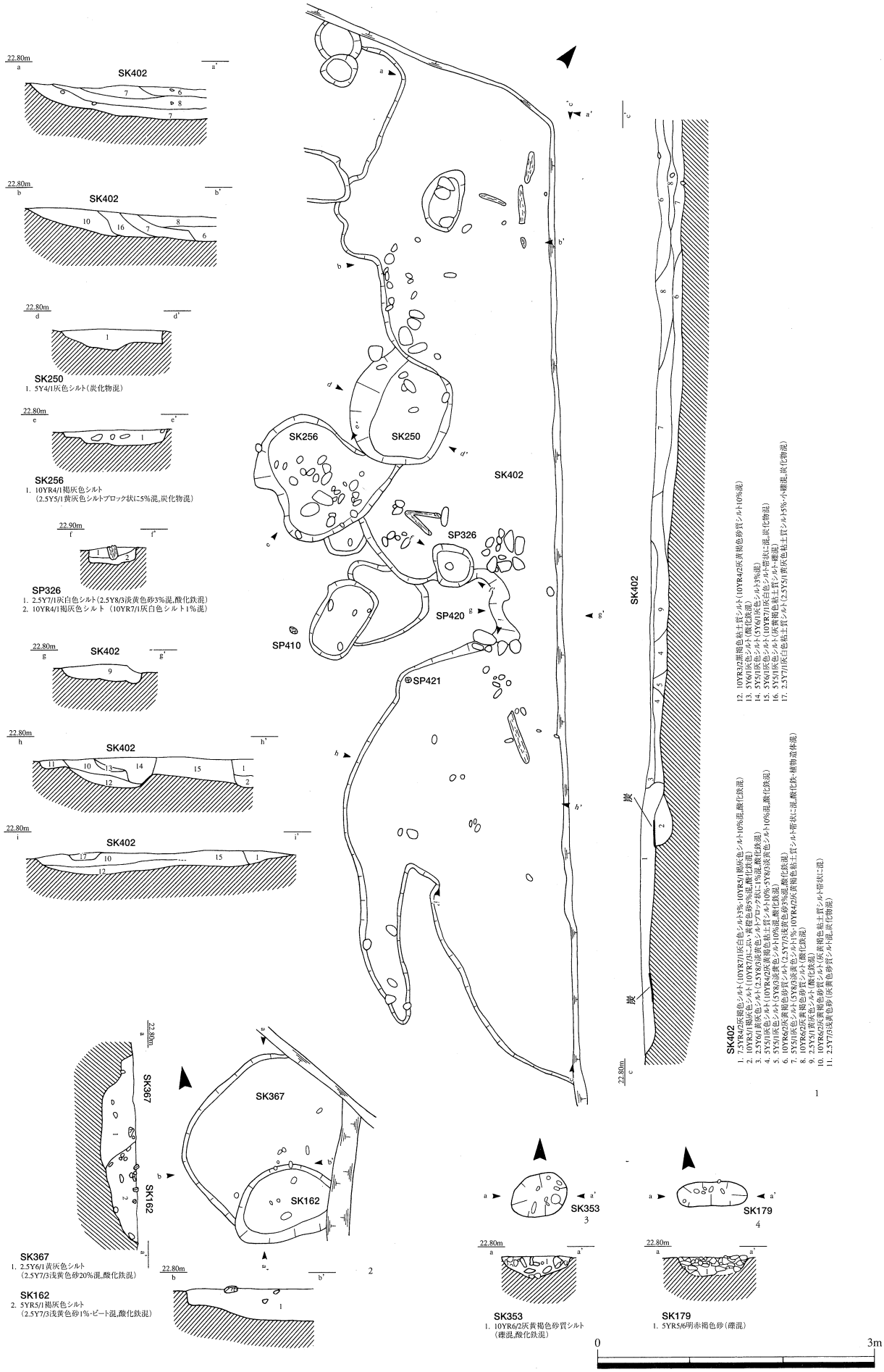
第141図　遺構実測図

1. SK287　2. SK237　3. SP244　4. SK235　5. SK378　6. SP377・SK379　7. SK287・SP362・SP377・SK378・SK382
8. SK335　9. SK280　10. SK334　11. SK284



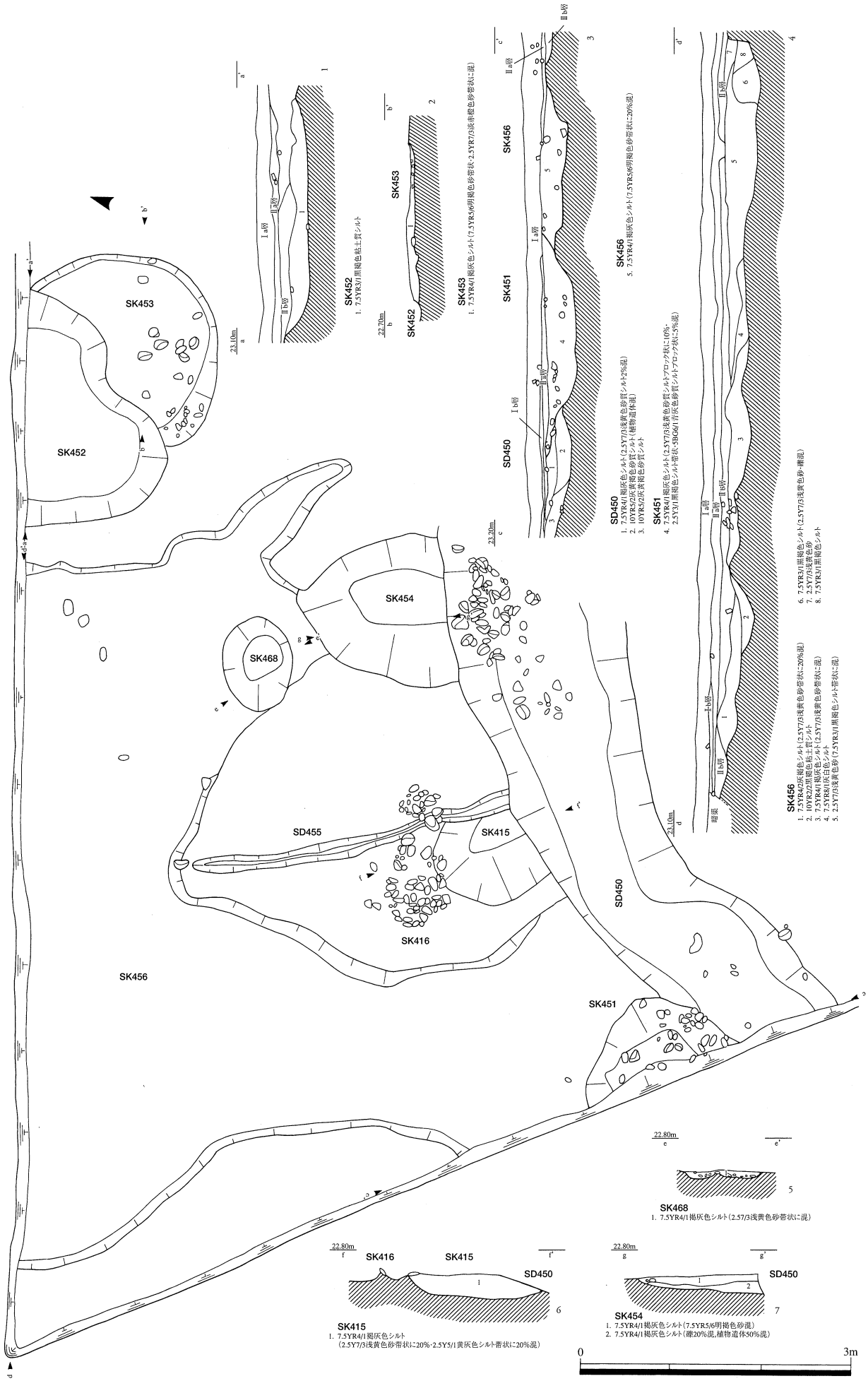
第142図　遺構実測図

1. SK269　2. SK354　3. SK259・SK262・SK263・SK265・SK305・SK306・SK355・SK396



第143図　遺構実測図

1. SK250・SK256・SP326・SK402　2. SK162・SK367　3. SK353　4. SK179

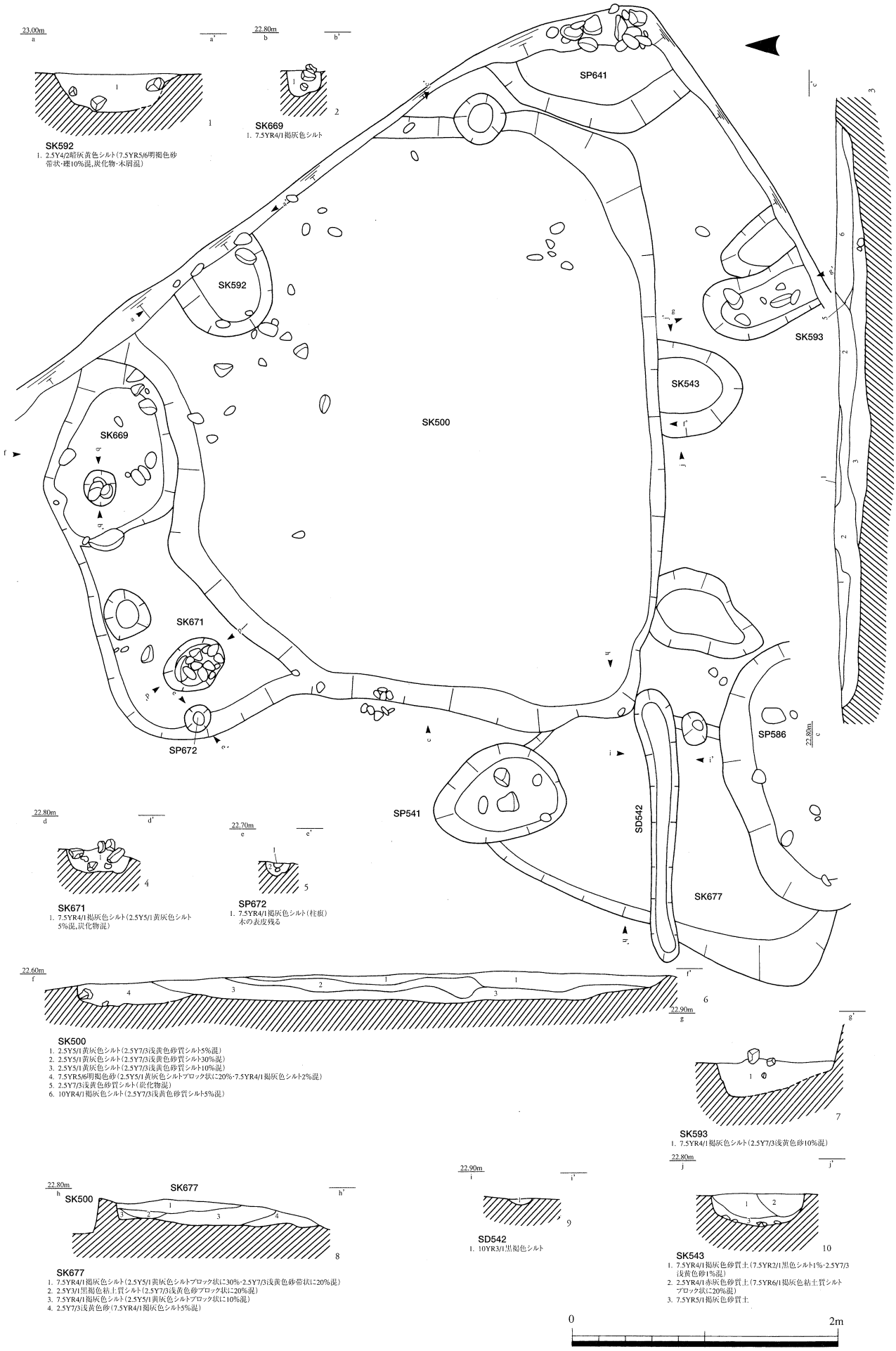


第144図 遺構実測図

1. SK452 2. SK453 3. SD450・SK451・SK456 4. SK456 5. SK468 6. SK415 7. SK454

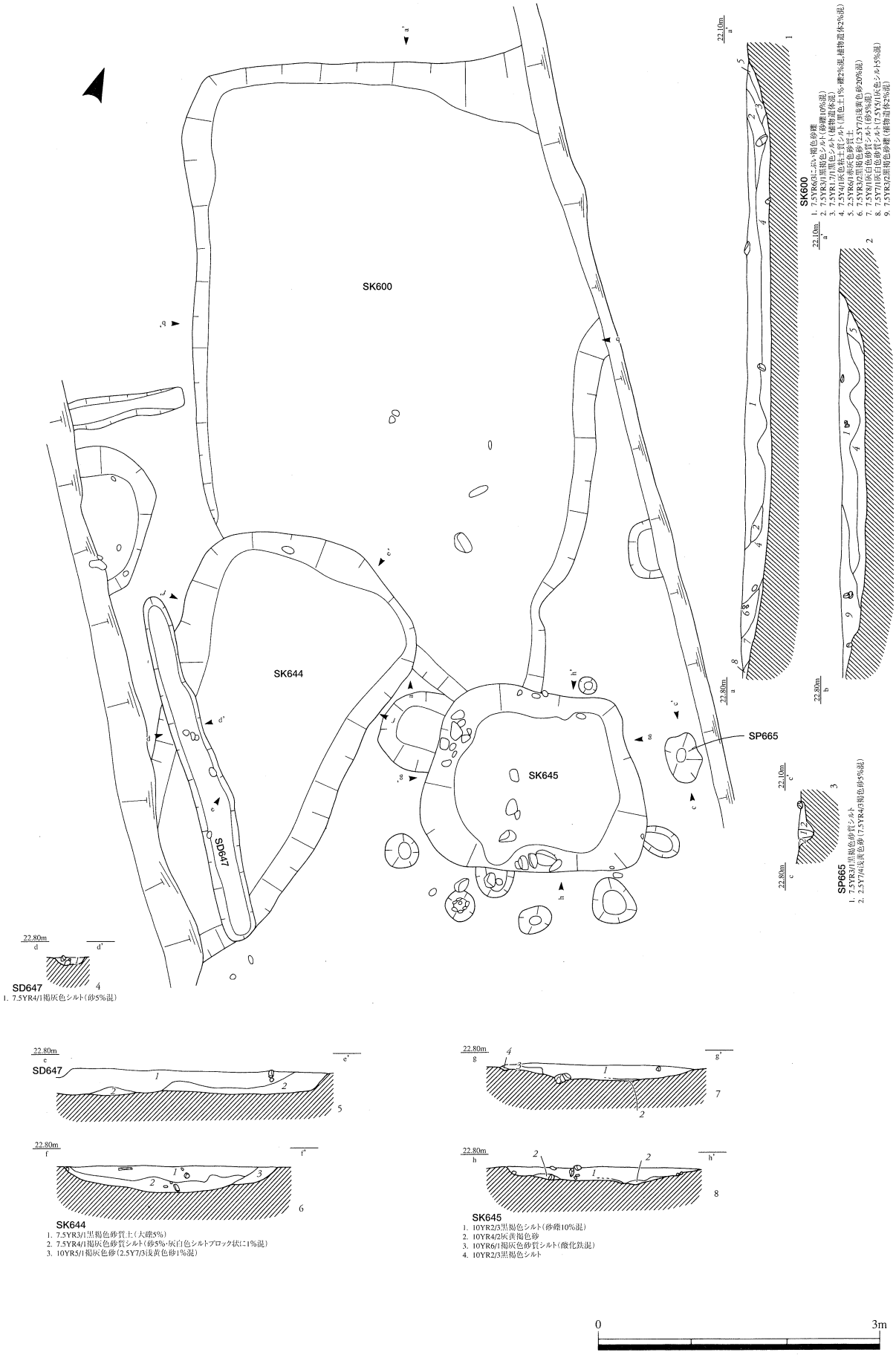
第145図　遺構実測図

1. SK684　2. SK482　3. SK482・SP575　4. SK582　5. SK482・SE530・SK582　6. SK582



第146図　遺構実測図

1. SK592　2. SK669　3・6. SK500　4. SK671　5. SP672　7. SK593　8. SK677　9. SD542　10. SK543



第147図　遺構実測図

1・2. SK600　3. SP665　4. SD647　5・6. SK644　7・8. SK645

3　遺　　物

A　掘立柱建物

１号掘立柱建物（ＳＢ１，第148～150図，図版110・111・119・121～123・125）

1・*2*はＳＰ15から出土した。*1*は中国製染付の皿である。全面施釉で高台下端を釉剥ぎする。内面と高台内に染付がある。16世紀頃の製品である。*2*は伊万里の碗である。外面に染付がみられる。

*3*はＳＰ83から出土した柱である。

*4*はＳＰ113から出土した柱で，縦に割れ芯の部分が空洞化しており根元の加工などは不明である。

5～*8*はＳＰ175から出土した遺物である。*5*・*6*は越中瀬戸擂鉢である。*5*は口縁部の縁帯を外方につまみ出す形態である。全面に錆釉を施す。*6*の卸目は一単位2.3cm幅に８条を数える。*7*は柱根である。上端は腐食のため細くなっている。下端は中央に向かって削る。*8*は砥石である。

*9*はＳＰ150から出土した板状の加工木である。幅6.1cm，厚さ0.6cmで，一端は欠損している。

*10*はＳＰ186の根巻き石の下から出土した加工木で礎板または根固めに使用されたものと考えられる。

11・*12*はＳＰ194から出土した遺物である。*11*は厚みのある加工木で表面は平坦に削られているが，木取りは木目に沿っておらず，下端も一応削り取られてはいるが加工は粗い。断面は台形を呈する。表面は一部を残し焼けている。柱穴の中から出土しており，根固めに用いられたものであろうか。部分的に炭化している。*12*は出土状況から柱と思われる。割れ口は焼けていないが，表面は黒く炭化し，強い火を受けたものと考えられる。

*13*はＳＰ205の柱である。上端は腐食が進み，下端は削って平坦にしている。当遺跡から出土した柱の中ではもっとも太く，ＳＢ１の中心付近に据えられた柱で，大黒柱と考えられる。

*14*はＳＰ221から出土した越中瀬戸皿である。向付の形態で登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。内面に直接重ね焼きの痕跡が残る。高台内に墨書がある。

15・*16*はＳＰ241から出土した遺物である。*15*は越中瀬戸の椀である。鉄釉を施し，外面に灰釉を流しかける。*16*は伊万里の小型の碗である。外面に草花文，内面に界線の染付がある。

*17*はＳＰ249の上面に据えられていた石臼で，礎石に転用されたものと考えられる。下臼で，目は８分画，副溝は９条まで認められる。摺り面のまわりは欠損している。

*18*はＳＰ253の柱である。円柱で，下端は側面から一方向に削る。

*19*はＳＰ277の柱である。円柱で，下端は芯に向かって削り若干尖らせる。

*20*はＳＰ286の柱である。断面は長径７cmの楕円形を呈し，表面には部分的に漆が残っている。廃棄の際に中程で切断しようとしたものか，横方向の切れ目が途中まで入っている。

21～*25*は越中瀬戸の皿である。すべて鉄釉を施す。*21*はＳＰ298から出土したいわゆる向付の形態の皿である。*22*はＳＰ323出土で，削り込み高台で，口縁部は直線的にのびる。*23*～*25*はＳＰ362から出土した。*23*・*24*は削り込み高台の底部である。内禿で底部外面も露胎である。*25*は向付の形態で，登窯期の製品である。

*26*はＳＰ366出土の越中瀬戸壺である。体部は丸みをもち，口縁部は短く立ち上がり断面方形を呈する。内外面に鉄釉を施す。

27・*28*はＳＰ393から出土した遺物である。*27*は越中瀬戸の皿で向付の形態であり，登窯期の製品である。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*28*は円形板である。両面に黒漆を塗るが片面は

漆の残りが悪い。孔が２箇所みられる。

２号掘立柱建物（ＳＢ２，第150・151図，図版110～112・116・119・124）

*29*はＳＰ412から出土した越中瀬戸皿である。削り出し高台の丸皿である。灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

30～*36*はＳＰ483から出土した遺物である。*30*～*35*は越中瀬戸皿である。*30*・*31*は灰釉を施し，*32*・*33*・*34*・*35*は鉄釉を施す。内禿で外面下半は露胎である。*30*～*32*・*35*は削り出し高台である。*32*は端反皿である。*33*は口縁部の内外面に煤が厚く付着し，灯明皿として使用されたと考えられる。*30*・*31*・*35*は見込みに直接重ね焼きの痕跡が残る。*31*・*32*・*35*は登窯期の製品である。*36*は石鉢で石材は凝灰角礫岩である。

37～*39*はＳＰ573から出土した遺物である。*37*・*38*は越中瀬戸である。*37*は椀で，鉄釉を施すが，外面底部は露胎である。*38*は向付形態の皿で登窯期の製品である。底部内面に「次エ門」，高台内に「二」の墨書がある。*39*は唐津皿である。灰釉を施し，内面に４箇所胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

40～*42*はＳＰ586から出土した越中瀬戸皿である。*40*・*41*は鉄釉，*42*は灰釉を施す。*40*は丸皿で削り込み高台である。*41*は口縁部が強く屈曲する折縁皿である。*42*は丸皿である。

*43*はＳＰ586から出土した板状の加工木である。厚さ１㎝で両端は欠損している。

44・*45*はＳＰ632から出土した遺物である。*44*は越中瀬戸皿である。削り込み高台で口縁部は直線的にのびる。灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*45*は唐津の甕である。体部内外面に格子目叩きを施す。底部外面は無調整である。断面は赤褐色と白色を呈する胎土が互層になっている。

*46*はＳＰ633から出土した越中瀬戸の擂鉢である。全面に錆釉を施す。底部外面は回転糸切りである。卸目は一単位2.9㎝幅に9条を数える。

47～*49*はＳＰ641から出土した遺物である。*47*は唐津皿で灰釉を施す。16世紀末～17世紀初頭の製品である。*48*は伊万里小杯である。全面に透明釉を施し，高台端部を釉剥ぎする。外面に染付がある。17世紀前半～中頃の製品である。*49*は伊万里碗である。内外面に染付がある。

*50*はＳＰ685から出土した伊万里皿である。蛇の目釉剥ぎで，重ね焼きの痕跡が残り砂が溶着している。内面と体部外面に透明釉を施し，内面に染付がみられる。高台には砂が溶着する。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

３号掘立柱建物（ＳＢ3，151・152図，図版109・121・122）

*51*はＳＰ81から出土した杭である。上部は断面長方形の角柱状に丁寧に削られているが，土中に埋もれる下端部分の調整は粗く，芯に向かって削り細く尖らせている。同遺構からこの杭の他に直径20㎝前後の角柱を検出したが，腐食して脆くなっており取り上げの際に崩れてしまった。

*52*はＳＰ123の柱である。下端は不定方向から削り，ほぼ平坦である。

*53*はＳＰ124から出土した板状の加工木である。片面は約１㎝の幅を残して黒漆を塗る。片面は素地で，班点状の焼け焦げがみられる。箱状の容器の一部であろうか。

*54*はＳＰ140から出土した志野菊皿である。内面に一箇所，外面に二箇所円錐ピンの痕跡が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

*55*はＳＰ165の柱である。下端は二方向から削って尖らせる。

*56*はＳＰ163出土の志野丸皿である。全面に貫入の入った長石釉を施す。削り出し高台で口縁端部は外反する。大窯Ⅳ期～登窯Ⅱ期に生産されたもので，時期は16世紀末～18世紀中頃である。

57～*60*はＳＰ168から出土した遺物である。*57*・*58*は越中瀬戸である。*57*は椀で鉄釉を施し，灰釉を内面に流しかける。*58*は皿で，口縁部はわずかに外反し端部は丸くおさめる。鉄釉を施す。*59*は石硯である。側面及び内面に墨が付着する。*60*は柱である。下端は水平に切られている。

*61*はＳＰ218の柱である。下端は不定方向に削り，やや丸みをもたせる。

*62*はＳＰ358の柱である。下端は不定方向に削り，尖らせる。

４号掘立柱建物（ＳＢ４，第152図）

*63*はＳＰ525出土の円形板である。厚みは1.3cmと厚く，桶の蓋の可能性がある。断面に２箇所亀裂がみられるが目釘の跡であろうか。

*64*はＳＰ536出土の柱である。根元は中央へ向かって削っている。

*65*はＳＰ629出土の伊万里白磁碗である。器壁は薄く胎土は緻密である。

Ｂ ピ ッ ト

53号ピット（ＳＰ53，第152図）

*66*は加工木である。直径3.2cmの棒状で，孔がある。

116号ピット（ＳＰ116，第153図）

*67*は柱である。根元は中央に向かって削っているようであるが，芯が腐食して空洞になっているため明確でない。

184号ピット（ＳＰ184，第153図）

68・*69*は唐津皿である。*68*は灰釉を施し，16世紀末～17世紀初頭の製品である。*69*は内野山窯系の製品で，内面に灰釉，外面に銅緑釉を施し，外面下半は露胎である。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

244号ピット（ＳＰ244，第153図）

*70*は越中瀬戸皿である。向付の形態で登窯期のものである。削り込み高台である。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*71*は円形板である。黒漆が塗られている。

281号ピット（ＳＰ281，第153図）

*72*は越中瀬戸皿である。灰釉を施し，内禿で，外面下半は露胎である。口縁部は直線的にのび，削り出し高台である。登窯の製品と思われる。

350号ピット（ＳＰ350，第153図）

*73*は柱である。断面は楕円形で，下端は削って若干尖らせる。

459号ピット（ＳＰ459，第153図，図版123）

*74*は石臼である。上臼で心棒受けと供給口があり摺り面は凹面となっている。

75・*76*は杭である。*75*・*76*ともに直径約９cmの太い杭で，根元は中央に向かって削り尖らせる。表面は炭化しており，一度焼き付けた後先端を削ったものと思われる。

460号ピット（ＳＰ460，第153図）

77・*78*は杭である。*77*は下端を中央に向かって削り尖らせており，表面は炭化している。*78*は下端を一方向から削って尖らせる。*79*は加工木である。やや不整な直方体を呈し，全面平坦に削られている。

519号ピット（ＳＰ519，第153図）

*80*は柱である。両端を欠損している。

C　溝

1号溝（ＳＤ1，第154図）

81・*82*は越中瀬戸擂鉢である。*81*は内面に炭化物が付着する。全面に錆釉を施す。

*83*は煙管の雁首である。頸部は湾曲しつつ立ち上がり，円形の火皿が付く。羅宇との接合部は折れて曲がっており，隆帯はみられない。緑青がみられる。17世紀のものと考えられる。

2号溝（ＳＤ２，第154図，図版109・123・125）

*84*は珠洲擂鉢である。卸目は一単位3.5cm幅に15条を数える。

85～*89*は越中瀬戸である。*85*～*87*は椀である。*85*は鉄釉に灰釉を流しかけ，外面下半は露胎となる。*86*・*87*は鉄釉を施し，*87*は体部中程に沈線が入る。*88*は皿である。鉄釉を施し，内禿で底部外面も露胎である。*89*は越中瀬戸擂鉢で全面に錆釉を施す。

*90*は唐津椀で灰釉を施す。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

*91*は土師質土器である。外面は不定方向のナデ，内面は横方向のハケメを施し，指頭圧痕が残る。径は30cm前後に復元される大型の製品である。火舎であろうか。

92・*93*は漆器椀である。内面は朱漆，外面は高台内を含め黒漆を塗る。*94*は加工木である。厚さ4.4cmで両面をほぼ平坦に削っているが，加工面は木目に対して斜めになっており不整形をなしている。*95*は石臼である。上臼で供給口がある。*96*は円錐状の金属製品で用途は不明である。

5号溝（ＳＤ5，第154図，図版120）

*97*は伊万里の青磁皿である。高台内を含み全面に明緑灰色の釉を施し，見込みは蛇の目釉剥ぎ，畳付の釉は剥ぎ取る。蛇の目釉剥ぎの部分と畳付には砂が溶着する。

403号溝（ＳＤ403，第155図，図版110・119・122）

98～*102*は越中瀬戸である。*98*は椀の底部で削り出し輪高台である。鉄釉を施し，外面底部は露胎である。*99*は椀である。削り出し輪高台である。鉄釉の上に灰釉を流しかけ，外面底部は露胎である。*100*は向付の形態で，灰釉を施し，登窯期の製品である。*101*・*102*は擂鉢である。内外面錆釉を施す。*102*は卸目の磨滅が著しい。

103～*106*は伊万里である。*103*は陶胎染付の椀で18世紀前半の製品である。*104*は波佐見窯系の碗で，18世紀の製品である。*105*は白磁皿である。全面に施釉し，見込みは蛇の目釉剥ぎ，畳付は釉を剥ぎ取る。17世紀後半～18世紀前半の製品である。*106*は仏飯器である。染付は菊花散らしで，18世紀後半～19世紀初頭の製品である。

*107*は板状の加工木である。*108*は板状の加工木で，不規則に孔が穿たれる。

450号溝（ＳＤ450，第155図，図版110・116・118・119）

109～*115*は越中瀬戸である。*109*は天目茶椀で鉄釉を施す。*110*～*114*は皿である。*110*は見込みにかたばみの印花がある。外面には焼成時に溶着したと考えられる別個体の皿の口縁部破片が付着する。削り込み高台である。灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*111*～*113*は，鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*111*は直接重ね焼きをした痕跡がある。*114*は向付の形態で登窯期の製品である。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*115*は擂鉢で，内外面に錆釉を施す。

116・*117*は，伊万里碗で外面に染付がある。

118～*123*は唐津である。*118*は皿で，灰釉を施し，外面下半は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。*119*～*122*は内野山窯系の皿で，内面に銅緑釉，外面に灰釉を施す。蛇の目釉剥ぎし，外面下半は露胎である。*122*は高台内に墨書がある。*121*・*122*は砂目がなく，17世紀末～18世紀前半

の製品である。*123*は刷毛目二彩手の鉢で，銅緑釉が一部に施される。砂・胎土目が残り，目跡の間に高台の一部が癒着する。17世紀の製品である。

462号溝（ＳＤ462，第156図，図版120）

*133*は伊万里碗である。陶胎染付で，意匠は一重網目文である。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

467号溝（ＳＤ467，第156図，図版117）

*134*は唐津の刷毛目椀である。高台内は露胎である。17世紀末～18世紀前半の製品である。

471号溝（ＳＤ471，第156図）

*135*は唐津皿である。内面に胎土目を残す。灰釉を施し，底部は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

473号溝（ＳＤ473，第156図）

*136*は志野丸皿である。大窯Ⅳ期～登窯Ⅱ期の製品で16世紀末～18世紀中頃の時期が与えられる。

D 井　　戸

530号井戸（ＳＥ530，第156図，図版121）

*137*は曲物である。井戸の底から出土し，水溜として使用されたものと考えられる。ヒノキ科の材である。*138*は井戸側として使用された刳り抜き丸太である。図として一部分しか掲載できないが，直径約50cmの一木造りで，厚さは２cm前後である。内面には手斧痕が残る。上側の端面には装飾を意図してか，年輪に対して放射状に約３cm毎に直線が刻まれている。樹種はブナである。

634号井戸（ＳＥ634，第156図）

139・*140*は板状の加工木である。*139*は0.5cm，*140*は0.8cmの薄い板で，この井戸からは同様の加工木が７点出土している。井戸の側板または上部施設に使用されたものであろうか。

E 土　　坑

27号土坑（ＳＫ27，第157図）

*141*は越中瀬戸皿である。見込みに凸帯状の段を有し，直接重ね焼きをした痕が残る。灰釉を施し，内禿で，外面下半は露胎である。

30号土坑（ＳＫ30，第157図）

*142*は加工木である。薄い板状で，曲物の可能性がある。

34号土坑（ＳＫ34，第157図）

*143*は唐津皿である。内野山窯系の製品で，内面に銅緑釉を施す。17世紀後半～18世紀前半のものである。

39号土坑（ＳＫ39，第157図）

*144*は中国製白磁壺または水注である。口縁部は折れて垂下し頸部に沈線をもつ。内外面に施釉される。1060～1230年頃の製品である。

*145*は板状の加工木である。厚さは１cmで，両端と一方の側面は欠損している。同遺構からはこの他にも同様の板状の加工木片が数点出土している。

43号土坑（ＳＫ43，第157図）

*146*は越中瀬戸皿である。削り込み高台で，灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。全体に煤けており二次的に火を受けたものと考えられる。

79号土坑（ＳＫ79，第157図）

*147*は伊万里の小杯である。薄手で，口縁部は外反する。内外面に施釉し，外面に花文の染付がある。17世紀前半～中頃の製品である。

87号土坑（ＳＫ87，第157図，図版117）

*148*は越中瀬戸皿である。削り込み高台で鉄釉を施し，内禿で外面底部は露胎である。

*149*は須佐唐津擂鉢である。削り出し高台でロクロ成形である。高台内には幅約１㎝前後で平行に並ぶ削り痕がみられる。畳付は表面が磨滅しているが，全面に鉄泥を施す。卸目は一単位2.3㎝幅に８条を数える。17世紀後半～19世紀前半の製品である。

93号土坑（ＳＫ93，第157図）

*150*は唐津皿である。灰釉を施し，外面下部は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

100号土坑（ＳＫ100，第157図）

*151*は唐津皿である。灰釉を施し，外面下半は露胎である。見込みに胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

107号土坑（ＳＫ107，第157図）

*152*は越中瀬戸擂鉢である。全面に錆釉を施す。卸目は一単位2.6㎝に13条を数える。

108号土坑（ＳＫ108，第157図）

*153*は越中瀬戸天目茶椀である。内外面に鉄釉を施す。

111号土坑（ＳＫ111，第157図，図版121）

*154*は円形板である。0.7㎝の厚みがある。

121号土坑（ＳＫ121，第157図，図版116）

*155*は唐津筒型椀である。鉄釉を施し，外面底部は露胎である。16世紀末～17世紀前半の製品である。

133号土坑（ＳＫ133，第157図，図版118）

*156*は唐津皿である。口縁部は波縁で，内面に胎土目が残る。灰釉を施し，外面下半は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

155号土坑（ＳＫ155，第157図，図版110）

157・*158*は越中瀬戸皿である。*157*は灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*158*は口縁端部を上方へつまみ，端部は丸くおさめる。削り込み高台である。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

160号土坑（ＳＫ160，第157図）

*159*は越中瀬戸皿である。端反皿で登窯期のものと考えられる。鉄釉を施す。

170号土坑（ＳＫ170，第157図，図版109・111～113・116）

*160*は土師器皿である。見込みと口縁部を撫で，外面底部は無調整で板状の圧痕が残る。口縁部と内面の広い範囲に油煙が付着し灯明皿として使用されたものと考えられる。

*161*は瀬戸美濃天目茶椀である。口縁部は折れて端部へ向かい直線的にのびる。鉄釉を施し，外面底部は露胎である。大窯Ⅳ期に比定され，16世紀末～17世紀初頭の製品と考えられる。

*162*は唐津の瓶である。ロクロ整形で，内面は無調整で粘土のねじれた痕を残す。外面に鉄釉を施すが，下半は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

163～*165*は越中瀬戸皿である。*163*は灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*164*は口縁端部を上方へつまみ端部は丸くおさめる。破片であるが，口縁部の一部がわずかに抉れており，輪花状に

なる可能性がある。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。二次的な被熱のためか釉が融け皺状になっている。口縁部には油煙が付着し，灯明皿として使用されたものと考えられる。*165*は削り出し高台で，内底面に釉止めの段をもつ。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

166・*167*は加工木である。*166*は厚さ0.6cm幅4.2cmの薄い板状の加工木で，一端は斜めに切られ，もう一端は欠損している。*167*は板状の加工木である。

*168*は洪武通寶で背文字は「治」である。明銭で，初鋳は1368年である。

183号土坑（ＳＫ183，第158図，図版116）

*169*は唐津椀である。内外面に明緑灰色の透明な灰釉を施し，外面底部は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

193号土坑（ＳＫ193，第158図，図版109）

*170*は志野皿である。長石釉を施し，高台内は露胎である。大窯Ⅳ期～登窯Ⅱ期の製品で，16世紀末～18世紀中頃の時期が与えられる。

196号土坑（ＳＫ196，第158図，図版125）

*171*は京焼風唐津椀である。黄色みがかった透明釉を施し，貫入がみられる。17世紀後期～18世紀初頭の製品である。

*172*は煙管の雁首である。頸部は湾曲しつつ立ち上がり，胴部と羅宇の接合部は隆帯状になっている。火皿は円形で，頸部との間に突帯状の膨らみがある。16世紀末～17世紀の製品と考えられる。

211号土坑（ＳＫ211，第158図）

*173*は越中瀬戸の擂鉢である。卸目は一単位3.2cm幅に９条を数える。全面に錆釉を施す。

213号土坑（ＳＫ213，第158図）

*174*は越中瀬戸皿である。向付の形態で登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。見込みに直接重ね焼きの痕跡が残る。

232号土坑（ＳＫ232，第158図）

*175*は越中瀬戸皿である。向付の形態で登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

240号土坑（ＳＫ240，第158図）

*176*は越中瀬戸皿である。向付の形態で登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。破片のため一部分しかわからないが，内面は釉を四角く抜くようである。

259号土坑（ＳＫ259，第157図，図版121）

*177*は一木造りの連歯下駄である。台の平面形は隅丸方形で，前方より後方が若干狭くなる。前壺は中心に穿たれ，後壺は後歯の直前に穿たれる。台表の指圧痕から右足用と思われる。ヒノキ科の材である。

261号土坑（ＳＫ261，第158図）

178・*179*は越中瀬戸皿である。ともに鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*179*は向付の形態で登窯期のものである。

265号土坑（ＳＫ265，第158図，図版118）

*180*は唐津皿である。内野山窯系の製品で，内面に銅緑釉，外面に灰釉を施す。蛇の目釉剥ぎし，底部外面は露胎である。高台内に墨書「一」がある。17世紀末～18世紀前半の製品である。

280号土坑（ＳＫ280，第158図，図版109）

181・*182*は越中瀬戸皿である。ともに高台内に墨書がある。*181*は灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。墨書は「○」である。*182*は向付の形態で登窯期のものである。削り出し高台で，鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

*183*は板状の加工木である。断面に３箇所目釘が打たれた跡がみえる。

296号土坑（ＳＫ296，第158・159図，図版109・113・121）

184～*189*は越中瀬戸である。*184*～*188*は皿である。*184*・*185*・*188*の高台内には墨書があり，前二者は「○」である。*184*～*186*は灰釉を施し，内禿で，外面下半は露胎である。*186*は見込みに菊の印花があり，直接重ね焼きをした痕が残る。*187*・*188*は向付の形態で，登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*189*は擂鉢である。内外面に錆釉を施す。

*190*は伊万里碗である。全面に施釉し，畳付の釉を剥ぎ取るが砂が溶着する。

*191*は板状の加工木である。片面は焼け焦げている。*192*は円形板で，孔が穿たれる。一部焼け焦げている。

*193*は永楽通寶である。明銭で，初鋳は1408年である。

314号土坑（ＳＫ314，第159図，図版109）

*194*は土師質土器である。内面は横方向の粗いナデを施し，指頭圧痕が残る。大型の製品で，直径は40㎝前後に復元される。火舎であろうか。

315号土坑（ＳＫ315，第159図，図版113）

*195*は越中瀬戸皿である。向付の形態で登窯期のものである。削り出し高台で鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

325号土坑（ＳＫ325，第159図，図版120）

*196*は中国製染付皿である。内外面に施釉するが，畳付から高台内にかけては露胎である。16世紀後半～17世紀初頭の製品である。

335号土坑（ＳＫ335，第159図）

*197*は越中瀬戸皿である。向付の形態で，登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

348号土坑（ＳＫ348，第159図）

198～*200*は曲物である。*198*・*199*は１箇所ずつに，*200*は３箇所に孔がみられる。

363号土坑（ＳＫ363，第159図，図版109・114）

201～*207*は越中瀬戸である。*201*～*206*は皿である。*201*・*202*は高台内に墨書があり，*201*は「○」である。*201*・*206*は灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*201*は内面に直接重ね焼きの痕がある。*206*は見込みに16弁菊の印花がある。口縁部には油煙が付着しており，灯明皿に使用されたものと考えられる。*202*～*205*は向付の形態で，登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*203*は内面に直接重ね焼きをした痕が残る。*207*は擂鉢である。口縁部は縁帯を外方につまみ出す形態で，内外面に錆釉を施す。

*208*は茶臼である。内面は丁寧に磨かれ，目は磨耗している。底部外面は，接地面を幅約４㎝の高台状に残し，内側を鑿で抉る。石材は砂岩である。

372号土坑（ＳＫ372，第160図，図版110）

*209*は越中瀬戸皿である。見込みに12弁菊の印花があり，直接重ね焼きをした痕が残る。灰釉を施し，内禿で外面底部は露胎である。

373号土坑（ＳＰ373，第160図，図版122）

*210*は越中瀬戸の椀で，鉄釉を施す。*211*は伊万里の碗で，外面に染付がみられる。*212*は加工木で，用途は不明である。断面は台形を呈し，両端は斜めに切られている。

387号土坑（ＳＫ387，第160図）

213・*214*は越中瀬戸である。*213*は天目茶椀である。内外面に鉄釉を施す。*214*は皿である。内面に釉止めの段をもつ。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。

389号土坑（ＳＫ389，第160図，図版116）

*215*は唐津瓶である。内外面に鉄釉を施す。16世紀末～17世紀初頭のものである。

394号土坑（ＳＫ394，第160図）

*216*は越中瀬戸椀である。内外面に灰釉を施す。

395号土坑（ＳＫ395，第160図，図版125）

*217*は土師質土器擂鉢である。底部破片で，内面は部分的に剥離している。外面には煤が付着する。

*218*は円形板である。欠損しているため径は不明であるが，外周は斜めに薄く削がれ目釘が打たれているので，曲物の底板と考えられる。*219*は石硯である。硯頭部分の破片で，さらに縦半分に割れている。硯頭と裏面の角は表面が剥離している。石材は泥岩である。

402号土坑（ＳＫ402，第160図，図版121）

*220*は土師質土器擂鉢である。卸目の単位は1.8cmに６条を数える。外面下半に煤が付着する。

*221*は中国製青磁碗である。高台断面が四角く底部は器壁が厚い。龍泉窯系のもので，内面にヘラで花文状の文様を施す。オリーブ灰色の釉を内外面に施し，畳付および高台内は露胎である。胎土はやや砂っぽい。太宰府分類のＩ類２～４に相当し，1160～1230年頃の製品である。

222・*223*は越中瀬戸である。*222*は椀で，削り出し輪高台である。灰釉を施し，外面底部は露胎となる。*223*は壺である。口縁部は短く折れて直立し，端部は断面方形を呈する。内外面に鉄釉を施す。

*224*は唐津瓶である。高台内部を抉り込み，高台をつくり出す。内面底部の中心にロクロで挽き残した部分が盛り上がる。内外面に鉄釉を施し，底部は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

*225*は漆器椀である。高台は脚の部分が欠損し磨滅している。内面は朱漆，外面は黒漆が塗られる。

*226*は下駄である。後歯は台と同じ一木から作り，前歯は別材でほぞで組み合わせる。前歯ははずれほぞ穴のみ残る。台は隅丸方形を呈し，前方より後方が狭くなる。前壺は中央に穿たれ，後壺は台表から後歯の直前へ向かって斜めに穿たれる。ヒノキ科の材である。

*227*は板状の加工木である。角は丸く削られている。

*228*は曲物で樺皮綴じされている。*229*は板状の加工木で，樺皮綴じされているが，0.9cmの厚みがあり，一端は斜めに切られている。折敷であろうか。

416号土坑（ＳＫ416，第160図）

*230*は唐津皿である。内野山窯系の製品で，内面に銅緑釉，外面に灰釉を施し，蛇の目釉剥ぎする。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

451号土坑（ＳＫ451，第160図，図版116）

231・*232*は唐津である。*231*は皿である。内野山窯系の製品で，内面に銅緑釉，外面に灰釉を施す。17世紀後半～18世紀前半の製品である。*232*は小椀である。灰釉を施し，外面下半は露胎である。胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

452号土坑（ＳＫ452，第160図）

*233*は伊万里の青磁皿である。蛇の目釉剥ぎし，外面底部は露胎である。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

234・*235*は板状の加工木である。*234*は厚さ１cmで，両端は欠損している。*235*は厚さ1.7cm，幅7.1cmで一端は欠損している。

453号土坑（ＳＫ453，第161図）

236～*238*は越中瀬戸である。*236*は椀である。内外面に鉄釉を施す。*237*は向付の形態の皿で登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*238*は擂鉢である。内外面に鉄釉を施す。

454号土坑（ＳＫ454，第161図，図版114）

*239*は越中瀬戸皿である。口縁部は直線的にのび，削り出し高台である。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。登窯期の製品と思われる。

*240*は唐津瓶である。ロクロ整形で，外面に鉄釉を施し，内面及び外面下半は露胎である。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

456号土坑（ＳＫ456，第156図，図版125）

*124*は中国製白磁碗である。胎土はやや砂っぽく，釉には貫入が見られる。11世紀後半～12世紀前半の製品である。

*125*は土師質土器擂鉢である。底部外面には煤が付着する。

126・*127*は越中瀬戸である。*126*は皿である。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*127*は擂鉢で内外面に錆釉を施す。

128・*129*は伊万里である。*128*は碗で外面に染付がある。*129*は瓶で竹文の染付がある。

*130*は唐津の小椀である。灰釉を施し，外面下半は露胎でロクロ目が残る。胎土目積みである。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

*131*は曲物である。側面と両端は欠損している。

*132*は馬鍬の刃である。断面は長方形で，頭部は片面へ折り肥厚させる。頭部は横に広がり，先端に向かって細くなる。

482号土坑（ＳＫ482，第161図，図版109・110・117・119・121）

241・*242*は越中瀬戸皿である。*241*は見込みに凸帯状の段があり，菊の印花を施す。灰釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*242*は向付の形態で登窯期のものである。内外面に鉄釉を施す。

243・*244*は唐津皿である。内野山窯系の製品で，内面に銅緑釉，外面に灰釉を施す。*244*は砂目がなく17世紀末～18世紀前半の製品である。*245*は京焼風唐津椀である。内外面に施釉し，貫入がはいる。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

*246*は陶器鉢である。胎土はにぶい黄橙色を呈し，内外面に透明釉を施す。器壁は薄く，体部は丸みをもち口縁部へ向かい外反する。一部に外面から指で押さえ窪ませた部分があるが，破片であるため全体の器形は不明である。

247～*250*は伊万里で，染付は外面に２条の界線のみみられる。*247*は陶胎染付の碗で18世紀前半の製品である。*248*は碗で，一重網目文の染付がある。17世紀後半のものである。*249*は碗で外面に染付がある。*250*は白磁皿で内外面に施釉される。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

*251*は唐津？擂鉢である。胎土はにぶい赤褐色を呈し，硬質である。

*252*は信楽甕である。外面に錆釉を施す。17世紀のものである。

*253*は越中瀬戸擂鉢である。内外面に錆釉を施す。卸目の単位は2.5cm幅に7条を数える。

*254*は加工木である。片面は黒漆塗り，裏は朱塗りで，組み合わせのため幅6㎜の帯状に薄く削り込んだ部分がある。箱状の木製容器の一部であろうか。

500号土坑（ＳＫ500，第161図，図版109）

255・*256*は越中瀬戸皿である。*255*は内外面に灰釉を施す。*256*は向付の形態で登窯期の製品である。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。高台内に墨書「九」がある。

*257*は伊万里の白磁皿である。蛇の目釉剥ぎし，重ね焼きの痕が残る。外面底部は露胎である。17世紀後半～18世紀前半の製品である。

*258*は細い角材状の加工木である。厚さは1.4cmで，断面は長方形を呈する。4面はほぼ平坦に削り，単部は一端が欠損している。

548号土坑（ＳＫ548，第161図）

*259*は越中瀬戸小杯である。口縁部は天目茶椀風に外反し，底部は削り込み高台である。鉄釉を施し，外面下半は露胎である。

564号土坑（ＳＫ564，第161図）

*260*は唐津皿である。内面に灰釉を施し，胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

582号土坑（ＳＫ582，第161図，図版117）

*261*は漆器椀である。内面朱漆，外面は黒漆を塗る。樹種はブナである。

*262*は唐津擂鉢である。口縁部は縁帯状に外面に肥厚する。卸目の単位は5.3cm幅に14条を数える。口縁端部外面にのみ鉄釉を施す。胎土は灰赤色を呈し，堅く焼き締まっている.

593号土坑（ＳＫ593，第162図）

*263*は越中瀬戸擂鉢である。口縁部は断面三角形を呈し，内外面に錆釉を施す。

600号土坑（ＳＫ600，第162図，図版109・119）

*264*は瀬戸美濃天目茶椀である。内外面鉄釉を施し，底部外面は露胎である。大窯Ⅳ期～登窯Ⅰ期の製品で16世紀末～17世紀末のものと考えられる。

265・*266*は越中瀬戸である。*265*は向付の形態で登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*266*は火桶である。口縁部は断面方形を呈し，穿孔がある。内外面に鉄釉を施すが，内面の口縁部以下は露胎である。

*267*は伊万里碗である。外面に菊花文の染付がある。不動山3号窯の製品に類似品があり17世紀前半のものと考えられる。

*268*は曲物である。この土坑からは他にも同様の破片が数点出土している。*269*は板状の加工木である。厚さは1.7cmで，側面に2箇所目釘が打ち込まれている。一端は欠損しているが，もう一端は丸みをもちつつ斜めに切られているようである。

644号土坑（ＳＫ644，第162図，図版109・110・116）

270～*279*は越中瀬戸である。*270*・*271*は椀で削り出し輪高台である。鉄釉を施し，底部外面は露胎である。*272*～*278*は皿である。*272*は灰釉，*273*～*276*は鉄釉を施し，内禿で外面底部は露胎である。*272*は見込みに12弁菊の印花と直接重ね焼きした痕がある。*277*・*278*は向付の形態で，登窯期のものである。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*278*は高台内に墨書「九」がある。*279*は擂鉢である。口縁部は断面三角形を呈し，錆釉を施す。

280～*285*は唐津である。*280*は椀である。内野山窯系の製品で，内面に灰釉，外面に銅緑釉を施し

外面底部は露胎である。見込みに胎土目が残る。17世紀後半～18世紀前半の製品である。*281*～*285*は皿である。*281*・*282*は灰釉を施し，外面下半は露胎である。見込みに胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。*283*・*284*は内野山窯系の製品で，内面に灰釉，外面に銅緑釉を施す。17世紀後半～18世紀前半の製品である。*285*は溝縁皿で見込みに砂目が残る。17世紀前半の製品である。

*286*は伊万里碗である。陶胎で，全面に施釉し，畳付の釉を剥ぎ取る。18世紀前半の製品である。

*287*は陶器鉢である。外面は黄灰色の灰釉に白化粧土を重ね横縞の文様になっている。

645号土坑（ＳＫ645，第163図，図版116・119）

288・*289*は越中瀬戸である。*288*は皿で，見込みに印花を施すが意匠は不明である。内外面露胎である。*289*は擂鉢である。口縁部は断面三角形を呈し，内外面に錆釉を施す。

290・*291*は唐津皿である。*290*は内野山窯系の製品で，内面に銅緑釉，外面に灰釉を施し，底部外面は露胎である。17世紀後半～18世紀前半の製品である。*291*は大型の皿で，内外面に灰釉を施し，内面に鉄絵がある。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

292～*296*は伊万里である。*292*・*293*は碗である。*292*は内外面に染付がある。*293*は青磁である。蛇の目釉剥ぎし，外面底部は露胎である。釉剥ぎ部分には重ね焼きの痕跡が残り，釉剥ぎされなかった部分に砂が溶着する。17世紀後半～18世紀前半の製品である。*294*・*295*は皿である。*294*は内面にあやめの染付があり，山辺田６・７号窯に類似品がある。17世紀前半の製品である。内外面に施釉し，畳付部分を釉剥ぎするが，*295*は畳付に砂が溶着する。*296*は瓶である。頸部破片で薄手である。内外面に施釉し，外面に染付がある。

*297*は陶器鉢である。胎土は褐灰色を呈する。内外面に鉄釉を施し，朝鮮唐津にみられる藁灰釉に似た浅黄色の釉を流しかける。全体に光沢のある釉である。

677号土坑（ＳＫ677，第163図，図版117）

*298*は土師質土器擂鉢である。焼成は甘く浅黄色を呈し磨滅が著しい。口縁端部は丸みをもち，内面口縁部下に沈線をもつものと思われるが磨滅のため不明である。卸目の単位は２㎝幅に７条を数える。16世紀頃のものと思われる。

Ｆ　表土・包含層（第164～170図，図版109・110・115～120・124）

299～*374*は越中瀬戸である。*299*・*300*は椀である。*299*は内外面に鉄釉を施し，灰釉を流しかける。*300*は鉄釉を施し，外面底部は露胎である。*301*は天目茶椀である。内外面に鉄釉を施し，灰釉を流しかける。

302～*352*は皿である。*302*・*305*・*307*・*308*・*311*～*314*・*316*・*323*・*328*・*331*は灰釉を，*303*・*304*・*306*・*315*・*317*～*322*・*324*～*327*・*330*・*332*は鉄釉を施し，外面下半は露胎である。*309*・*310*は鉄釉を灰釉の上から流しかける。*333*は鉄釉を施し，外面下半のみ露胎で，底部は回転糸切りである。*301*・*305*・*312*・*314*・*317*・*320*は見込みに釉止めの段をもち，*311*は十二弁菊，*312*～*314*は十六弁菊の印花がある。*302*～*304*・*311*は高台内に墨書がある。*302*は「○」，*303*は「＋」，*304*は「一」，*311*は「○ヵ」である。*306*は端反皿で登窯期のものと思われる。*331*は内面にゾギがはいる。*332*は波状口縁である。*334*～*351*は向付の形態で，登窯期の製品である。*341*は墨書「＋」がある。鉄釉を施し，内禿で外面下半は露胎である。*306*・*307*・*323*・*327*・*340*・*341*・*351*は見込みに直接重ね焼きした痕がある。*352*は内外面に錆釉を施し，器高が高く特殊な形態である。

353～*355*は壺である。*353*・*354*は丸みをもつ体部に短く折れて直立する口縁部がつく。口縁端部は断面方形を呈する。*355*は底部である。削り出し輪高台である。鉄釉を施し，内外面ともに底部は露

胎である。

*356*は瓶である。無台で底部は回転糸切りである。内外面に鉄釉を施し，外面底部は露胎である。

357～*372*は擂鉢である。口縁部の形態は縁帯が三角形になるもの（*357*），端部が内面に折り返され上面が平坦なもの（*358*），縁帯が短く折れるもの（*359*），端部が尖り上面が窪むもの（*360*・*361*），端部が屈曲して直立するもの（*362*）がある。全面に錆釉を施す。卸目の単位がわかるものは，*364*で2.5㎝幅に10条，*368*で3.4㎝幅に12条，*370*・*372*で2.7㎝幅に８条，*371*で3.3㎝幅に11条を数える。*367*・*370*・*371*は内面に直接重ね焼きした痕が残る。

373・*374*は匣鉢である。底部は右回転の糸切りである。*373*は鉄釉を施し，内外面ともに底部は露胎である。*374*は全面に鉄釉を施す。

375～*407*は唐津である。*375*は擂鉢である。ロクロ整形で削り出し輪高台が付く。高台内を含む全面に錆釉を施し，畳付は露胎である。

376～*379*は椀である。*376*は灰釉を施し，外面下半は露胎である。16世紀末～17世紀前半の製品である。*377*は灰釉を施し，外面底部は露胎である。16世紀末～17世紀前半の製品である。*378*・*379*は刷毛目唐津である。*378*は口縁端部に鉄釉を施す。*379*は高台内を深く削り込み，底部の器壁が薄くなる。18世紀前半の製品である。

380～*394*は皿である。*380*・*381*は灰釉を施し，外面下半は露胎になるもので16世紀末～17世紀初頭の製品である。*380*は内面に鉄絵がみられる。*381*は内面に漆が付着する。*385*は器形が深く椀に近い形態のものである。灰釉を施し，外面下半は露胎で，口縁部に鉄釉を施す皮鯨手である。内面に胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。*382*～*384*・*390*～*394*は内野山窯系の製品で，内面に銅緑釉，外面に灰釉を施す。見込みを蛇の目釉剥ぎし，外面下半は露胎である。*392*は蛇の目釉剥ぎした端に砂が溶着し，*393*・*394*は蛇の目釉剥ぎ部分と畳付に砂目が残る。砂目が残る*392*～*394*は17世紀後半，蛇の目釉剥ぎのみの*390*・*391*は17世紀末～18世紀前半の製品である。*386*・*387*は灰釉を施し，外面は露胎で，見込みに胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭の製品である。*388*は大型の皿である。鉄釉を施し，外面下半は露胎で，見込みに胎土目が残る。*389*は灰釉を施し，外面底部は露胎で，底部内外面に砂目が残る。17世紀前半の製品である。

395～*398*は京焼風唐津で17世紀後半～18世紀初頭の製品である。*395*～*397*は椀である。*395*・*396*は全体に厚手の作りでいわゆる呉器手と称されるものである。全面に黄色みを帯びた透明釉を施し，細かな貫入がはいる。*395*は緑色釉を流しかける。*397*は高台を薄く削り出し，外面に鉄絵がみられる。内外面に施釉し，畳付は露胎である。*398*は皿である。器壁は薄く高台は高めの貼付高台である。内外面に施釉し，外面底部は露胎で，貫入がみられる。高台内に墨書がある。

399～*403*は擂鉢である。*399*・*400*は同種のもので，ロクロ整形し底部は回転糸切りである。卸目は細く密に施される。釉はみられない。*399*は底部が焼成ムラのため赤褐色を呈する部分と灰褐色を呈する部分に分かれる。*401*は口縁部が外方に折れ肥厚する。卸目は密で，*399*・*400*に比べやや太く，口縁部より一段下がったところから上端を揃えて施される。胎土は橙色を呈し，内外面に錆釉を施す。*402*・*403*は底部で底外面は無調整である。卸目はやや太めで，深く密に施す。胎土はにぶい赤褐色を呈し，無釉である。

404～*407*は鉢で17世紀の製品である。*404*は刷毛目唐津で，外面に鉄釉を施し内面は白泥で刷毛目を施す。*405*～*407*は三島手である。内面に鉄釉を施し，陰刻やスタンプを用いた文様に白泥を流してふき取る。外面には鉄釉を施す。*407*は外面上部に鉄釉を施し，以下は露胎で下半に鉄泥を施す。*405*

は波状の線刻と花文のスタンプ，*406*は剣先状の陰刻，*407*は唐草文と「米」状の文様及び波状線の陰刻を施す。

408～*449*は伊万里である。*408*～*412*は陶胎染付の碗である。全面に施釉し，畳付は釉を剥ぎ取る。*411*は内面に黒色のガラス質のものが付着する。18世紀前半の製品である。

413～*423*は碗である。*413*は一重網目文の染付である。内外面に施釉し，畳付及び高台内は露胎で，高台の内側に一部砂が溶着する。17世紀後半の製品である。*414*は内外面に施釉し，畳付は釉を剥ぎ取るが砂が溶着する。*415*は外面に丸文の染付がある。18世紀後半の製品である。*416*は外面に丸文の染付とコンニャク印判を施す。18世紀前半の製品である。*417*は草花文の染付がある。畳付を釉剥ぎする。*418*は松文の染付がある。高台内に「大明年製」の銘がある。内外面に施釉し，畳付は釉剥ぎするが一部に砂が溶着する。*419*は内外面に施釉し，畳付を釉剥ぎする。*420*は竹文の染付がある。*422*は内外面に施釉し，畳付は釉剥ぎするが一部に砂が溶着する。*423*は口縁端部が外反し，内外面に透明釉を施す。

424～*439*は皿である。*424*～*429*・*432*・*433*は内外面に施釉し，蛇の目釉剥ぎし，外面下半は露胎である。17世紀後半～18世紀前半の製品である。*424*・*432*は高台に砂が溶着し，*429*・*433*は蛇の目釉剥ぎ部分に重ね焼きの痕がある。*424*～*426*は青磁である。*427*・*428*は白磁である。*428*は高台内に墨書がある。*429*～*433*は白磁で，内面に染付がある。*429*は二重格子文を施し，18世紀の製品である。*432*・*433*は高台内に墨書がある。*434*は内面にあやめ文の染付があり，山辺田６・７号窯の製品に類似品がある。17世紀前半の製品である。内外面に施釉し，畳付は釉を剥ぎ取るが砂が溶着する。*435*は内面に花文の染付があり，外面は無文である。*436*は内面に花文，外面に唐草文の染付がある。*437*は内面に意匠不明の染付，外面に唐草文の染付がある。*439*は内外面に染付がある。畳付は釉剥ぎする。

*440*は鉢である。口縁部は外反し，上端は平面をなす。内外面に染付がある。

441～*445*は小杯である。器壁は薄く口縁端部が外反し，*445*は反りが強い。外面に草花文の染付があり，*443*は縦縞状のソギが入る。17世紀前半～中頃の製品である。

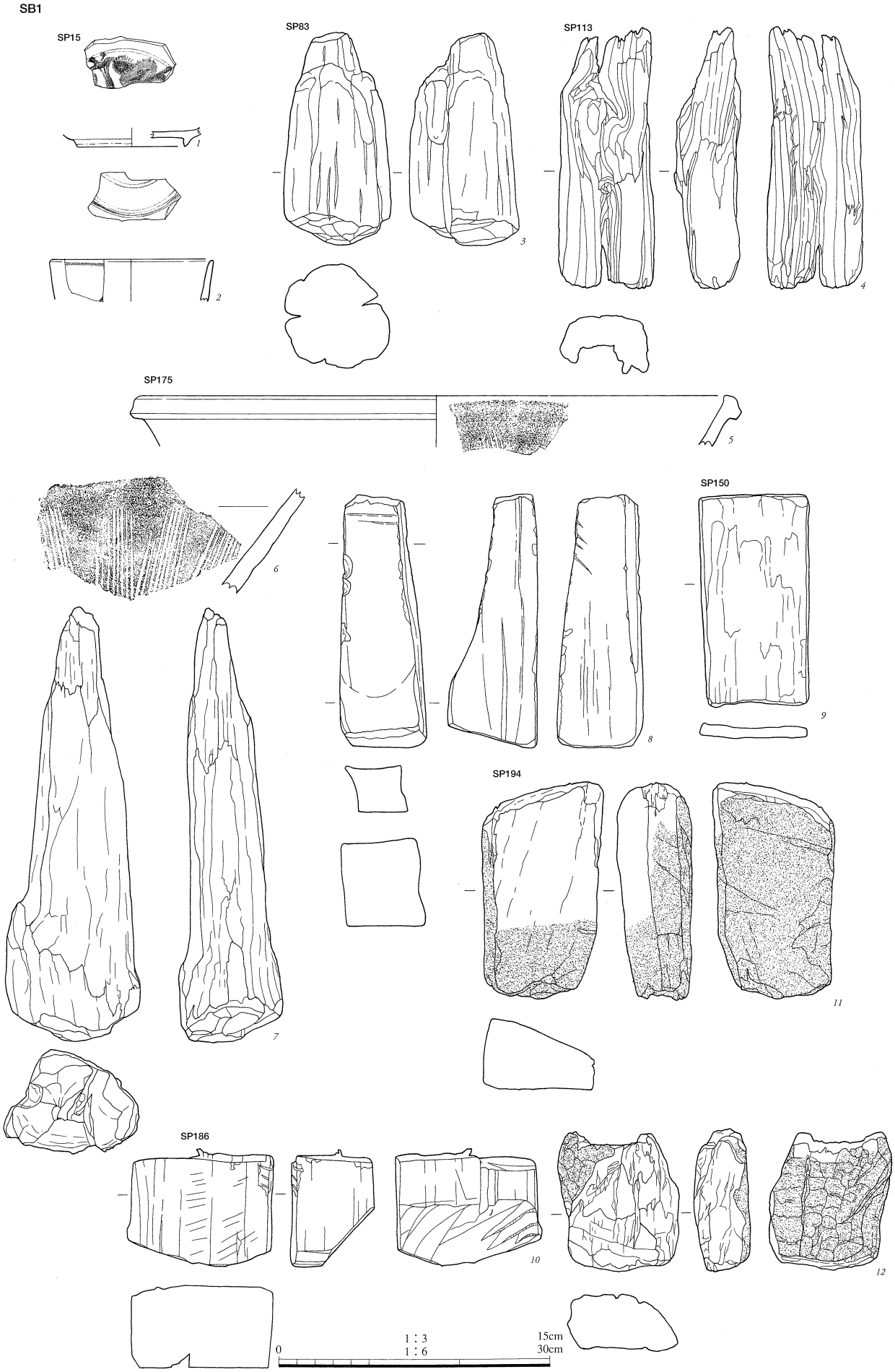
*446*は紅皿である。外面に放射状の凹凸が施される。18世紀後半の製品である。

447～*449*は瓶である。*447*は口縁部で，端部を薄く削り取った部分があり，ロクロ目が残る。*448*は刳り底で，外面に染付がある。外面に施釉し，貫入が入る。畳付から高台内及び内面は露胎で，内面の一部に釉が垂れている。高台には砂が溶着する。17世紀前半の製品である。*449*は高台を高く削り出す。外面に施釉し，畳付の釉を剥ぎ取る。

450～*452*は石臼である。*450*・*451*は上臼である。心棒受けと供給口の穴があり，摺り面は凹面となっている。*452*は下臼である。摺り面は中央がやや高く盛り上がり凸面となっている。底面には鑿痕が残る。すべて摺り面は磨耗しており，目のパターンは不明である。石材は凝灰角礫岩である。

*453*は寛永通宝である。

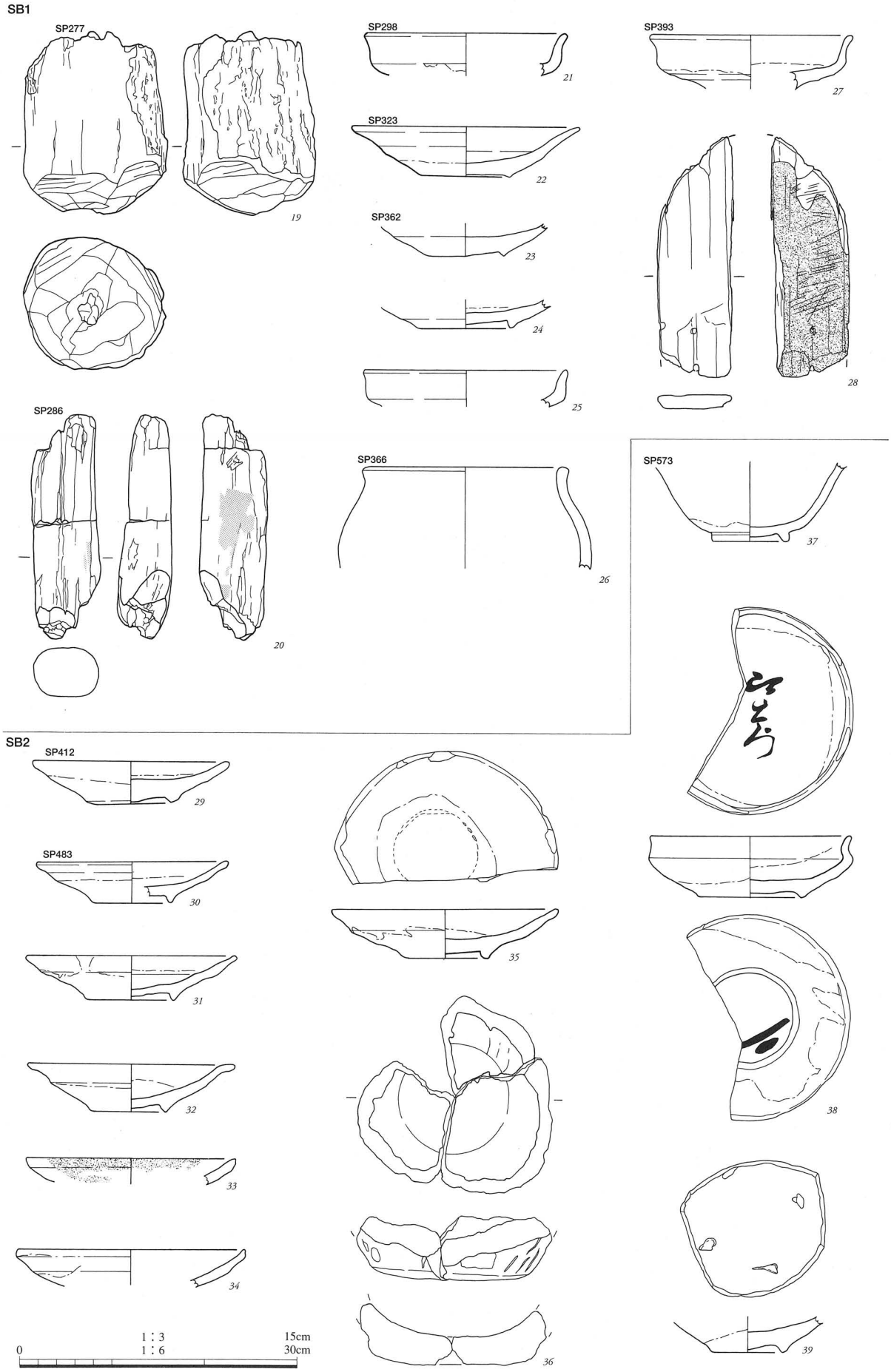
注１　佐賀和美　1994「調査中の遺構保護」『文化財学論集』文化財学論集編纂委員会



第148図　遺物実測図　（*1・2・5・6・8～11*　1/3，*3・4・7・12*　1/6）

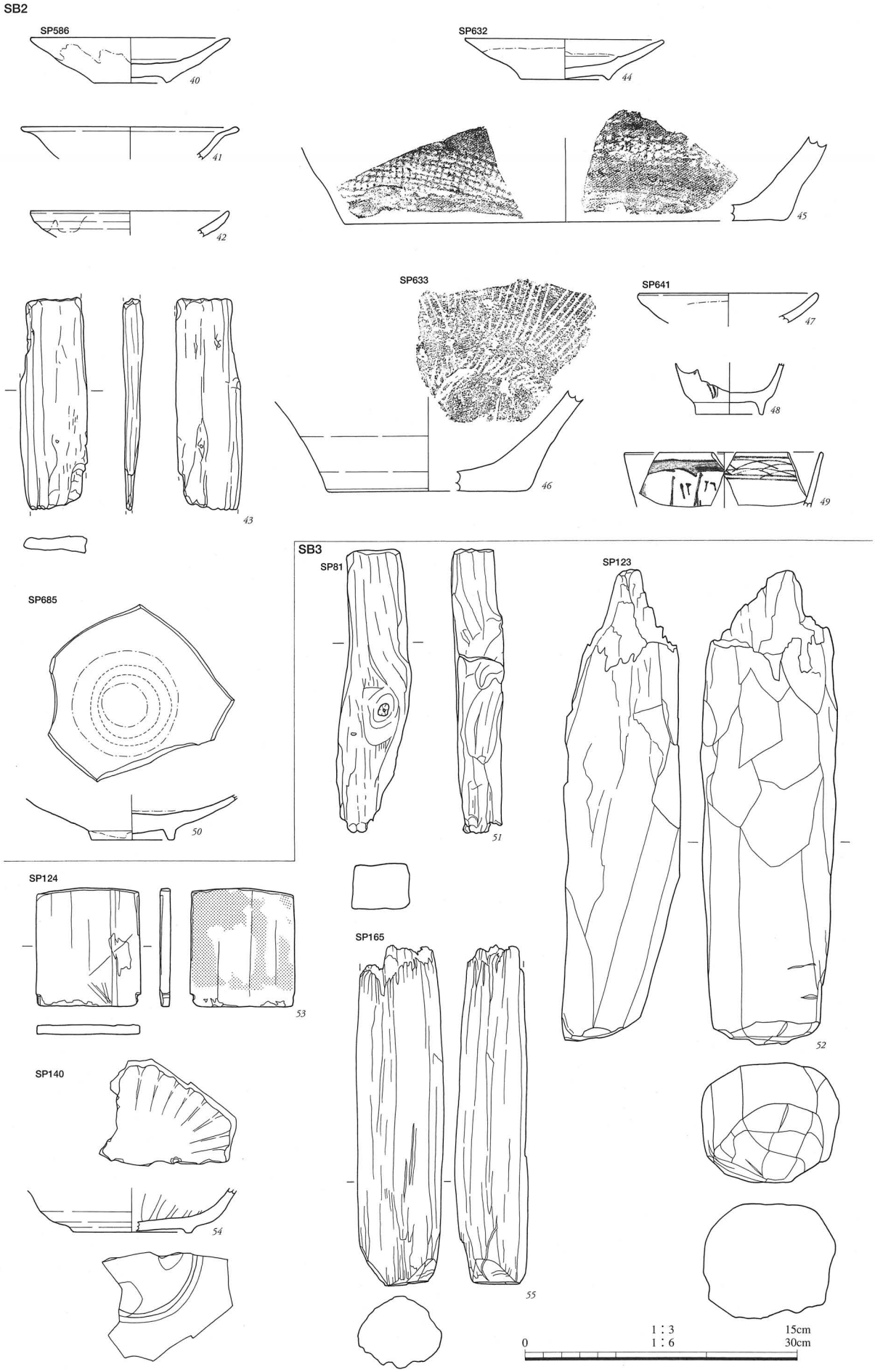
SB1　SP15（*1・2*）　SP83（*3*）　SP113（*4*）　SP175（*5・6・7・8*）　SP150（*9*）　SP186（*10*）
SP194（*11・12*）

第149図　遺物実測図　（*14*～*16*　1/3，*13*・*17*・*18*　1/6）
SB1　SP205（*13*）　SP221（*14*）　SP241（*15*・*16*）　SP249（*17*）　SP253（*18*）



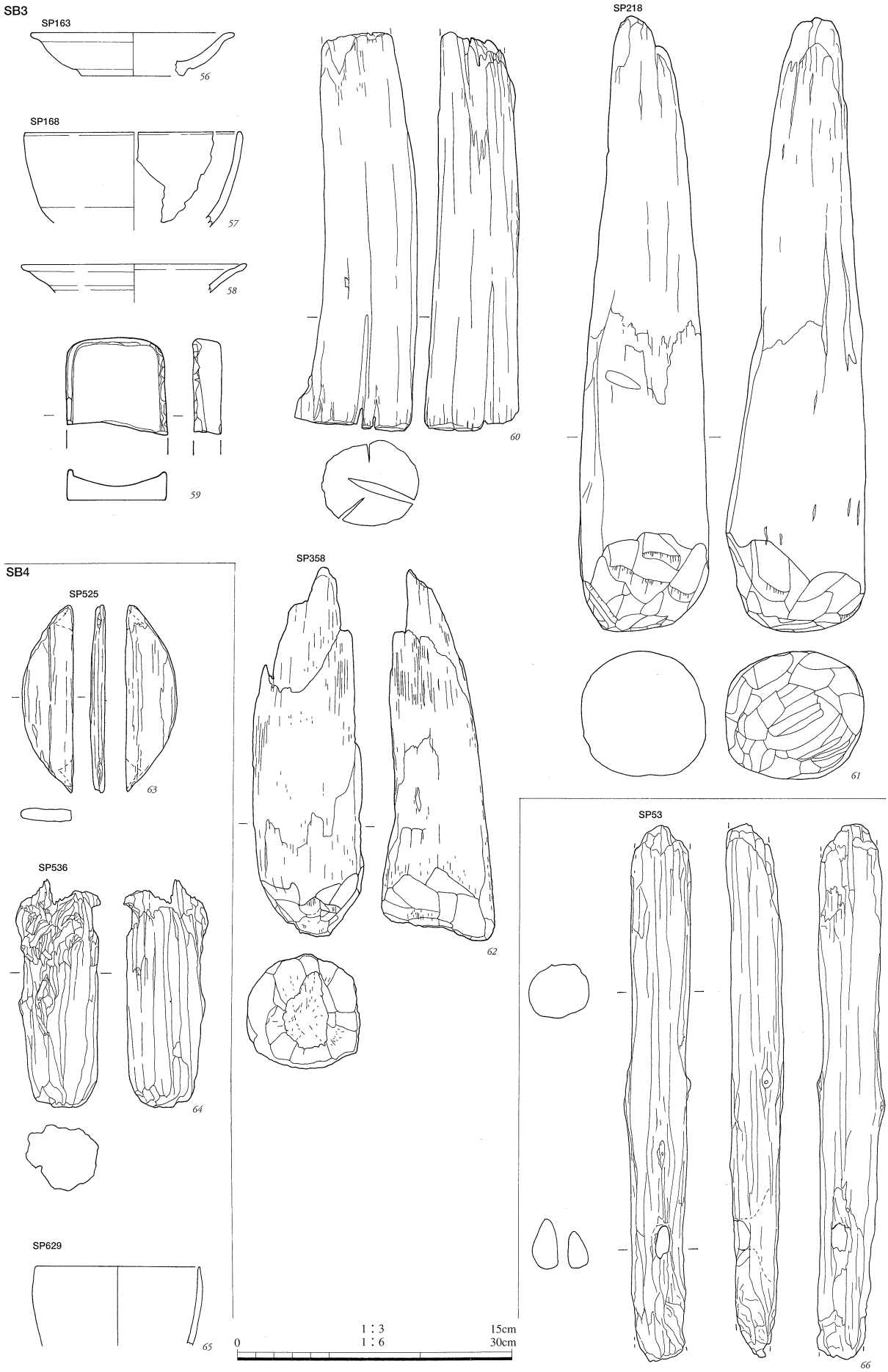
第150図　遺物実測図　（*21～35・37～39*　1/3，*19・20・36*　1/6）

SB1　SP277（*19*）　SP286（*20*）　SP298（*21*）　SP323（*22*）　SP362（*23～25*）　SP366（*26*）　SB393（*27・28*）
SB2　SP412（*29*）　SP483（*30～36*）　SP573（*37～39*）



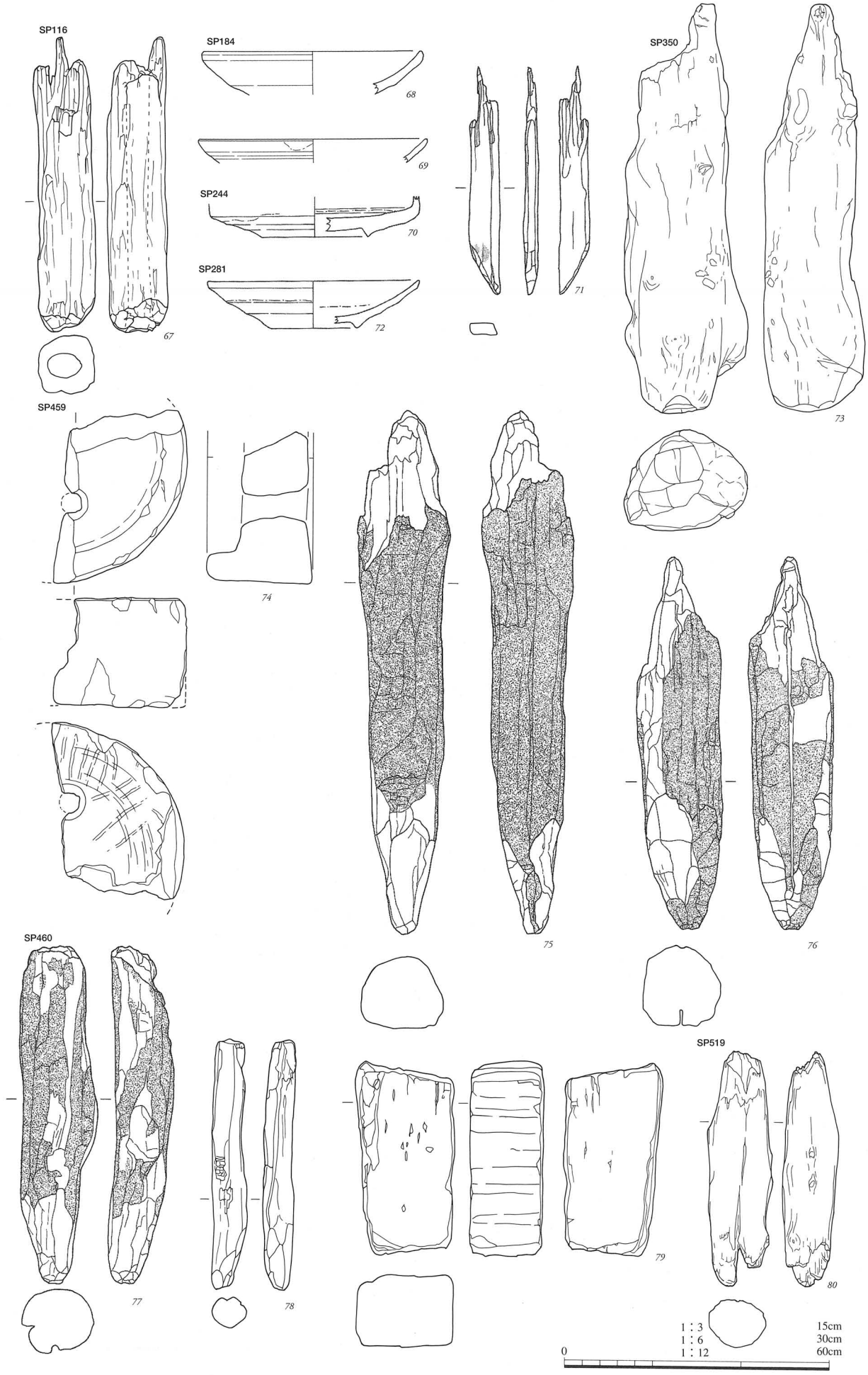
第151図　遺物実測図　（*40～51・53・54*　1/3，*52・55*　1/6）

SB2　SP586（*40～43*）　SP632（*44・45*）　SP633（*46*）　SP641（*47～49*）　SP685（*50*）
SB3　SP81（*51*）　SP123（*52*）　SP124（*53*）　SP140（*54*）　SP165（*55*）



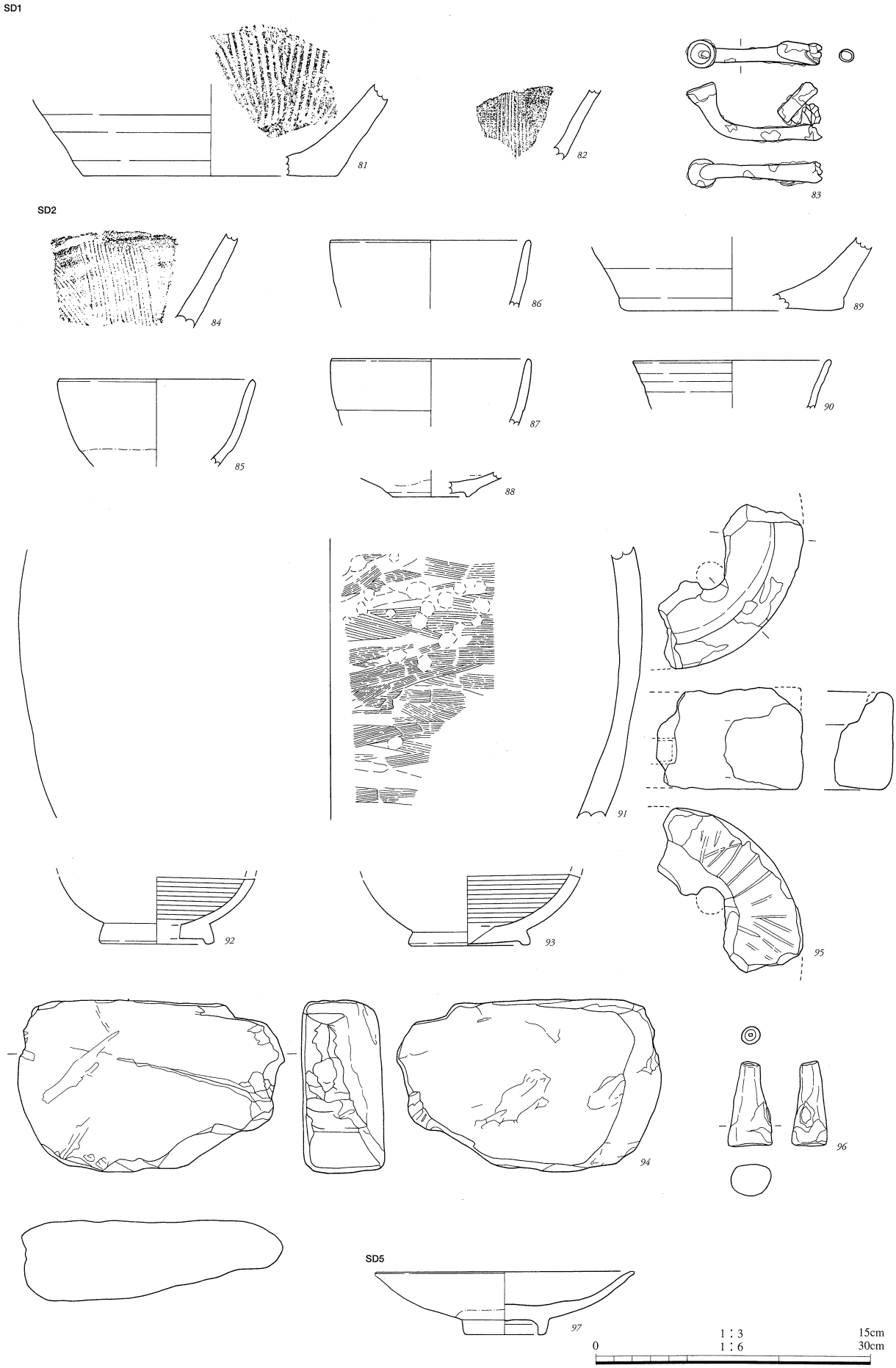
第152図　遺物実測図　（*56*～*59*・*63*・*65*・*66*　1/3，*60*～*62*・*64*　1/6）

SB3　SP163（*56*）　SP168（*57*～*60*）　SP218（*61*）　SP358（*62*）
SB4　SP525（*63*）　SP536（*64*）　SP629（*65*）　SP53（*66*）

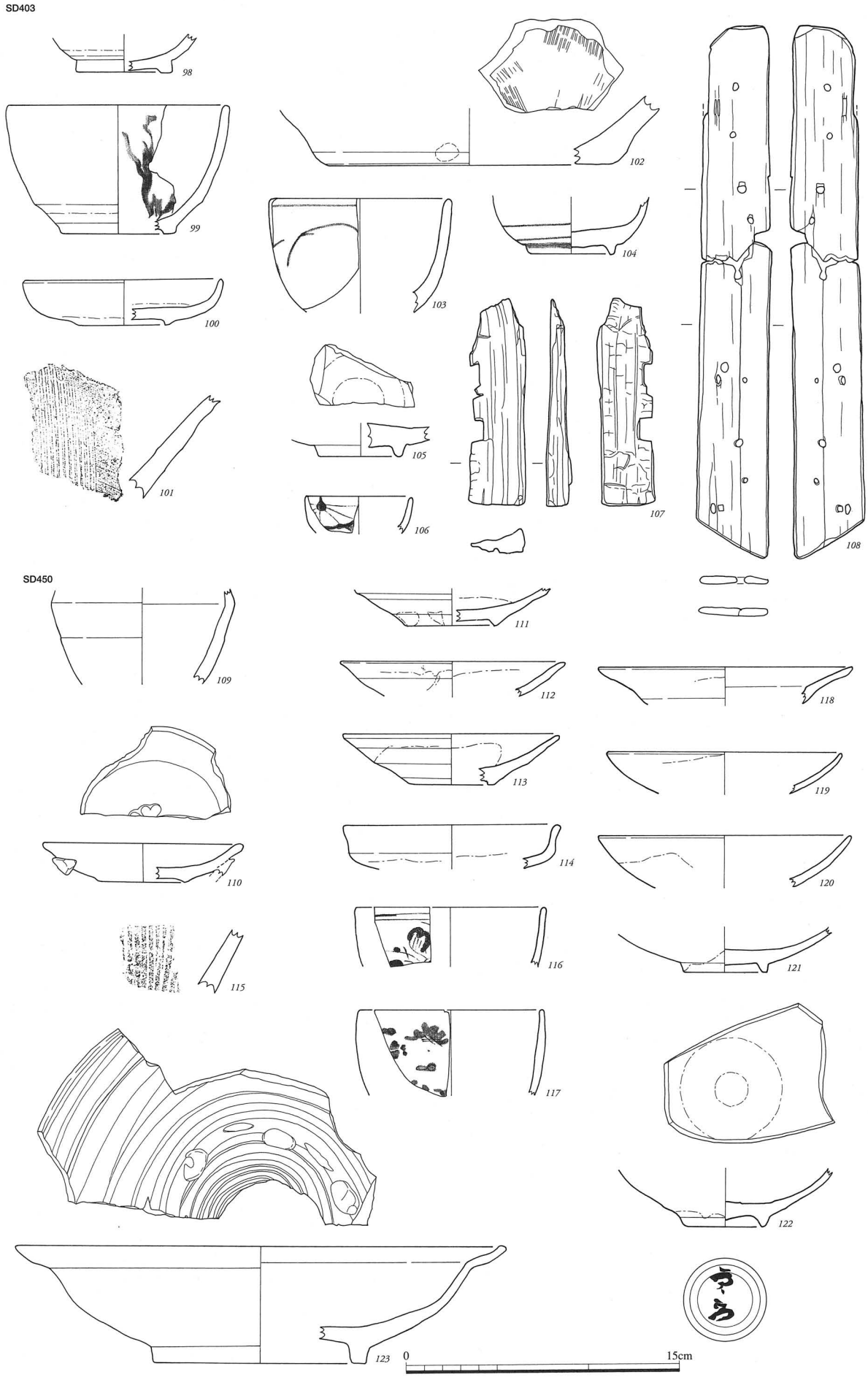


第153図　遺物実測図　（*68*～*72*・*79*　1/3，*67*・*73*～*78*　1/6，*80*　1/12）

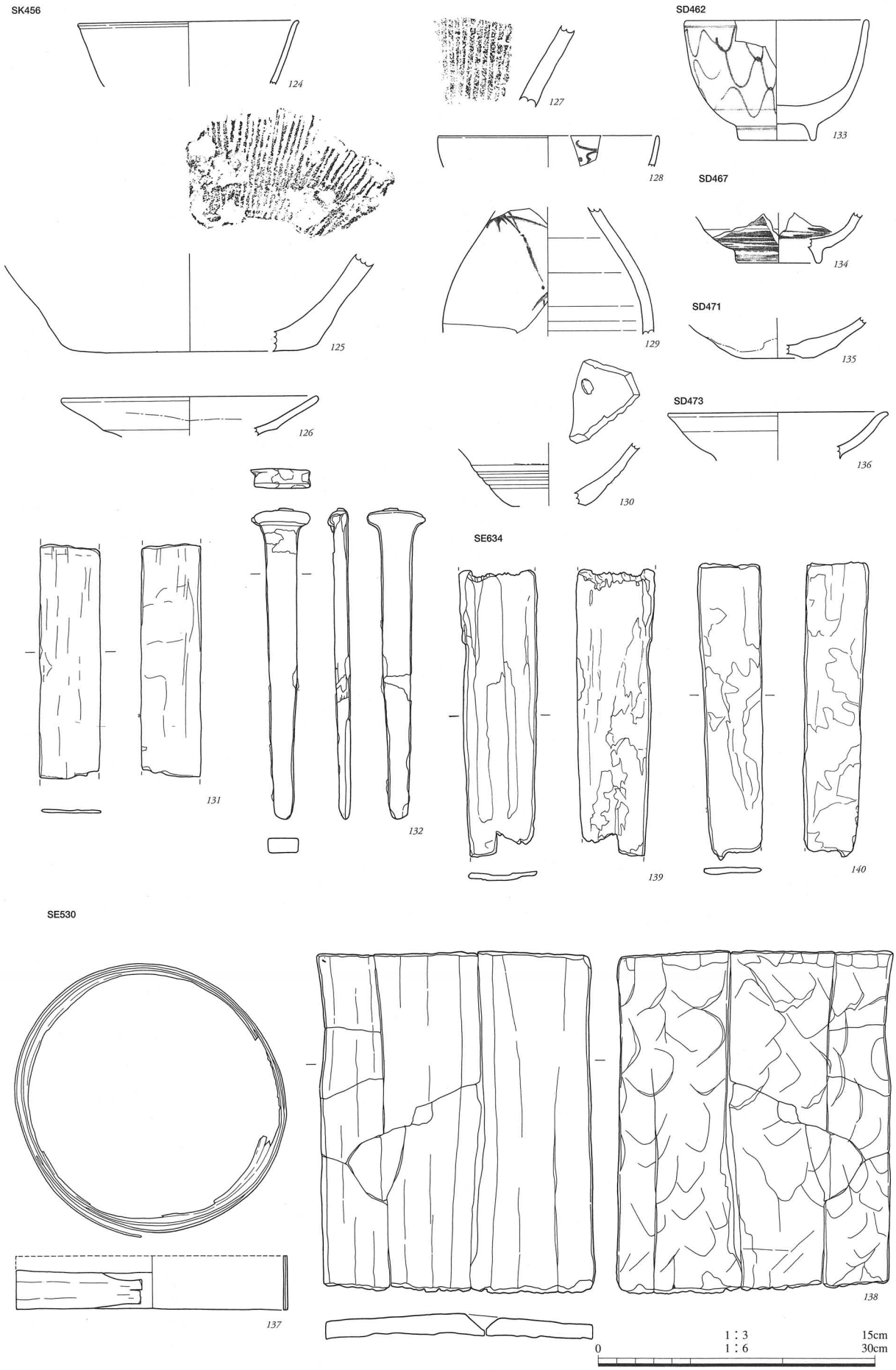
SP116(*67*)　SP184(*68*・*69*)　SP244(*70*・*71*)　SP281(*72*)　SP350(*73*)　SP459(*74*～*76*)　SP460(*77*～*79*)　SP519(*80*)



第154図　遺物実測図　（*81*～*94*・*96*・*97*　1/3，*95*　1/6）
SD1（*81*～*83*）　SD2（*84*～*96*）　SD5（*97*）

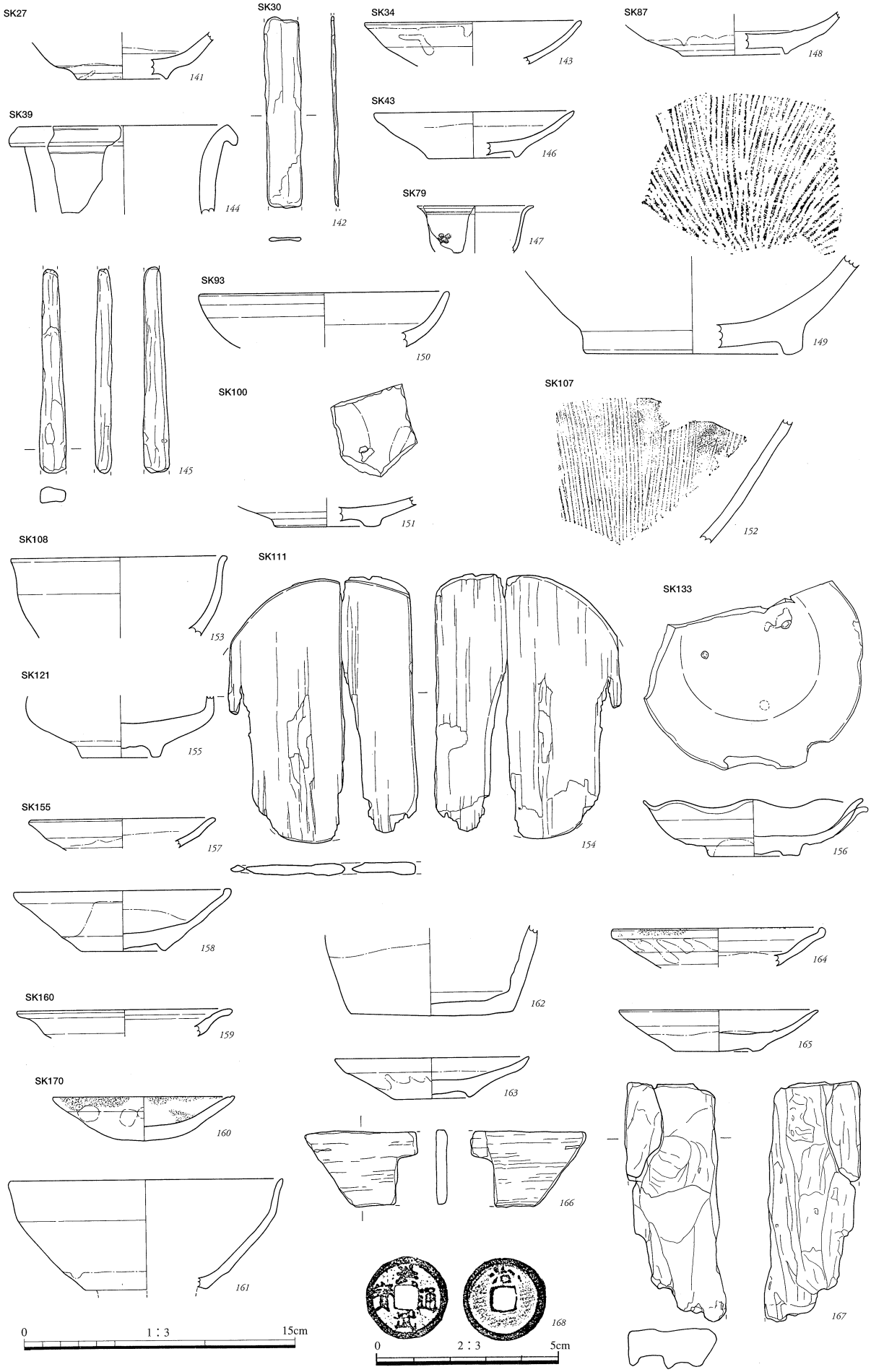


第155図　遺物実測図　(1/3)
SD403(*98*～*108*)　SD450(*109*～*123*)



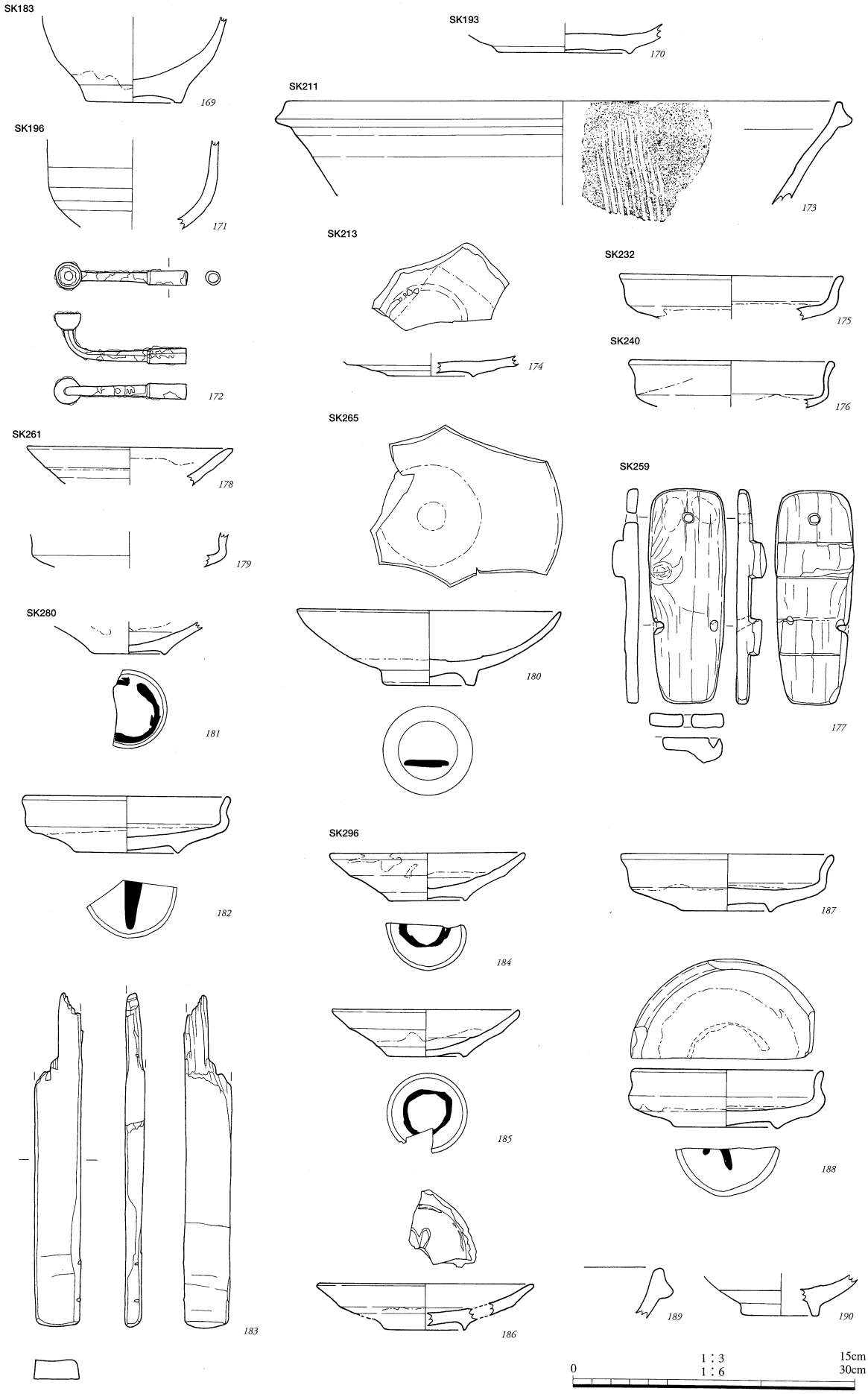
第156図　遺物実測図　（*124～136*　1/3，*137～140*　1/6）

SK456（*124～132*）　SD462（*133*）　SD467（*134*）　SD471（*135*）　SD473（*136*）　SE530（*137・138*）　SE634（*139・140*）



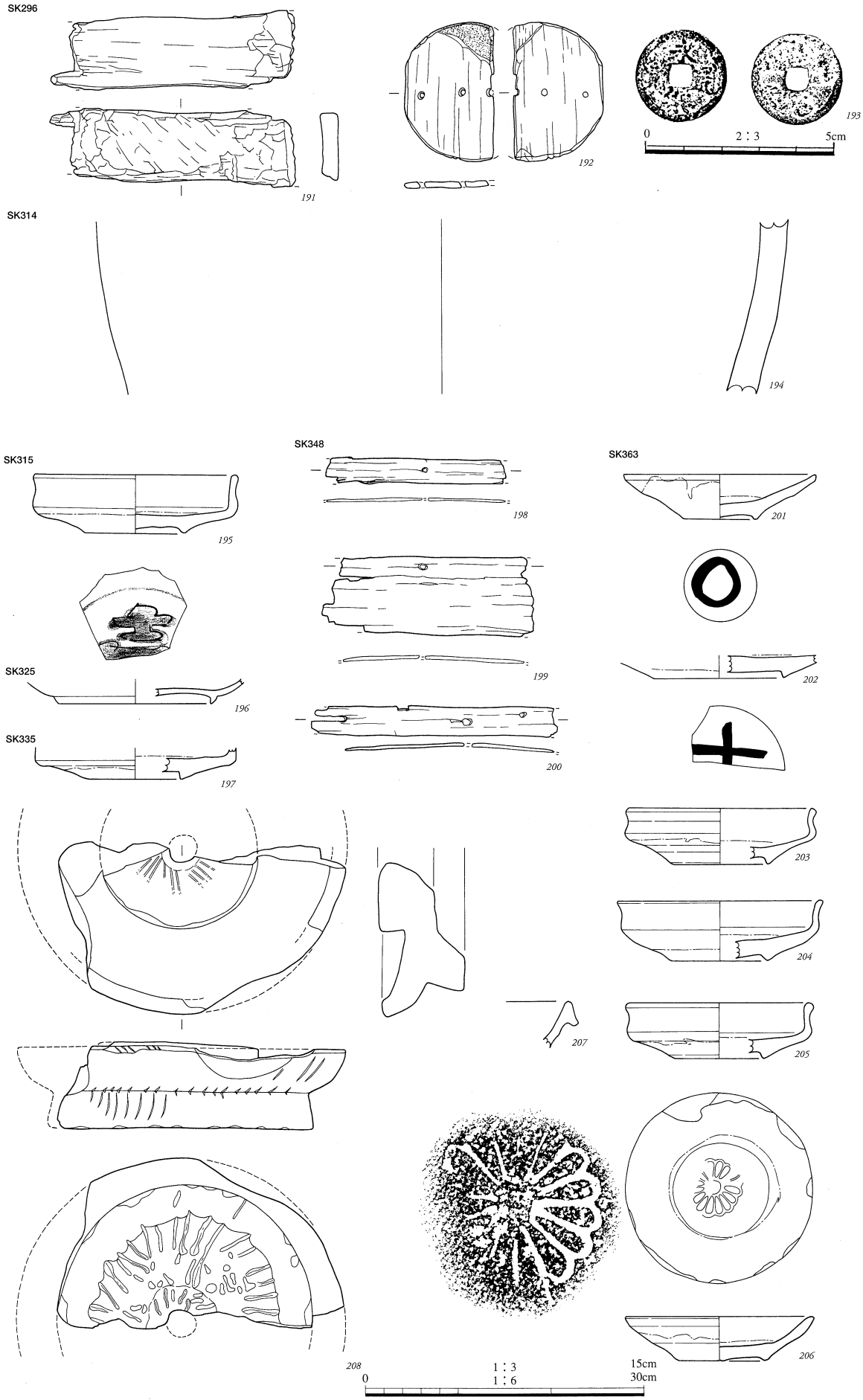
第157図　遺物実測図　（*168*　2/3，*141～167*　1/3）

SK27（*141*）　SK30（*142*）　SK34（*143*）　SK39（*144・145*）　SK43（*146*）　SK79（*147*）　SK87（*148・149*）　SK93（*150*）　SK100（*151*）　SK107（*152*）　SK108（*153*）　SK111（*154*）　SK121（*155*）　SK133（*156*）　SK155（*157・158*）　SK160（*159*）　SK170（*160～168*）

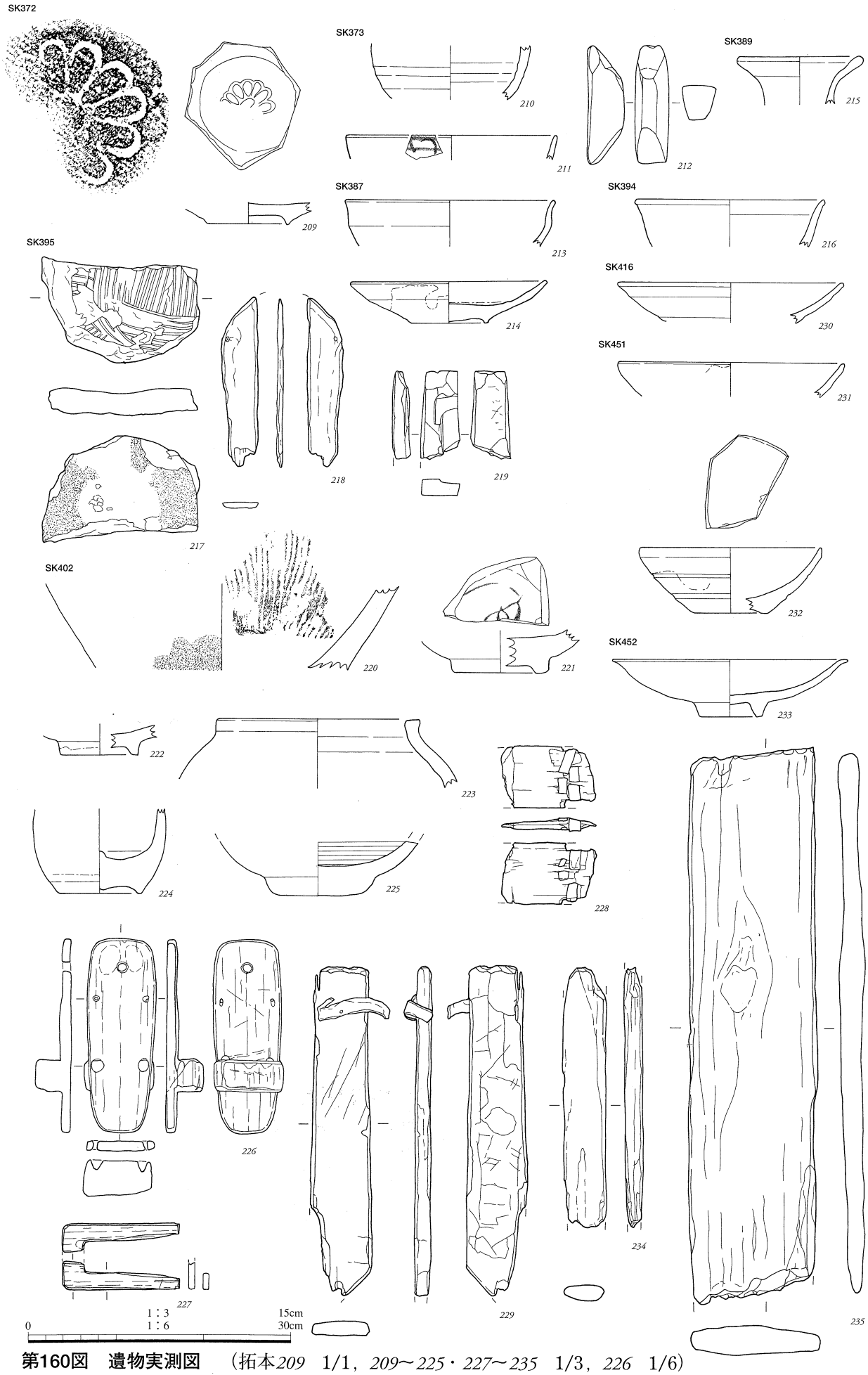


第158図　遺物実測図　（*169*～*176*・*178*～*190*　1/3，*177*　1/6）

SK183(*169*)　SK193(*170*)　SK196(*171*・*172*)　SK211(*173*)　SK213(*174*)　SK232(*175*)　SK240(*176*)　SK259(*177*)
SK261(*178*・*179*)　SK265(*180*)　SK280(*181*～*183*)　SK296(*184*～*190*)

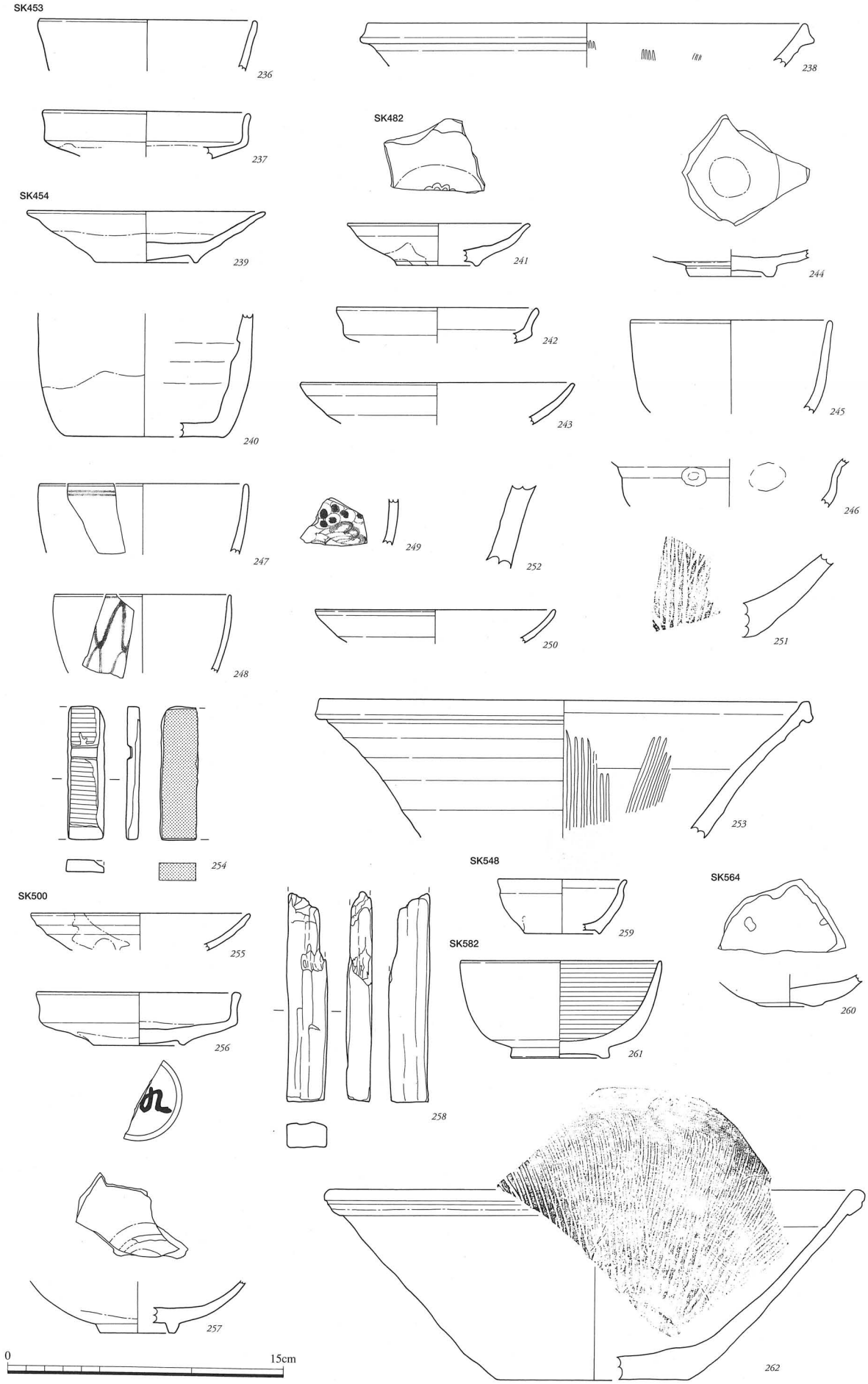


第159図　遺物実測図　（拓本*206*　1/1，*193*　2/3，*191*・*192*・*194*～*207*　1/3，*208*　1/6）
SK296（*191*～*193*）　SK314（*194*）　SK315（*195*）　SK325（*196*）　SK335（*197*）　SK348（*198*～*200*）　SK363（*201*～*208*）



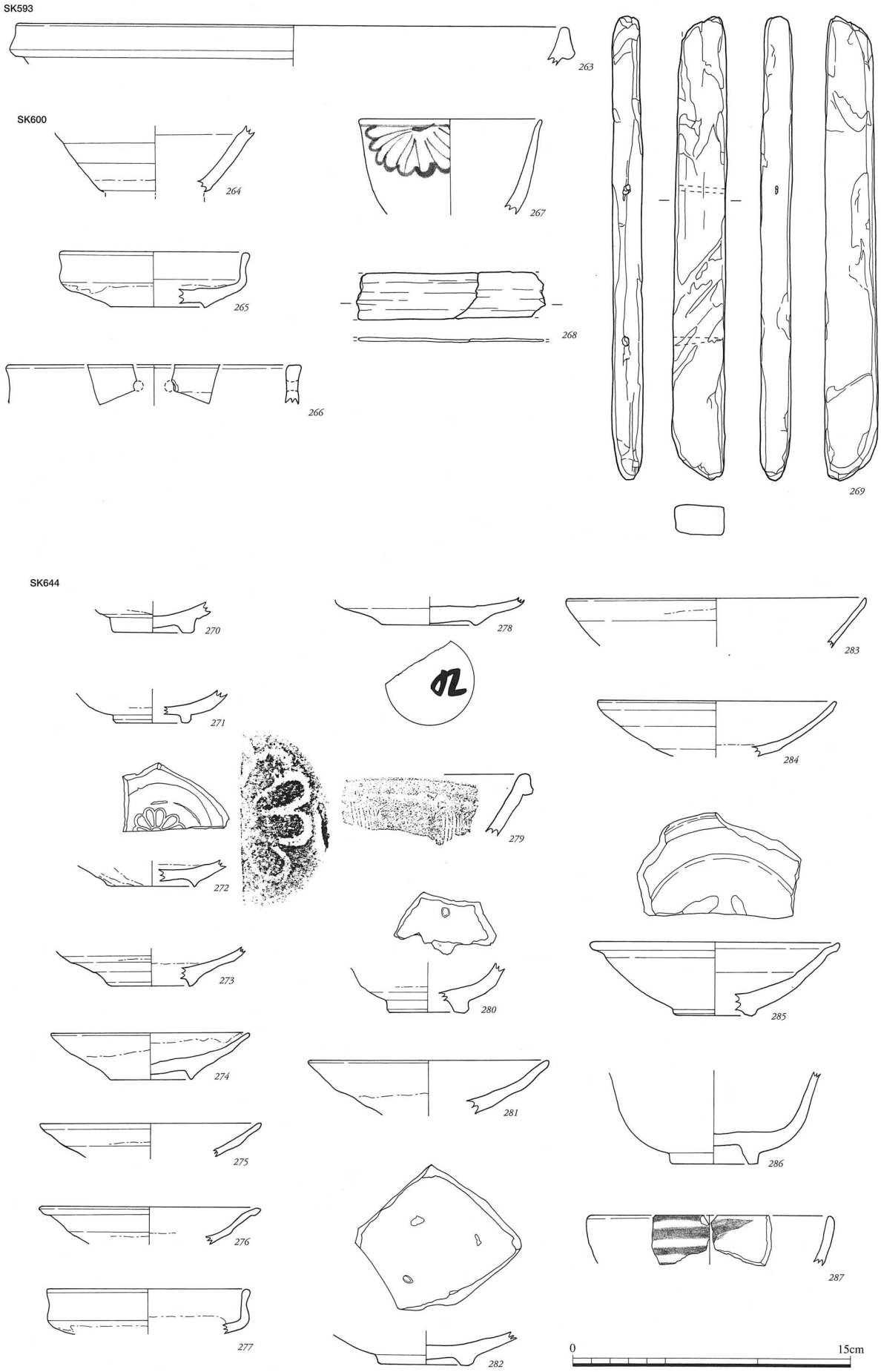
第160図　遺物実測図　（拓本*209*　1/1，*209*～*225*・*227*～*235*　1/3，*226*　1/6）

SK372（*209*）　SK373（*210*～*212*）　SK387（*213*・*214*）　SK389（*215*）　SK394（*216*）　SK395（*217*～*219*）　SK402（*220*～*229*）
SK416（*230*）　SK451（*231*・*232*）　SK452（*233*～*235*）

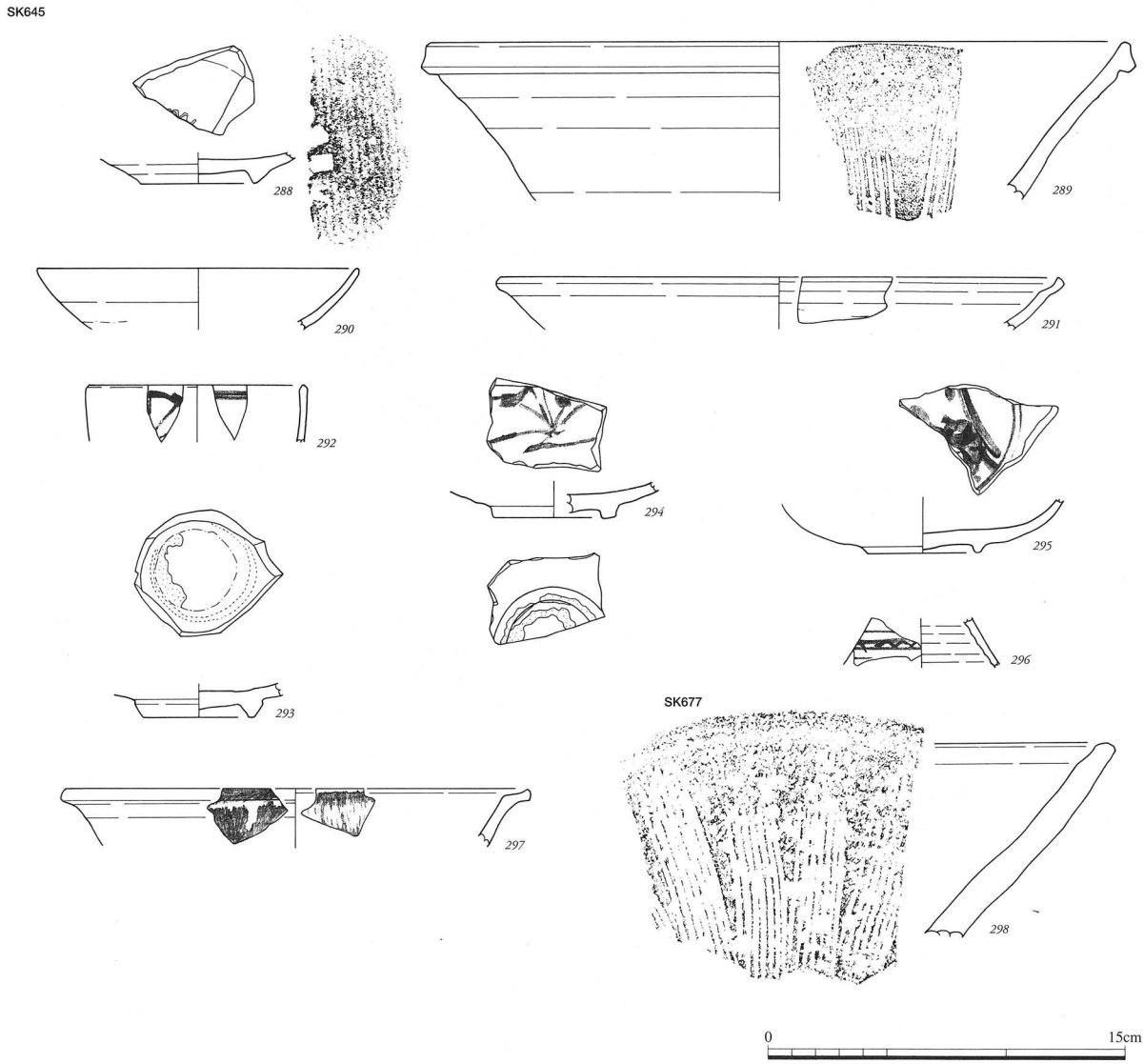


第161図　遺物実測図　(1/3)

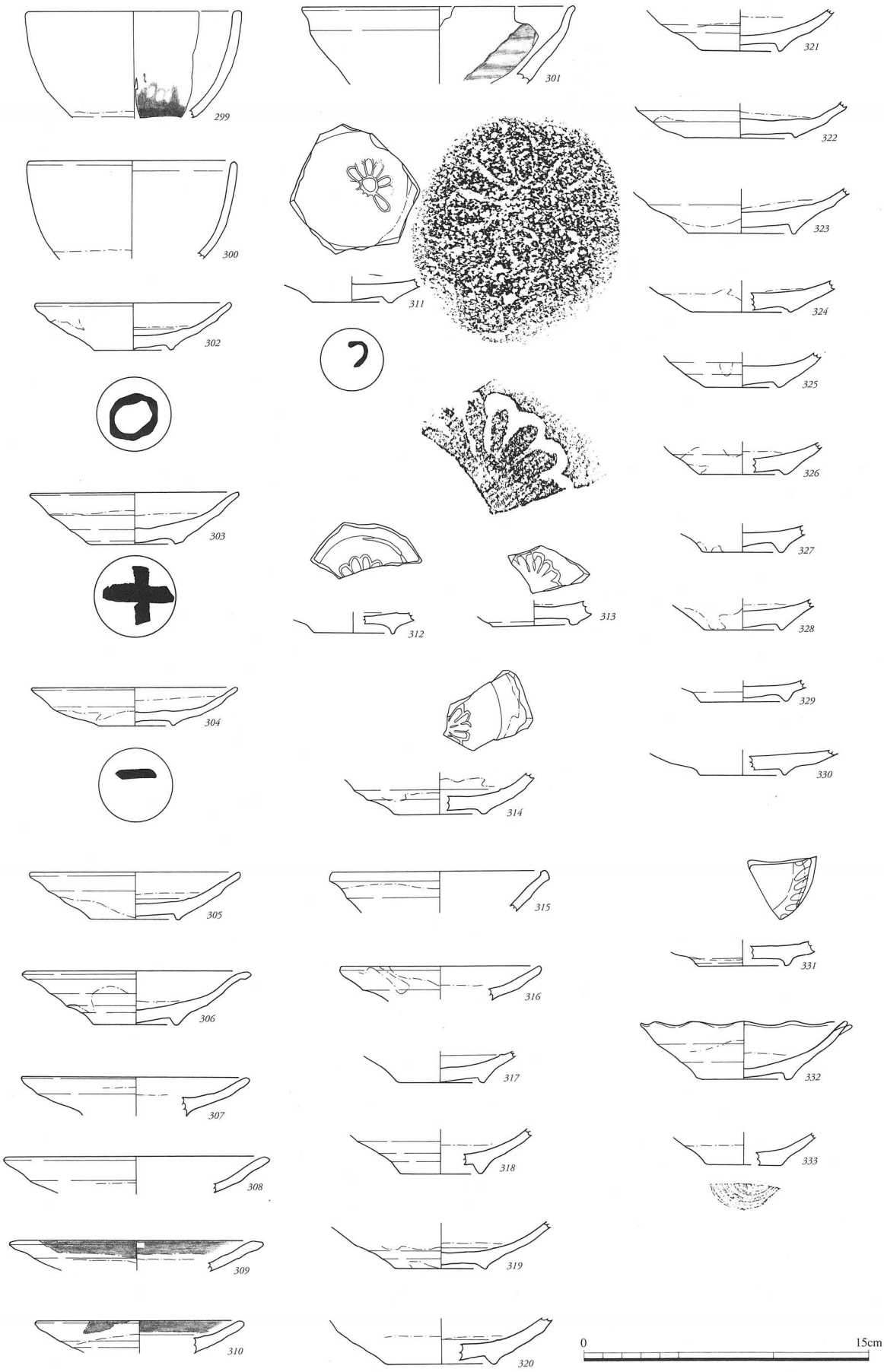
SK453(*236～238*)　SK454(*239・240*)　SK482(*241～254*)　SK500(*255～258*)　SK548(*259*)　SK564(*260*)
SK582(*261・262*)



第162図　遺物実測図　（拓本*272*　1/1，*263*～*287*　1/3）
SK593（*263*）　SK600（*264*～*269*）　SK644（*270*～*287*）

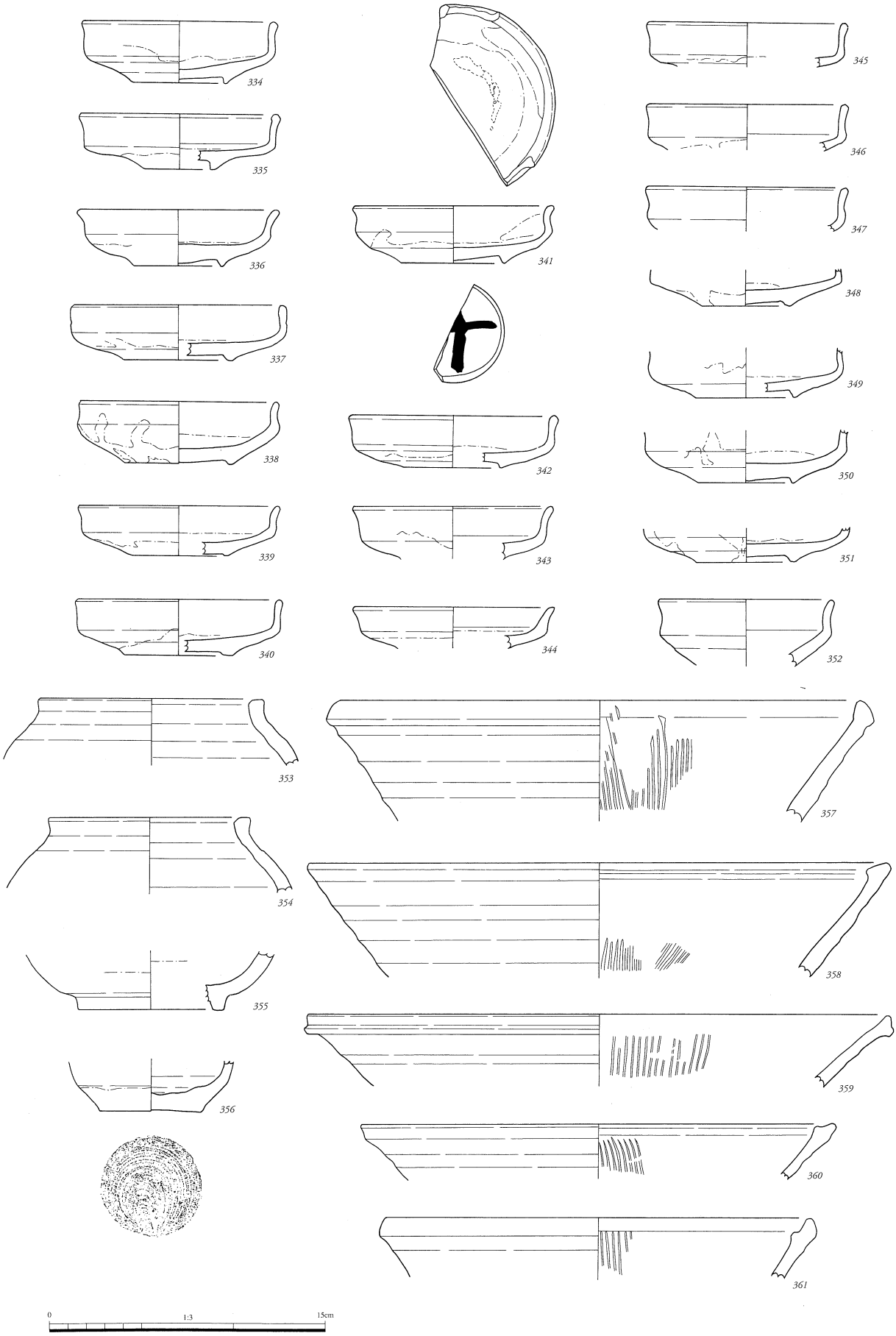


第163図　遺物実測図　（拓本*288*　1/1，*288*～*298*　1/3）
SK645（*288*～*297*）　SK677（*298*）

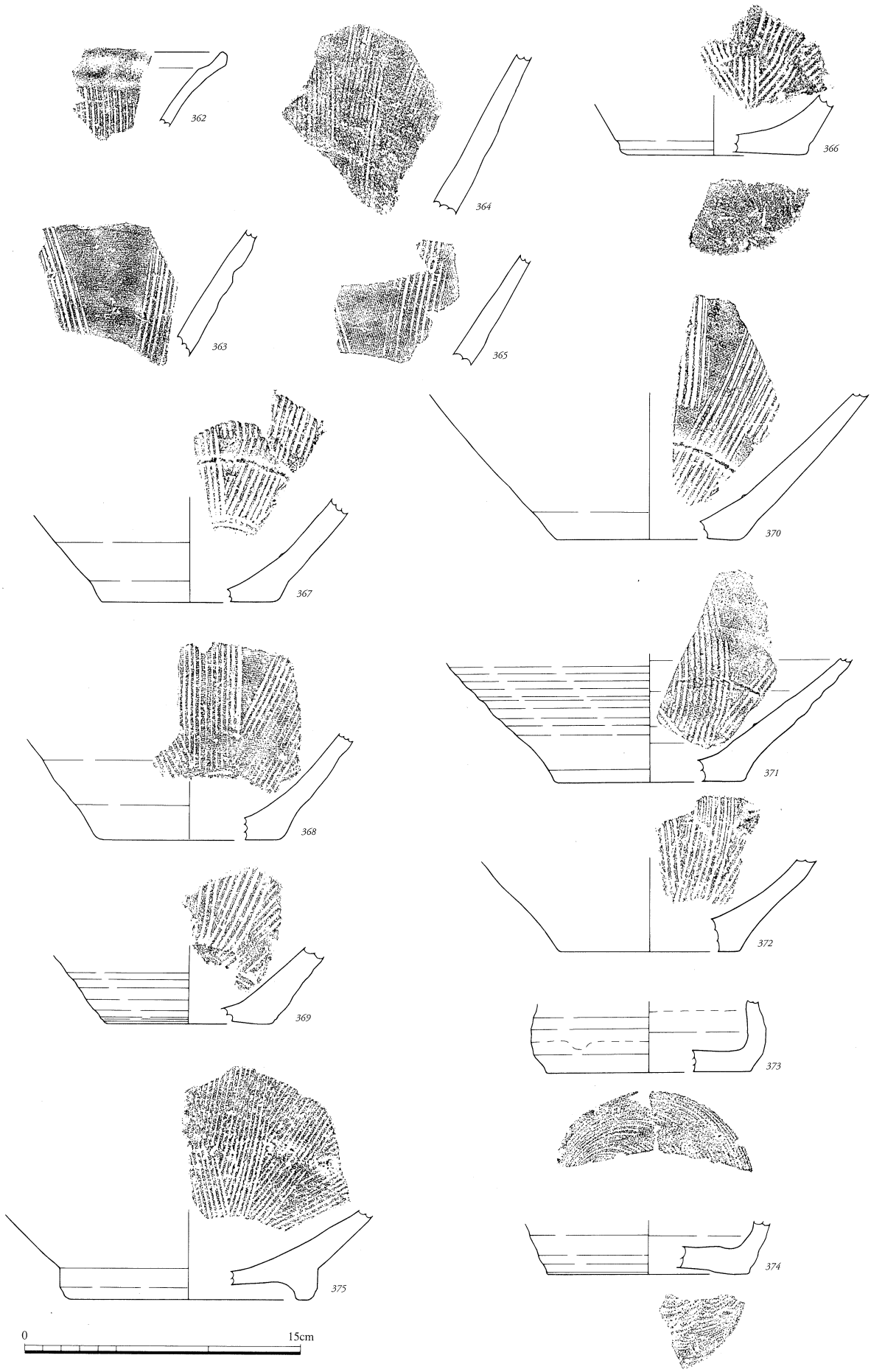


第164図　遺物実測図　（拓本*311*・*313*　1/1，*299*～*333*　1/3）
包含層

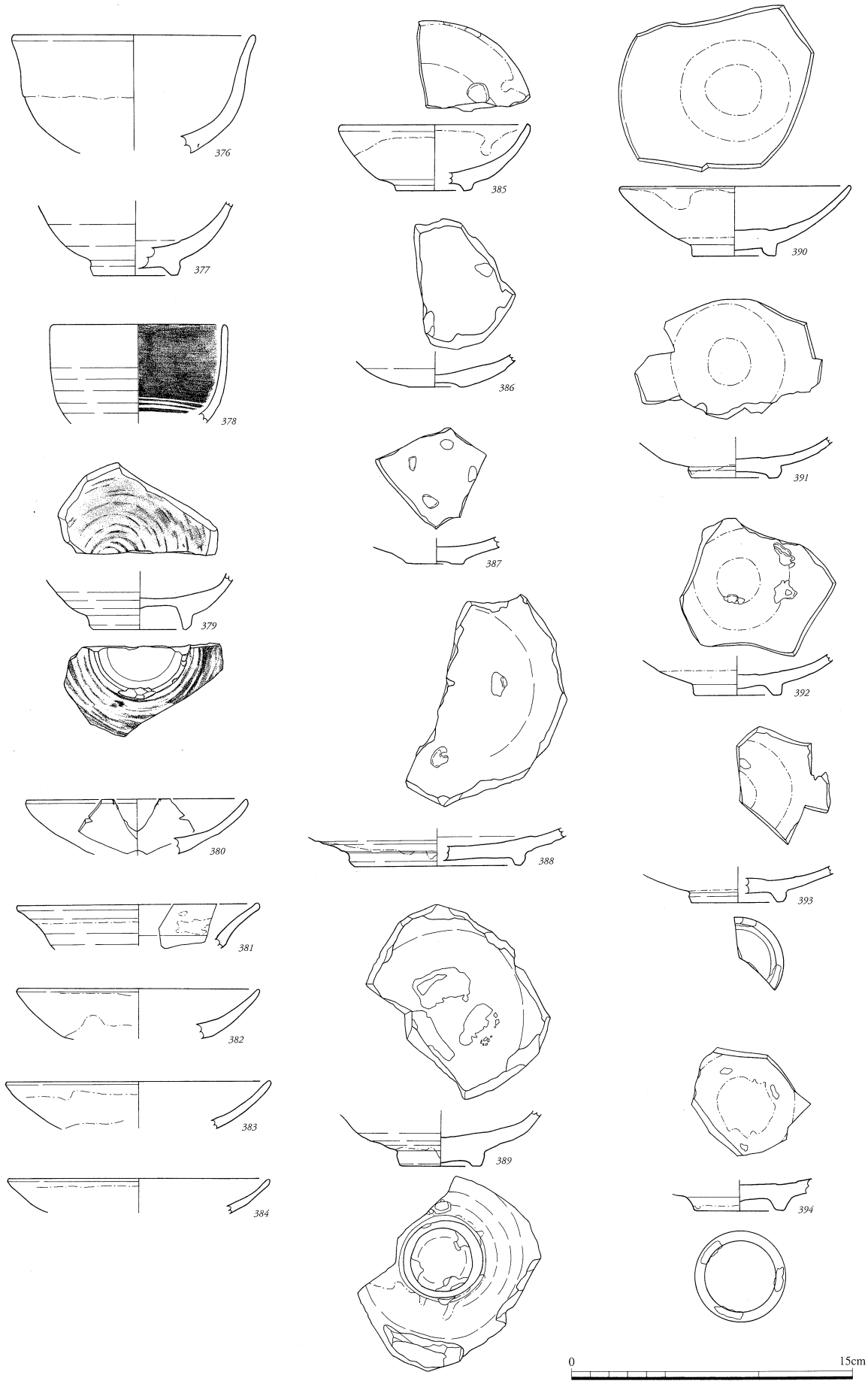
包含層



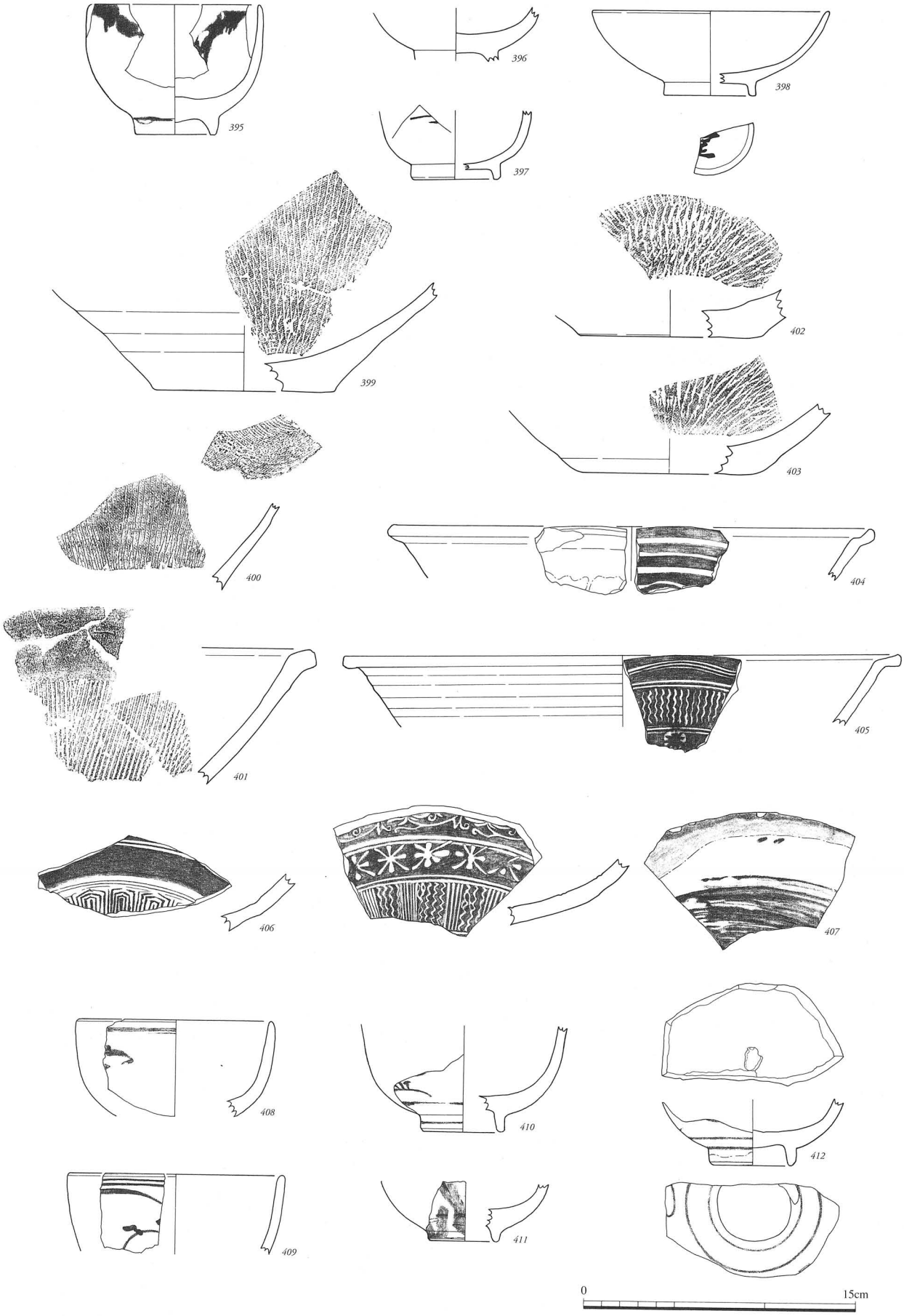
第165図　遺物実測図　(1/3)



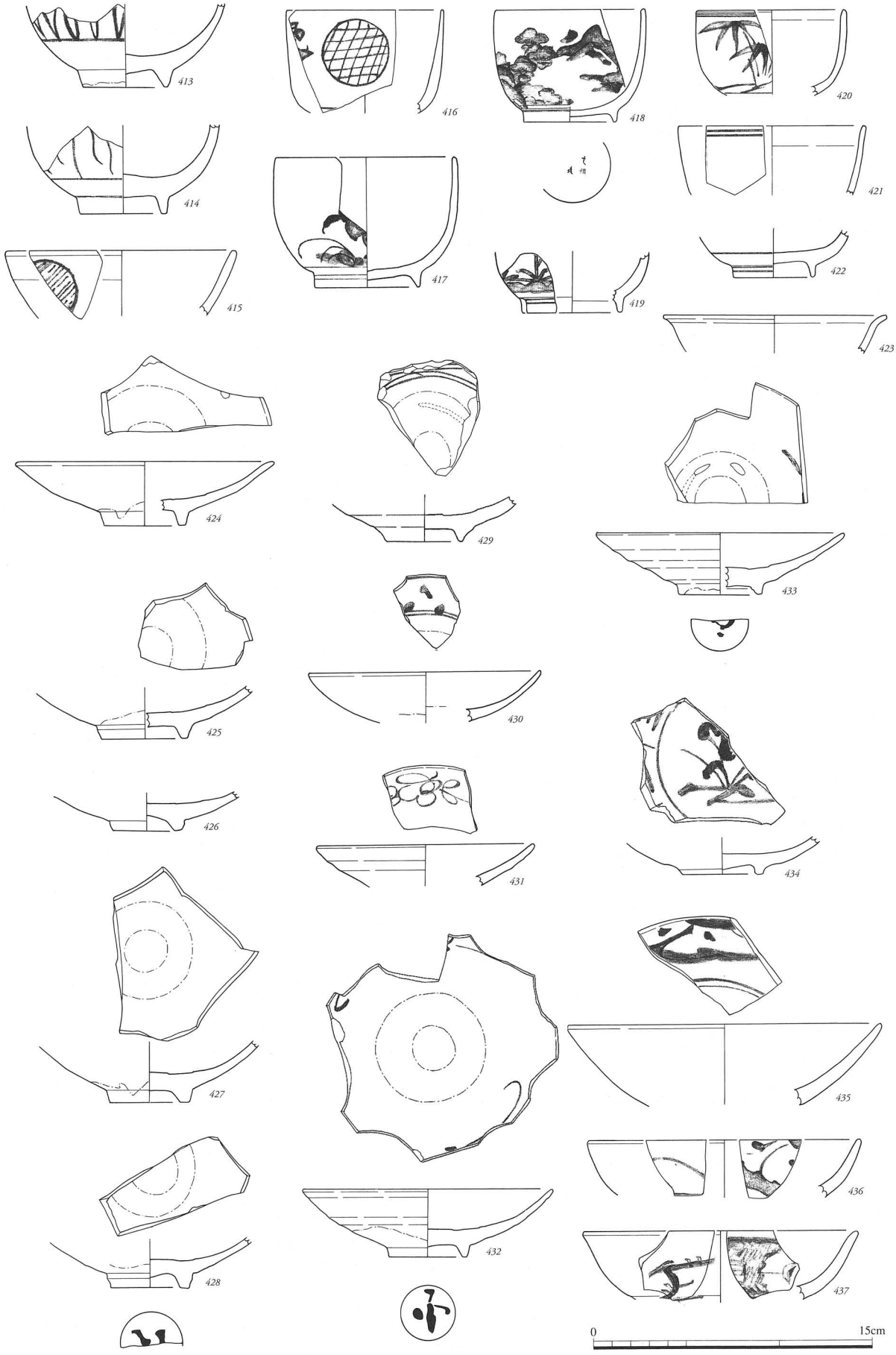
第166図　遺物実測図　(1/3)
包含層



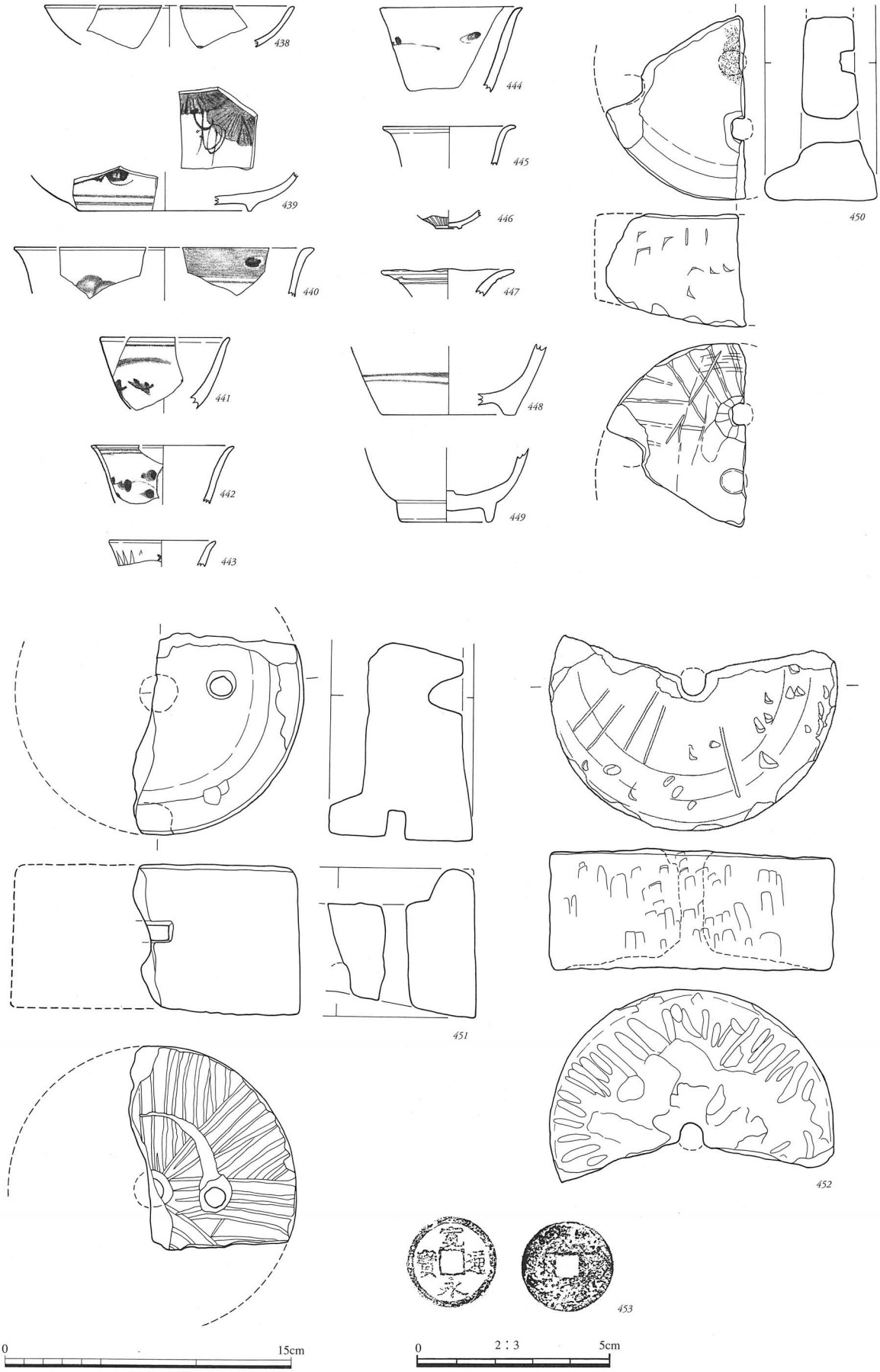
第167図　遺物実測図　(1/3)
包含層



第168図　遺物実測図　(1/3)
包含層



第169図　遺物実測図　(1/3)
包含層



第170図　遺物実測図　（*453*　2/3，*438*～*452*　1/3）
包含層

第13表　建物一覧

No	桁長(m)	梁長(m)	面積(m²)	棟方向	方位	柱形式	時代	出土遺物	備考	挿図番号	図版番号
1	13.9	11.7(9.5)	162.6(132)	東西棟	N－77°－W	掘立柱＋礎石	17C 後半～18C 前半	中国製染付，越中瀬戸，伊万里，柱，礎板，曲物，加工木，石臼，砥石	SB1＞SB3	115	99
2	15.9	13.2	209.8	南北棟	N－5°－W	掘立柱＋礎石？	17C 後半～18C 前半	越中瀬戸，伊万里，唐津，加工木，石鉢	SB2＞SB4	120	99
3	10.5	8.8	92.4	東西棟	N－86°－W	掘立柱	16C 末～17C 前半	瀬戸美濃，越中瀬戸，柱，杭，加工木		121	99
4	12.3	11.1	136.5	南北棟	N－2°－W	掘立柱＋礎石？	16C 末～17C 前半	越中瀬戸，伊万里，柱，円形板		124	99

第14表　柱穴一覧(1)

遺構番号	建物番号	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SP15	SB1	楕円	0.7－0.4－0.16	中国製染付，伊万里	17C 後半～18C 前半	136	
SP17	SB1	不整形	0.2－＊＊－0.41	柱	17C 後半～18C 前半	116，136	
SP18	SB1		＊＊－＊＊－0.18		17C 後半～18C 前半	136	
SP83	SB1	方	0.94－0.64－0.28	柱	17C 後半～18C 前半	116	
SP113	SB1	円	0.2－0.2－0.1	柱	17C 後半～18C 前半	116，126	
SP117	SB1	円	0.74－0.66－0.12		17C 後半～18C 前半		
SP125	SB1	楕円	0.86－0.46－0.16	柱	17C 後半～18C 前半	116	100
SP136	SB1	円	0.52－0.52－0.28		17C 後半～18C 前半	116	
SP143	SB1	楕円	0.8－0.46－0.2		17C 後半～18C 前半	116	
SP145	SB1	楕円	0.6－0.4－0.13	柱	17C 後半～18C 前半	116	100
SP146	SB1	不整形	0.8－0.8－0.21		17C 後半～18C 前半	116	
SP150	SB1	円	0.76－0.6－0.27	加工木	17C 後半～18C 前半	116	
SP152	SB1	楕円	1.2－0.6－0.33		17C 後半～18C 前半	116	
SP159	SB1	楕円	0.56－0.42－0.12		17C 後半～18C 前半	116	
SP174	SB1	楕円	1.06－0.48－0.28		17C 後半～18C 前半	116	100
SP175	SB1	楕円	1.4－0.9－0.33	越中瀬戸，砥石，柱	17C 後半～18C 前半	116	100
SP177	SB1	不整形	2.2－1.06－0.11		17C 後半～18C 前半		
SP186	SB1	楕円	0.8－0.64－0.18	礎板	17C 後半～18C 前半	116	100
SP194	SB1	楕円	1.3－0.8－0.37	柱，曲物，加工木	17C 後半～18C 前半	116	
SP195	SB1	不整形	0.72－＊＊－0.14		17C 後半～18C 前半	116	
SP202	SB1	楕円	0.72－0.34－03		17C 後半～18C 前半		
SP205	SB1	楕円	1.24－0.3－0.36	柱	17C 後半～18C 前半	116	100
SP208	SB1	楕円	0.56－0.44－0.2		17C 後半～18C 前半	117	
SP209	SB1	円	0.5－0.42－0.2	柱	17C 後半～18C 前半		
SP215	SB1	不整形	0.5－＊＊－0.27		17C 後半～18C 前半		
SP220	SB1	楕円	0.56－0.32－0.23		17C 後半～18C 前半		
SP221	SB1	不整形	0.32－＊＊－0.32	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半	117	
SP236	SB1	楕円	0.44－0.34－0.14	柱	17C 後半～18C 前半	117	100
SP241	SB1	円	1.6－1.4－0.28	越中瀬戸，伊万里，加工木	17C 後半～18C 前半	117	
SP247	SB1	円	0.4－0.36－0.18		17C 後半～18C 前半		
SP249	SB1	不整形	0.44－＊＊－0.24	石臼	17C 後半～18C 前半	117	101
SP253	SB1	不整形	1.3－＊＊－0.28	柱	17C 後半～18C 前半	117	101
SP277	SB1	不整形	0.84－＊＊－0.34	柱	17C 後半～18C 前半	117	101
SP283	SB1	不整形	0.5－＊＊－0.42		17C 後半～18C 前半	117	
SP285	SB1	楕円	0.94－0.5－0.2		17C 後半～18C 前半	117，140	
SP286	SB1	楕円	0.48－0.3－0.27	柱	17C 後半～18C 前半	117	101
SP288	SB1	円	1.08－0.92－0.34	柱	17C 後半～18C 前半	117	
SP298	SB1	楕円	0.9－0.56－0.26	越中瀬戸，柱	17C 後半～18C 前半	118	101
SP299	SB1	不整形	0.86－＊＊－0.13		17C 後半～18C 前半		
SP304	SB1	楕円	0.94－0.42－0.43		17C 後半～18C 前半	118	
SP310	SB1	楕円	0.44－0.34－0.22		17C 後半～18C 前半	118	
SP323	SB1	不整形	0.76－＊＊－0.3	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半	118	
SP324	SB1	楕円	0.86－0.66－0.23		17C 後半～18C 前半	118	
SP327	SB1	円	0.52－0.42－0.16		17C 後半～18C 前半	118	
SP333	SB1	円	0.44－0.4－0.2	柱	17C 後半～18C 前半	118	
SP357	SB1	楕円	1.32－0.52－0.23		17C 後半～18C 前半	118	
SP362	SB1	円	0.86－0.7－0.34	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半	118，141	
SP366	SB1	不整形	1.28－0.9－0.37	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半	118，137	

第14表　柱穴一覧(2)

遺構番号	建物番号	平面形	規模(長さ･幅･深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SP383	SB1	不整形	0.3－＊＊－0.15	柱	17C 後半～18C 前半	118	
SP393	SB1	円	0.48－0.4－0.3	越中瀬戸，曲物(漆)	17C 後半～18C 前半	118，134	
SP412	SB2	不整形	1.29－0.97－0.29	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半		101
SP469	SB2	円	1.34－1.2－0.34		17C 後半～18C 前半		
SP478	SB2	楕円	0.36－0.45－0.15		17C 後半～18C 前半		
SP483	SB2	円	2.35－2.31－0.51	越中瀬戸，石鉢	17C 後半～18C 前半	119	101
SP504	SB2	楕円	0.26－0.19－0.19	柱	17C 後半～18C 前半	119	
SP518	SB2	方	0.55－0.41－0.3		17C 後半～18C 前半		
SP526	SB2	円	0.64－0.72－0.37		17C 後半～18C 前半	119	
SP540	SB2	円	1.62－1.42－0.4		17C 後半～18C 前半		101
SP565	SB2	円	0.54－0.47－0.16		17C 後半～18C 前半		
SP573	SB2	楕円	1.09－0.24－0.13	越中瀬戸，唐津	17C 後半～18C 前半	119	102
SP574	SB2	円	0.96－0.84－0.39		17C 後半～18C 前半	119	102
SP575	SB2	不整形	0.47－＊＊－0.2		17C 後半～18C 前半	145	
SP580	SB2	円	0.95－0.86－0.21		17C 後半～18C 前半		
SP581	SB2	円	1.07－1.0－0.2	越中瀬戸，唐津	17C 後半～18C 前半	119	
SP583	SB2	円	2.24－2.17－0.39		17C 後半～18C 前半	119	102
SP586	SB2	方	2.15－2.08－0.46	越中瀬戸，加工木	17C 後半～18C 前半		102
SP616	SB2	楕円	0.71－0.56－0.29		17C 後半～18C 前半	119	
SP628	SB2	楕円	1.03－0.41－0.27		17C 後半～18C 前半		
SP632	SB2	不整形	1.69－＊＊－0.5	越中瀬戸，唐津	17C 後半～18C 前半	119	102
SP633	SB2	不整形	2.53－2.08－0.44	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半	119	
SP635	SB2	不整形	1.5－＊＊－0.07		17C 後半～18C 前半		
SP639	SB2	不整形	0.46－＊＊－0.2		17C 後半～18C 前半		
SP641	SB2	不整形	＊＊－＊＊－0.14	唐津，伊万里	17C 後半～18C 前半		
SP642	SB2	不整形	0.49－＊＊－0.21		17C 後半～18C 前半		
SP682	SB2	不整形	1.6－＊＊－0.25		17C 後半～18C 前半		
SP685	SB2	方	(1.29) －0.94－0.29	伊万里	17C 後半～18C 前半		
SP49	SB3	不整形	0.7－＊＊－0.24		16C 末～17C 前半	138	
SP58	SB3	不整形	0.72－＊＊－0.28		16C 末～17C 前半	122	
SP81	SB3	楕円	0.66－0.48－0.16	柱，杭	16C 末～17C 前半	122	102
SP122	SB3	不整形	0.58－＊＊－0.2	柱	16C 末～17C 前半	122	102
SP123	SB3	円	0.44－0.44－0.24	柱	16C 末～17C 前半	122	
SP124	SB3	楕円	0.84－0.52－0.32	箱	16C 末～17C 前半	122	103
SP140	SB3	楕円	0.86－0.62－0.3	志野，瀬戸美濃	16C 末～17C 前半	122	103
SP149	SB3	不整形	0.26－＊＊－0.11		16C 末～17C 前半	122	
SP153	SB3	不整形	1.06－＊＊－0.37	柱	16C 末～17C 前半	122	
SP156	SB3	楕円	0.54－0.42－0.22		16C 末～17C 前半		
SP163	SB3	楕円	1.0－0.5－0.4	志野，瀬戸美濃	16C 末～17C 前半	122，135	
SP165	SB3	不整形	0.56－＊＊－0.4	越中瀬戸，柱	16C 末～17C 前半	122	103
SP167	SB3	不整形	0.64－＊＊－0.2	柱	16C 末～17C 前半	122	
SP168	SB3	楕円	0.66－0.34－0.15	越中瀬戸，硯，柱	16C 末～17C 前半	122	103
SP218	SB3	円	0.68－0.64－0.38	柱	16C 末～17C 前半	122	103
SP328	SB3	円	0.66－0.58－0.09		16C 末～17C 前半	122	103
SP358	SB3	楕円	0.86－0.44－0.22	柱	16C 末～17C 前半	122	103
SP475	SB4	円	0.17－0.19－0.12	柱	16C 末～17C 前半	123	
SP477	SB4	円	0.33－0.3－0.14		16C 末～17C 前半	123	
SP479	SB4	不整形	0.71－0.64－0.15		16C 末～17C 前半		
SP496	SB4	円	0.29－0.23－0.15		16C 末～17C 前半	123	
SP507	SB4	不整形	0.97－0.66－0.2		16C 末～17C 前半		
SP512	SB4	楕円	0.27－0.18－0.17		16C 末～17C 前半		
SP515	SB4	楕円	0.4－0.3－＊＊		16C 末～17C 前半		
SP522	SB4	楕円	0.29－0.2－0.18	柱，木，自然木	16C 末～17C 前半	123	104
SP525	SB4	円	0.58－0.56－0.4	円形板，柱	16C 末～17C 前半	123	104
SP532	SB4	楕円	0.55－0.31－0.14		16C 末～17C 前半		
SP536	SB4	楕円	0.38－0.31－0.06	柱	16C 末～17C 前半	123	
SP538	SB4	楕円	0.93－0.51－0.26		16C 末～17C 前半	123	
SP541	SB4	楕円	1.0－0.72－0.23		16C 末～17C 前半	123	
SP545	SB4	楕円	0.65－0.39－0.24		16C 末～17C 前半	123	
SP579	SB4	楕円	0.41－0.25－0.16		16C 末～17C 前半		
SP584	SB4	楕円	1.18－0.74－0.23		16C 末～17C 前半	123	
SP587	SB4	楕円	1.66－1.1－0.22		16C 末～17C 前半	123	
SP589	SB4	楕円	0.74－0.51－0.21		16C 末～17C 前半		

第14表　柱穴一覧(3)

遺構番号	建物番号	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SP598	SB4	方	1.49－1.18－0.41		16C 末～17C 前半	123	104
SP613	SB4	円	0.29－0.31－0.15		16C 末～17C 前半		
SP618	SB4	不整形	0.67－＊＊－0.29		16C 末～17C 前半		
SP624	SB4	不整形	1.13－＊＊－0.31		16C 末～17C 前半		
SP629	SB4	不整形	0.66－＊＊－0.19	越中瀬戸，伊万里	16C 末～17C 前半		
SP654	SB4	不整形	0.78－＊＊－0.39		16C 末～17C 前半		
SP675	SB4	不整形	0.94－＊＊－0.28		16C 末～17C 前半	123	101
SP25	SA1	楕円	0.7－0.38－0.25			125	
SP77	SA1	楕円	0.84－0.5－0.3			125	
SP92	SA1	楕円	0.64－0.4－0.26			125	
SP99	SA1	楕円	0.54－0.26－0.23			125	
SP397	SA1	楕円	0.7－0.46－0.24			125	
SP398	SA1	円	0.5－0.4－0.25			125	
SP24		楕円	0.6－0.42－0.34			126	
SP51		楕円	0.6－0.26－0.08			126	
SP53		楕円	0.3－＊＊－0.25	加工木		137	
SP56		楕円	0.84－0.5－0.28			126	
SP62		楕円	＊＊－＊＊－0.18			126	
SP68		楕円	0.44－0.3－0.09			126	
SP112		楕円	0.86－0.42－0.29			126	
SP116		円	0.54－＊＊－0.17	柱		126	
SP135		円	0.6－0.56－0.15			126	
SP144		円	0.46－0.38－0.36			127	
SP184		楕円	0.6－0.54－0.15	唐津		140	
SP219		楕円	1.04－0.58－0.2			127	
SP244		楕円	0.7－0.46－0.22	越中瀬戸，曲物		141	
SP271		楕円	0.96－0.40－0.3			141	
SP281		円	0.1－0.1－0.08	越中瀬戸		140	
SP308		楕円	0.26－0.5－0.18			138	
SP326		円	0.52－0.48－0.2	伊万里		143	
SP350		楕円	0.26－＊＊－0.17	柱，加工木		134	
SP351		楕円	0.5－0.3－0.19			135	
SP377		楕円	0.56－＊＊－0.23			141	
SP410			0.1－0.06－＊＊	杭		143	
SP420			0.06－0.04－＊＊	杭		143	
SP421			0.06－0.06－＊＊	杭		143	
SP459		不整形	1.52－＊＊－0.39	唐津，石臼，杭		127，131	104
SP460		円	0.89－0.71－0.06	板，杭，加工木		127，131	104
SP461		円	0.29－0.21－0.09	柱		127	
SP519		楕円	0.56－0.32－0.29	柱		127	104
SP529		不整形	0.56－＊＊－0.19			127	
SP549		円	0.37－＊＊－0.1	柱		123，124	
SP619		楕円	0.9－0.32－0.32			127	
SP665		楕円	0.52－0.39－0.16			147	
SP672		円	0.19－0.21－0.19			146	

遺構の切り合いなどにより計測不能な場合＊で示した。

第15表 溝一覧

遺構番号	流路	規模(幅・深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SD1	S→N	1.7－0.62	越中瀬戸，煙管，漆器	17C ～18C 前半	128，129	
SD2		3.8－0.32	珠洲，土師質土器，越中瀬戸，唐津，伊万里，漆器，加工木，石臼，金属製品	17C ～18C 前半	128，130	105
SD5		0.8－0.19	伊万里	16C ～17C 後半	128，132	105
SD6		0.42－0.1		16C ～17C 後半	128，132	
SD7		0.3－0.12		17C 後半～18C 前半	128，132	
SD8		0.32－0.06			128，132	
SD9		0.54－0.07			128，130	
SD10		2.1－0.1			128，130	
SD11		0.4－0.12			128，132	
SD403		7.6－0.14	越中瀬戸，伊万里，加工木	17C ～18C	128，130	105
SD404		0.22－0.06			128，132	
SD405		1.2－0.07	越中瀬戸	18C 後半～19C 初頭以降	128，130	
SD450	E→W	2.0－0.3	越中瀬戸，唐津，伊万里	17C ～18C 前半	131，144	105
SD455		0.22－0.14		17C 前半	131	
SD462		0.56－0.16	伊万里	17C 後半～18C 前半	131	105
SD463		0.26－0.2			131	
SD464		0.21－0.23			131	
SD467		0.77－0.16	唐津	17C 後半～18C 前半	131	
SD471		0.38－0.08	唐津	16C 末～17C 初頭	131	
SD473		0.23－0.11	瀬戸美濃	16C 末～17C 初頭	131	
SD542		0.22－0.05		17C 後半以降	146	
SD647		0.42－0.07		17C 後半以降	147	

第16表 土坑一覧(1)

遺構番号	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SK14		0.88－＊＊－0.26			135	
SK16		＊＊－＊＊－0.44			136	
SK19	方	1.38－0.9－0.19			125	
SK21	不整形	＊＊－＊＊－0.1			132	
SK22	不整形	＊＊－＊＊－0.04			132	
SK23	方？	1.9－＊＊－0.1	加工木			
SK26	不整形	2.56－＊＊－0.09			132	
SK27		＊＊－＊＊－0.08	越中瀬戸		128	
SK29	楕円	0.84－＊＊－0.24			136	
SK30	円	1.1－1.0－0.26	加工木		136	
SK31	楕円	0.7－＊＊－0.24			136	
SK34	円	0.54－＊＊－0.23	唐津		136	
SK35	円	0.7－0.56－0.25			136	
SK38	楕円	0.64－0.4－0.36			137	
SK39	楕円	0.9－0.56－0.3	中国製白磁，加工木		136	
SK42	円	0.36－0.34－0.12				
SK43	円	0.68－0.64－0.2	越中瀬戸		137	
SK48	楕円	0.54－0.34－0.22			137	
SK54	円	0.3－0.2－0.09			116	
SK59	円	0.44－0.4－0.1			122	
SK61	円	0.62－＊＊－0.25				
SK65	楕円	0.84－0.58－0.1			122	
SK79	楕円	0.7－0.48－0.21	伊万里		121	
SK85		0.64－＊＊－0.2			116	
SK86	楕円	0.6－0.6－0.27			138	102

第16表　土坑一覧(2)

遺構番号	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SK87	不整形	0.98－0.94－0.42	越中瀬戸，須佐唐津		138	
SK90	楕円	1.7－0.5－0.24			125	
SK93	楕円	0.68－0.36－0.16	瀬戸美濃，須佐唐津		125	
SK100	円	0.48－＊＊－0.26	唐津		128	
SK101	不整形	1.08－＊＊－0.27			136	
SK102	楕円	2.2－1.5－0.3			136	
SK103	円	0.36－0.34－0.16	越中瀬戸		137	
SK106	不整形	0.4－＊＊－0.16	越中瀬戸		128	
SK107	円	1.1－1.0－0.38	越中瀬戸		128，132	
SK108	円	0.4－0.36－0.26	越中瀬戸		135	
SK111	円	0.22－0.44－0.2	曲物		135	
SK117	楕円	0.64－0.36－0.2	瀬戸美濃，越中瀬戸		126	
SK121	隅丸	0.56－0.5－0.19	唐津		121，122	102
SK126	不整形	0.7－＊＊－0.39			126	
SK130	楕円	1.06－0.66－0.39			137	
SK131		0.5－＊＊－0.24			138	
SK133	不整形	1.1－＊＊－0.18	唐津		128	
SK134	円	1.2－1.1－0.46			126	
SK141	楕円	0.32－＊＊－0.2			122	103
SK142	楕円	0.58－0.4－0.32				
SK148	不整形	0.6－＊＊－0.23	越中瀬戸		135	
SK151	円	0.38－0.3－0.16				
SK154	楕円	0.8－0.64－0.24				
SK155	楕円	1.36－0.82－0.13	越中瀬戸		134	
SK157	不整形	0.66－＊＊－0.13			135	
SK160	不整形	2.0－＊＊－0.47	越中瀬戸		135	
SK161	不整形	0.66－＊＊－0.3	越中瀬戸		135	
SK162	楕円	1.20－0.78－0.34			143	
SK170	楕円	3.0－2.4－0.63	中世土師器，瀬戸美濃，越中瀬戸，唐津，銭，加工木	16C 末～17C 前半	138	
SK172	楕円	0.8－0.44－0.2			135	
SK179	楕円	0.76－0.26－0.2			143	
SK183	楕円	1.44－1.3－0.25	唐津		135	
SK193	楕円	1.1－0.5－0.27	瀬戸美濃，越中瀬戸		139，140	
SK196	円	1.28－1.2－0.3	京焼風唐津，越中瀬戸，煙管，漆器		139，140	
SK199	楕円	0.96－0.64－0.15				
SK200	円	0.9－＊＊－0.23			135	
SK201	楕円	0.8－0.44－0.4				
SK207		1.32－＊＊－0.49			135	
SK210	楕円	0.5－0..36－0.3			139，140	
SK211		0.44－＊＊－0.14	越中瀬戸		139，140	
SK212	円	0.5－0.46－0.2			139，140	
SK213	不整形	0.6－＊＊－0.26	越中瀬戸		139，140	
SK214	楕円	0.66－0.44－0.18			139，140	107
SK223	楕円	0.96－0.5－0.24			117	
SK224	円	0.6－0.48－0.16			139，140	
SK226	楕円	0.76－0.4－0.21				
SK227	円	0.34－0.28－0.09				
SK229	円	0.32－0.24－0.05				
SK232	円	0.44－0.32－0.16	越中瀬戸		139，141	
SK235	円	0.54－＊＊－0.09			139，141	
SK237	楕円	0.3－＊＊－0.11	唐津，越中瀬戸		139，141	
SK240		1.26－＊＊－0.51	越中瀬戸		139，140	
SK243	方	1.9－1.4－0.23			139	
SK245	不整形	2.28－＊＊－0.25	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半	139	

第16表　土坑一覧(3)

遺構番号	平面形	規模(長さ･幅･深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SK250	円	1.1－1.1－0.22			143	
SK256	不整形	1.36－＊＊－0.17			143	
SK259	円	1.24－1.06－0.26	下駄		139，140，142	
SK261	楕円	0.46－＊＊－0.35	越中瀬戸		139，140	
SK262	不整形	0.9－0.6－0.34			139，140，142	
SK263	不整形	0.4－＊＊－0.28	唐津		139，140，142	
SK265	楕円	0.84－＊＊－0.23	越中瀬戸，唐津		139，140，142	
SK269	円	1.2－1.14－0.14			139，140，142	107
SK279		0.4－＊＊－0.2				
SK280	不整形	1.34－＊＊－0.5	越中瀬戸，加工木		139～141	
SK284		0.5－＊＊－0.33			139，141	
SK287	円	0.4－＊＊－0.22			139，141	
SK296	不整形	2.5－＊＊－0.44	越中瀬戸，伊万里，漆器，円形板，加工木，銭	17C 前半～中頃	118，134	
SK301	楕円	0.44－0.34－0.09				
SK305		0.8－＊＊－0.24		17C 後半～18C 前半	139，140，142	
SK306		1.4－＊＊－0.4		17C 後半～18C 前半	118，139，140，142	
SK309	楕円	0.7－＊＊－0.14	加工木			
SK313		＊＊－＊＊－0.22			139，140	
SK314		1.1－＊＊－0.32	土師質土器		139，140	
SK315	円	1.1－＊＊－0.41	越中瀬戸		135	
SK325	楕円	0.6－0.4－0.24	中国製染付		136	
SK330		3.1－2.1－0.19	越中瀬戸，伊万里，加工木	17C 後半～18C 前半	139，140	107
SK334		1.06－＊＊－0.2			139～141	
SK335	楕円	0.44－＊＊－0.2	越中瀬戸		139～141	
SK340	円	0.98－0.94－0.12			135	
SK344	楕円	0.68－＊＊－0.19			136	
SK345	不整形	0.9－＊＊－0.36			134	
SK348	不整形	1.5－＊＊－0.47	曲物	16C 末～17C 前半	134	
SK349	楕円	0.7－＊＊－0.27			134	
SK353	楕円	0.6－0.48－0.24			143	107
SK354	楕円	0.92－0.7－0.27			139，140，142	107
SK355	楕円	1.52－1.28－0.24			139，140，142	107
SK359	不整形	0.86－＊＊－0.34			136	
SK360	楕円	1.0－＊＊－0.29			136	
SK361		＊＊－＊＊－0.26			136	
SK363	不整形	2.6－＊＊－0.51	越中瀬戸，茶臼	17C 前半～中頃	134	
SK364	不整形	1.3－＊＊－0.38			138	
SK365	方	1.7－0.8－0.44	杭		139，140	
SK367	円	＊＊－＊＊－0.36			143	
SK368	円	2.2－1.9－0.38			137	
SK371	不整形	1.92－＊＊－0.32			118，137	
SK372	不整形	2.46－1.9－0.38	越中瀬戸		137	
SK373	不整形	1.9－1.04－0.28	越中瀬戸，伊万里，加工木		116，135	
SK378	楕円	0.7－0.44－0.18			141	
SK379	不整形	0.8－＊＊－0.13			141	

第16表　土坑一覧(4)

遺構番号	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SK382	不整形	0.48－＊＊－0.12			141	
SK384	円	1.7－＊＊－0.27			134	
SK386	不整形	＊＊－＊＊－0.26			135	
SK387	不整形	＊＊－＊＊－0.2	越中瀬戸		135	
SK389	円	1.1－＊＊－0.36	唐津		140	
SK390		＊＊－＊＊－0.38			140	
SK391		0.74－＊＊－0.27			135	
SK394		＊＊－＊＊－0.38	越中瀬戸	17C 後半～18C 前半	140	107
SK395		＊＊－＊＊－0.36	石硯，曲物	17C 後半～18C 前半	140	107
SK396	不整形	＊＊－＊＊－0.32			142	
SK402	不整形	＊＊－＊＊－0.35	中国製青磁，土師質土器，越中瀬戸，唐津，漆器，下駄，折敷，加工木	16C 末～17C 前半	143	107
SK415	不整形	0.71－＊＊－0.14	越中瀬戸	16C 末～17C 前半	144	
SK416	不整形	＊＊－＊＊－0.22	唐津		144	
SK451	不整形	1.82－＊＊－0.36	唐津	17C 後半～18C 前半	144	
SK452	不整形	2.3－＊＊－0.22	唐津，伊万里，漆器、加工木	17C 後半～18C 前半	144	
SK453		2.7－＊＊－0.14	越中瀬戸	17C 前半	144	
SK454	不整形	2.7－＊＊－0.14	越中瀬戸，唐津	16C 末～17C 前半	144	
SK456	不整形	＊＊－7.92－0.32	珠洲，中国製白磁，土師質土器，越中瀬戸，唐津，伊万里，曲物，馬鍬の刃	16C 末～17C 前半	144	
SK468	円	1.08－＊＊－0.1			144	
SK470	不整形	3.66－＊＊－0.14			131	
SK482	不整形	3.49－＊＊－0.37	信楽，越中瀬戸，唐津，伊万里，陶器，漆器，箱？	18C 前半	145	108
SK486	不整形	0.25－＊＊－0.05				
SK495	円	0.25－＊＊－0.14			123	
SK500	方	4.65－4.44－0.24	越中瀬戸，伊万里，唐津，加工木	17C 後半～18C 前半	146	107,108
SK543		0.72－＊＊－0.25			146	
SK548	楕円	0.76－0.39－0.2	越中瀬戸，唐津		120	
SK564	円	0.37－0.36－0.17	唐津		124	
SK582		1.84－＊＊－0.13	唐津，漆器	17C 後半～18C 前半	145	108
SK592	円	0.26－＊＊－0.3			146	
SK593	楕円	＊＊－0.5－0.3	越中瀬戸		146	
SK600	方	6.72－4.29－0.33	瀬戸美濃，越中瀬戸，伊万里，加工木	17C 前半	147	108
SK625	楕円	1.98－0.98－0.4			123	
SK644	方	＊＊－2.4－0.29	越中瀬戸，唐津，伊万里，陶器	17C 後半～18C 前半	147	108
SK645	方	2.37－1.59－0.18	越中瀬戸，唐津，伊万里，陶器		147	108
SK669	円	0.26－0.25－0.2			146	
SK671	楕円	0.49－0.37－0.11			146	
SK674		0.94－＊＊－0.06			119	
SK677	不整形	＊＊－＊＊－0.2	土師質土器	16C 末～17C 前半	146	
SK684		1.53－＊＊－0.23			145	

遺構の切り合いなどにより計測不能な場合＊で示した。

第17表　井戸一覧

遺構番号	平面形	規模(長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	挿図	図版
SE278	楕円	1.1－0.74－1.36	曲物	17C 後半～18C 前半	115，133	106
SE530	円	2.32－2.32－0.63	刳り抜き丸太，曲物	17C 後半～18C 前半	120，133，145	106
SE634	円	0.63－0.52－0.52	加工木		133	105

第18表　土器・陶磁器一覧(1)

挿図	挿図番号	図版	遺構	建物	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)㎝)	胎土		釉薬	釉調		年代	詳細時期	備考
148	1	119	SP15	SB1		中国製染付	皿	＊＊－＊＊－6.0	N8/0	灰白色	透明釉			16C		染付5PB4/4くすんだ青色
	2		SP15	SB1		伊万里	碗	9.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5B5/1青灰色
	5		SP175	SB1		越中瀬戸	擂鉢	32.0－	7.5YR7/3	にぶい橙色	錆釉	7.5YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
	6		SP175	SB1		越中瀬戸	擂鉢		10YR8/3	浅黄色	錆釉	10YR5/2	灰黄褐色	16C 末～17C		
149	14	111	SP221	SB1		越中瀬戸	皿(向付)	10.7－3.1－6.1	10YR7/2	にぶい橙色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	墨書，直接重ね焼き
	15		SP241	SB1		越中瀬戸	椀	10.0－	2.5Y7/1	灰白色	灰釉・鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		灰釉7.5YR2/1黒色
	16	119	SP241	SB1		伊万里	碗	6.8－	5Y9/1	灰白色	透明釉			18C 以降		染付5PB4/4くすんだ青色
150	21		SP298	SB1		越中瀬戸	皿(向付)		10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	22	111	SP323	SB1		越中瀬戸	皿	12.2－2.7－4.8	2.5Y8/2	浅黄橙色	鉄釉	7.5YR3/4	暗褐色	16C 末～17C		
	23	110	SP362	SB1		越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.3	7.5YR8/6	明褐灰色	鉄釉	5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	24		SP362	SB1		越中瀬戸	皿	5.1－	7.5YR7/1	明褐灰色	鉄釉	7.5YR2/1	黒色	17C	登窯期	
	25		SP362	SB1		越中瀬戸	皿(向付)	10.8－	5YR7/1	灰黄色	鉄釉	5YR4/3	暗赤褐色	17C	登窯期	
	26		SP366	SB1		越中瀬戸	壺	11.1－	2.5Y7/2	灰黄色	鉄釉	5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	27		SP393	SB1		越中瀬戸	皿(向付)	10.8－	10YR7/2	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR3/2	暗褐色	17C	登窯期	
	29	111	SP412	SB2		越中瀬戸	皿	10.5－2.3－5.0	7.5YR8/4	浅黄橙色	灰釉	2.5Y7/2	灰黄色	16C 末～17C		
	30		SP483	SB2		越中瀬戸	皿	10.2－＊＊－4.4	7.5YR6/3	にぶい褐色	灰釉	5Y6/2	灰オリーブ色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	31		SP483	SB2		越中瀬戸	皿	11.1－2.4－4.8	10YR8/3	浅黄橙色	灰釉	2.5Y8/2	灰白色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	32	112	SP483	SB2		越中瀬戸	皿	11.2－2.6－3.8	2.5Y8/3	にぶい橙色	鉄釉	5YR3/2	暗赤褐色	17C	登窯期	
	33		SP483	SB2		越中瀬戸	皿	11.2－	5Y6/1	灰色	鉄釉	5Y7/3	浅黄色	16C 末～17C		煤付着
	34		SP483	SB2		越中瀬戸	皿	12.2－	7.5YR6/3	にぶい褐色	鉄釉	7.5Y3/1	黒褐色	16C 末～17C		
	35	112	SP483	SB2		越中瀬戸	皿	12.0－2.6－4.2	10YR8/3	浅黄橙色	鉄釉	5YR4/2	灰褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	37	110	SP573	SB2		越中瀬戸	椀	＊＊－＊＊－4.1	2.5Y8/2	淡黄色	鉄釉	10YR3/1	黒褐色	16C 末～17C		
	38	112	SP573	SB2		越中瀬戸	皿(向付)	10.8－3.3－5.7	2.5Y8/2	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	墨書「次エ門」「二」
	39	116	SP573	SB2		唐津	皿	＊＊－＊＊－4.0	2.5Y7/3	浅黄色	灰釉	5Y6/2	灰オリーブ色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
151	40		SP586	SB2		越中瀬戸	皿	10.8－2.5－3.9	10YR8/3	浅黄橙色	鉄釉	2.5YR3/1	暗赤褐色	16C 末～17C		
	41		SP586	SB2		越中瀬戸	皿	11.6－	7.5YR8/4	浅黄橙色	鉄釉	7.5R3/1	暗赤褐色	17C	登窯期	
	42		SP586	SB2		越中瀬戸	皿	11.0－	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	5Y8/2	灰白色	16C 末～17C		
	44	110	SP632	SB2		越中瀬戸	皿	10.8－2.2－5.0	N7/0	灰白色	灰釉	7.5Y4/3	暗オリーブ色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	45	116	SP632	SB2		唐津	甕	＊＊－＊＊－24.4	10R5/3	赤褐色						
	46		SP633	SB2		越中瀬戸	擂鉢	11.0－	10YR7/3	にぶい黄橙色	錆釉	7.5YR5/3	にぶい褐色	16C 末～17C		
	47		SP641	SB2		唐津	皿	9.7－	2.5Y7/1	灰白色	灰釉	2.5Y6/2	灰黄色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	48	119	SP641	SB2		伊万里	小杯	＊＊－＊＊－3.4	5Y8/1	灰白色	透明釉			17C 前半～中頃		染付7.5B4/4くすんだ青色
	49	119	SP641	SB2		伊万里	碗	10.4－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5PB5/3くすんだ青色
	50		SP685	SB2		伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.4	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		染付7.5B6/3青灰色，蛇の目釉剥，重ね焼き
	54	109	SP140	SB3		瀬戸美濃	志野菊皿	＊＊－＊＊－6.4	2.5Y8/3	浅黄色	長石釉	2.5Y7/1	灰白色	16C 末～17C 初	大Ⅳ	円錐ピン
152	56	109	SP163	SB3		瀬戸美濃	志野丸皿	11.0－2.3－5.4	10YR8/2	灰白色	長石釉	2.5Y7/1	灰白色	16C 末～18C 中頃	大Ⅳ～登Ⅱ	
	57		SP168	SB3		越中瀬戸	椀	11.8－	10YR6/1	褐灰色	灰釉・鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		灰釉7.5YR3/3暗褐色
	58		SP168	SB3		越中瀬戸	皿	12.2－	2.5Y8/3	淡黄色	鉄釉	7.5YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
	65		SP629	SB4		伊万里	碗	8.9－	7.5Y8/1	灰白色	透明釉			17C 以降		
153	68		SP184			唐津	皿	12.4－	10YR6/3	にぶい黄橙色	灰釉	2.5Y7/2	灰黄色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	69		SP184			唐津	皿	13.0－	10YR8/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5G5/2	緑灰色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y8/2灰白色，内野山窯系
	70		SP244			越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－6.0	10YR6/1	褐灰色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	17C	登窯期	
	72		SP281			越中瀬戸	皿	12.0－	7.5YR7/3	にぶい橙色	灰釉	5Y7/2	灰白色	17C	登窯期	
154	81		SD1		X43Y92	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－14.0	10YR8/4	浅黄橙色	錆釉	5R5/1	赤灰色	16C 末～17C		炭化物付着
	82		SD1		X43Y92	越中瀬戸	擂鉢		2.5Y8/3	淡黄色	錆釉	7.5YR6/4	にぶい橙色	16C 末～17C		
	84		SD2			珠洲	擂鉢		7.5Y7/1	灰白色				13C ～15C		
	85		SD2		X40Y57	越中瀬戸	椀	10.0－	2.5Y6/1	黄灰色	灰釉・鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		灰釉5YR3/2暗赤褐色
	86		SD2		X41Y61	越中瀬戸	椀	11.0－	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		
	87		SD2		X37Y62	越中瀬戸	椀	11.0－	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		
	88		SD2		X43Y60	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.0	10YR7/1	灰白色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	89		SD2		X42Y60	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－12.0	10YR8/3	浅黄橙色	錆釉	7.5YR5/2	灰褐色	16C 末～17C		
	90		SD2		X38Y61	唐津	椀	10.8－	5Y7/1	灰白色	灰釉	5Y7/2	灰白色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	91	109	SD2		X41Y61	土師質土器	火舎？		10YR7/3	にぶい黄橙色						
	97	120	SD5		X41Y70	伊万里	皿	14.0－3.4－4.4	N8/0	灰白色	青磁釉	2.5G9/1	明灰緑色	17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥，砂目，青磁

第18表　土器・陶磁器一覧(2)

挿図	挿図番号	図版	遺構	建物	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)cm)	胎土		釉薬	釉調		年代	詳細時期	備考
155	*98*	110	SD403		X33Y56	越中瀬戸	椀		5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		
	99	110	SD403		X33Y56	越中瀬戸	椀	10.9－6.5－5.7	5Y7/1	灰白色	灰釉・鉄釉	7.5YR4/4	褐色	16C 末～17C		灰釉7.5YR2/1黒色
	100		SD403		X36Y61	越中瀬戸	皿(向付)	10.8－2.5－5.0	10YR6/1	褐灰色	灰釉	2.5Y8/3	淡黄色	17C	登窯期	
	101		SD403		X33Y56	越中瀬戸	擂鉢		5Y7/1	灰白色	錆釉	2.5YR5/2	灰赤色	16C 末～17C		
	102		SD403		X35Y63	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－16.0	10YR8/4	浅黄橙色	錆釉	5YR6/4	にぶい橙色	16C 末～17C		
	103		SD403		X33Y56	伊万里	碗	9.6－	N6/0	灰色	透明釉			18C 前半		陶胎染付2.5B5/3くすんだ青色
	104		SD403		X37Y57	伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.5	10Y7/1	灰白色	透明釉			18C		染付5B6/1青灰色，波佐見窯系
	105		SD403		X37Y60	伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.6	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥，白磁
	106	119	SD403		X37Y57	伊万里	仏飯器	6.0－	7.5Y8/1	灰白色	透明釉			18C 後半～19C 初		染付5PB3/10青色
	109		SD450			越中瀬戸	天目茶椀		7.5YR6/1	褐灰色	鉄釉	10YR2/1	黒色	16C 末～17C		
	110	110	SD450			越中瀬戸	皿	10.8－2.1－5.0	2.5Y8/2	灰白色	灰釉	5Y6/3	オリーブ黄色	16C 末～17C		印花，別個体溶着
	111		SD450			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.0	7.5YR7/3	にぶい橙色	鉄釉	7.5YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	112		SD450			越中瀬戸	皿	12.4－	7.5YR7/3	にぶい橙色	鉄釉	10YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
	113		SD450			越中瀬戸	皿	12.0－＊＊－4.8	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	114		SD450			越中瀬戸	皿(向付)	12.0－	5Y6/1	灰色	鉄釉	2.5Y3/1	黒褐色	17C	登窯期	
	115		SD450			越中瀬戸	擂鉢		5YR7/4	にぶい橙色	錆釉	7.5YR5/2	灰褐色	16C 末～17C		
	116	119	SD450		X49Y87	伊万里	碗	10.0－	N8/1	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5PB6/4くすんだ青色
	117	119	SD450			伊万里	碗	10.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5PB5/4くすんだ青色
	118		SD450			唐津	皿	14.0－	5Y7/1	灰白色	灰釉	5Y6/2	灰オリーブ色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	119		SD450			唐津	皿	13.0－	10YR8/3	浅黄橙色	灰釉・銅緑釉	10GY5/2	くすんだ緑色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y6/3にぶい黄色，内野山窯系
	120		SD450			唐津	皿	14.0－	2.5Y7/3	浅黄色	灰釉・銅緑釉	2.5B5/3	くすんだ青色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y7/2灰黄色，内野山窯系
	121	116	SD450			唐津	皿	＊＊－＊＊－4.6	N8/0	灰白色	灰釉・銅緑釉	5G5/2	灰緑色	17C 末～18C 前半		灰釉5Y7/3浅黄色，内野山窯系，蛇の目釉剥
	122		SD450		X48Y83	唐津	皿	＊＊－＊＊－4.6	5Y8/2	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5B5/2	暗青灰色	17C 末～18C 前半		灰釉5Y7/3浅黄色，内野山窯系，蛇の目釉剥，墨書
	123	118	SD450		X50Y83	唐津	鉢	26.7－＊＊－11.6	5Y6/1	灰色	灰釉・白泥	5Y4/2	暗オリーブ色	17C	1610－1690	砂・胎土目，刷毛目二彩手
156	*124*		SK456		X48Y79	中国製白磁	碗	12.0－	2.5Y8/2	灰白色	白磁釉	2.5Y8/2	灰白色	11C 後半～12C 前半	1060－1160	
	125		SK456		X49Y79	土師質土器	擂鉢	＊＊－＊＊－14.0	2.5Y7/2	灰黄色						煤付着
	126		SK456		X49Y81	越中瀬戸	皿	14.0－	10YR8/3	浅黄橙色	鉄釉	5YR3/4	暗赤褐色	16C 末～17C		
	127		SK456		X49Y81	越中瀬戸	擂鉢		7.5YR8/4	浅黄橙色	錆釉	10R5/1	赤灰色	16C 末～17C		
	128		SK456		X49Y81	伊万里	碗	12.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付7.5B6/3青灰色
	129		SK456		X49Y81	伊万里	瓶		N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5PB6/4くすんだ青色
	130		SK456		X48Y79	唐津	小碗		7.5YR6/4	にぶい橙色	灰釉	5Y6/2	灰オリーブ色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	133	120	SD462			伊万里	碗	9.8－6.4－4.0	N7/0	灰色	透明釉			17C 後半～18C 前半		陶胎染付10G4/1暗緑灰色
	134	117	SD467			唐津	椀	＊＊－＊＊－4.5	10YR7/3	にぶい黄橙色	灰釉	10YR6/4	明黄褐色	17C 末～18C 前半		刷毛目
	135		SD471			唐津	皿	＊＊－＊＊－4.4	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	7.5YR6/1	明褐灰色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	136		SD473			瀬戸美濃	志野丸皿	11.8－	2.5Y8/1	灰白色	長石釉	2.5Y6/1	黄灰白	16C 末～18C 中頃	大Ⅳ～登Ⅱ	
157	*141*		SK27			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.0	7.5Y7/1	灰白色	灰釉	5Y6/3	オリーブ黄色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	143		SK34			唐津	皿	14.0－	2.5Y8/2	灰白色	銅緑釉	7.5GY5/1	緑灰色	17C 後半～18C 前半		内野山窯系
	144		SK39			中国製白磁	壺類	12.5－	7.5Y8/1	灰白色	白磁釉	2.5GY	明オリーブ灰色	11C 後半～13C 初	1060－1230	
	146		SK43			越中瀬戸	皿	11.0－2.5－5.0	5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	10Y6/2	オリーブ灰色	16C 末～17C		煤付着
	147		SK79			伊万里	小杯	6.4－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 前半～中頃		染付5B3/1暗青灰色
	148		SK87			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－6.0	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	149	117	SK87			須佐唐津	擂鉢	＊＊－＊＊－12.0	5YR5/3	にぶい赤褐色	鉄泥	7.5YR5/3	にぶい褐色	17C 後半～19C 前半		
	150		SK93			唐津	皿	14.0－	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	7.5YR6/3	にぶい褐色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	151		SK100			唐津	皿	＊＊－＊＊－5.9	7.5YR8/4	浅黄橙色	灰釉	2.5Y8/2	灰白色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	152		SK107			越中瀬戸	擂鉢		2.5Y8/2	灰白色	錆釉	7.5YR5/3	にぶい褐色	16C 末～17C		
	153		SK108			越中瀬戸	天目茶椀	12.0－	10YR6/1	褐灰色	鉄釉	7.5YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	155	116	SK121			唐津	椀	＊＊－＊＊－4.4	2.5YR6/3	にぶい橙色	鉄釉	10YR3/1	黒褐色	16C 末～17C 前半	1580－1640	
	156	118	SK133			唐津	皿	12.2－3.1－5.1	2.5Y8/1	灰白色	灰釉	7.5Y7/2	灰白色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	157		SK155			越中瀬戸	皿	10.0－	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	2.5Y8/2	灰白色	16C 末～17C		
	158	110	SK155			越中瀬戸	皿	11.9－3.2－4.6	10YR8/3	浅黄橙色	鉄釉	2.5YR3/1	暗赤灰色	16C 末～17C		
	159		SK160			越中瀬戸	皿	11.6－	7.5YR7/3	にぶい橙色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	17C	登窯期	
	160	111	SK170			土師器	皿	10.0－2.4－0.8	2.5Y7/3	浅黄色						油煙付着
	161	109	SK170			瀬戸美濃	天目茶椀	15.0－＊＊－6.8	5Y8/1	灰白色	鉄釉	10YR2/3	黒褐色	16C 末～17C 初	大Ⅳ	
	162	116	SK170			唐津	瓶	＊＊－＊＊－9.0	5YR6/4	にぶい橙色	鉄釉	10YR3/3	暗褐色	16C 末～17C 初	1580－1610	

第18表　土器・陶磁器一覧(3)

挿図	挿図番号	図版	遺構	建物	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)cm)	胎土		釉薬	釉調		年代	詳細時期	備考
157	*163*	112	SK170			越中瀬戸	皿	10.6－2.3－4.2	5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	2.5Y7/3	浅黄色	16C 末～17C		
	164		SK170			越中瀬戸	皿	11.4－	10YR8/3	浅黄色	鉄釉	7.5YR4/1	褐灰色	16C 末～17C		油煙付着
	165	113	SK170			越中瀬戸	皿	10.9－1.3－4.8	10YR8/4	浅黄橙色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		
158	*169*	116	SK183			唐津	椀		10YR7/3	にぶい黄橙色	灰釉	7.5GY7/1	明緑灰色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	170	109	SK193			瀬戸美濃	志野皿	＊＊－＊＊－7.4	10YR7/2	にぶい黄橙色	長石釉	7.5Y8/1	灰白色	16C 末～18C 中頃	大Ⅳ～登Ⅱ	
	171		SK196			京焼風唐津	椀		2.5Y8/2	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 初	1660－1720	
	173		SK211			越中瀬戸	擂鉢	29.0－	10YR7/3	にぶい黄橙色	錆釉	7.5Y4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	174		SK213			越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－4.6	2.5Y6/1	黄灰色	鉄釉	10YR2/3	黒褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	175		SK232			越中瀬戸	皿(向付)	12.0－	10YR6/2	灰黄褐色	鉄釉	7.5YR3/3	暗褐色	17C	登窯期	
	176		SK240			越中瀬戸	皿(向付)	10.5－	2.5Y6/1	黄灰色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	17C	登窯期	
	178		SK261		X48Y73	越中瀬戸	皿	10.9－	10YR7/2	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
	179		SK261			越中瀬戸	皿(向付)		7.5YR7/3	にぶい橙色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	180	118	SK265			唐津	皿	14.0－4.0－4.8	2.5Y8/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	5G5/2	灰緑色	17C 末～18C 前半		灰釉5Y8/2灰白色,内野山窯系,蛇の目釉剥,墨書「一」
	181	109	SK280			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－3.7	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	2.5Y8/1	灰白色	16C 末～17C		墨書「○」
	182	109	SK280			越中瀬戸	皿(向付)	10.9－3.0－5.4	5Y7/2	灰白色	鉄釉	7.5Y4/3	褐色	17C	登窯期	墨書
	184		SK296			越中瀬戸	皿	10.4－2.5－4.2	7.5YR8/4	浅黄橙色	灰釉	2.5Y7/2	灰黄色	16C 末～17C		墨書「○」
	185	113	SK296			越中瀬戸	皿	10.0－＊＊－4.2	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	2.5Y8/2	灰白色	16C 末～17C		墨書「○」
	186		SK296			越中瀬戸	皿	11.2－＊＊－4.2	5Y7/1	灰白色	灰釉	10YR8/3	浅黄色	16C 末～17C		印花，直接重ね焼き
	187	113	SK296			越中瀬戸	皿(向付)	11.2－3.0－4.8	2.5Y7/2	灰黄色	鉄釉	7.5YR4/4	褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	188	109	SK296			越中瀬戸	皿(向付)	10.0－3.1－5.6	2.5Y8/2	灰白色	鉄釉	7.5YR4/4	褐色	17C	登窯期	墨書，直接重ね焼き
	189		SK296			越中瀬戸	擂鉢		7.5YR8/4	浅黄橙色	錆釉	7.5YR5/2	灰褐色	16C 末～17C		
	190		SK296			伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.0	5Y9/1	灰白色	透明釉			17C 以降		染付7.5B7/3青灰色
159	*194*	109	SK314			土師質土器	火舎？		10YR6/3	にぶい黄橙色						
	195	113	SK315			越中瀬戸	皿(向付)	10.7－3.1－5.2	10YR7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	196	120	SK325			中国製染付	皿	＊＊－＊＊－8.4	N7/0	灰白色	透明釉			16C 後半～17C 初		染付5PB5/6うすい紫味の青色
	197		SK335			越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－5.1	7.5YR8/3	浅黄橙色	鉄釉	5YR4/3	にぶい赤褐色	17C	登窯期	
	201	114	SK363			越中瀬戸	皿	10.2－2.4－3.6	10YR8/3	浅黄橙色	灰釉	2.5Y7/3	浅黄色	16C 末～17C		墨書「○」，直接重ね焼き
	202	109	SK363			越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－7.0	2.5Y7/2	灰黄色	鉄釉	10YR3/4	暗褐色	17C	登窯期	墨書「十」？
	203		SK363			越中瀬戸	皿(向付)	10.0－3.0－5.0	10YR8/2	灰白色	鉄釉	7.5YR5/4	にぶい褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	204	114	SK363			越中瀬戸	皿(向付)	10.9－3.2－5.1	5Y7/2	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	205		SK363			越中瀬戸	皿(向付)	9.5－3.0－4.7	10YR8/2	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	206	114	SK363			越中瀬戸	皿	9.9－2.4－4.5	5YR6/4	にぶい橙色	灰釉	2.5Y8/3	淡黄色	16C 末～17C		印花，油煙付着
	207		SK363			越中瀬戸	擂鉢		2.5Y8/3	淡黄色	錆釉	5YR4/6	赤褐色	16C 末～17C		
160	*209*	110	SK372			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.7	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	2.5Y8/3	淡黄色	16C 末～17C		印花，直接重ね焼き
	210		SK373			越中瀬戸	椀		N7/0	灰白色	鉄釉	7.5Y4/3	褐色	16C 末～17C		
	211		SK373			伊万里	碗	12.0－	7.5Y7/1	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5GY6/1オリーブ灰色
	213		SK387			越中瀬戸	天目茶椀	11.6－	5Y9/1	灰白色	鉄釉	2.5Y5/4	黄褐色	16C 末～17C		
	214		SK387			越中瀬戸	皿	11.1－2.4－4.3	10YR8/4	浅黄橙色	鉄釉	5YR4/2	灰褐色	17C	登窯期	
	215	116	SK389			唐津	瓶	7.0－	2.5Y6/1	黄灰色	鉄釉	7.5YR3/1	黒褐色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	216		SK394			越中瀬戸	椀	10.4－	2.5Y7/1	灰白色	灰釉	5Y6/3	オリーブ黄色	16C 末～17C		
	217		SK395			土師質土器	擂鉢		2.5Y6/3	にぶい黄色						煤付着
	220		SK402			土師質土器	擂鉢		5YR7/3	にぶい橙色						煤付着
	221		SK402			中国製青磁	碗	＊＊－＊＊－5.4	2.5Y8/2	灰白色	青磁釉	10Y6/2	オリーブ灰色	12C 後半～13C 初	1160－1230	龍泉窯系，劃花文
	222		SK402			越中瀬戸	椀	＊＊－＊＊－4.5	10YR6/1	褐灰色	灰釉・鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		灰釉5Y2/2オリーブ黒色
	223		SK402			越中瀬戸	壺	11.6－	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR4/3	にぶい黄褐色	16C 末～17C		
	224		SK402			唐津	瓶	＊＊－＊＊－4.6	5YR6/3	にぶい橙色	鉄釉	5YR3/2	暗赤褐色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	230		SK416			唐津	皿	12.8－	5Y6/1	灰色	灰釉・銅緑釉	7.5G5/2	緑灰色	17C 後半～18C 前半		灰釉5Y7/2灰白色,内野山窯系,蛇の目釉剥
	231		SK451			唐津	皿	13.0－	10YR8/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5G5/2	緑灰色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y8/2灰白色，内野山窯系
	232	116	SK451			唐津	小椀	10.0－3.7－4.0	7.5YR6/3	にぶい褐色	灰釉	5Y7/1	灰白色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	233		SK452			伊万里	皿	13.4－3.3－3.6	N8/0	灰白色	青磁釉	7.5GY7/1	明緑灰色	17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥，青磁
161	*236*		SK453			越中瀬戸	椀	12.0－	7.5YR6/1	褐灰色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	237		SK453			越中瀬戸	皿(向付)	11.2－	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	238		SK453			越中瀬戸	擂鉢	24.8－	2.5Y8/2	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		
	239	114	SK454			越中瀬戸	皿	12.8－2.8－5.4	2.5Y6/1	黄灰色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	煤付着

第18表　土器・陶磁器一覧(4)

挿図	挿図番号	図版	遺構	建物	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)cm)	胎土		釉薬	釉調		年代	詳細時期	備考
161	240		SK454			唐津	瓶	＊＊－＊＊－8.6	5YR4/6	赤褐色	鉄釉	5YR3/2	暗赤褐色	16C 末～17C 初	1580－1610	
	241	110	SK482			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.4			灰釉	2.5Y8/1	灰白色	16C 末～17C		印花
	242		SK482			越中瀬戸	皿(向付)	11.0－	10YR6/1	褐灰色	鉄釉	10YR4/2	灰黄褐色	17C	登窯期	
	243		SK482			唐津	皿	14.8－	5Y7/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5G5/2	緑灰色	17C 後半～18C 前半		灰釉5Y7/1灰白色,内野山窯系,蛇の目釉剥
	244		SK482			唐津	皿	＊＊－＊＊－4.6	2.5Y7/2	灰黄色	灰釉・銅緑釉	10YR6/2	オリーブ灰色	17C 末～18C 前半		灰釉7.5Y6/2灰オリーブ色内野山窯系,蛇の目釉剥
	245	117	SK482			京焼風唐津	椀	11.7－	5Y8/2	灰白色	透明釉	5Y7/3	浅黄色	17C 後半～18C 初	1660－1720	
	246		SK482			陶器	鉢		10YR7/3	にぶい黄橙色	透明釉					
	247		SK482			伊万里	碗	11.2－	7.5Y7/1	灰白色	透明釉			18C 前半		陶胎染付10G6/1青灰色
	248		SK482			伊万里	碗	9.6－	5Y8/1	灰白色	透明釉			17C 後半		染付10BG6/1青灰色
	249	119	SK482			伊万里	碗		N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5PB6/4くすんだ青色
	250		SK482			伊万里	皿	13.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		白磁
	251		SK482			唐津？	擂鉢		2.5YR5/3	にぶい赤褐色						
	252	109	SK482			信楽	甕		10YR7/1	灰白色	錆釉	5YR5/2	灰褐色	17C		
	253	117	SK482			越中瀬戸	擂鉢	27.2－	10YR7/2	にぶい黄橙色	錆釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	255		SK500			越中瀬戸	皿	12.0－	7.5YR6/4	にぶい橙色	灰釉	5Y6/2	灰オリーブ色	16C 末～17C		
	256	109	SK500			越中瀬戸	皿(向付)	11.0－2.9－5.0	2.5Y8/3	淡黄色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	墨書「九」
	257		SK500			伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.0	N8/0	灰白色	透明釉	5GY8/1	灰白色	17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥,直接重ね焼き痕,白磁
	259		SK548			越中瀬戸	小杯	6.8－3.0－4.0	5YR8/3	淡橙色	鉄釉	2.5YR2/1	赤黒色	16C 末～17C		
	260		SK564			唐津	皿	＊＊－＊＊－3.6	5YR6/6	橙色	灰釉	5Y7/2	灰白色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	262	117	SK582			唐津	擂鉢	29.6－10.3－10.4	10R4/2	灰赤色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	17C 後半～18C 初	1660－1720	
162	263		SK593			越中瀬戸	擂鉢	3.0－	7.5Y7/3	にぶい橙色	錆釉	7.5YR5/2	灰褐色	16C 末～17C		
	264	109	SK600			瀬戸美濃	天目茶椀		2.5Y8/2	灰白色	鉄釉	2.5Y2/1	黒色	16C 末～17C 末	大Ⅳ～登Ⅰ	
	265		SK600			越中瀬戸	皿(向付)	10.0－3.0－5.8	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	266		SK600			越中瀬戸	火桶	16.0－	7.5YR6/1	褐灰色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		穿孔
	267	119	SK600			伊万里	碗	10.0－	N8/0	灰白色	透明釉	10GY7/1	明緑灰色	17C 前半		染付7.5B6/3青灰色，不動山3号窯
	270		SK644			越中瀬戸	椀	＊＊－＊＊－4.4	10YR6/1	褐灰色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	271		SK644			越中瀬戸	椀	＊＊－＊＊－4.0	10YR6/1	褐灰色	鉄釉	10YR3/1	黒褐色	16C 末～17C		
	272	110	SK644			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.3	5Y7/1	灰白色	灰釉	5Y4/4	オリーブ色	16C 末～17C		印花，直接重ね焼き
	273		SK644			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.6	5YR6/4	にぶい橙色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	274		SK644			越中瀬戸	皿	10.8－2.5－4.4	2.5Y7/3	浅黄色	鉄釉	5YR4/3	にぶい赤褐色	16C 末～17C		
	275		SK644			越中瀬戸	皿	12.0－	10YR7/2	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
	276		SK644			越中瀬戸	皿	11.4－	7.5YR7/3	にぶい橙色	鉄釉	7.5YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	277		SK644			越中瀬戸	皿(向付)	10.8－	2.5Y6/1	黄灰色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	278	109	SK644			越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－5.0	7.5Y6/1	灰色	鉄釉	5YR4/4	にぶい赤褐色	17C	登窯期	墨書「九」，直接重ね焼き
	279		SK644			越中瀬戸	擂鉢		7.5YR7/2	明褐色	錆釉	7.5YR4/1	褐灰色	16C 末～17C		
	280	116	SK644			唐津	椀	＊＊－＊＊－4.4	2.5Y7/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5G6/2	緑灰色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y6/3にぶい黄色,内野山窯系,胎土目
	281	116	SK644			唐津	皿	12.7－	2.5Y6/4	にぶい黄色	灰釉	10YR8/3	浅黄橙色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	282	116	SK644			唐津	皿	＊＊－＊＊－4.8	10YR7/4	にぶい黄橙色	灰釉	2.5Y7/3	浅黄色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	283		SK644			唐津	皿	16.2－	7.5Y7/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	10G4/2	灰緑色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y7/2灰黄色，内野山窯系
	284		SK644			唐津	皿	12.0－	7.5Y7/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	10G4/2	灰緑色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y7/2灰黄色,内野山窯系,蛇の目釉剥
	285	116	SK644			唐津	皿	13.3－3.9－4.2	10YR7/3	にぶい黄橙色	灰釉	2.5Y8/2	灰白色	17C 前半		砂目
	286		SK644			伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.6	5Y6/1	灰色	透明釉	7.5Y5/2	灰オリーブ色	18C 前半		陶胎
	287		SK644			陶器	鉢	12.6－	5Y7/1	灰白色	灰釉	2.5Y6/1	黄灰色			
163	288		SK645			越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.8	10YR7/3	にぶい黄橙色				16C 末～17C		印花
	289		SK645			越中瀬戸	擂鉢	30.0－	7.5YR8/3	浅黄橙色	錆釉	7.5YR5/2	灰褐色	16C 末～17C		
	290		SK645			唐津	皿	13.6－	2.5Y7/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	5B4/1	暗青灰色	17C 後半～18C 前半		灰釉5Y6/2灰オリーブ色，内野山窯系
	291	116	SK645			唐津	皿	24.0－	2.5Y6/1	黄灰色	灰釉	2.5Y6/2	灰黄色	16C 末～17C 初	1580－1610	鉄絵7.5YR4/1褐灰色
	292		SK645			伊万里	碗		N7/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5PB6/6くすんだ青色
	293		SK645			伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.6	2.5Y7/1	灰白色	青磁釉	5GY6/1	オリーブ灰色	17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥，青磁
	294	119	SK645			伊万里	皿	＊＊－＊＊－5.0	2.5Y7/1	灰白色	透明釉			17C 前半	1630～1640	染付7.5B6/3青灰色,山辺田６・７号窯
	295		SK645			伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.8	7.5Y8/1	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5BG5/1青灰色
	296	119	SK645			伊万里	瓶		N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付2.5PB5/6くすんだ青色
	297		SK645			陶器	鉢	19.6－	10YR6/1	褐灰色	藁灰釉？・鉄釉	7.5YR3/2	黒褐色			藁灰釉2.5Y7/3浅黄色
	298	117	SK677			土師質土器	擂鉢		2.5Y7/3	浅黄色				16C		

第18表　土器・陶磁器一覧(5)

挿図	挿図番号	図版	遺構	建物	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)cm)	胎土		釉薬	釉調		年代	詳細時期	備考
164	299				X33Y56	越中瀬戸	椀	11.4－	2.5Y6/1	黄灰色	灰釉・鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		灰釉10YR2/2黒褐色
	300				X43Y93	越中瀬戸	椀	11.0－	5Y7/1	灰白色	鉄釉	10YR3/4	暗褐色	16C 末～17C		
	301	110				越中瀬戸	天目茶椀	13.8－	2.5Y5/1	黄灰色	灰釉・鉄釉	5YR4/4	にぶい赤褐色	16C 末～17C		灰釉10YR3/2黒褐色
	302	109			X43Y67	越中瀬戸	皿	10.1－2.5－3.9	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	2.5Y7/1	灰白色	17C	登窯期	墨書「○」
	303	115			X48Y88	越中瀬戸	皿	10.8－2.7－5.2	7.5YR7/4	にぶい橙色	鉄釉	7.5YR4/1	褐灰色	16C 末～17C		墨書「十」
	304	115			X45Y88	越中瀬戸	皿	10.7－2.0－3.8	N7/0	灰白色	鉄釉	7.5YR3/2	黒褐色	17C	登窯期	墨書「一」
	305	115			X42Y62	越中瀬戸	皿	10.9－2.5－4.6	7.5YR8/4	浅黄橙色	灰釉	2.5Y8/2	灰白色	16C 末～17C		
	306	110			X45Y88	越中瀬戸	皿	12.0－＊＊－4.5	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR3/1	黒褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	307				X43Y93	越中瀬戸	皿	12.0－	2.5Y7/1	灰白色	灰釉	2.5Y5/3	黄褐色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	308				X48Y87	越中瀬戸	皿	13.4－	2.5Y6/1	黄灰色	灰釉	2.5Y7/2	灰黄色	16C 末～17C		
	309				X46Y85	越中瀬戸	皿	13.0－	2.5Y7/1	灰白色	灰釉・鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		灰釉2.5Y6/3にぶい黄色
	310				X38Y68	越中瀬戸	皿	10.5－	2.5Y6/1	黄灰色	灰釉・鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		灰釉2.5Y5/4黄褐色
	311	110			X48Y78	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.2	10YR7/3	にぶい黄橙色	灰釉	2.5Y8/3	浅黄色	16C 末～17C		墨書「○ゥ」，印花
	312				X44Y65	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.2	7.5YR8/3	浅黄橙色	灰釉	10YR8/2	灰白色	16C 末～17C		印花
	313				X51Y89	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.4	10YR7/3	にぶい黄橙色	灰釉	5Y8/2	灰白色	16C 末～17C		印花
	314				X50Y83	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.8	10YR7/3	にぶい黄橙色	灰釉	5Y8/2	灰白色	16C 末～17C		印花
	315				不明	越中瀬戸	皿	11.2－	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	316				X48Y62	越中瀬戸	皿	10.3－	7.5YR7/3	にぶい橙色	灰釉	2.5Y7/2	灰黄色	16C 末～17C		
	317				X49Y75	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.4	10YR8/4	浅黄橙色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	318				X45Y90	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.2	10YR7/4	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR6/4	にぶい橙色	16C 末～17C		
	319				X46Y40	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.6	5YR6/4	にぶい橙色	鉄釉	5YR3/2	暗赤褐色	16C 末～17C		
	320				X47Y83	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.4	7.5YR7/4	にぶい橙色	鉄釉	10YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
	321				X49Y82	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.0	10YR8/2	灰白色	鉄釉	10YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
	322				X42Y73	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.8	10YR7/4	明黄褐色	鉄釉	10YR3/1	黒褐色	17C	登窯期	
	323	115			X32Y56	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.3	2.5Y8/3	淡黄色	灰釉	5Y8/3	淡黄色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	324				X48Y87	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－5.0	10YR7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	16C 末～17C		
	325				X49Y87	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－3.8	5YR7/3	にぶい橙色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	326				X51Y80	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.4	7.5YR7/2	明褐灰色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	327				X47Y76	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.2	10YR7/2	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	328				X50Y85	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.0	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	10YR8/2	灰白色	16C 末～17C		
	329				X45Y77	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.4	5Y5/1	灰色				16C 末～17C		
	330				X46Y65	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.5	2.5Y7/2	灰黄色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	17C	登窯期	
	331	110			X45Y85	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.6	10YR7/1	灰白色	灰釉	7.5Y5/2	灰オリーブ色	16C 末～17C		
	332				X47Y87	越中瀬戸	皿	11.0－3.0－5.0	10YR7/2	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR4/2	灰黄褐色	16C 末～17C		
	333				不明	越中瀬戸	皿	＊＊－＊＊－4.0	2.5Y6/1	黄灰色	鉄釉	10YR3/3	暗褐色	16C 末～17C		
165	334				X47Y68	越中瀬戸	皿(向付)	10.3－3.4－5.2	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	335				X45Y83	越中瀬戸	皿(向付)	10.8－3.0－4.0	5Y7/1	灰白色	鉄釉	10YR3/1	黒褐色	17C	登窯期	
	336	110			X43Y63	越中瀬戸	皿(向付)	10.6－3.1－4.8	10YR8/2	灰白色	鉄釉	7.5YR3/3	暗褐色	17C	登窯期	
	337				X45～48Y80	越中瀬戸	皿(向付)	11.3－3.0－5.9	5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	17C	登窯期	
	338				X48Y87	越中瀬戸	皿(向付)	10.6－3.4－5.8	2.5Y8/3	淡黄色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	17C	登窯期	
	339				X48Y87	越中瀬戸	皿(向付)	10.8－2.7－5.0	2.5Y8/3	淡黄色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	340				X48Y87	越中瀬戸	皿(向付)	10.9－3.0－5.9	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	341	109			X49Y66	越中瀬戸	皿(向付)	10.6－3.1－5.6	7.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	墨書「十」，直接重ね焼き
	342				X45Y84	越中瀬戸	皿(向付)	10.9－2.8－5.3	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	343				X47Y68	越中瀬戸	皿(向付)	10.8－	10YR6/1	褐灰色	鉄釉	10YR4/2	灰黄褐色	17C	登窯期	
	344				X50Y82	越中瀬戸	皿(向付)	10.8－	7.5YR5/1	褐灰色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	345				X48Y74	越中瀬戸	皿(向付)	10.4－	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	346				X48Y88	越中瀬戸	皿(向付)	10.5－	2.5Y8/3	淡黄色	鉄釉	5YR3/3	暗赤褐色	17C	登窯期	
	347				X42Y73	越中瀬戸	皿(向付)	10.8－	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR3/1	黒褐色	17C	登窯期	
	348				X46Y89	越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－4.8	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	349				X49Y74	越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－5.4	2.5Y7/1	灰白色	鉄釉	7.5YR4/3	褐色	17C	登窯期	
	350				X50Y81	越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－5.0	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	2.5Y2/1	黒色	17C	登窯期	
	351				X49Y78	越中瀬戸	皿(向付)	＊＊－＊＊－5.4	2.5Y8/1	灰白色	鉄釉	7.5Y4/3	褐色	17C	登窯期	直接重ね焼き
	352				X47Y73	越中瀬戸	皿？	9.4－	10YR7/3	にぶい黄橙色	錆釉	5YR5/3	にぶい赤褐色	17C	登窯期	

第18表　土器・陶磁器一覧(6)

挿図	挿図番号	図版	遺構	建物	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)㎝)	胎土		釉薬	釉調		年代	詳細時期	備考
165	353				X47Y74	越中瀬戸	壺	12.3－	10YR7/2	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	354	110			X42Y73	越中瀬戸	壺	11.0－	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	355				X40Y32	越中瀬戸	壺	＊＊－＊＊－8.0	10YR6/2	灰黄褐色	鉄釉	10YR3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	356	110			不明	越中瀬戸	瓶	＊＊－＊＊－5.6	5Y7/1	灰白色	鉄釉	2.5Y3/2	黒褐色	16C 末～17C		
	357				X47Y88	越中瀬戸	擂鉢		10YR7/4	にぶい黄橙色	錆釉	5YR5/4	にぶい赤褐色	16C 末～17C		
	358	117			X47Y71	越中瀬戸	擂鉢		2.5Y8/3	淡黄色	錆釉	7.5YR5/4	にぶい褐色	16C 末～17C		
	359				X48Y78	越中瀬戸	擂鉢	32.0－	7.5YR7/4	にぶい橙色	錆釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	360				X45Y83	越中瀬戸	擂鉢	26.0－	10YR7/2	にぶい黄橙色	錆釉	7.5YR5/2	灰褐色	16C 末～17C		
	361				不明	越中瀬戸	擂鉢	23.4－	7.5YR8/6	浅黄橙色	錆釉	2.5YR5/3	にぶい赤褐色	16C 末～17C		
166	362				X51Y89	越中瀬戸	擂鉢		10YR8/2	灰白色	錆釉	7.5YR4/1	褐灰色	16C 末～17C		
	363				X52Y83	越中瀬戸	擂鉢		5YR7/6	橙色	錆釉	5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	364				X51Y89	越中瀬戸	擂鉢		7.5YR7/4	にぶい橙色	錆釉	5YR5/3	にぶい赤褐色	16C 末～17C		
	365				X44Y76	越中瀬戸	擂鉢		10YR8/4	浅黄橙色	錆釉	2.5YR5/4	にぶい赤褐色	16C 末～17C		
	366				X83Y50	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	7.5YR8/6	浅黄橙色	錆釉	5YR5/3	にぶい赤褐色	16C 末～17C		
	367				X50Y82	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－9.4	10YR8/2	灰白色	錆釉	7.5YR4/1	褐灰色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	368				X50Y71	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	10YR7/3	にぶい黄橙色	錆釉	10YR5/3	にぶい黄褐色	16C 末～17C		
	369				X41Y72	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－8.9	7.5YR8/4	浅黄橙色	錆釉	5YR5/4	にぶい赤褐色	16C 末～17C		
	370				X48Y97	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	10YR8/2	灰白色	錆釉	7.5YR4/1	褐灰色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	371				X36Y65	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	2.5YR8/2	灰白色	錆釉	5YR5/4	にぶい赤褐色	16C 末～17C		直接重ね焼き
	372				X43Y93	越中瀬戸	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	10YR8/3	浅黄橙色	錆釉	10YR4/1	褐灰色	16C 末～17C		
	373	110			X47Y84	越中瀬戸	匣鉢	＊＊－＊＊－11.2	10YR7/3	にぶい黄橙色	鉄釉	7.5YR3/4	暗褐色	16C 末～17C		
	374				不明	越中瀬戸	匣鉢	＊＊－＊＊－10.8	7.5YR8/4	浅黄橙色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色	16C 末～17C		
	375	117			X53Y86	唐津	擂鉢	＊＊－＊＊－13.9	5YR7/4	にぶい橙色	錆釉	2.5YR4/1	赤灰色	18C ～19C 前半		直接重ね焼き
167	376	116			X48Y83	唐津	椀	12.6－	7.5Y7/1	灰白色	灰釉	7.5Y4/2	灰オリーブ色	16C 末～17C 前半	1580－1640	
	377		試掘溝		X45Y86	唐津	椀	＊＊－＊＊－4.5	7.5YR7/4	にぶい橙色	灰釉	5Y7/2	灰白色	16C 末～17C 前半	1580－1640	
	378	117			X48Y ？	唐津	椀	8.8－	2.5Y7/2	灰黄色	灰釉・鉄釉	2.5Y6/4	にぶい黄色	18C 前半		鉄釉7.5YR3/3暗褐色，刷毛目
	379	117			不明	唐津	椀	＊＊－＊＊－4.7	7.5YR7/3	にぶい橙色	鉄釉	2.5Y5/4	黄褐色	18C 前半		刷毛目
	380				X43Y93	唐津	皿	11.7－	10YR6/2	灰黄褐色	灰釉	2.5Y6/1	黄灰色	16C 末～17C 初	1580－1610	鉄絵
	381				X47Y91	唐津	皿	13.0－	5Y6/1	灰色	灰釉	5Y6/2	灰オリーブ色	16C 末～17C 初	1580－1610	漆付着
	382				不明	唐津	皿	13.0－	10YR7/2	にぶい黄橙色	灰釉・銅緑釉	5Y5/3	灰オリーブ色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y6/2灰オリーブ色，内野山窯系，蛇の目釉剥
	383				X46Y84X47Y87	唐津	皿	14.0－	2.5Y8/2	灰白色	灰釉・銅緑釉	10Y4/2	灰緑色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y6/2灰黄色，内野山窯系，蛇の目釉剥
	384				X48～50Y78～80	唐津	皿	14.0－	5Y7/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5G5/2	緑灰色	17C 後半～18C 前半		灰釉2.5Y6/2灰オリーブ色，内野山窯系，蛇の目釉剥
	385	116			X45Y86	唐津	皿	10.0－3.5－4.0	10YR6/3	にぶい黄橙色	灰釉・鉄釉	10YR6/2	灰黄褐色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目、皮鯨手
	386	116			X45Y88	唐津	皿	＊＊－＊＊－2.7	5YR6/6	橙色	灰釉	10Y8/1	灰白色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	387				X45Y75	唐津	皿	＊＊－＊＊－3.1	7.5Y7/1	灰白色	灰釉	7.5Y6/2	灰オリーブ色	16C 末～17C 初	1580－1610	胎土目
	388	116			X48～50Y80～78	唐津	大皿	＊＊－＊＊－8.8	7.5YR8/4	浅黄橙色	鉄釉	7.5YR4/2	灰褐色			胎土目
	389	116			X48～50Y78～80	唐津	皿	＊＊－＊＊－4.1	2.5Y7/1	灰白色	灰釉	5Y6/2	灰オリーブ色	17C 前半		砂目
	390	118			不明	唐津	皿	12.4－3.7－4.4	7.5Y8/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5Y6/3	オリーブ黄色	17C 末～18C 前半		灰釉2.5Y8/2灰白色，内野山窯系，蛇の目釉剥
	391				X41Y73	唐津	皿	＊＊－＊＊－4.8	2.5Y7/1	灰白色	灰釉・銅緑釉	5BG4/2	暗灰青色	17C 末～18C 前半		灰釉5Y5/3灰オリーブ色，内野山窯系，蛇の目釉剥
	392	116			X51Y89	唐津	皿	＊＊－＊＊－4.8	2.5Y8/2	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5BG5/2	青灰色	17C 後半		灰釉5Y6/3オリーブ黄色，内野山窯系，蛇の目釉剥，砂目
	393				X41Y73	唐津	皿	＊＊－＊＊－5.0	2.5Y8/2	灰白色	灰釉・銅緑釉	7.5BG5/2	青灰色	17C 後半		灰釉2.5Y7/4浅黄色，内野山窯系，蛇の目釉剥，砂目
	394				X51Y89	唐津	皿	＊＊－＊＊－4.8	2.5Y7/2	灰黄色	灰釉・銅緑釉	5BG4/2	暗灰青色	17C 後半		灰釉5Y6/3オリーブ黄色，内野山窯系，蛇の目釉剥，砂目
168	395	118			X49Y87	京焼風唐津	椀	9.2－7.1－4.3	7.5Y8/1	灰白色	緑釉	5GY4/4	暗灰黄緑色	17C 後半～18C 初	1660－1720	呉器手
	396	117			X45Y98	京焼風唐津	椀	＊＊－＊＊－4.6	10YR8/2	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 初	1660－1720	呉器手
	397	117			X51Y89	京焼風唐津	椀	＊＊－＊＊－5.0	2.5Y8/3	淡黄色	透明釉			17C 後半～18C 初	1660－1720	鉄絵，緑色釉2.5GY5/1オリーブ灰色
	398	117			東側排土	京焼風唐津	皿	12.8－4.6－5.0	2.5Y8/2	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 初	1660－1720	鉄絵，墨書
	399				X46Y73	唐津？	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	7.5YR6/2	灰褐色						
	400				X40Y70	唐津？	擂鉢		2.5Y4/1	黄灰色						
	401	117			X43Y93	唐津？	擂鉢		5YR7/6	橙色	錆釉	7.5YR6/3	にぶい褐色			
	402				不明	唐津？	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	5YR5/3	にぶい赤褐色						
	403				不明	唐津？	擂鉢	＊＊－＊＊－10.0	5YR5/3	にぶい赤褐色						
	404	117			不明	唐津？	鉢	27.8－		にぶい赤褐色	鉄釉	5YR4/3	にぶい赤褐色	17C		刷毛目
	405	117			X51Y89	唐津	鉢	30.8－	5Y4/1	灰色	鉄釉	7.5Y4/2	灰オリーブ色	17C		三島手
	406	117			X45Y89	唐津	鉢		2.5YR5/4	にぶい赤褐色	鉄釉	2.5Y4/2	暗灰黄色	17C		三島手

第18表　土器・陶磁器一覧(7)

挿図	挿図番号	図版	遺構	建物	座標	種類	器種	法量(口径・器高・底径(高台径)㎝)	胎土		釉薬	釉調		年代	詳細時期	備考
168	*407*	117			X48～50Y78～80	唐津	鉢		7.5YR5/2	灰褐色	鉄釉	2.5Y5/2	暗灰黄色	17C		三島手
	408				X48Y89	伊万里	碗	10.7－	2.5GY6/1	オリーブ灰色	透明釉			18C 前半		陶胎染付5BG5/1青灰色
	409				X45Y87	伊万里	碗	11.7－	2.5GY8/1	灰白色	透明釉			18C 前半		陶胎染付5BG5/1青灰色
	410	119			X51Y89	伊万里	碗		2.5Y7/1	灰白色	透明釉			18C 前半		陶胎染付5BG5/1青灰色
	411				X43Y58	伊万里	碗	＊＊－＊＊－3.8	N4/0	灰色	透明釉			18C 前半		陶胎染付10Y5/1灰色
	412	119			X48Y83	伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.4	2.5Y7/1	灰白色	透明釉			18C 前半		陶胎染付5BG5/1青灰色
169	*413*	119			X51Y89	伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.1	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半		染付7.5B5/3暗青灰色
	414	119			X51Y89	伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.4	N8/0	灰白色	透明釉			18C		染付7.5B5/3暗青灰色，波佐見窯系
	415	119			X43Y92	伊万里	碗	12.0－	5Y8/1	灰白色	透明釉			18C 後半		染付7.5B6/3青灰色，波佐見窯系
	416	119			不明	伊万里	碗	8.4－	N8/0	灰白色	透明釉			18C 前半		染付5PB4/6くすんだ青色,コンニャク印判
	417	120			X49Y87	伊万里	碗	9.0－6.7－5.8	5Y9/1	灰白色	透明釉			17C 以降		5BY4/1明青灰色
	418	120			X51Y89	伊万里	碗	8.0－6.0－5.0	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5PB4/6くすんだ青色,裏銘「大明年製」
	419	119			X49Y82	伊万里	碗	＊＊－＊＊－5.0	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付7.5B6/3青灰色
	420	119			X43Y92	伊万里	碗	8.0－	N8/0	灰白色	透明釉			18C 末～19C 初		染付5PB4/6くすんだ青色
	421				X43Y88	伊万里	碗	10.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5PB4/6くすんだ青色
	422				X45～48Y 不明	伊万里	碗	＊＊－＊＊－4.4	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5B6/2青灰色
	423				X40Y65	伊万里	碗	12.0－	2.5GY8/1	灰白色	透明釉			17C 以降		白磁
	424				X50Y80	伊万里	皿	13.7－＊＊－4.4	N8/0	灰白色	青磁釉	7.5GY8/1	明緑灰色	17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥，青磁
	425				X41Y76	伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.6	N8/0	灰白色	青磁釉	7.5GY8/1	明緑灰色	17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥，青磁
	426				X40Y66	伊万里	皿		N8/1	灰白色	青磁釉	10GY7/1	明緑灰色	17C 後半～18C 前半		蛇の目釉剥，青磁
	427				X45Y88	伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.2	5Y8/1	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		白磁、蛇の目釉剥
	428				不明	伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.2	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		白磁、蛇の目釉剥，墨書
	429	119			X45～48Y80	伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.4	N8/0	灰白色	透明釉			18C		染付2.5GY6/1オリーブ灰色,蛇の目釉剥,重ね焼き
	430				X44Y81	伊万里	皿	12.4－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		染付7.5B5/3暗青灰色
	431	119			X51Y79	伊万里	皿	11.6－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		染付7.5B5/3暗青灰色
	432	120			X47Y72	伊万里	皿	13.4－3.7－4.3	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		染付7.5B5/3暗青灰色,蛇の目釉剥,墨書「小」?
	433	119			X49Y82	伊万里	皿	13.2－3.3－4.5	N8/0	灰白色	透明釉			17C 後半～18C 前半		染付7.5B5/3暗青灰色,蛇の目釉剥,墨書,重ね焼き
	434	119			X51Y89	伊万里	皿	＊＊－＊＊－4.3	N8/0	灰白色	透明釉			17C 前半	1630－1640	染付 5 BG 5 / 1 青灰色,山辺田 6・7 号窯
	435	119			不明	伊万里	皿	16.8－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5BG6/1緑灰色
	436	119			X43Y83	伊万里	皿	14.0－	N8/0	灰白色	透明釉			18C 末～19C 前半		染付5PB4/6くすんだ青色
	437	119			X43Y92	伊万里	皿	13.4－	N8/0	灰白色	透明釉			18C ～19C		染付5PB4/6くすんだ青色
170	*438*				X73Y50	伊万里	皿	12.4－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5PB4/6くすんだ青色
	439	119			X43Y92	伊万里	皿	＊＊－＊＊－9.0	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付5PB4/6くすんだ青色，漆継
	440	119			X43Y92	伊万里	鉢	15.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 以降		染付7.5B6/3青灰色
	441	119			X48Y83	伊万里	小杯	6.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 前半～中頃		染付5PB4/6くすんだ青色
	442	119			X51Y89	伊万里	小杯	6.8－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 前半～中頃		染付5PB3/6くすんだ青色
	443	119			X43Y82	伊万里	小杯	5.5－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 前半～中頃		染付7.5B7/3青灰色
	444	119			不明	伊万里	小杯	7.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 前半～中頃		染付5PB4/6くすんだ青色
	445				X48Y87	伊万里	小杯	7.0－	N8/0	灰白色	透明釉			17C 前半～中頃		染付
	446	119			X48Y83	伊万里	紅皿	＊＊－＊＊－1.4	N8/0	灰白色	透明釉			18C 後半		白磁
	447				X47Y72	伊万里	瓶	7.0－	N8/0	灰白色	白磁釉			17C 以降		白磁
	448	119			X44Y62	伊万里	瓶	＊＊－＊＊－7.0	7.5Y8/1	灰白色	透明釉			17C 前半		染付10BG6/1青灰色
	449				X46Y90	伊万里	瓶	＊＊－＊＊－5.0	5Y8/1	灰白色	透明釉			17C 以降		白磁

法量の数値は左から口径、器高、底径（高台径）を示し、残存部が少なく、計測不能な場合は＊で示し、数値が何の値を示すかわかるようにした。